

平成 29 年度
始良市男女共同参画社会についての
市民意識調査
報 告 書

平成 30 年 2 月

始良市

目次

I	調査の概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査対象	1
3.	調査方法	1
4.	調査期間	1
5.	配付件数・回収状況等	1
6.	集計上の留意点	1
II	調査結果の概要	3
I	男女平等の意識について	3
II	就業について	3
III	家庭生活について	3
IV	仕事と家庭・地域への取組について	3
V	男女の人権について	4
VI	性的マイノリティについて	4
VII	始良市の男女共同参画施策について	4
III	調査結果	6
	あなた自身について	6
I	男女平等の意識について	11
II	就業について	31
III	家庭生活について	55
IV	仕事と家庭・地域への取組について	66
V	男女の人権について	85
VI	性的マイノリティについて	115
VII	始良市の男女共同参画施策について	125
	自由意見	132
IV	調査票	140

I. 調査の概要

(1) 調査目的

平成 25 年 3 月に策定された始良市男女共同参画基本計画が平成 30 年度末で終了することから、新たに第 2 次始良市男女共同参画基本計画の策定に向け、市民意識・実態調査を実施した。

(2) 調査対象 始良市在住の 18 歳以上の市民 2,000 人を住民基本台帳から無作為抽出

(3) 調査方法 郵送による配布・回収

(4) 調査期間 平成 29 年 9 月

(5) 配布件数・回収状況等

配布件数	回収件数	回収率
2,000 件	987 件	49.4%

(6) 集計上の留意点

- ① グラフ中の「n=」は、母数となるサンプル数(回答者数)を示している。
- ② グラフ(複数回答)中の「-」は該当者無、「0.0%」は該当者有で回答無を表している。
- ③ 集計結果は百分率で算出し、四捨五入の関係上、百分率の合計が 100%にならない場合がある。
- ④ 集計表の全体に、「性別」、「年齢」等の区分けをしているが、各区分に無回答データが含まれているため、各区分の小計と合計の数値が異なる場合がある。
- ⑤ 本調査の結果分析にあたり、次の調査結果と比較を行っている。
 - 平成 22 年度 男女共同参画に関する市民意識調査
(20 歳以上の 2,000 人、有効回答数 813 人)
※本文中では「前回調査」と表記している。
 - 平成 28 年度 男女共同参画に関する県民意識調査(鹿児島県)
(20 歳以上の鹿児島県民 5,000 人、有効回答数 2,227 人)
※本文中では「鹿児島県」と表記している。
 - 平成 28 年度 男女共同参画に関する世論調査(内閣府)
(18 歳以上の 5,000 人、有効回答数 3,059 人)
※本文中では「内閣府」と表記している。
- ⑥ 年齢については、下表のように示す。

F 2 における選択肢	分析上の表記
18～19 歳	10 歳代
20～29 歳	20 歳代
30～39 歳	30 歳代
40～49 歳	40 歳代
50～59 歳	50 歳代
60～69 歳	60 歳代
70 歳以上	70 歳以上

Ⅱ. 調査結果の概要

II. 調査結果の概要

I 男女平等の意識について

男女の地位の平等感については、「平等」という回答が「学校教育の中で」(60.4%)、「家庭の中で」(41.6%)、「法律や制度で」(41.3%)の順に高くなっていますが、「職場の中で」「地域社会の中で」「社会通念、慣習、しきたりなどで」は、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合が高くなっています。

また、男女共同参画に関連の深い用語の認知度を問う質問では、「よく知っている」とした割合の高いものは、「男女雇用機会均等法」「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」「男女共同参画社会」の順となっています。

一方、「積極的改善措置（ポジティブアクション）」「ダイバーシティ」「始良市男女共同参画基本計画」等においては「知らない」が6割以上を占めています。

認知度の男女の比較では、どの用語についても女性より男性の認知度が高くなっています。

II 就業について

女性が職業を持つことについては、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」(42.1%)の割合が最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい」(40.8%)となっています。

性別で見ると、女性(42.6%)は、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい」、男性(44.6%)は、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合が高くなっていますが、回答傾向には年代別での差がみられます。

女性のリーダーを増やすときに障害となるものについては、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」(44.2%)の割合が最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(43.1%)となっています。

III 家庭生活について

家庭内の事柄を主に誰が行っているかについては、「家事」(68.2%)、「育児」(40.3%)、「介護・看護」(24.4%)、「自治会、町内会、公民館などの地域活動への参加」(28.7%)とすべてにおいて「妻」の割合が高くなっています。

項目別に見ると、「自治会、町内会、公民館などの地域活動への参加」については、「夫」の占める割合が他の項目に比べ高くなっています。

すべての項目において「夫と妻が分担」と回答した割合が前回調査よりも増加してきている傾向がみられます。

IV 仕事と家庭・地域への取組について

地域における活動への参加については、「自治会、町内会などの地区を単位とした団体活動」(48.2%)の割合が最も高く、次いで「特に何もしていない」(37.3%)、「スポーツや趣味、文化振興などによるサークル活動」(17.0%)となっています。

生活の中での優先度については、「家庭生活」を優先している(26.7%)が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している(24.5%)となっていますが、性別で見ると女性(31.2%)は、「家庭生活」を優先している、男性(24.7%)は、「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているの割合が最も高くなり、性別による差が見られます。

男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて、「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること」(50.8%)、次いで「家事などについて性別によらず、身に付けることができるような育て方をする」(40.0%)、「男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗をなくすこと」(32.4%)となっています。年代別では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること。」に18歳から50歳の男性が高い割合で回答しています。

V 男女の人権について

配偶者から「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことが「一、二度あった」「何度もあった」と回答した割合は女性（17.5%）、男性（9.5%）。「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」ことが「一、二度あった」「何度もあった」と回答した割合は女性（15.8%）、男性（11.6%）。「いやがっているのに性的な行為を強要された」ことが「一、二度あった」「何度もあった」と回答した割合は女性（13.0%）、男性（3.2%）。交際相手からの暴力や嫌がらせについての質問に対しても女性の回答割合が高くなっており、暴力や嫌がらせ等を受けた経験者は全体的に女性が男性を大きく上回っています。

暴力や嫌がらせ等への相談先については、「家族や親戚に相談した」（19.5%）、「友人知人に相談した」（16.3%）となっていますが、「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」（52.5%）と回答した割合が最も高い結果となっています。

VI 性的マイノリティについて

性的マイノリティ（またはLGBT）という言葉の認知度については、70歳以上を除くすべての年代で「はい」が5割以上となっています。

性的マイノリティ（またはLGBT）の方々にとって、生活しづらい社会だと思うかについて「どちらかといえば思う」「思う」と回答した割合が5割以上となっています。

VII 始良市の男女共同参画施策について

「男女共同参画社会」を形成するために力を入れていくべきことについて、「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」（45.9%）の割合が最も高く、次いで「職業における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める」（38.4%）、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」（34.1%）となっています。

Ⅲ. 調査結果

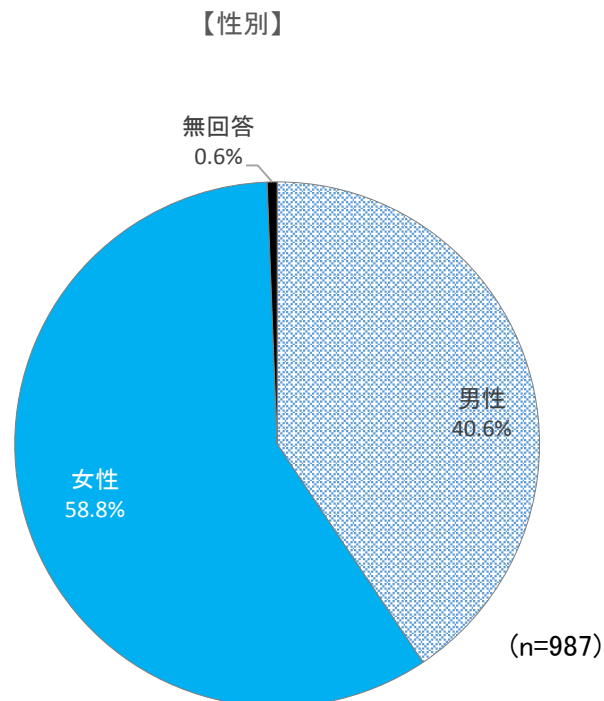
II. 調査結果

お答えいただいた回答を統計的に分析するため、あなた自身のことについてお尋ねします。

F 1 あなたの性別をお尋ねします。(〇は1つ)

性別について、「男性」が40.6%、「女性」が58.8%となっている。

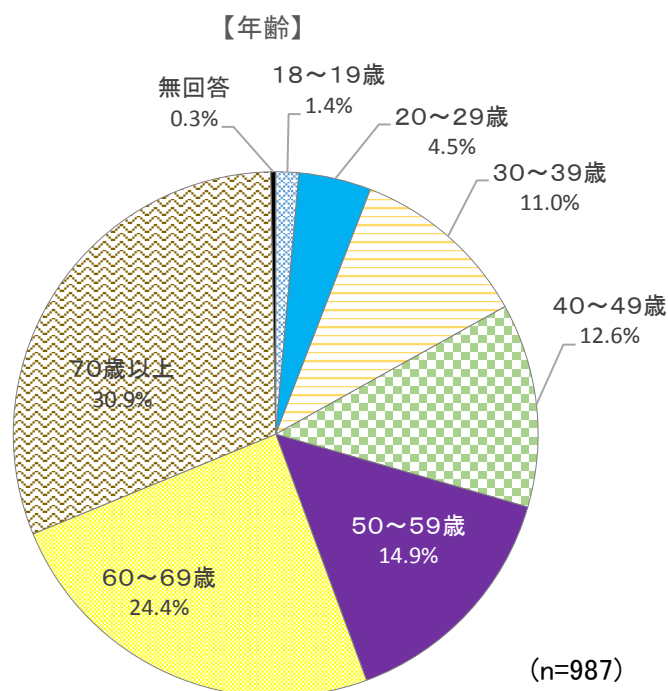
選択肢	人数	構成比
男性	401	40.6%
女性	580	58.8%
無回答	6	0.6%
合計	987	100.0%



F 2 あなたの年齢をお尋ねします。(平成 29 年 8 月 1 日現在) (〇は1つ)

年齢について、「70歳以上」(30.9%)の割合が最も高く、次いで「60～69歳」(24.4%)、「50～59歳」(14.9%)となっている。

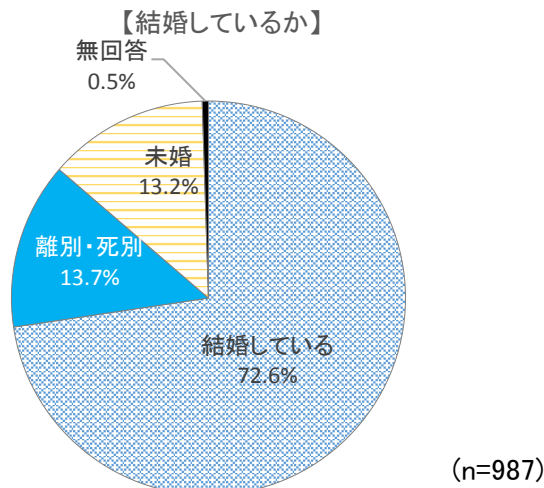
選択肢	人数	構成比
18～19歳	14	1.4%
20～29歳	44	4.5%
30～39歳	109	11.0%
40～49歳	124	12.6%
50～59歳	147	14.9%
60～69歳	241	24.4%
70歳以上	305	30.9%
無回答	3	0.3%
合計	987	100.0%



F3 あなたは現在、結婚されていますか。(〇は1つ)

結婚しているかについて、「結婚している」(72.6%)の割合が最も高く、次いで「離別・死別」(13.7%)、「未婚」(13.2%)となっている。

選択肢	人数	構成比
結婚している	717	72.6%
離別・死別	135	13.7%
未婚	130	13.2%
無回答	5	0.5%
合計	987	100.0%

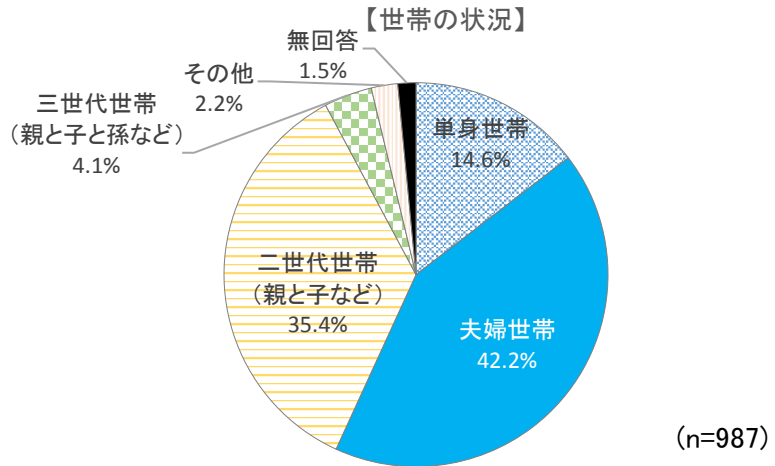


	結婚している	離別・死別	未婚	無回答
始良市(n=987)	717 72.6%	135 13.7%	130 13.2%	5 0.5%
女性(n=580)	396 68.3%	106 18.3%	76 13.1%	2 0.3%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	8 25.8%	2 6.5%	21 67.7%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	52 77.6%	3 4.5%	12 17.9%	0 0.0%
40～49歳(n=77)	57 74.0%	7 9.1%	13 16.9%	0 0.0%
50～59歳(n=87)	71 81.6%	9 10.3%	7 8.0%	0 0.0%
60～69歳(n=129)	101 78.3%	21 16.3%	7 5.4%	0 0.0%
70歳以上(n=181)	107 59.1%	64 35.4%	8 4.4%	2 1.1%
男性(n=401)	318 79.3%	29 7.2%	54 13.5%	0 0.0%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	3 23.1%	0 0.0%	10 76.9%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	30 71.4%	1 2.4%	11 26.2%	0 0.0%
40～49歳(n=46)	33 71.7%	3 6.5%	10 21.7%	0 0.0%
50～59歳(n=60)	53 88.3%	2 3.3%	5 8.3%	0 0.0%
60～69歳(n=112)	94 83.9%	10 8.9%	8 7.1%	0 0.0%
70歳以上(n=122)	105 86.1%	13 10.7%	4 3.3%	0 0.0%
	0.0%	上位1位		

F 4 あなたの世帯の状況は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

世帯の状況について、「夫婦世帯」(42.2%)の割合が最も高く、次いで「二世世代世帯(親と子など)」(35.4%)、「単身世帯」(14.6%)となっている。

選択肢	人数	構成比
単身世帯	144	14.6%
夫婦世帯	417	42.2%
二世世代世帯 (親と子など)	349	35.4%
三世世代世帯 (親と子と孫など)	40	4.1%
その他	22	2.2%
無回答	15	1.5%
合計	987	100.0%



※主なその他回答

- 孫と同居
- 別居中
- 彼氏、彼女と
- 離婚して実家に帰ってきた
- ホーム
- 兄・姪
- 寮
- 兄妹で暮らしている。
- 4人家族で主人は単身赴任中、次男県外に出ている、私と長男二人住まいです

	単身世帯	夫婦世帯	二世世代世帯 (親と子など)	三世世代世帯 (親と子と孫など)	その他	無回答
始良市(n=987)	144 14.6%	417 42.2%	349 35.4%	40 4.1%	22 2.2%	15 1.5%
女性(n=580)	97 16.7%	221 38.1%	205 35.3%	33 5.7%	15 2.6%	9 1.6%
18~19歳(n=8)	0 0.0%	0 0.0%	7 87.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
20~29歳(n=31)	7 22.6%	5 16.1%	15 48.4%	3 9.7%	1 3.2%	0 0.0%
30~39歳(n=67)	2 3.0%	14 20.9%	45 67.2%	5 7.5%	1 1.5%	0 0.0%
40~49歳(n=77)	11 14.3%	17 22.1%	42 54.5%	5 6.5%	1 1.3%	1 1.3%
50~59歳(n=87)	6 6.9%	36 41.4%	38 43.7%	3 3.4%	3 3.4%	1 1.1%
60~69歳(n=129)	17 13.2%	68 52.7%	31 24.0%	8 6.2%	3 2.3%	2 1.6%
70歳以上(n=181)	54 29.8%	81 44.8%	27 14.9%	8 4.4%	6 3.3%	5 2.8%
男性(n=401)	47 11.7%	193 48.1%	144 35.9%	7 1.7%	7 1.7%	3 0.7%
18~19歳(n=6)	0 0.0%	0 0.0%	5 83.3%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%
20~29歳(n=13)	3 23.1%	0 0.0%	10 76.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30~39歳(n=42)	6 14.3%	7 16.7%	28 66.7%	1 2.4%	0 0.0%	0 0.0%
40~49歳(n=46)	6 13.0%	16 34.8%	23 50.0%	0 0.0%	1 2.2%	0 0.0%
50~59歳(n=60)	4 6.7%	26 43.3%	28 46.7%	1 1.7%	1 1.7%	0 0.0%
60~69歳(n=112)	13 11.6%	60 53.6%	31 27.7%	2 1.8%	4 3.6%	2 1.8%
70歳以上(n=122)	15 12.3%	84 68.9%	19 15.6%	3 2.5%	0 0.0%	1 0.8%

0.0% 上位1位

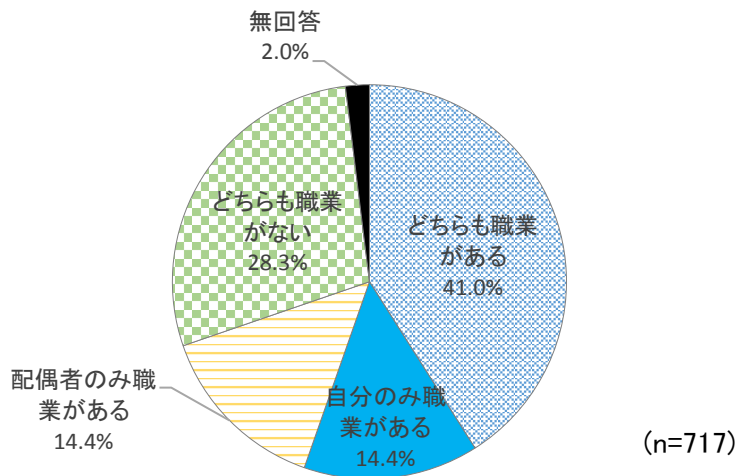
【F3で「1 結婚している」と回答された方にお尋ねします。それ以外の方は、F6へお進みください。】

F5 ご夫婦の職業の有無についてお尋ねします。(〇は1つ)

ご夫婦の職業について、「どちらも職業がある」(41.0%)の割合が最も高く、次いで「どちらも職業がない」(28.3%)、「自分のみ職業がある」(14.4%)となっている。

【ご夫婦の職業】

選択肢	人数	構成比
どちらも職業がある	294	41.0%
自分のみ職業がある	103	14.4%
配偶者のみ職業がある	103	14.4%
どちらも職業がない	203	28.3%
無回答	14	2.0%
合計	717	100.0%



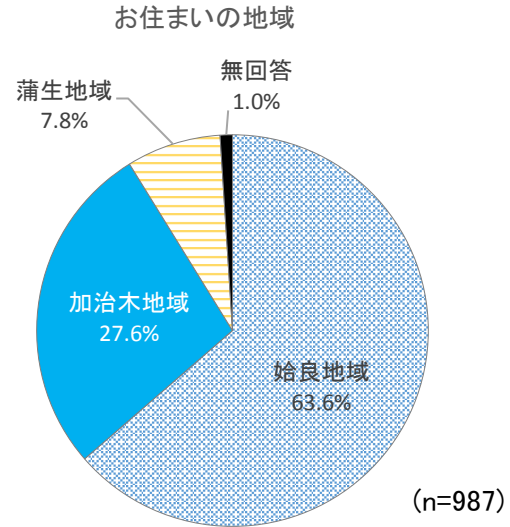
	どちらも職業がある	自分のみ職業がある	配偶者のみ職業がある	どちらも職業がない	無回答
始良市(n=717)	294 41.0%	103 14.4%	103 14.4%	203 28.3%	14 2.0%
女性(n=396)	166 41.9%	27 6.8%	85 21.5%	109 27.5%	9 2.3%
18～19歳(n=0)	-	-	-	-	-
20～29歳(n=8)	5 62.5%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=52)	34 65.4%	0 0.0%	18 34.6%	0 0.0%	0 0.0%
40～49歳(n=57)	48 84.2%	0 0.0%	7 12.3%	0 0.0%	2 3.5%
50～59歳(n=71)	42 59.2%	8 11.3%	20 28.2%	0 0.0%	1 1.4%
60～69歳(n=101)	26 25.7%	13 12.9%	26 25.7%	34 33.7%	2 2.0%
70歳以上(n=107)	11 10.3%	5 4.7%	12 11.2%	75 70.1%	4 3.7%
男性(n=318)	127 39.9%	75 23.6%	18 5.7%	93 29.2%	5 1.6%
18～19歳(n=0)	-	-	-	-	-
20～29歳(n=3)	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=30)	24 80.0%	6 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
40～49歳(n=33)	23 69.7%	8 24.2%	1 3.0%	0 0.0%	1 3.0%
50～59歳(n=53)	38 71.7%	14 26.4%	1 1.9%	0 0.0%	0 0.0%
60～69歳(n=94)	30 31.9%	31 33.0%	10 10.6%	22 23.4%	1 1.1%
70歳以上(n=105)	9 8.6%	16 15.2%	6 5.7%	71 67.6%	3 2.9%

0.0% 上位1位

F6 あなたの住まいの地域はどちらですか。(〇は1つ)

住まいの地域について、「始良地域」(63.6%)の割合が最も高く、次いで「加治木地域」(27.6%)、「蒲生地域」(7.8%)となっている。

選択肢	人数	構成比
始良地域	628	63.6%
加治木地域	272	27.6%
蒲生地域	77	7.8%
無回答	10	1.0%
合計	987	100.0%



	始良地域	加治木地域	蒲生地域	無回答
始良市(n=987)	628 63.6%	272 27.6%	77 7.8%	10 1.0%
女性(n=580)	362 62.4%	164 28.3%	48 8.3%	6 1.0%
18～19歳(n=8)	4 50.0%	4 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	21 67.7%	8 25.8%	2 6.5%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	48 71.6%	13 19.4%	6 9.0%	0 0.0%
40～49歳(n=77)	51 66.2%	22 28.6%	4 5.2%	0 0.0%
50～59歳(n=87)	56 64.4%	22 25.3%	8 9.2%	1 1.1%
60～69歳(n=129)	83 64.3%	37 28.7%	8 6.2%	1 0.8%
70歳以上(n=181)	99 54.7%	58 32.0%	20 11.0%	4 2.2%
男性(n=401)	266 66.3%	106 26.4%	28 7.0%	1 0.2%
18～19歳(n=6)	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	8 61.5%	4 30.8%	1 7.7%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	31 73.8%	10 23.8%	1 2.4%	0 0.0%
40～49歳(n=46)	32 69.6%	10 21.7%	4 8.7%	0 0.0%
50～59歳(n=60)	33 55.0%	22 36.7%	4 6.7%	1 1.7%
60～69歳(n=112)	75 67.0%	25 22.3%	12 10.7%	0 0.0%
70歳以上(n=122)	81 66.4%	35 28.7%	6 4.9%	0 0.0%

0.0% 上位1位

I 男女平等の意識について

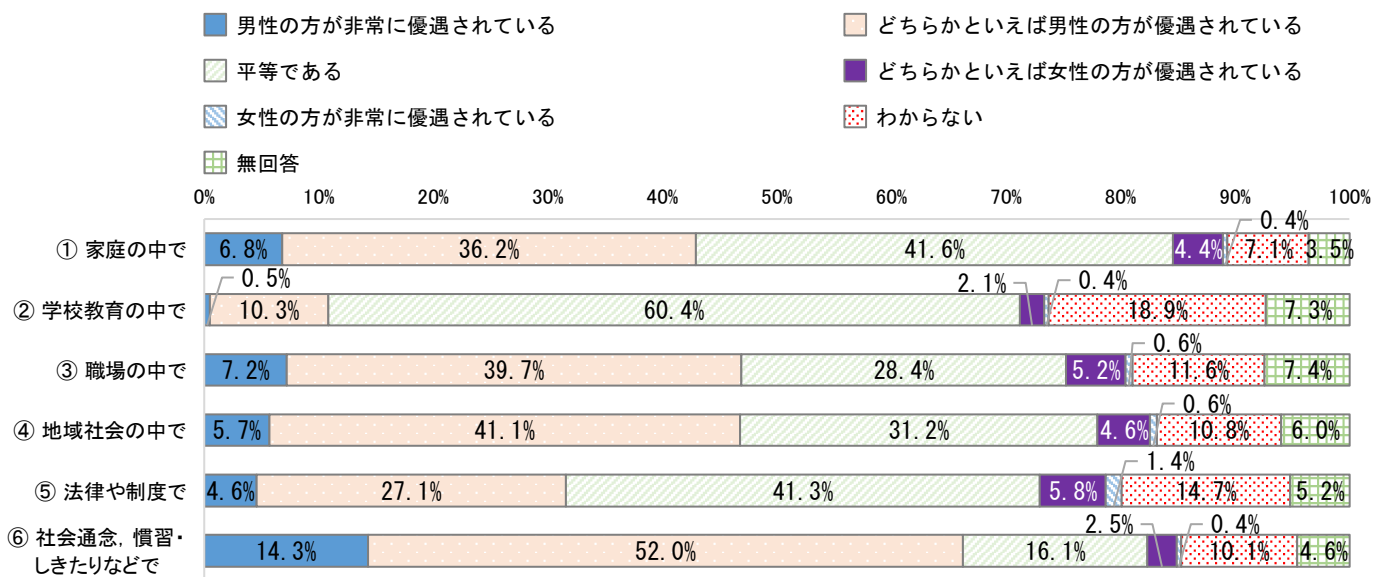
問1 あなたは、次のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。①～⑥のそれぞれについて、右欄の1～6の中からあなたの考えに最も近い番号を1つずつお選びください。

男女の地位の平等感について、平等感が最も高いのは「学校教育の中で」(60.4%)、次いで「家庭の中で」(41.6%)、「法律や制度で」(41.3%)となっている。

「学校教育の中で」の平等感は「家庭の中で」より18ポイント以上高い。「家庭の中で」「学校教育の中で」「法律や制度で」以外の分野では、「平等である」より「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が高い。

また、全ての分野で男性優遇感(男性のほうが非常に優遇されている+どちらかといえば男性のほうが優遇されている)が、女性優遇感(女性のほうが非常に優遇されている+どちらかといえば女性のほうが優遇されている)を上回っており、特に「職場の中で」「地域社会の中で」「社会通念、慣習・しきたりなどで」は40ポイント以上の差が開いている。

【男女平等の意識について】



項目	男性優遇	女性優遇
① 家庭の中で	43.0%	4.8%
② 学校教育の中で	10.8%	2.5%
③ 職場の中で	46.9%	5.8%
④ 地域社会の中で	46.8%	5.2%
⑤ 法律や制度で	31.6%	7.2%
⑥ 社会通念, 慣習・しきたりなどで	66.3%	2.9%

※男性優遇 → 男性のほうが非常に優遇されている
+ どちらかといえば男性のほうが優遇されている

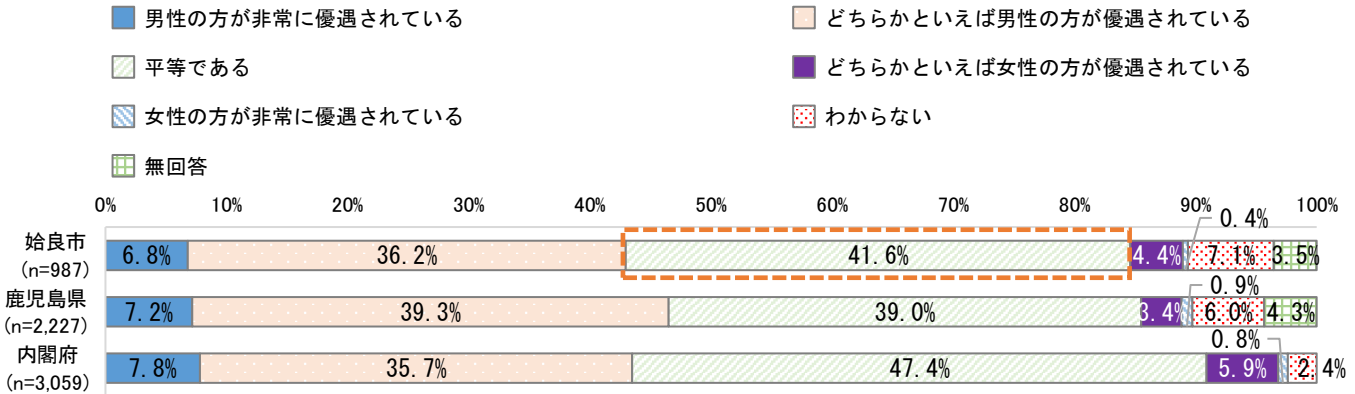
※女性優遇 → 女性のほうが非常に優遇されている
+ どちらかといえば女性のほうが優遇されている

①家庭の中での男女の地位の平等感

鹿児島県・内閣府との比較

「平等である」とする割合は、始良市では 41.6%、鹿児島県では 39.0%、内閣府では 47.4% となっており、鹿児島県との比較では、始良市の平等感がやや高い結果となっている。

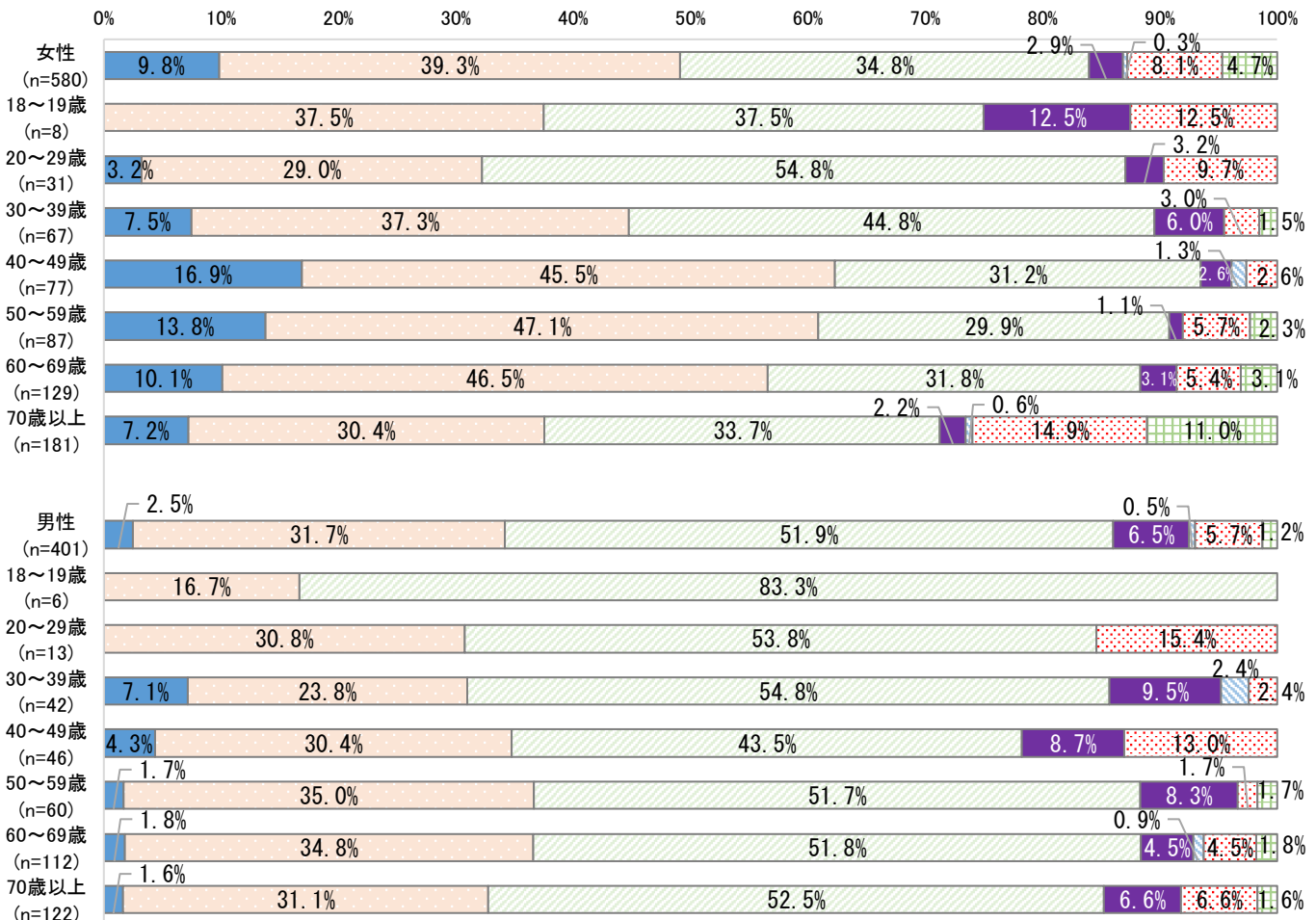
【家庭(国・県比較)】



性別で見ると、「平等である」と回答した割合は、男性 (51.9%) が女性 (34.8%) を 17.1 ポイント上回っているのに対し、「男性優遇」と回答した割合は、女性 49.1% (9.8%+39.3%) が男性 34.2% (2.5%+31.7%) を 14.9 ポイント上回っている。

性別・年代別で見ると、女性の 20 歳代、40 歳代を除く男性の全ての年代では「平等である」と回答した割合が約 5 割以上となっているものの、女性の 10 歳代・40 歳代・50 歳代・60 歳代・70 歳以上では 3 割前後となっており、女性の 40 歳代から 60 歳代においては、「男性優遇」と回答した割合が 6 割前後、他と比較して高くなっている。

【家庭(性別・年代別比較)】



	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
始良市(n=987)	67 6.8%	357 36.2%	411 41.6%	43 4.4%	4 0.4%	70 7.1%	35 3.5%
鹿児島県(n=2,227)	160 7.2%	875 39.3%	869 39.0%	75 3.4%	19 0.9%	133 6.0%	96 4.3%
内閣府(n=3,059)	7.8%	35.7%	47.4%	5.9%	0.8%	2.4%	0.0%
女性(n=580)	57 9.8%	228 39.3%	202 34.8%	17 2.9%	2 0.3%	47 8.1%	27 4.7%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	3 37.5%	3 37.5%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	1 3.2%	9 29.0%	17 54.8%	1 3.2%	0 0.0%	3 9.7%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	5 7.5%	25 37.3%	30 44.8%	4 6.0%	0 0.0%	2 3.0%	1 1.5%
40～49歳(n=77)	13 16.9%	35 45.5%	24 31.2%	2 2.6%	1 1.3%	2 2.6%	0 0.0%
50～59歳(n=87)	12 13.8%	41 47.1%	26 29.9%	1 1.1%	0 0.0%	5 5.7%	2 2.3%
60～69歳(n=129)	13 10.1%	60 46.5%	41 31.8%	4 3.1%	0 0.0%	7 5.4%	4 3.1%
70歳以上(n=181)	13 7.2%	55 30.4%	61 33.7%	4 2.2%	1 0.6%	27 14.9%	20 11.0%
男性(n=401)	10 2.5%	127 31.7%	208 51.9%	26 6.5%	2 0.5%	23 5.7%	5 1.2%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	1 16.7%	5 83.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	0 0.0%	4 30.8%	7 53.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	3 7.1%	10 23.8%	23 54.8%	4 9.5%	1 2.4%	1 2.4%	0 0.0%
40～49歳(n=46)	2 4.3%	14 30.4%	20 43.5%	4 8.7%	0 0.0%	6 13.0%	0 0.0%
50～59歳(n=60)	1 1.7%	21 35.0%	31 51.7%	5 8.3%	0 0.0%	1 1.7%	1 1.7%
60～69歳(n=112)	2 1.8%	39 34.8%	58 51.8%	5 4.5%	1 0.9%	5 4.5%	2 1.8%
70歳以上(n=122)	2 1.6%	38 31.1%	64 52.5%	8 6.6%	0 0.0%	8 6.6%	2 1.6%

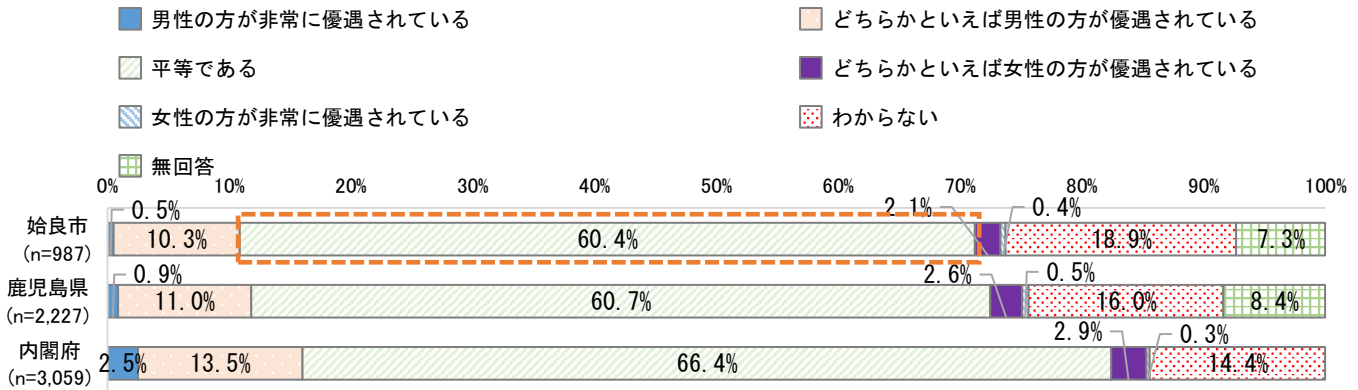
0.0% 上位1位

②学校教育の中での男女の地位の平等感

鹿児島県・内閣府との比較

「平等である」とする割合は、始良市では60.4%、鹿児島県では60.7%、内閣府では66.4%となっており、すべてにおいて「平等である」が最も高くなっている。

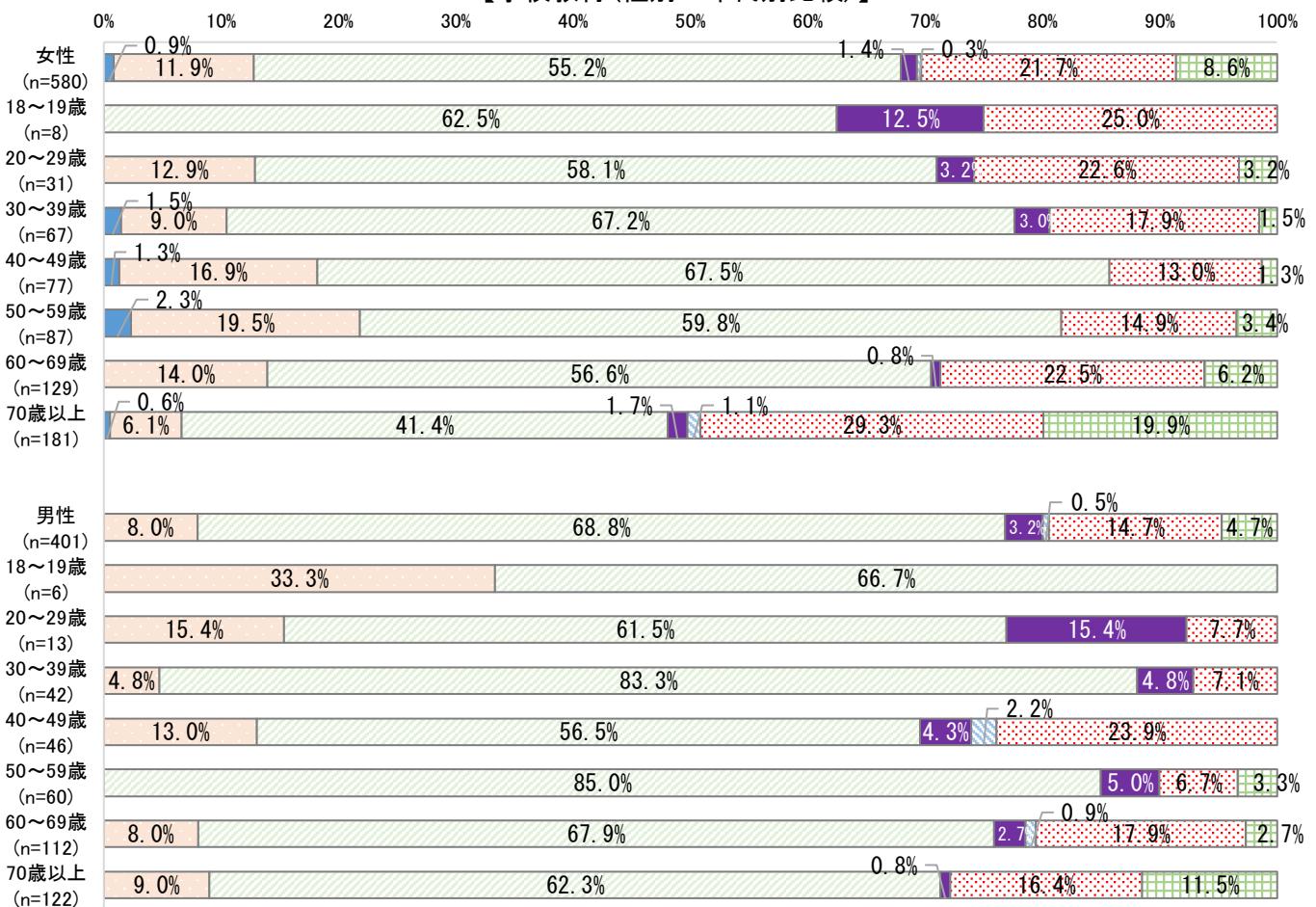
【学校教育(国・県比較)】



性別で見ると、「平等である」と回答した割合は、男性(68.8%)が女性(55.2%)を13.6ポイント上回っているのに対し、「男性優遇」と回答した割合は、女性12.8%(0.9%+11.9%)が男性8.0%(0.0%+8.0%)を4.8ポイント上回っている。

性別・年代別で見ると、女性の70歳以上を除く年代の約5.5割以上が「平等である」と回答している。また、女性の10歳代、男性の20歳代の1割強が「女性優遇」と回答し、他と比較して高くなっている。

【学校教育(性別・年代別比較)】



	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
始良市(n=987)	5 0.5%	102 10.3%	596 60.4%	21 2.1%	4 0.4%	187 18.9%	72 7.3%
鹿児島県(n=2,227)	19 0.9%	244 11.0%	1351 60.7%	59 2.6%	11 0.5%	357 16.0%	186 8.4%
内閣府(n=3,059)	2.5%	13.5%	66.4%	2.9%	0.3%	14.4%	
女性(n=580)	5 0.9%	69 11.9%	320 55.2%	8 1.4%	2 0.3%	126 21.7%	50 8.6%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	0 0.0%	5 62.5%	1 12.5%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	0 0.0%	4 12.9%	18 58.1%	1 3.2%	0 0.0%	7 22.6%	1 3.2%
30～39歳(n=67)	1 1.5%	6 9.0%	45 67.2%	2 3.0%	0 0.0%	12 17.9%	1 1.5%
40～49歳(n=77)	1 1.3%	13 16.9%	52 67.5%	0 0.0%	0 0.0%	10 13.0%	1 1.3%
50～59歳(n=87)	2 2.3%	17 19.5%	52 59.8%	0 0.0%	0 0.0%	13 14.9%	3 3.4%
60～69歳(n=129)	0 0.0%	18 14.0%	73 56.6%	1 0.8%	0 0.0%	29 22.5%	8 6.2%
70歳以上(n=181)	1 0.6%	11 6.1%	75 41.4%	3 1.7%	2 1.1%	53 29.3%	36 19.9%
男性(n=401)	0 0.0%	32 8.0%	276 68.8%	13 3.2%	2 0.5%	59 14.7%	19 4.7%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	0 0.0%	2 15.4%	8 61.5%	2 15.4%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	0 0.0%	2 4.8%	35 83.3%	2 4.8%	0 0.0%	3 7.1%	0 0.0%
40～49歳(n=46)	0 0.0%	6 13.0%	26 56.5%	2 4.3%	1 2.2%	11 23.9%	0 0.0%
50～59歳(n=60)	0 0.0%	0 0.0%	51 85.0%	3 5.0%	0 0.0%	4 6.7%	2 3.3%
60～69歳(n=112)	0 0.0%	9 8.0%	76 67.9%	3 2.7%	1 0.9%	20 17.9%	3 2.7%
70歳以上(n=122)	0 0.0%	11 9.0%	76 62.3%	1 0.8%	0 0.0%	20 16.4%	14 11.5%

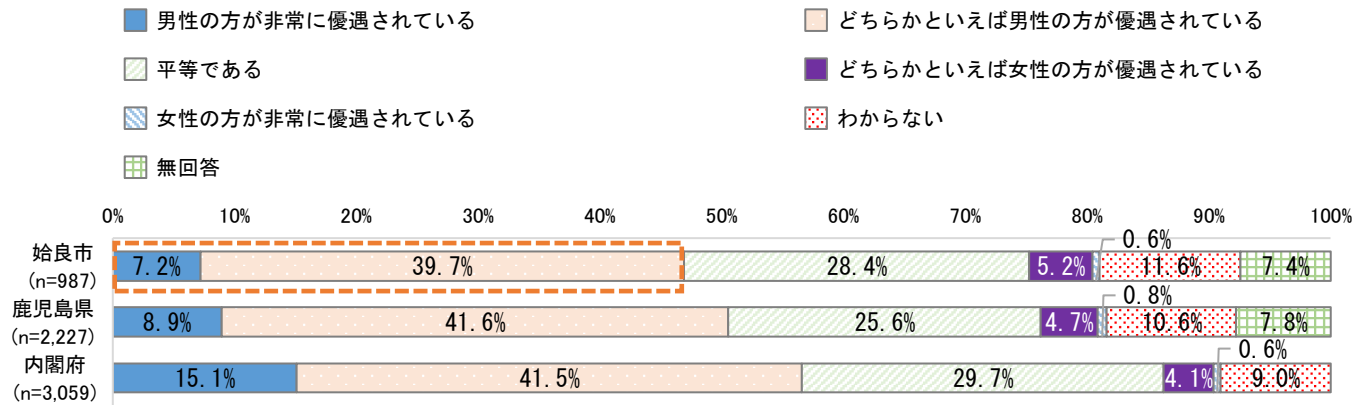
0.0% 上位1位

③職場の中での男女の地位の平等感

鹿児島県・内閣府との比較

「男性優遇」とする割合は、始良市では46.9%、鹿児島県では50.5%、内閣府では56.6%となっている。始良市では「男性優遇」は46.9%（7.2%+39.7%）、「女性優遇」は5.8%（5.2%+0.6%）であり、40ポイント以上の差が見られる結果となった。

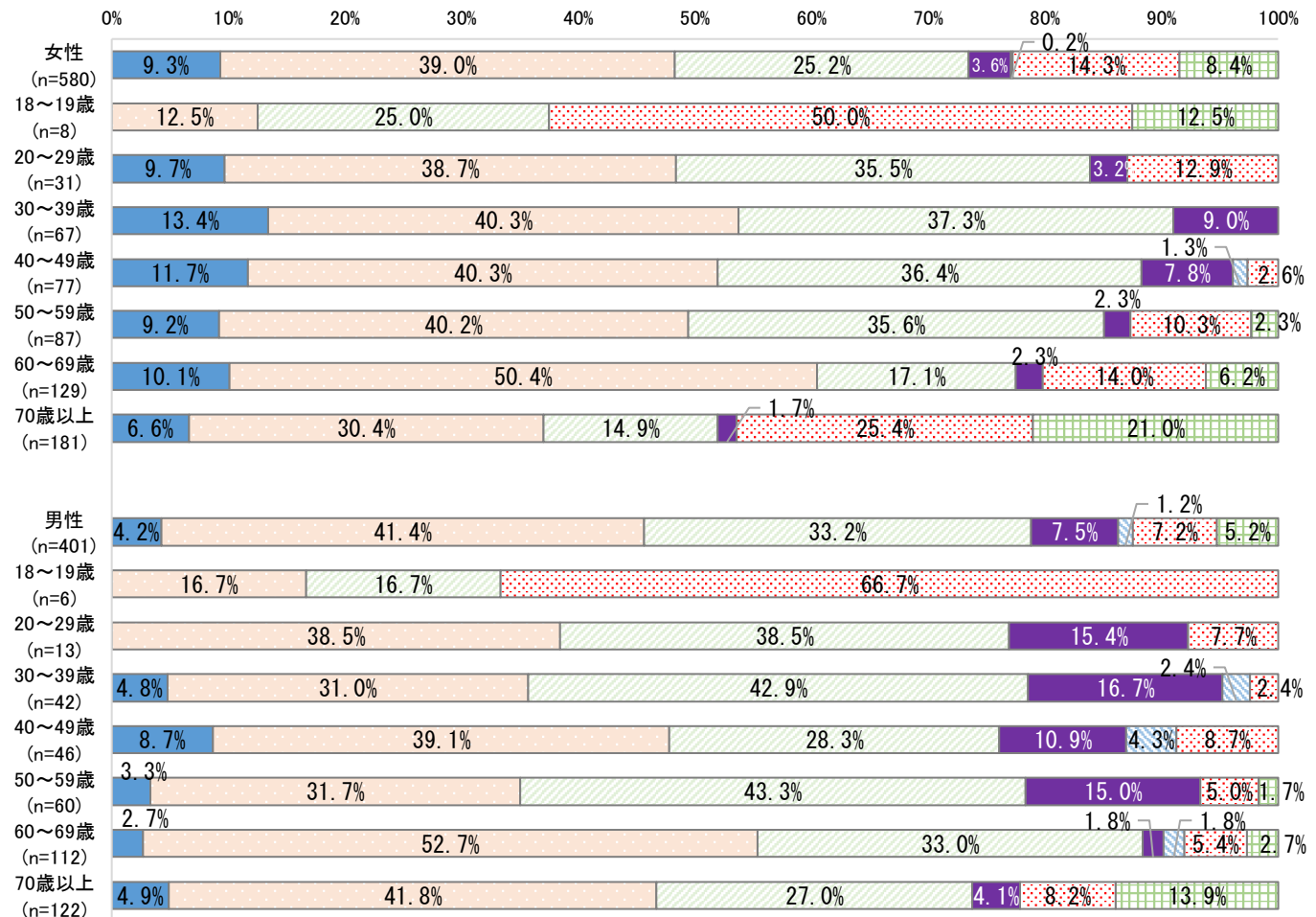
【職場(国・県比較)】



性別でみると、「男性優遇」と回答した割合は、女性では48.3%（9.3%+39.0%）、男性では45.6%（4.2%+41.4%）となっており、大きな差はみられない。

性別・年代別でみると、「男性優遇」と回答した割合は、女性・男性ともに60歳代が約6割と、他と比較して高くなっている。また、男性の20歳代から50歳代においては、「女性優遇」と回答した割合が約1.5割～2割と、他と比較して高くなっている。

【職場(性別・年代別比較)】



	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
始良市(n=987)	71 7.2%	392 39.7%	280 28.4%	51 5.2%	6 0.6%	114 11.6%	73 7.4%
鹿児島県(n=2,227)	199 8.9%	927 41.6%	571 25.6%	104 4.7%	17 0.8%	236 10.6%	173 7.8%
内閣府(n=3,059)	15.1%	41.5%	29.7%	4.1%	0.6%	9.0%	
女性(n=580)	54 9.3%	226 39.0%	146 25.2%	21 3.6%	1 0.2%	83 14.3%	49 8.4%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 50.0%	1 12.5%
20～29歳(n=31)	3 9.7%	12 38.7%	11 35.5%	1 3.2%	0 0.0%	4 12.9%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	9 13.4%	27 40.3%	25 37.3%	6 9.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
40～49歳(n=77)	9 11.7%	31 40.3%	28 36.4%	6 7.8%	1 1.3%	2 2.6%	0 0.0%
50～59歳(n=87)	8 9.2%	35 40.2%	31 35.6%	2 2.3%	0 0.0%	9 10.3%	2 2.3%
60～69歳(n=129)	13 10.1%	65 50.4%	22 17.1%	3 2.3%	0 0.0%	18 14.0%	8 6.2%
70歳以上(n=181)	12 6.6%	55 30.4%	27 14.9%	3 1.7%	0 0.0%	46 25.4%	38 21.0%
男性(n=401)	17 4.2%	166 41.4%	133 33.2%	30 7.5%	5 1.2%	29 7.2%	21 5.2%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	4 66.7%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	0 0.0%	5 38.5%	5 38.5%	2 15.4%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	2 4.8%	13 31.0%	18 42.9%	7 16.7%	1 2.4%	1 2.4%	0 0.0%
40～49歳(n=46)	4 8.7%	18 39.1%	13 28.3%	5 10.9%	2 4.3%	4 8.7%	0 0.0%
50～59歳(n=60)	2 3.3%	19 31.7%	26 43.3%	9 15.0%	0 0.0%	3 5.0%	1 1.7%
60～69歳(n=112)	3 2.7%	59 52.7%	37 33.0%	2 1.8%	2 1.8%	6 5.4%	3 2.7%
70歳以上(n=122)	6 4.9%	51 41.8%	33 27.0%	5 4.1%	0 0.0%	10 8.2%	17 13.9%

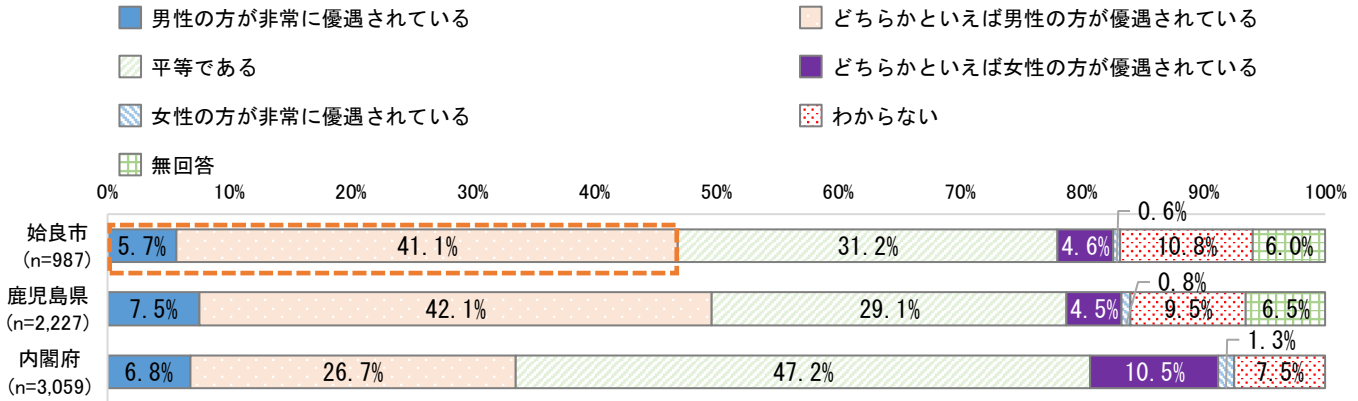
0.0% 上位1位

④地域社会の中での男女の地位の平等感

鹿児島県・内閣府との比較

「男性優遇」とする割合は、始良市では46.8%、鹿児島県では49.6%、内閣府では33.5%となっている。内閣府と比較すると、始良市、鹿児島県ともに13ポイント以上の差がみられる。また、「平等である」とする割合は、内閣府と比較すると、始良市、鹿児島県ともに16ポイント以上の差がみられ、ともに平等感が低い結果となっている。

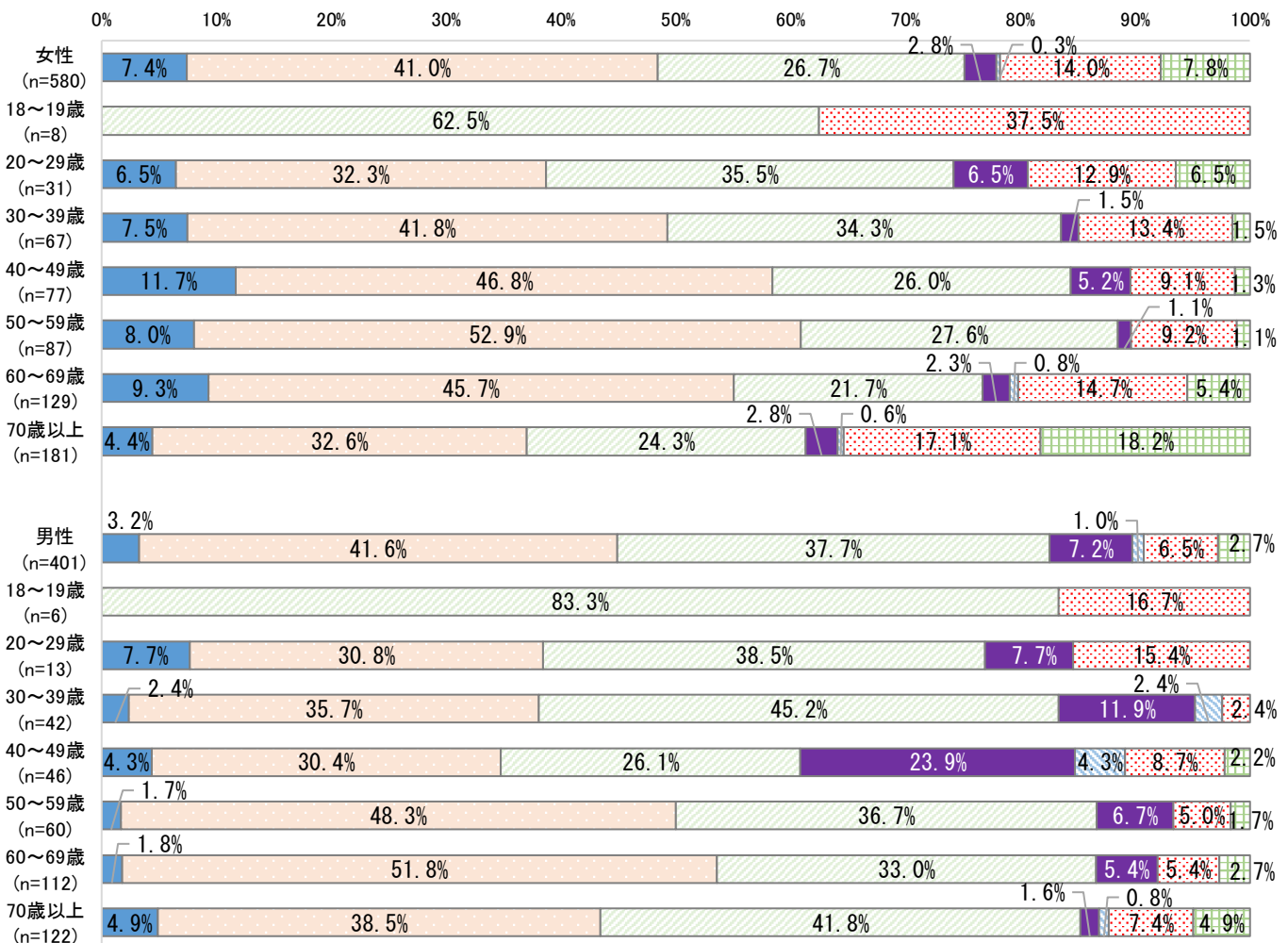
【地域社会(国・県比較)】



性別でみると、「男性優遇」と回答した割合は、女性では48.4% (7.4%+41.0%)、男性では44.8% (3.2%+41.6%) となっており、大きな差はみられない。

性別・年代別でみると、男性の40歳代において、約3割が「女性優遇」と回答し、他と比較して高くなっている。

【地域社会(性別・年代別比較)】



	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
始良市(n=987)	56 5.7%	406 41.1%	308 31.2%	45 4.6%	6 0.6%	107 10.8%	59 6.0%
鹿児島県(n=2,227)	168 7.5%	937 42.1%	649 29.1%	100 4.5%	17 0.8%	211 9.5%	145 6.5%
内閣府(n=3,059)	6.8%	26.7%	47.2%	10.5%	1.3%	7.5%	
女性(n=580)	43 7.4%	238 41.0%	155 26.7%	16 2.8%	2 0.3%	81 14.0%	45 7.8%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	0 0.0%	5 62.5%	0 0.0%	0 0.0%	3 37.5%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	2 6.5%	10 32.3%	11 35.5%	2 6.5%	0 0.0%	4 12.9%	2 6.5%
30～39歳(n=67)	5 7.5%	28 41.8%	23 34.3%	1 1.5%	0 0.0%	9 13.4%	1 1.5%
40～49歳(n=77)	9 11.7%	36 46.8%	20 26.0%	4 5.2%	0 0.0%	7 9.1%	1 1.3%
50～59歳(n=87)	7 8.0%	46 52.9%	24 27.6%	1 1.1%	0 0.0%	8 9.2%	1 1.1%
60～69歳(n=129)	12 9.3%	59 45.7%	28 21.7%	3 2.3%	1 0.8%	19 14.7%	7 5.4%
70歳以上(n=181)	8 4.4%	59 32.6%	44 24.3%	5 2.8%	1 0.6%	31 17.1%	33 18.2%
男性(n=401)	13 3.2%	167 41.6%	151 37.7%	29 7.2%	4 1.0%	26 6.5%	11 2.7%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	0 0.0%	5 83.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	1 7.7%	4 30.8%	5 38.5%	1 7.7%	0 0.0%	2 15.4%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	1 2.4%	15 35.7%	19 45.2%	5 11.9%	1 2.4%	1 2.4%	0 0.0%
40～49歳(n=46)	2 4.3%	14 30.4%	12 26.1%	11 23.9%	2 4.3%	4 8.7%	1 2.2%
50～59歳(n=60)	1 1.7%	29 48.3%	22 36.7%	4 6.7%	0 0.0%	3 5.0%	1 1.7%
60～69歳(n=112)	2 1.8%	58 51.8%	37 33.0%	6 5.4%	0 0.0%	6 5.4%	3 2.7%
70歳以上(n=122)	6 4.9%	47 38.5%	51 41.8%	2 1.6%	1 0.8%	9 7.4%	6 4.9%

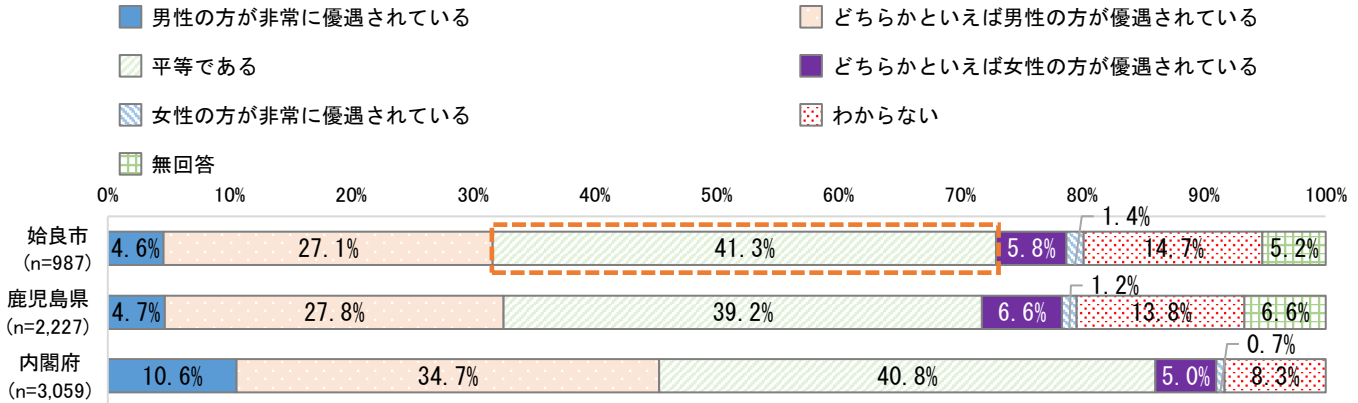
0.0% 上位1位

⑤ 法律や制度での男女の地位の平等感

鹿児島県・内閣府との比較

「平等である」とする割合は、始良市では 41.3%、鹿児島県では 39.2%、内閣府では 40.8%と、すべてにおいて最も高くなっている。

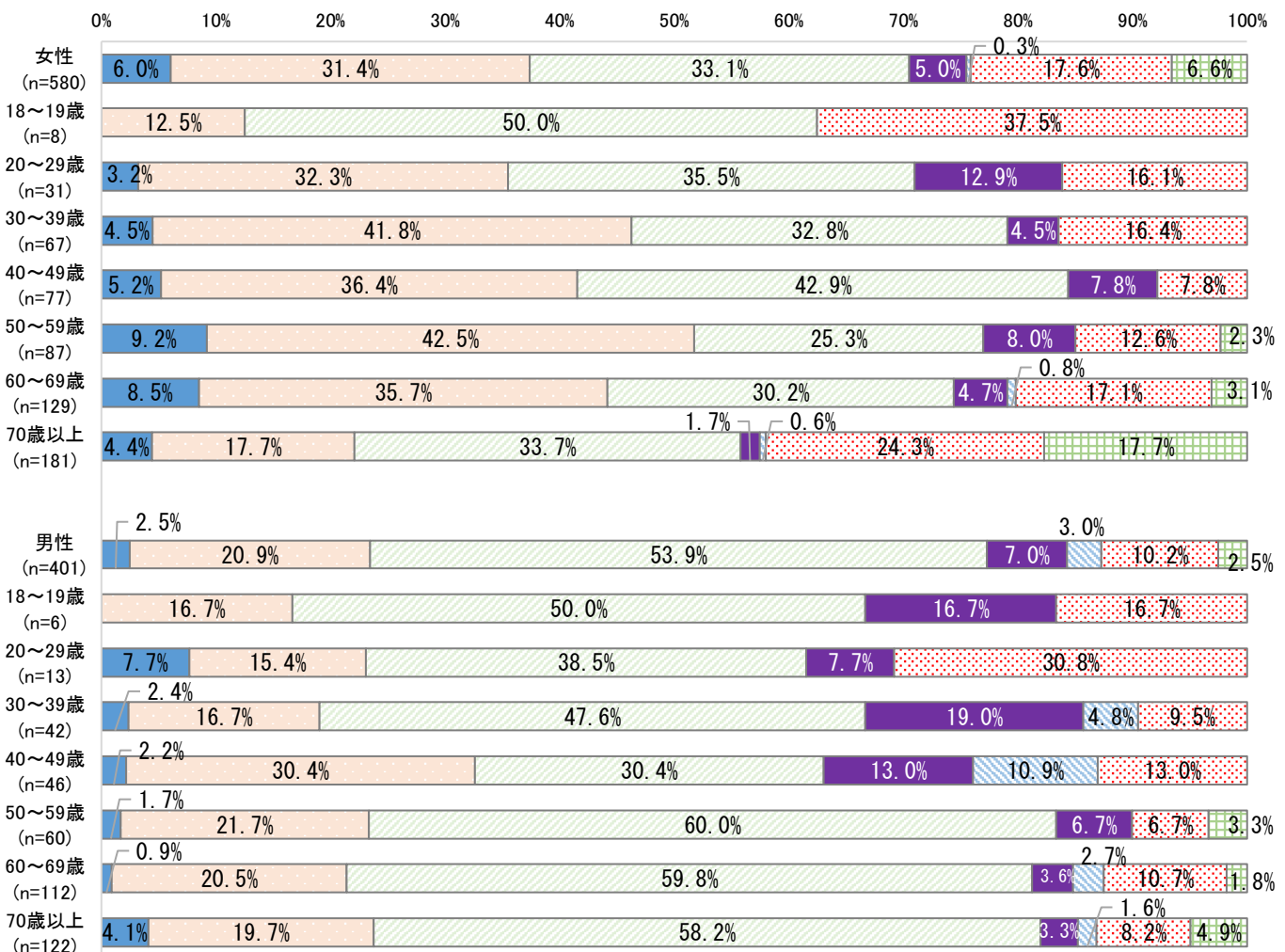
【法律や制度(国・県比較)】



性別で見ると、「男性優遇」と回答した割合は、女性 (37.4% (6.0%+31.4%)) が男性 (23.4% (2.5%+20.9%)) を 14 ポイント上回っているのに対し、「平等である」と回答した割合は、男性 (53.9%) が女性 (33.1%) を 20.8 ポイントと大きく上回っている。

性別・年代別で見ると、男性の 30 歳代から 40 歳代において「女性優遇」と回答した割合は 2 割以上となっており、女性・男性ともに他の年代が 1 割前後であるのに対し、割合が高くなっています。

【法律や制度(性別・年代別比較)】



	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	0
始良市(n=987)	45 4.6%	267 27.1%	408 41.3%	57 5.8%	14 1.4%	145 14.7%	51 5.2%	0 0.0%
鹿児島県(n=2,227)	104 4.7%	620 27.8%	874 39.2%	147 6.6%	27 1.2%	307 13.8%	148 6.6%	0 0.0%
内閣府(n=3,059)	10.6%	34.7%	40.8%	5.0%	0.7%	8.3%		
女性(n=580)	35 6.0%	182 31.4%	192 33.1%	29 5.0%	2 0.3%	102 17.6%	38 6.6%	0 0.0%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	1 12.5%	4 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 37.5%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	1 3.2%	10 32.3%	11 35.5%	4 12.9%	0 0.0%	5 16.1%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	3 4.5%	28 41.8%	22 32.8%	3 4.5%	0 0.0%	11 16.4%	0 0.0%	0 0.0%
40～49歳(n=77)	4 5.2%	28 36.4%	33 42.9%	6 7.8%	0 0.0%	6 7.8%	0 0.0%	0 0.0%
50～59歳(n=87)	8 9.2%	37 42.5%	22 25.3%	7 8.0%	0 0.0%	11 12.6%	2 2.3%	0 0.0%
60～69歳(n=129)	11 8.5%	46 35.7%	39 30.2%	6 4.7%	1 0.8%	22 17.1%	4 3.1%	0 0.0%
70歳以上(n=181)	8 4.4%	32 17.7%	61 33.7%	3 1.7%	1 0.6%	44 24.3%	32 17.7%	0 0.0%
男性(n=401)	10 2.5%	84 20.9%	216 53.9%	28 7.0%	12 3.0%	41 10.2%	10 2.5%	0 0.0%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	1 16.7%	3 50.0%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	1 7.7%	2 15.4%	5 38.5%	1 7.7%	0 0.0%	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	1 2.4%	7 16.7%	20 47.6%	8 19.0%	2 4.8%	4 9.5%	0 0.0%	0 0.0%
40～49歳(n=46)	1 2.2%	14 30.4%	14 30.4%	6 13.0%	5 10.9%	6 13.0%	0 0.0%	0 0.0%
50～59歳(n=60)	1 1.7%	13 21.7%	36 60.0%	4 6.7%	0 0.0%	4 6.7%	2 3.3%	0 0.0%
60～69歳(n=112)	1 0.9%	23 20.5%	67 59.8%	4 3.6%	3 2.7%	12 10.7%	2 1.8%	0 0.0%
70歳以上(n=122)	5 4.1%	24 19.7%	71 58.2%	4 3.3%	2 1.6%	10 8.2%	6 4.9%	0 0.0%

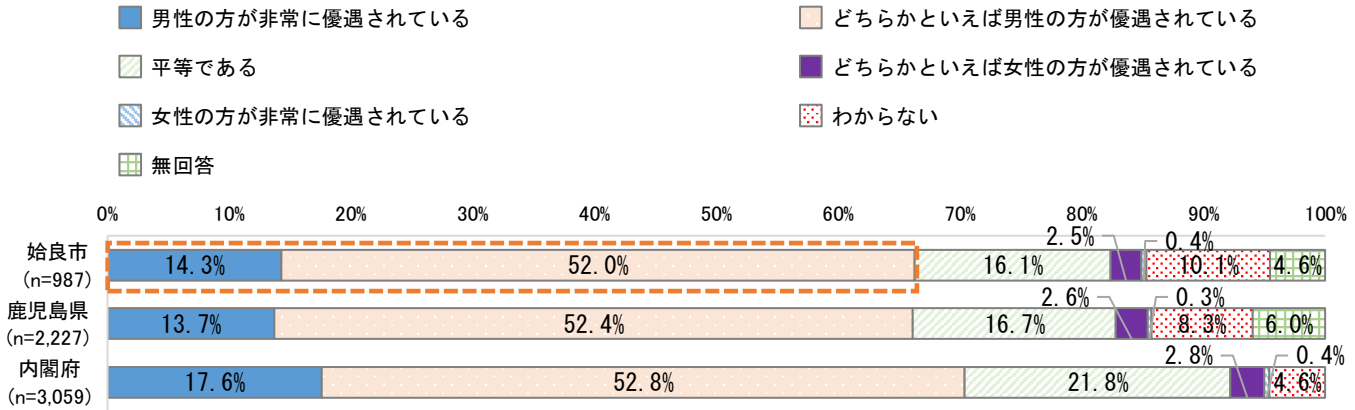
0.0% 上位1位

⑥社会通念、慣習・しきたりでの男女の地位の平等感

鹿児島県・内閣府との比較

「男性優遇」とする割合は、始良市では66.3%、鹿児島県では66.1%、内閣府では70.4%となっており、また「女性優遇」とする割合は、始良市では2.9%、鹿児島県では2.9%、内閣府では3.2%大きな差はみられない。始良市の「男性優遇」は66.3%（14.3%+52.0%）であるのに対し、「女性優遇」は2.9%（2.5%+0.4%）とわずかであり、63ポイント以上の差が見られる結果となった。

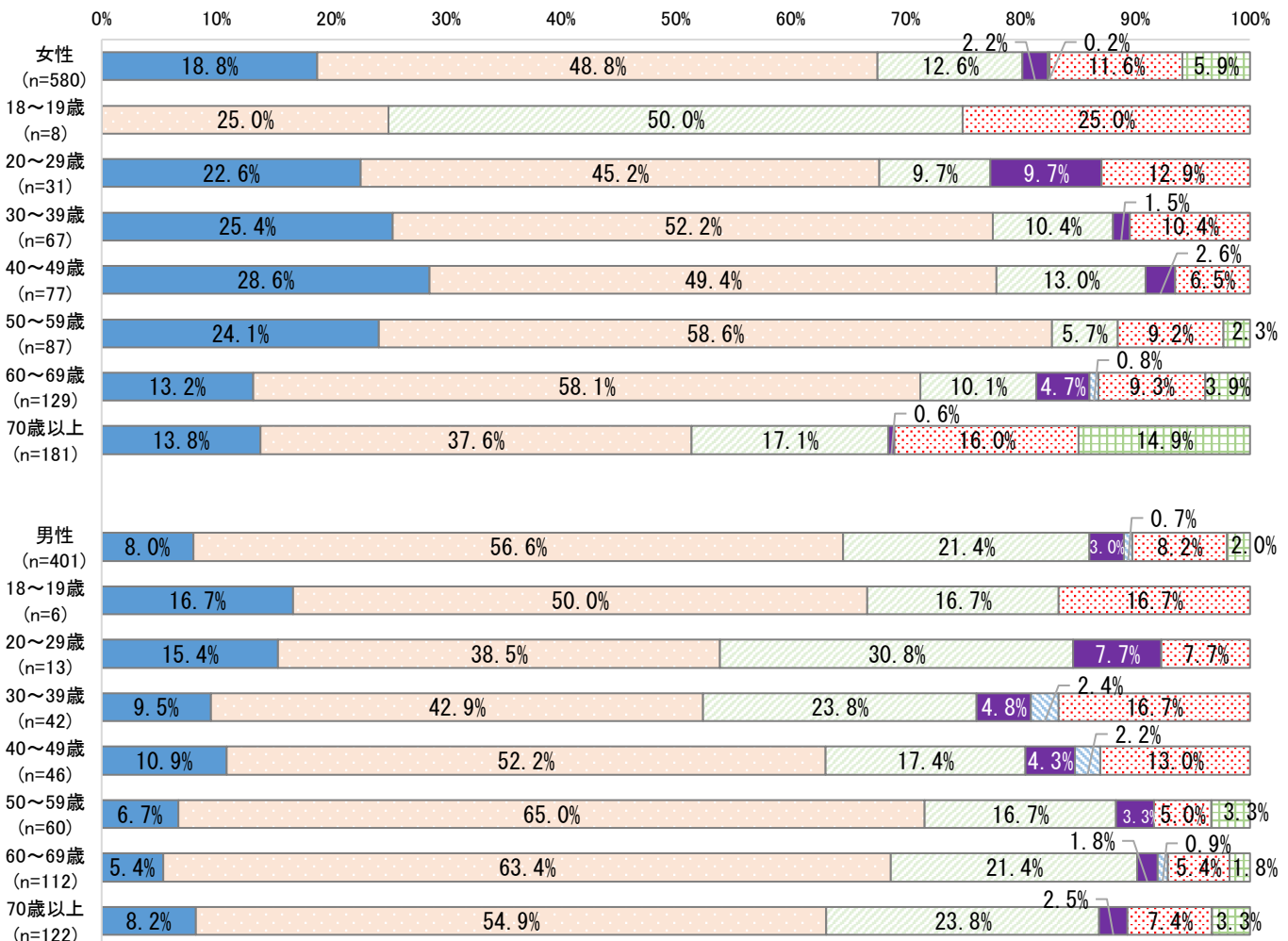
【社会通念、慣習・しきたりなど(国・県比較)】



性別でみると、「男性優遇」と回答した割合は、女性では67.6%（18.8%+48.8%）、男性では64.6%（8.0%+56.6%）となっており、大きな差はみられない。

性別・年代別でみると、10歳代を除く女性、男性はすべての年代で「男性優遇」が5割以上となっている。

【社会通念、慣習・しきたりなど(性別・年代別比較)】



	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
始良市(n=987)	141 14.3%	513 52.0%	159 16.1%	25 2.5%	4 0.4%	100 10.1%	45 4.6%
鹿児島県(n=2,227)	305 13.7%	1,168 52.4%	371 16.7%	58 2.6%	7 0.3%	185 8.3%	133 6.0%
内閣府(n=3,059)	17.6%	52.8%	21.8%	2.8%	0.4%	4.6%	
女性(n=580)	109 18.8%	283 48.8%	73 12.6%	13 2.2%	1 0.2%	67 11.6%	34 5.9%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	2 25.0%	4 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	7 22.6%	14 45.2%	3 9.7%	3 9.7%	0 0.0%	4 12.9%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	17 25.4%	35 52.2%	7 10.4%	1 1.5%	0 0.0%	7 10.4%	0 0.0%
40～49歳(n=77)	22 28.6%	38 49.4%	10 13.0%	2 2.6%	0 0.0%	5 6.5%	0 0.0%
50～59歳(n=87)	21 24.1%	51 58.6%	5 5.7%	0 0.0%	0 0.0%	8 9.2%	2 2.3%
60～69歳(n=129)	17 13.2%	75 58.1%	13 10.1%	6 4.7%	1 0.8%	12 9.3%	5 3.9%
70歳以上(n=181)	25 13.8%	68 37.6%	31 17.1%	1 0.6%	0 0.0%	29 16.0%	27 14.9%
男性(n=401)	32 8.0%	227 56.6%	86 21.4%	12 3.0%	3 0.7%	33 8.2%	8 2.0%
18～19歳(n=6)	1 16.7%	3 50.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	2 15.4%	5 38.5%	4 30.8%	1 7.7%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	4 9.5%	18 42.9%	10 23.8%	2 4.8%	1 2.4%	7 16.7%	0 0.0%
40～49歳(n=46)	5 10.9%	24 52.2%	8 17.4%	2 4.3%	1 2.2%	6 13.0%	0 0.0%
50～59歳(n=60)	4 6.7%	39 65.0%	10 16.7%	2 3.3%	0 0.0%	3 5.0%	2 3.3%
60～69歳(n=112)	6 5.4%	71 63.4%	24 21.4%	2 1.8%	1 0.9%	6 5.4%	2 1.8%
70歳以上(n=122)	10 8.2%	67 54.9%	29 23.8%	3 2.5%	0 0.0%	9 7.4%	4 3.3%

0.0% 上位1位

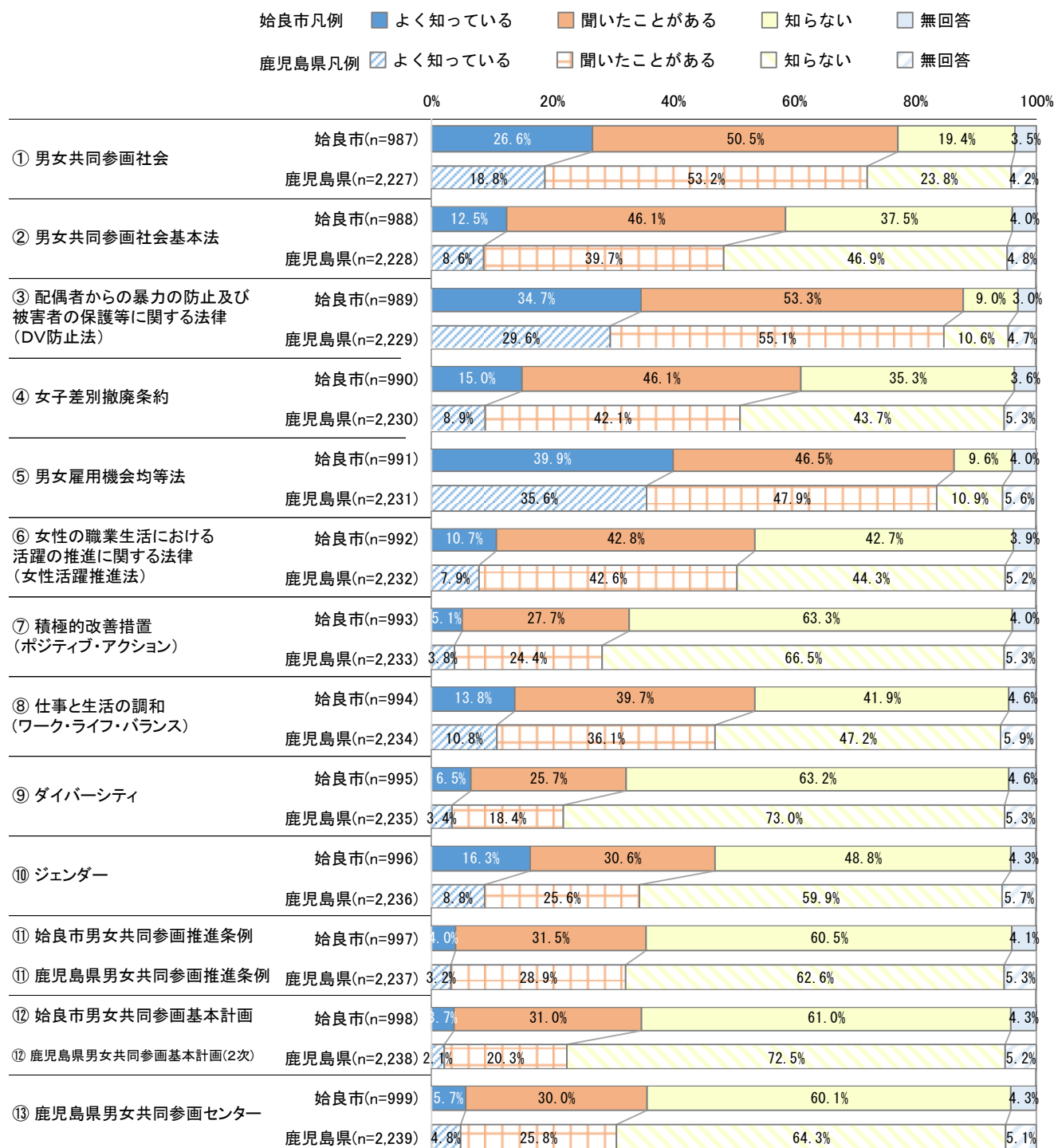
問2 あなたは、男女共同参画に関連の深い用語について知っていますか。

男女共同参画の関連用語の認知度について、「よく知っている」とした割合は「男女雇用機会均等法」(39.9%)、次いで「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」(34.7%)、「男女共同参画社会」(26.6%)となっている。

一方、「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)」「ダイバーシティ」「始良市男女共同参画推進条例」「始良市男女共同参画基本計画」「鹿児島県男女共同参画センター」においては、「知らない」が6割以上を占めている。

鹿児島県と比較すると、すべての用語において始良市の方が認知度が高い結果となった。

【関連用語の認知度(県との比較)】

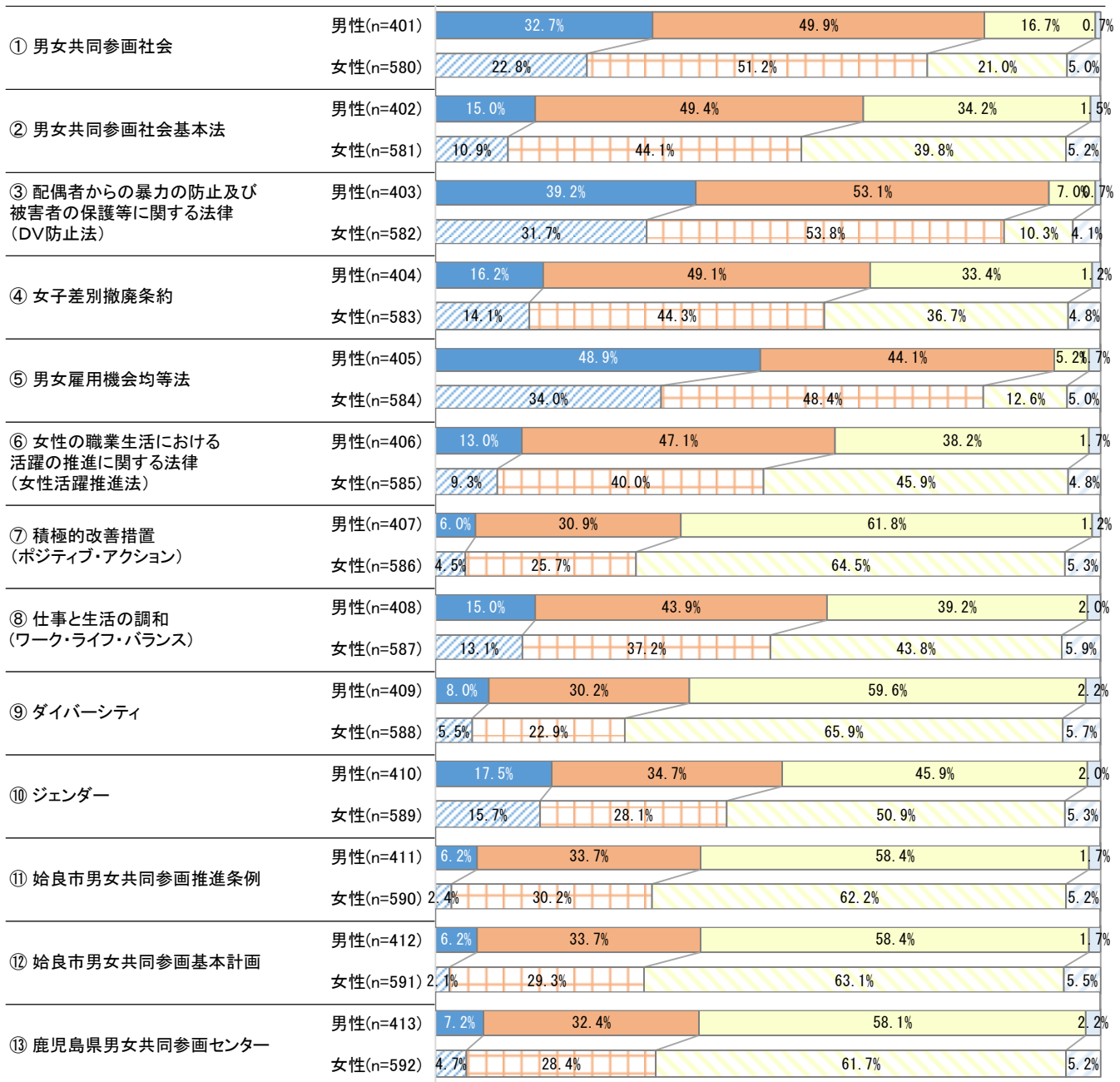
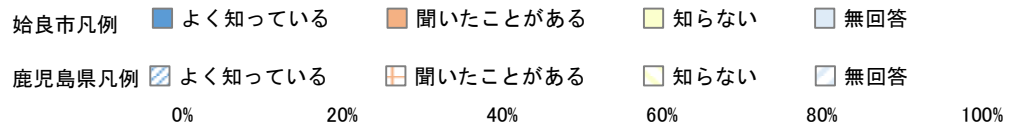


※⑪、⑫については各自自治体の条例及び計画の認知度の比較

		よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
① 男女共同参画社会	始良市	263 26.6%	498 50.5%	191 19.4%	35 3.5%
	鹿児島県	419 18.8%	1,185 53.2%	529 23.8%	94 4.2%
② 男女共同参画社会基本法	始良市	123 12.5%	455 46.1%	370 37.5%	39 4.0%
	鹿児島県	192 8.6%	884 39.7%	1,044 46.9%	107 4.8%
③ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)	始良市	342 34.7%	526 53.3%	89 9.0%	30 3.0%
	鹿児島県	659 29.6%	1,227 55.1%	237 10.6%	104 4.7%
④ 女子差別撤廃条約	始良市	148 15.0%	455 46.1%	348 35.3%	36 3.6%
	鹿児島県	198 8.9%	938 42.1%	973 43.7%	118 5.3%
⑤ 男女雇用機会均等法	始良市	394 39.9%	459 46.5%	95 9.6%	39 4.0%
	鹿児島県	792 35.6%	1,067 47.9%	242 10.9%	125 5.6%
⑥ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)	始良市	106 10.7%	422 42.8%	421 42.7%	38 3.9%
	鹿児島県	176 7.9%	948 42.6%	987 44.3%	116 5.2%
⑦ 積極的改善措置(ポジティブ・アクション)	始良市	50 5.1%	273 27.7%	625 63.3%	39 4.0%
	鹿児島県	85 3.8%	543 24.4%	1,480 66.5%	119 5.3%
⑧ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	始良市	136 13.8%	392 39.7%	414 41.9%	45 4.6%
	鹿児島県	240 10.8%	804 36.1%	1,052 47.2%	131 5.9%
⑨ ダイバーシティ	始良市	64 6.5%	254 25.7%	624 63.2%	45 4.6%
	鹿児島県	75 3.4%	409 18.4%	1,626 73.0%	117 5.3%
⑩ ジェンダー	始良市	161 16.3%	302 30.6%	482 48.8%	42 4.3%
	鹿児島県	195 8.8%	571 25.6%	1,333 59.9%	128 5.7%
⑪ 始良市男女共同参画推進条例	始良市	39 4.0%	311 31.5%	597 60.5%	40 4.1%
⑪ 鹿児島県男女共同参画推進条例	鹿児島県	71 3.2%	644 28.9%	1,393 62.6%	119 5.3%
⑫ 始良市男女共同参画基本計画	始良市	37 3.7%	306 31.0%	602 61.0%	42 4.3%
⑫ 鹿児島県男女共同参画基本計画(2次)	鹿児島県	46 2.1%	451 20.3%	1,615 72.5%	115 5.2%
⑬ 鹿児島県男女共同参画センター	始良市	56 5.7%	296 30.0%	593 60.1%	42 4.3%
	鹿児島県	106 4.8%	575 25.8%	1,433 64.3%	113 5.1%

0.0% 上位1位

【関連用語の認知度（男女の比較）】



		よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
① 男女共同参画社会	男性	263 32.7%	498 49.9%	191 16.7%	35 0.7%
	女性	419 22.8%	1,185 51.2%	529 21.0%	94 5.0%
② 男女共同参画社会基本法	男性	123 15.0%	455 49.4%	370 34.2%	39 1.5%
	女性	192 10.9%	884 44.1%	1,044 39.8%	107 5.2%
③ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)	男性	342 39.2%	526 53.1%	89 7.0%	30 0.7%
	女性	659 31.7%	1,227 53.8%	237 10.3%	104 4.1%
④ 女子差別撤廃条約	男性	148 16.2%	455 49.1%	348 33.4%	36 1.2%
	女性	198 14.1%	938 44.3%	973 36.7%	118 4.8%
⑤ 男女雇用機会均等法	男性	394 48.9%	459 44.1%	95 5.2%	39 1.7%
	女性	792 34.0%	1,067 48.4%	242 12.6%	125 5.0%
⑥ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)	男性	106 13.0%	422 47.1%	421 38.2%	38 1.7%
	女性	176 9.3%	948 40.0%	987 45.9%	116 4.8%
⑦ 積極的改善措置(ポジティブ・アクション)	男性	50 6.0%	273 30.9%	625 61.8%	39 1.2%
	女性	85 4.5%	543 25.7%	1,480 64.5%	119 5.3%
⑧ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	男性	136 15.0%	392 43.9%	414 39.2%	45 2.0%
	女性	240 13.1%	804 37.2%	1,052 43.8%	131 5.9%
⑨ ダイバーシティ	男性	64 8.0%	254 30.2%	624 59.6%	45 2.2%
	女性	75 5.5%	409 22.9%	1,626 65.9%	117 5.7%
⑩ ジェンダー	男性	161 17.5%	302 34.7%	482 45.9%	42 2.0%
	女性	195 15.7%	571 28.1%	1,333 50.9%	128 5.3%
⑪ 始良市男女共同参画推進条例	男性	39 6.2%	311 33.7%	597 58.4%	40 1.7%
	女性	71 2.4%	644 30.2%	1,393 62.2%	119 5.2%
⑫ 始良市男女共同参画基本計画	男性	37 6.2%	306 33.7%	602 58.4%	42 1.7%
	女性	46 2.1%	451 29.3%	1,615 63.1%	115 5.5%
⑬ 鹿児島県男女共同参画センター	男性	56 7.2%	296 32.4%	593 58.1%	42 2.2%
	女性	106 4.7%	575 28.4%	1,433 61.7%	113 5.2%

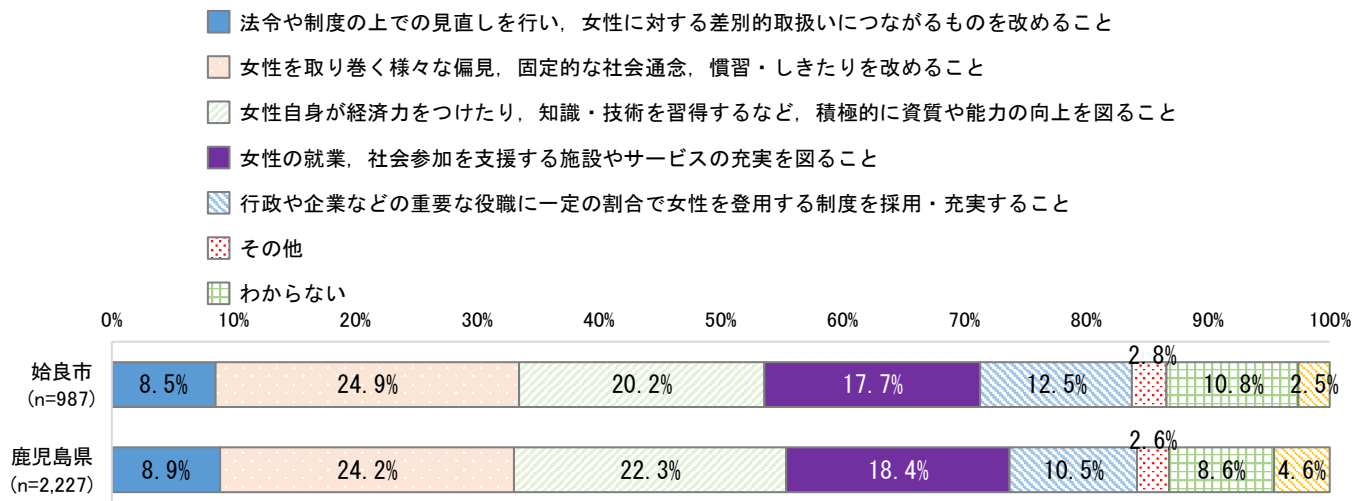
0.0% 上位1位

問3 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、何が最も重要だと思いますか。次の1～7の中から1つだけお選びください。

始良市では、男女平等のために最も重要なことについて、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(24.9%)の割合が最も高く、次いで「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に資質や能力の向上を図ること」(20.2%)、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(17.7%)となっている。

鹿児島県と比較して、大きな差はみられなかった。

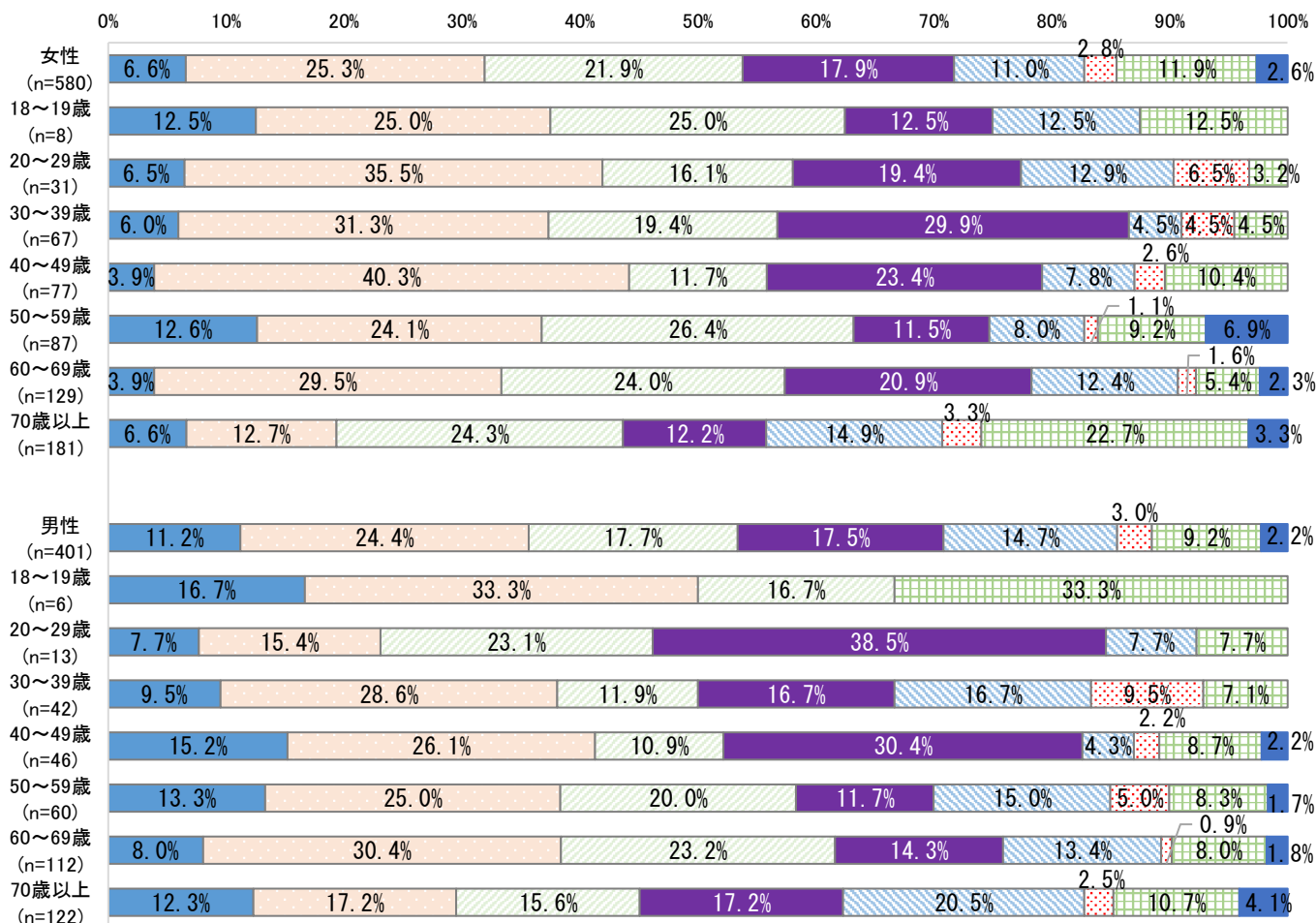
【男女の平等に最も必要なこと(県比較)】



性別でみると、女性(25.3%)、男性(24.4%)ともに「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が最も高くなっている。

性別・年代別でみると、男性の20歳代では「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」が38.5%と、他の年代と比較して高くなっている。

【男女の平等に最も必要なこと(性別・年代別比較)】



	い、女性に対する差別的取扱いにつながるものを改めること	女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に資質や能力の向上を図ること	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	その他	わからない	無回答
始良市(n=987)	84 8.5%	246 24.9%	199 20.2%	175 17.7%	123 12.5%	28 2.8%	107 10.8%	25 2.5%
鹿児島県(n=2,227)	198 8.9%	538 24.2%	497 22.3%	409 18.4%	233 10.5%	58 2.6%	192 8.6%	102 4.6%
女性(n=580)	38 6.6%	147 25.3%	127 21.9%	104 17.9%	64 11.0%	16 2.8%	69 11.9%	15 2.6%
18～19歳(n=8)	1 12.5%	2 25.0%	2 25.0%	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	2 6.5%	11 35.5%	5 16.1%	6 19.4%	4 12.9%	2 6.5%	1 3.2%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	4 6.0%	21 31.3%	13 19.4%	20 29.9%	3 4.5%	3 4.5%	3 4.5%	0 0.0%
40～49歳(n=77)	3 3.9%	31 40.3%	9 11.7%	18 23.4%	6 7.8%	2 2.6%	8 10.4%	0 0.0%
50～59歳(n=87)	11 12.6%	21 24.1%	23 26.4%	10 11.5%	7 8.0%	1 1.1%	8 9.2%	6 6.9%
60～69歳(n=129)	5 3.9%	38 29.5%	31 24.0%	27 20.9%	16 12.4%	2 1.6%	7 5.4%	3 2.3%
70歳以上(n=181)	12 6.6%	23 12.7%	44 24.3%	22 12.2%	27 14.9%	6 3.3%	41 22.7%	6 3.3%
男性(n=401)	45 11.2%	98 24.4%	71 17.7%	70 17.5%	59 14.7%	12 3.0%	37 9.2%	9 2.2%
18～19歳(n=6)	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	1 7.7%	2 15.4%	3 23.1%	5 38.5%	1 7.7%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	4 9.5%	12 28.6%	5 11.9%	7 16.7%	7 16.7%	4 9.5%	3 7.1%	0 0.0%
40～49歳(n=46)	7 15.2%	12 26.1%	5 10.9%	14 30.4%	2 4.3%	1 2.2%	4 8.7%	1 2.2%
50～59歳(n=60)	8 13.3%	15 25.0%	12 20.0%	7 11.7%	9 15.0%	3 5.0%	5 8.3%	1 1.7%
60～69歳(n=112)	9 8.0%	34 30.4%	26 23.2%	16 14.3%	15 13.4%	1 0.9%	9 8.0%	2 1.8%
70歳以上(n=122)	15 12.3%	21 17.2%	19 15.6%	21 17.2%	25 20.5%	3 2.5%	13 10.7%	5 4.1%

0.0% 上位1位

※主なその他回答

- 身体的、肉体的な性差は厳然として存在する。それぞれの性の持つ資質、能力の向上を積極的に図る。
- 中小企業の取り組み、理解、創造すること。大企業のように取り組めないと言ういいわけ。一番は「平等にする」という考え。平等でなくても良い。
- 男と女は根本的に違うはず。平等平等と言うから男は弱すぎ、女は強すぎになって世の中おかしくなっている。女には女の出来る仕事、男には男の出来る事があるはず。世の中おかしい！決して平等ではない！
- 男女とも、何事も個人の人気でなく能力があり、現在は子供の方が、全てに努力しているみたいを感じる。女は威張らない方が良い。
- 女性の重荷があると家の事が次になる。
- 子育て支援をしっかりとすること。観念の在り方を提唱していくことも。
- 女性自身の意識改革
- なぜ女性にきめつけているのかそれこそ偏見差別では
- 平等ではなく対等とすべき
- 結婚して子供が出来るとうとうしても職場を離れないといけない
- 女性が生きやすい社会

- 女性の社会進出というよりは家庭と仕事の両立ができるような家事育児に対する配慮があったらいいと思う
- 将来の年金をもらえる金額は女性のほうが低く、労働年数が長くても男性が有利。
- 出産、育児の終了後その経験をもとに生活に関する助言の出来るを考えること。
- 差別ではなく、女性として男性としての性差というのがあると思います。女性は〜が得意で男性は力仕事に向いている等のあらゆる分野での平等はそもそも難しいかなと。。。。
- 男女平等であれば良いと考えますが上記の文は女性のみでおかしい。質問が平等性にかける。
- 男女平等って何をもって平等と考えるのかあまりよくわかりません。高層ビルや橋の仕事、女の人でできるのでしょうか。それぞれ尊重しあって助け合っていく。なかなか難しいですかね。
- 働き盛りの女性が子育てでその機会を失っている。もっと子供を預けられるシステムの改善を。
- 学校教育
- 女性が結婚、出産、子育てを経ても仕事を続けられるように、職場の固定的観念を改め、子育て支援の充実を図ること
- 貧困と教育について考えた方が良くと思う
- 女性が権利主張が目に見える。女性自らが謙虚になるべき。
- 性差を理由とした悪平等を正すこと
- 男性の育休や休日の確保。もっと家庭に入って家族の時間も大切にできるような社会作り。必然的に女性も社会にもっと出て働けるはず。
- 女性の社会進出に伴う妊娠出産仕事の在り方。女性が仕事家庭家事という環境。同じように”働く”時間は一緒。子どもを理由に休みや退職できない社会性。
- すでに女性に特化した問題となっていること、それ自体が公的な男女平等ではない。

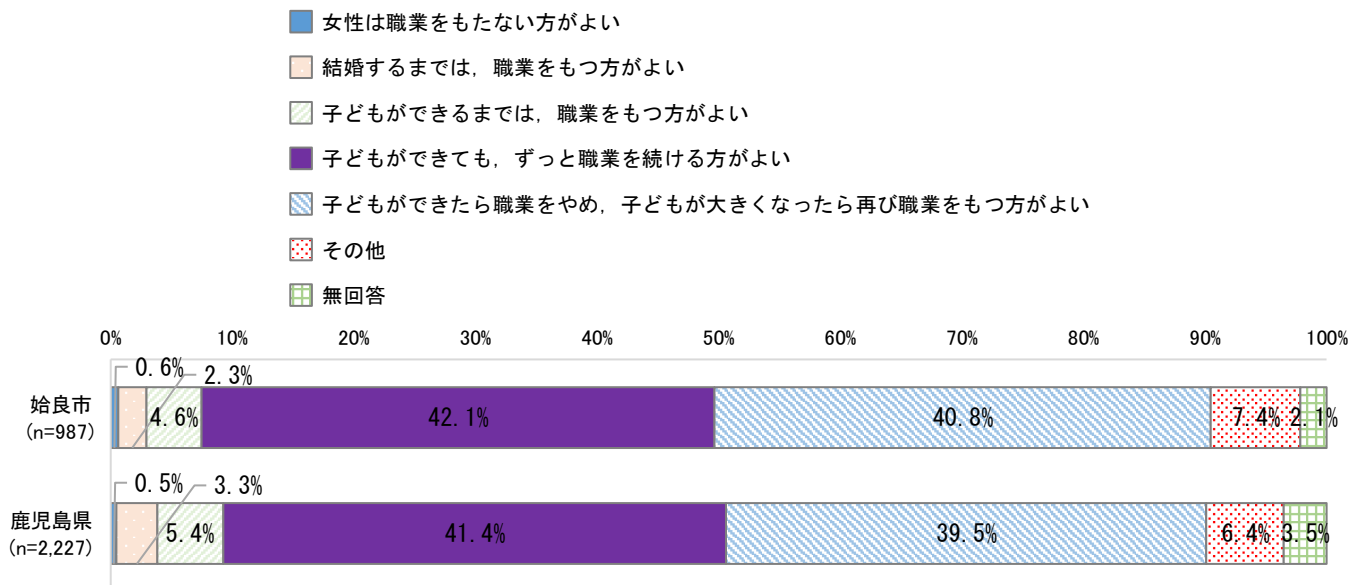
II 就業について

問4 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。

始良市では、女性が職業を持つことについて、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(42.1%)の割合が最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(40.8%)、「その他」(7.4%)となっている。

始良市では「結婚するまでもしくは子供ができるまでは職業を持つほうがよい」が鹿児島県と比較して、低くなっている。

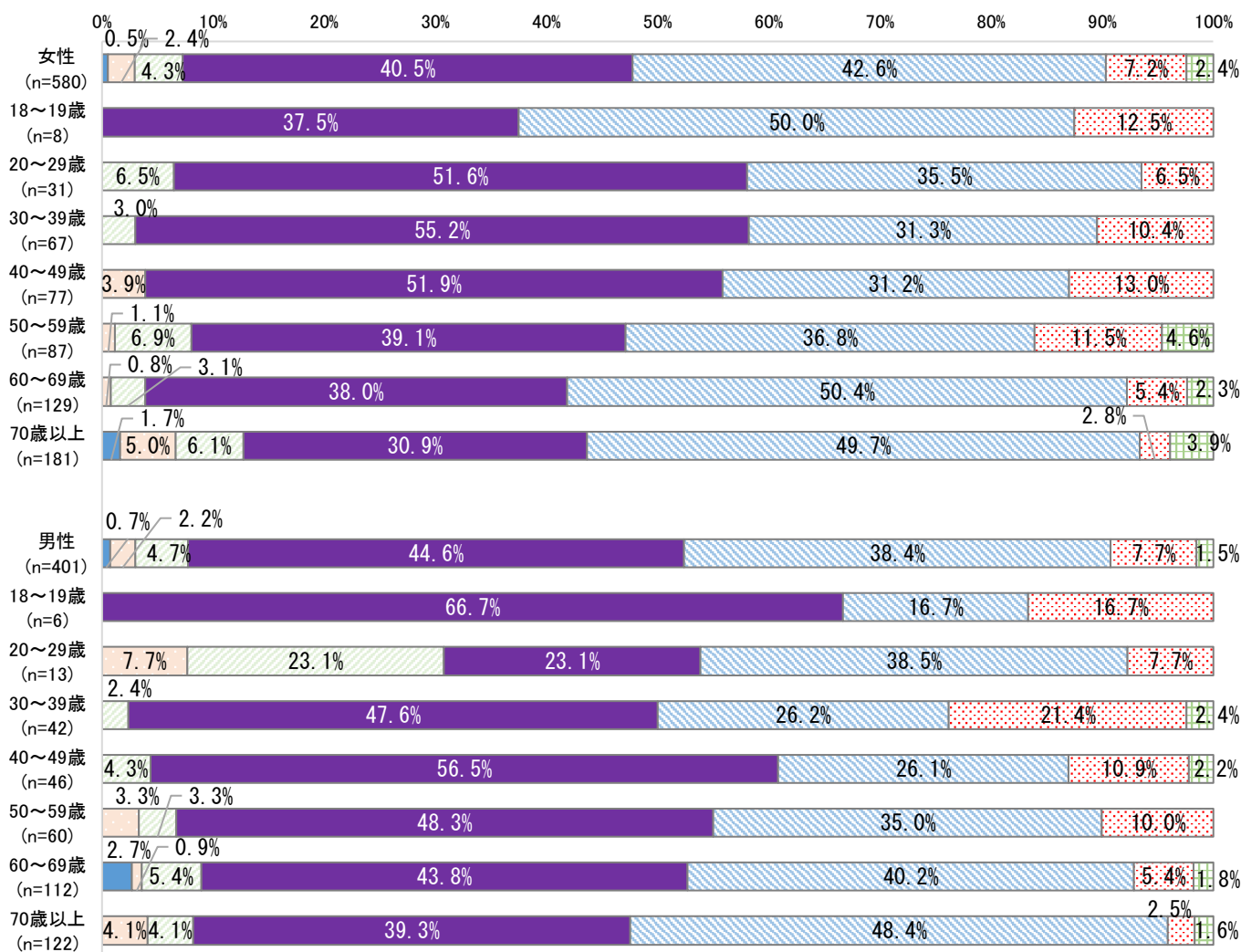
【女性が職業を持つことについて(県比較)】



性別でみると、女性(42.6%)は「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」、男性(44.6%)は「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合がそれぞれ最も高くなっており、回答傾向に差がみられた。

性別・年代別でみると、男性の20歳代では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合が、他の年代と比較して低くなっている一方、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」の割合は、他の年代と比較して高くなっている。

【女性が職業を持つことについて(性別・年代別比較)】



	女性は職業をもたない方がよい	結婚するまでは、職業をもつ方がよい	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい	その他	無回答
始良市(n=987)	6 0.6%	23 2.3%	45 4.6%	416 42.1%	403 40.8%	73 7.4%	21 2.1%
鹿児島県(n=2,227)	11 0.5%	74 3.3%	121 5.4%	921 41.4%	880 39.5%	142 6.4%	78 3.5%
女性(n=580)	3 0.5%	14 2.4%	25 4.3%	235 40.5%	247 42.6%	42 7.2%	14 2.4%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 37.5%	4 50.0%	1 12.5%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	0 0.0%	0 0.0%	2 6.5%	16 51.6%	11 35.5%	2 6.5%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	0 0.0%	0 0.0%	2 3.0%	37 55.2%	21 31.3%	7 10.4%	0 0.0%
40～49歳(n=77)	0 0.0%	3 3.9%	0 0.0%	40 51.9%	24 31.2%	10 13.0%	0 0.0%
50～59歳(n=87)	0 0.0%	1 1.1%	6 6.9%	34 39.1%	32 36.8%	10 11.5%	4 4.6%
60～69歳(n=129)	0 0.0%	1 0.8%	4 3.1%	49 38.0%	65 50.4%	7 5.4%	3 2.3%
70歳以上(n=181)	3 1.7%	9 5.0%	11 6.1%	56 30.9%	90 49.7%	5 2.8%	7 3.9%
男性(n=401)	3 0.7%	9 2.2%	19 4.7%	179 44.6%	154 38.4%	31 7.7%	6 1.5%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 66.7%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	0 0.0%	1 7.7%	3 23.1%	3 23.1%	5 38.5%	1 7.7%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	20 47.6%	11 26.2%	9 21.4%	1 2.4%
40～49歳(n=46)	0 0.0%	0 0.0%	2 4.3%	26 56.5%	12 26.1%	5 10.9%	1 2.2%
50～59歳(n=60)	0 0.0%	2 3.3%	2 3.3%	29 48.3%	21 35.0%	6 10.0%	0 0.0%
60～69歳(n=112)	3 2.7%	1 0.9%	6 5.4%	49 43.8%	45 40.2%	6 5.4%	2 1.8%
70歳以上(n=122)	0 0.0%	5 4.1%	5 4.1%	48 39.3%	59 48.4%	3 2.5%	2 1.6%

0.0% 上位1位

※主なその他回答

- 職業を持ち、条件が許すなら働き続けられるように。3,4の折衷案で。
- 女性が自立してはいけなような考え方がよくない。女性がPTAに行く。子供を迎えに行く。それが普通。(男性が行くものではない)
- 人それぞれの生き方、生活があるので決めるのは難しい。
- 子供を育てるのは、立派な女の仕事です。その女と子供を養うのは、立派な男の仕事。
- 一人一人の考えや生活スタイルであわせれば良いと思います。
- 夫婦で話し合えば良い
- それぞれの生活スタイルでいいと思う。
- ケースバイケース家庭の事情、個人の信条によるべきで法律や行政が関与すべきではない
- 結婚をしたらそれ以後は家庭を守ったほうが良い
- 社会に復帰する時期よりもいつでも女性が仕事ができる環境が必要
- 何らの制約もない
- その方の思うようでいい みんなが同じ「どうすべき」ではないと思う

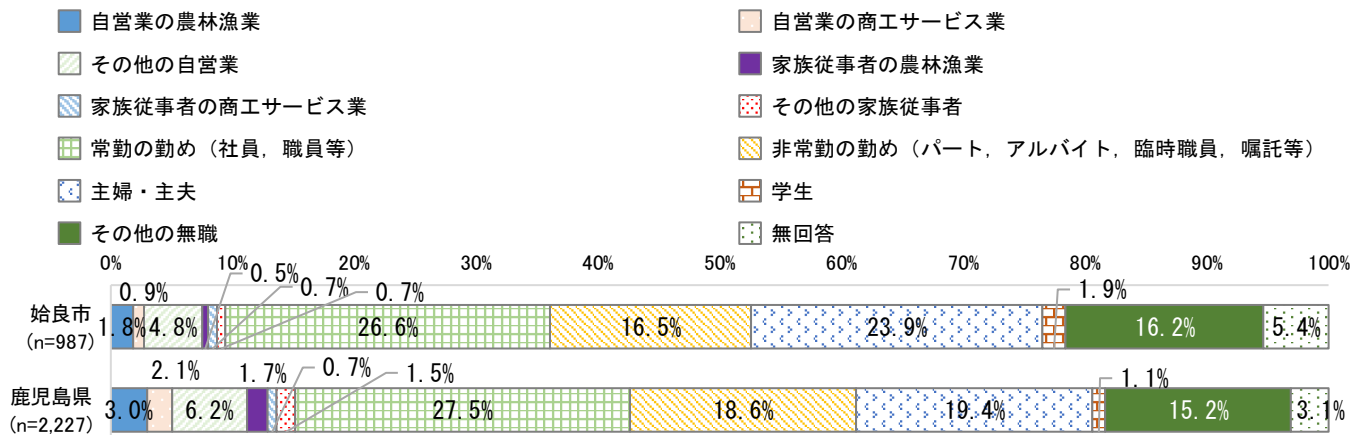
- 配偶者とのかねあいだと思う。シングルマザーだとそんな悠長な事は言ってもらえない。
- 家庭によって違う、できれば世帯同居がいい。
- その人それぞれの考えがある
- 家庭の状況や考え方によってそれぞれで良いと思う。1つだけとは思わない。
- 家庭環境で近辺に子供さんを見てくださる人がいれば子供が出来てもずっと職場を持つ方が良い。
- 家庭環境により、一概には言えない。育児家事などの協力は体勢が必要。
- 子どもが小さいうちは自分で育ててほしい。それから職業を持ったらよい。
- ケースバイケースだと思うが個人の考えを尊重すべき
- 結婚、子供の有無に関わらず、女性は職業を持つべきと考える。この設問は差別的内容ではありませんか？違和感を感じます。
- 5と近いが子供が中学校を卒業してから職業につけばよいかな
- 職業をもちたいなら尊重すべき
- 状況をみて仕事をすればいい。
- 1～5までは既に女性に対する偏見がある。働きたい人が働けるようにしていただきたい。
- 5に近いがやめなくてもいいと思う。職場に保育園があれば一番良い。子どもが中学に入るまでは近くにいてあげたいが今している仕事も好き。
- 結婚・子どもに囚われず本人の意思を尊重することが大切。家庭に入りたい人はそれもよし、職業を続けたい人はそれもよし。
- 本人（女性）が多様に判断できる社会
- 無理のないよう仕事と子育てを自分でバランスよくすればいい
- 職業を持つ持たないは本人が決める権利がある、この質問自体女性に対する偏見があり平等ではない。
- たくさんの選択肢があると良い

問5 あなたのご職業を次の1～11の中から1つだけお選びください。

職業について、「常勤の勤め(社員, 職員等)」(26.6%)の割合が最も高く、次いで「主婦・主夫」(23.9%)、「非常勤の勤め(パート, アルバイト, 臨時職員, 嘱託等)」(16.5%)となっている。

鹿児島県と比較すると、「主婦・主夫」の割合が4ポイント以上高くなっている。

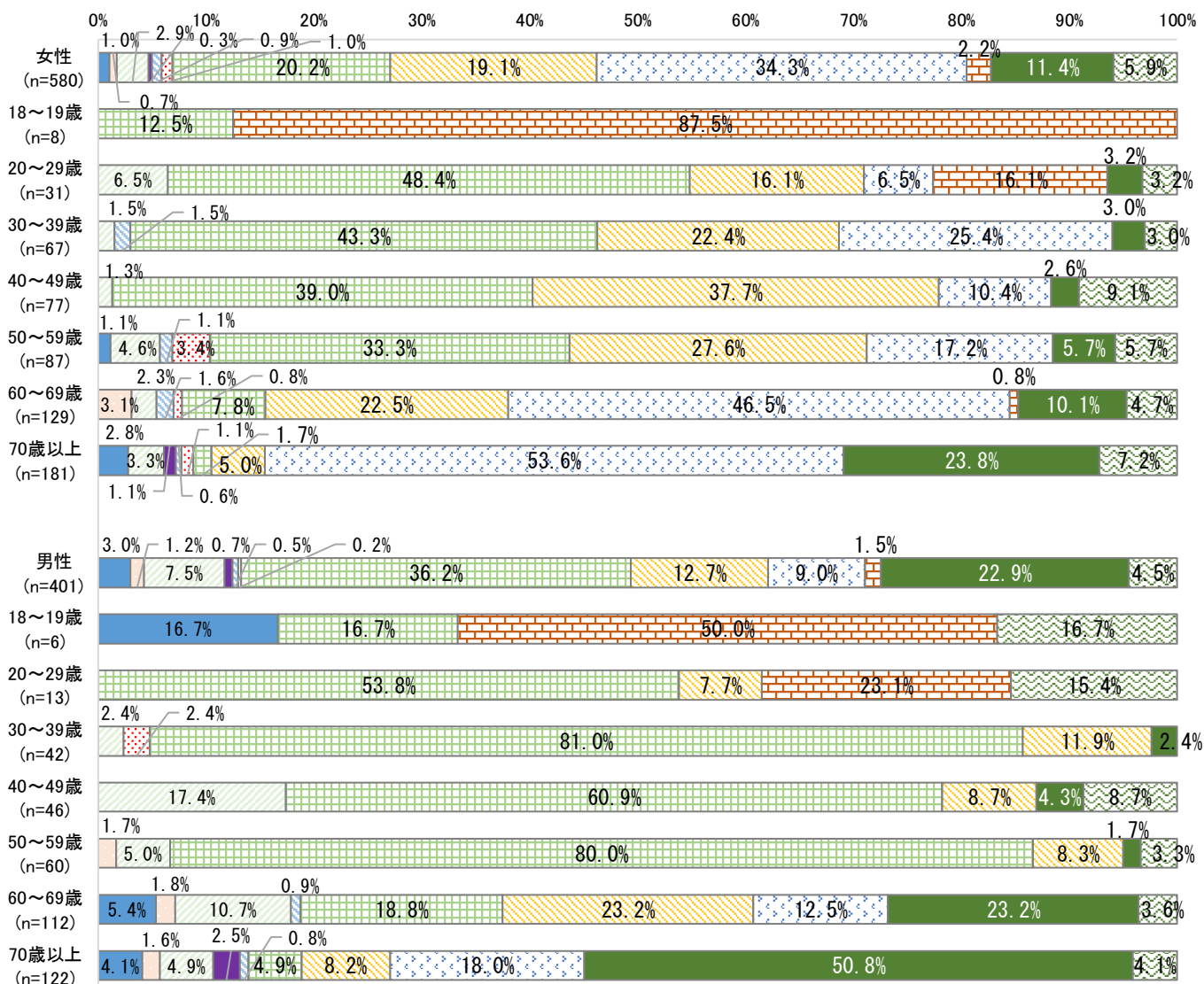
【職業(県比較)】



性別でみると、女性(34.3%)は「主婦・主夫」、男性(36.2%)は「常勤の勤め(社員, 職員等)」の割合が最も高くなっている。

性別・年代別でみると、「常勤の勤め(社員, 職員等)」は、男性の30歳代から50歳代では6割以上となっている一方、女性の30歳代から50歳代では3～4割前後となっている。

【職業(性別・年代別比較)】



	自営業主			家族従事者			雇用者		無職			無回答
	農林漁業	商工サービス業	その他の自営業	農林漁業	商工サービス業	家族従事者 その他の	常勤の勤め	非常勤の勤め	主婦・主夫	学生	その他の無職	
始良市(n=987)	18 1.8%	9 0.9%	47 4.8%	5 0.5%	7 0.7%	7 0.7%	263 26.6%	163 16.5%	236 23.9%	19 1.9%	160 16.2%	53 5.4%
鹿児島県(n=2,227)	66 3.0%	46 2.1%	137 6.2%	38 1.7%	16 0.7%	34 1.5%	612 27.5%	414 18.6%	432 19.4%	24 1.1%	339 15.2%	69 3.1%
女性(n=580)	6 1.0%	4 0.7%	17 2.9%	2 0.3%	5 0.9%	6 1.0%	117 20.2%	111 19.1%	199 34.3%	13 2.2%	66 11.4%	34 5.9%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	7 87.5%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	0 0.0%	0 0.0%	2 6.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	15 48.4%	5 16.1%	2 6.5%	5 16.1%	1 3.2%	1 3.2%
30～39歳(n=67)	0 0.0%	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	29 43.3%	15 22.4%	17 25.4%	0 0.0%	2 3.0%	2 3.0%
40～49歳(n=77)	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	30 39.0%	29 37.7%	8 10.4%	0 0.0%	2 2.6%	7 9.1%
50～59歳(n=87)	1 1.1%	0 0.0%	4 4.6%	0 0.0%	1 1.1%	3 3.4%	29 33.3%	24 27.6%	15 17.2%	0 0.0%	5 5.7%	5 5.7%
60～69歳(n=129)	0 0.0%	4 3.1%	3 2.3%	0 0.0%	2 1.6%	1 0.8%	10 7.8%	29 22.5%	60 46.5%	1 0.8%	13 10.1%	6 4.7%
70歳以上(n=181)	5 2.8%	0 0.0%	6 3.3%	2 1.1%	1 0.6%	2 1.1%	3 1.7%	9 5.0%	97 53.6%	0 0.0%	43 23.8%	13 7.2%
男性(n=401)	12 3.0%	5 1.2%	30 7.5%	3 0.7%	2 0.5%	1 0.2%	145 36.2%	51 12.7%	36 9.0%	6 1.5%	92 22.9%	18 4.5%
18～19歳(n=6)	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%	1 16.7%
20～29歳(n=13)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 53.8%	1 7.7%	0 0.0%	3 23.1%	0 0.0%	2 15.4%
30～39歳(n=42)	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	34 81.0%	5 11.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%
40～49歳(n=46)	0 0.0%	0 0.0%	8 17.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	28 60.9%	4 8.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.3%	4 8.7%
50～59歳(n=60)	0 0.0%	1 1.7%	3 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	48 80.0%	5 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.7%	2 3.3%
60～69歳(n=112)	6 5.4%	2 1.8%	12 10.7%	0 0.0%	1 0.9%	0 0.0%	21 18.8%	26 23.2%	14 12.5%	0 0.0%	26 23.2%	4 3.6%
70歳以上(n=122)	5 4.1%	2 1.6%	6 4.9%	3 2.5%	1 0.8%	0 0.0%	6 4.9%	10 8.2%	22 18.0%	0 0.0%	62 50.8%	5 4.1%

0.0% 上位1位

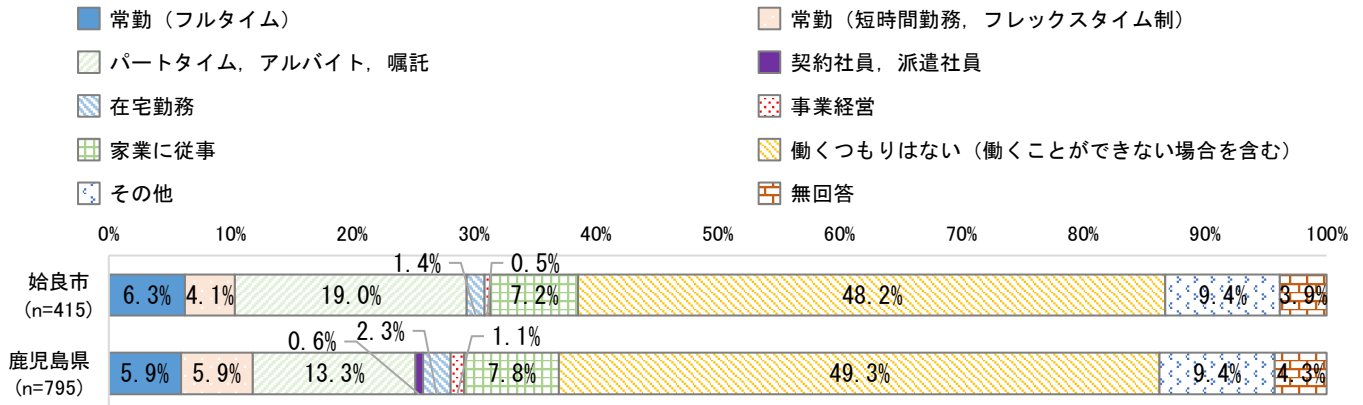
【問5で 無職「9」～「11」と回答された方へお尋ねします。】

問5-1 あなたはどのような形で働きたいですか。次の1～9の中から1つだけお選びください。

どのような形で働きたいかについて、「働くつもりはない（働くことができない場合を含む）」（48.2%）の割合が最も高く、次いで「パートタイム、アルバイト、嘱託」（19.0%）、「その他」（9.4%）となっている。

鹿児島県と比較すると「パートタイム、アルバイト、嘱託」の割合が5ポイント以上高くなっている。

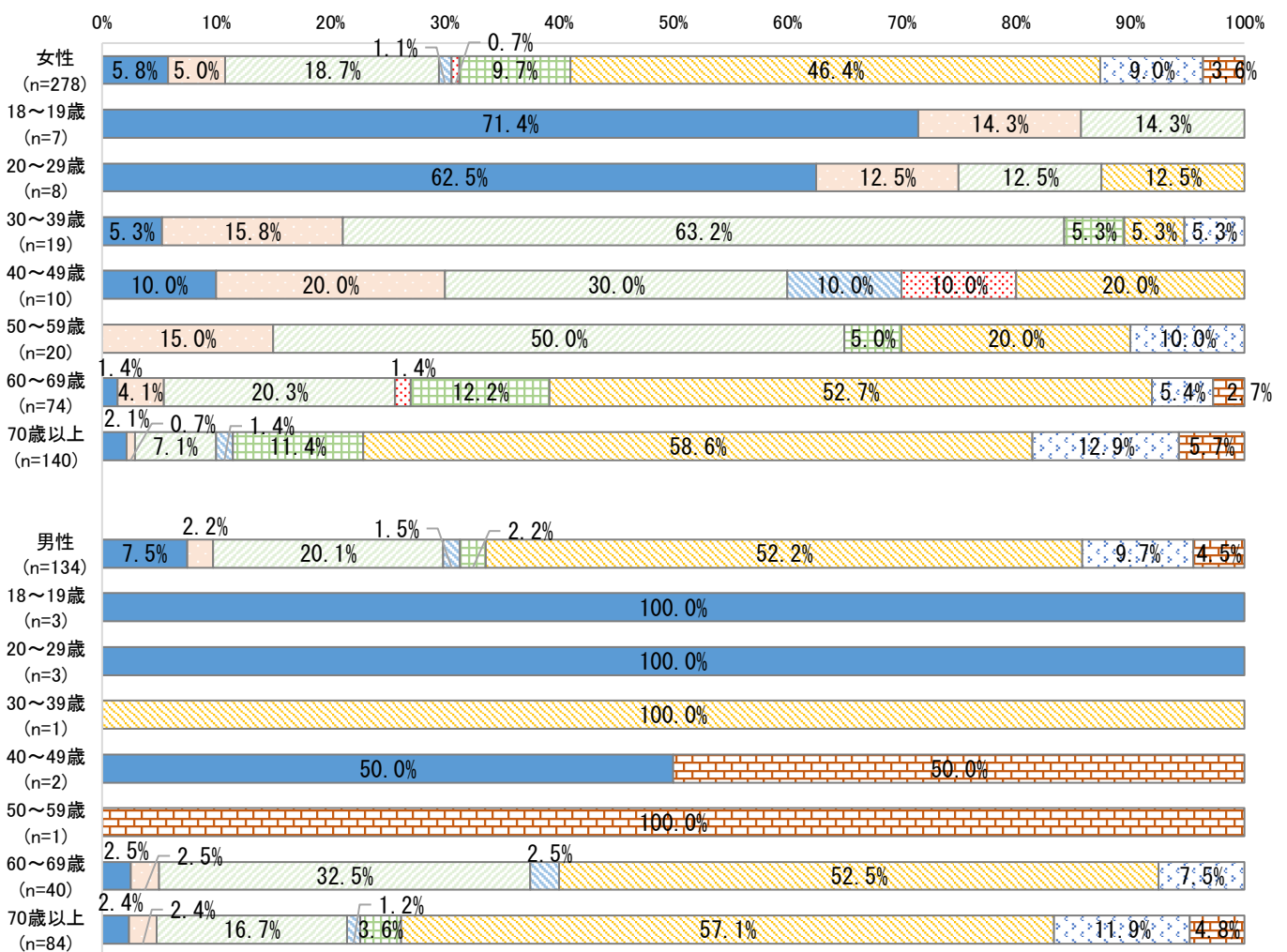
【就業形態（県比較）】



性別で見ると、女性（46.4%）・男性（52.2%）ともに「働くつもりはない（働くことができない場合を含む）」の割合が最も高くなっている。

性別・年代別で見ると、女性・男性ともに60歳以上の5割以上が「働くつもりはない（働くことができない場合を含む）」と回答している。

【就業形態（性別・年代別比較）】



	常勤（フルタイム）	常勤（短時間勤務・フレックスタ イム制）	パートタイム・アルバイト・嘱託	契約社員・派遣社員	在宅勤務	事業経営	家業に従事	働くつもりはない（働くことがで きない場合を含む）	その他	無回答
始良市(n=415)	26 6.3%	17 4.1%	79 19.0%	0 0.0%	6 1.4%	2 0.5%	30 7.2%	200 48.2%	39 9.4%	16 3.9%
鹿児島県(n=795)	47 5.9%	47 5.9%	106 13.3%	5 0.6%	18 2.3%	9 1.1%	62 7.8%	392 49.3%	75 9.4%	34 4.3%
女性(n=278)	16 5.8%	14 5.0%	52 18.7%	0 0.0%	3 1.1%	2 0.7%	27 9.7%	129 46.4%	25 9.0%	10 3.6%
18～19歳(n=7)	5 71.4%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=8)	5 62.5%	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=19)	1 5.3%	3 15.8%	12 63.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.3%	1 5.3%	1 5.3%	0 0.0%
40～49歳(n=10)	1 10.0%	2 20.0%	3 30.0%	0 0.0%	1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%
50～59歳(n=20)	0 0.0%	3 15.0%	10 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	4 20.0%	2 10.0%	0 0.0%
60～69歳(n=74)	1 1.4%	3 4.1%	15 20.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	9 12.2%	39 52.7%	4 5.4%	2 2.7%
70歳以上(n=140)	3 2.1%	1 0.7%	10 7.1%	0 0.0%	2 1.4%	0 0.0%	16 11.4%	82 58.6%	18 12.9%	8 5.7%
男性(n=134)	10 7.5%	3 2.2%	27 20.1%	0 0.0%	2 1.5%	0 0.0%	3 2.2%	70 52.2%	13 9.7%	6 4.5%
18～19歳(n=3)	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=3)	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=1)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
40～49歳(n=2)	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%
50～59歳(n=1)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
60～69歳(n=40)	1 2.5%	1 2.5%	13 32.5%	0 0.0%	1 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	21 52.5%	3 7.5%	0 0.0%
70歳以上(n=84)	2 2.4%	2 2.4%	14 16.7%	0 0.0%	1 1.2%	0 0.0%	3 3.6%	48 57.1%	10 11.9%	4 4.8%

0.0% 上位1位

※主なその他回答

- 高齢や病気のため働くことが困難
- シルバーのような形で
- フリーランス、持っている資格を活かして
- 定年して働き先がない
- ボランティア

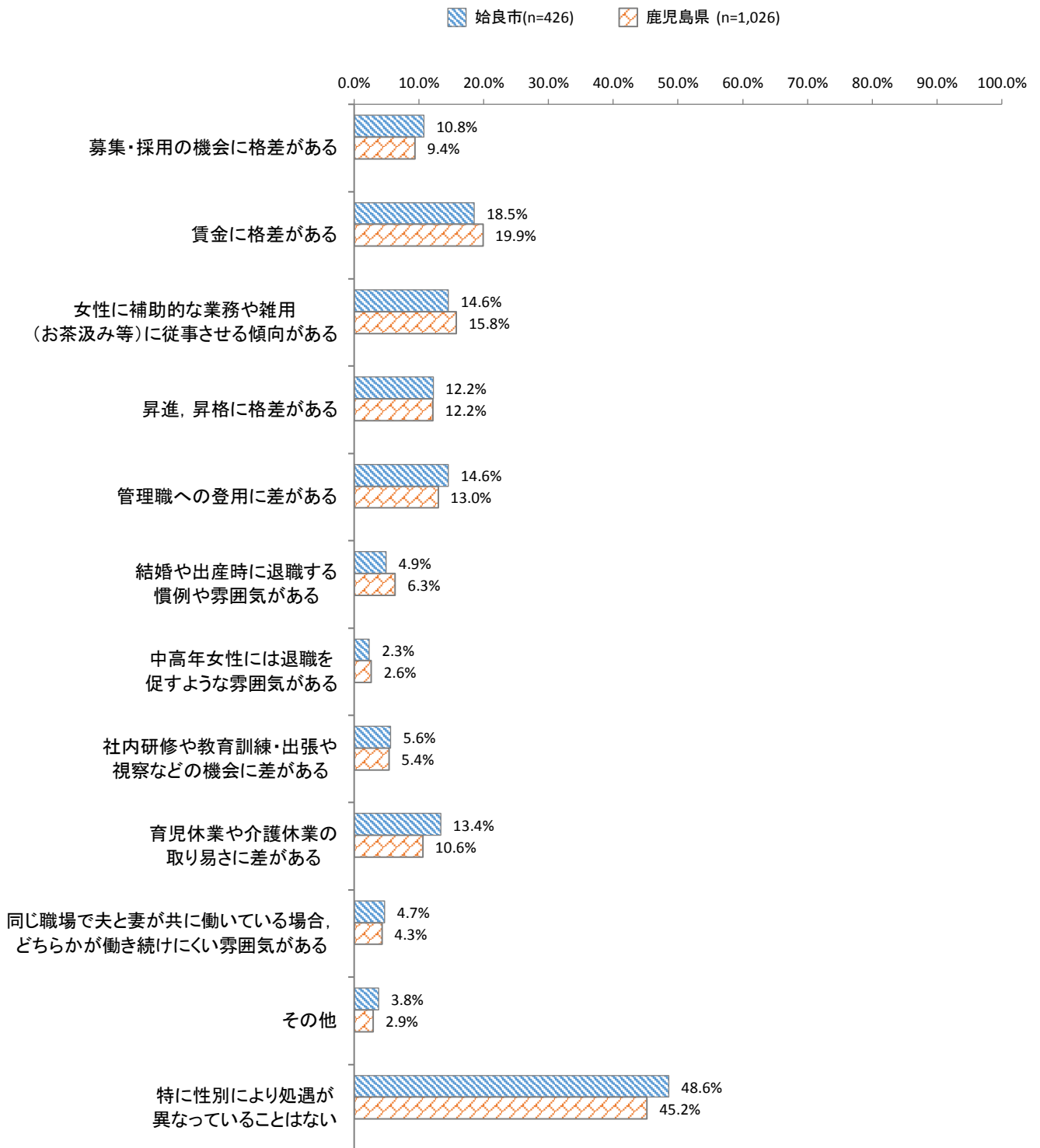
【問5で 雇用者「7」又は「8」と回答された方へお尋ねします。】

問5-2 あなたの職場では、性別によって処遇が異なりますか。次の1～12の中からいくつでもお選びください。(複数回答)

職場における性別による処遇の違いについて、「特に性別により処遇が異なっていることはない」(48.6%)の割合が最も高く、次いで「賃金に格差がある」(18.5%)、「女性に補助的な業務や雑用(お茶汲み等)に従事させる傾向がある」(14.6%)となっている。

鹿児島県と比較すると「育児休業や介護休業の取り易さに差がある」とした割合が、2.8ポイント、「特に性別により処遇が異なっていることはない」と回答した割合が3.4ポイント、始良市のほうが高い。

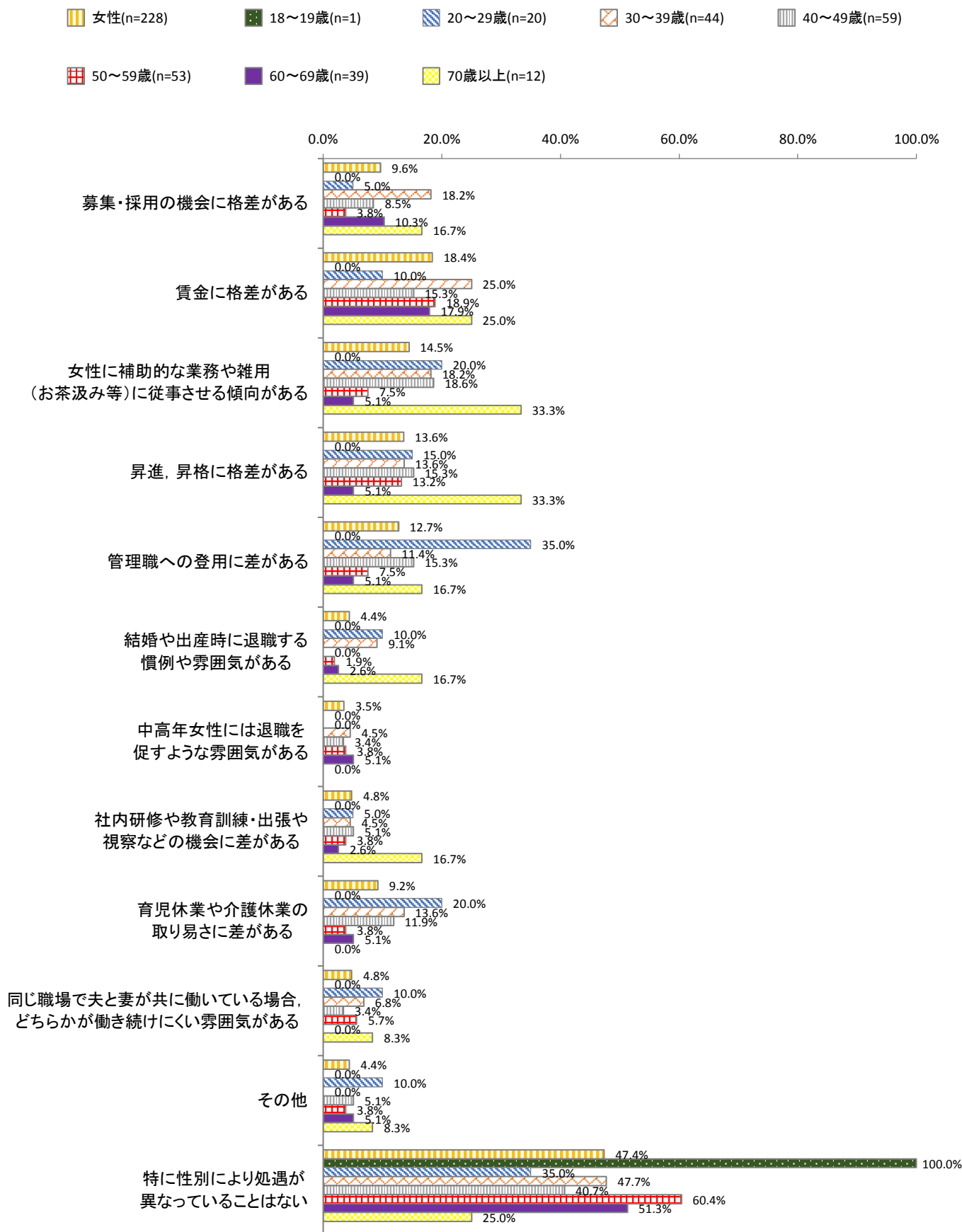
【職場での性別による処遇(県比較)】



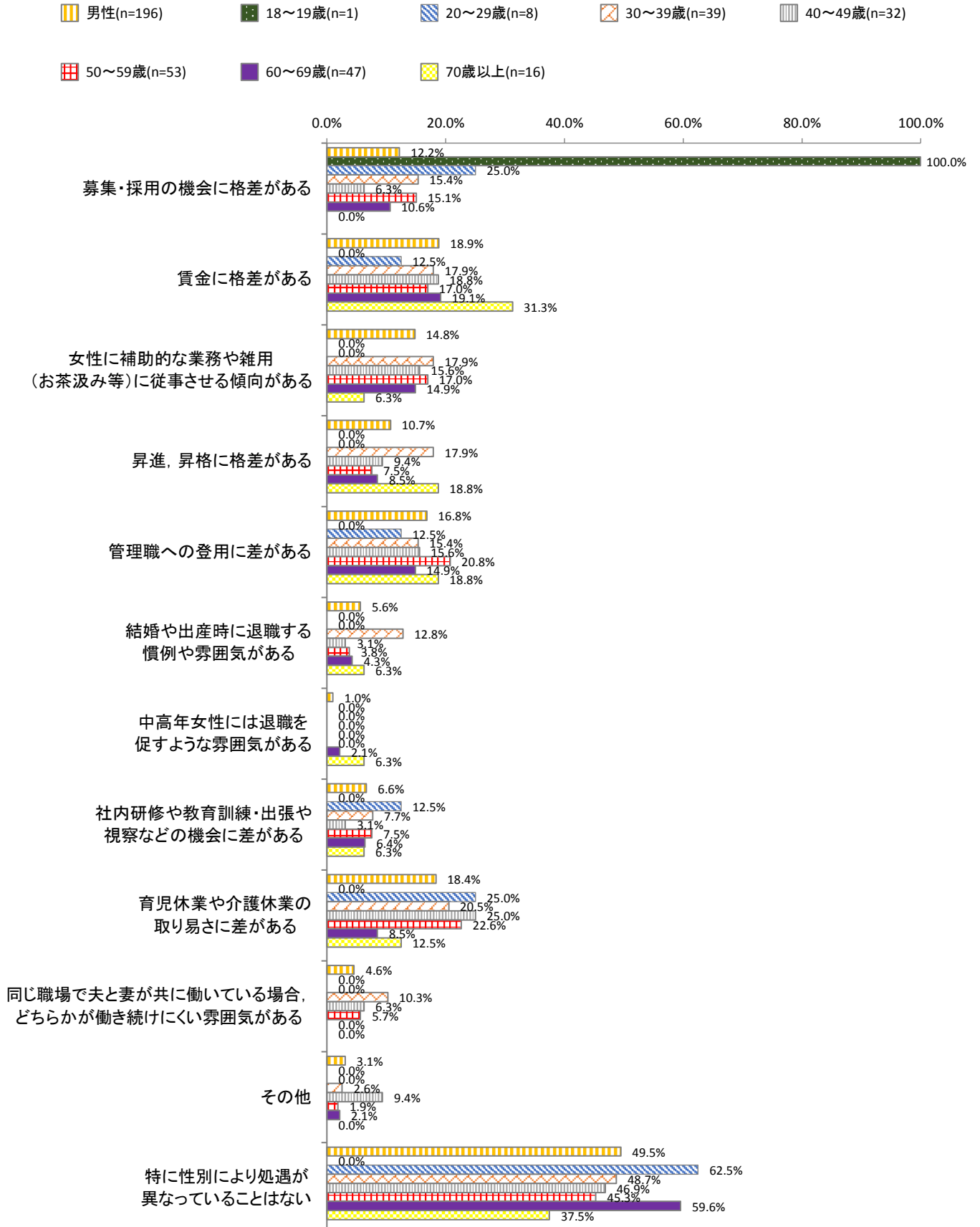
性別で見ると、女性（47.4%）・男性（49.5%）ともに「特に性別により処遇が異なっていることはない」が最も高くなっている。

性別・年代別で見ると、女性・男性ともに70歳以上において、「特に性別により処遇が異なっていることはない」の割合が、他の年代と比較して低くなっている。

【職場での性別による処遇(女性・年代別比較)】



【職場での性別による処遇(男性・年代別比較)】



	募集・採用の機会に格差がある	賃金に格差がある	女性に補助的な業務や雑用（お茶汲み等）に従事させる傾向がある	昇進・昇格に格差がある	管理職への登用に差がある	結婚や出産時に退職する慣例や雰囲気がある	中高年女性には退職を促すような雰囲気がある	社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある	育児休業や介護休業の取り易さに差がある	同じ職場で夫と妻が共に働いている場合、どちらかが働き続けにくい雰囲気がある	その他	特に性別により処遇が異なっていることはない
始良市(n=426)	46 10.8%	79 18.5%	47 14.6%	52 12.2%	62 14.6%	21 4.9%	10 2.3%	24 5.6%	57 13.4%	20 4.7%	16 3.8%	207 48.6%
鹿児島県 (n=1,026)	96 9.4%	204 19.9%	162 15.8%	125 12.2%	133 13.0%	65 6.3%	27 2.6%	55 5.4%	109 10.6%	44 4.3%	30 2.9%	464 45.2%
女性(n=228)	22 9.6%	42 18.4%	33 14.5%	31 13.6%	29 12.7%	10 4.4%	8 3.5%	11 4.8%	21 9.2%	11 4.8%	10 4.4%	108 47.4%
18～19歳(n=1)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
20～29歳(n=20)	1 5.0%	2 10.0%	4 20.0%	3 15.0%	7 35.0%	2 10.0%	0 0.0%	1 5.0%	4 20.0%	2 10.0%	2 10.0%	7 35.0%
30～39歳(n=44)	8 18.2%	11 25.0%	8 18.2%	6 13.6%	5 11.4%	4 9.1%	2 4.5%	2 4.5%	6 13.6%	3 6.8%	0 0.0%	21 47.7%
40～49歳(n=59)	5 8.5%	9 15.3%	11 18.6%	9 15.3%	9 15.3%	0 0.0%	2 3.4%	3 5.1%	7 11.9%	2 3.4%	3 5.1%	24 40.7%
50～59歳(n=53)	2 3.8%	10 18.9%	4 7.5%	7 13.2%	4 7.5%	1 1.9%	2 3.8%	2 3.8%	2 3.8%	3 5.7%	2 3.8%	32 60.4%
60～69歳(n=39)	4 10.3%	7 17.9%	2 5.1%	2 5.1%	2 5.1%	1 2.6%	2 5.1%	1 2.6%	2 5.1%	0 0.0%	2 5.1%	20 51.3%
70歳以上(n=12)	2 16.7%	3 25.0%	4 33.3%	4 33.3%	2 16.7%	2 16.7%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	1 8.3%	1 8.3%	3 25.0%
男性(n=196)	24 12.2%	37 18.9%	29 14.8%	21 10.7%	33 16.8%	11 5.6%	2 1.0%	13 6.6%	36 18.4%	9 4.6%	6 3.1%	97 49.5%
18～19歳(n=1)	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=8)	2 25.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 62.5%
30～39歳(n=39)	6 15.4%	7 17.9%	7 17.9%	7 17.9%	6 15.4%	5 12.8%	0 0.0%	3 7.7%	8 20.5%	4 10.3%	1 2.6%	19 48.7%
40～49歳(n=32)	2 6.3%	6 18.8%	5 15.6%	3 9.4%	5 15.6%	1 3.1%	0 0.0%	1 3.1%	8 25.0%	2 6.3%	3 9.4%	15 46.9%
50～59歳(n=53)	8 15.1%	9 17.0%	9 17.0%	4 7.5%	11 20.8%	2 3.8%	0 0.0%	4 7.5%	12 22.6%	3 5.7%	1 1.9%	24 45.3%
60～69歳(n=47)	5 10.6%	9 19.1%	7 14.9%	4 8.5%	7 14.9%	2 4.3%	1 2.1%	3 6.4%	4 8.5%	0 0.0%	1 2.1%	28 59.6%
70歳以上(n=16)	0 0.0%	5 31.3%	1 6.3%	3 18.8%	3 18.8%	1 6.3%	1 6.3%	1 6.3%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	6 37.5%

0.0% 上位1位

※主なその他回答

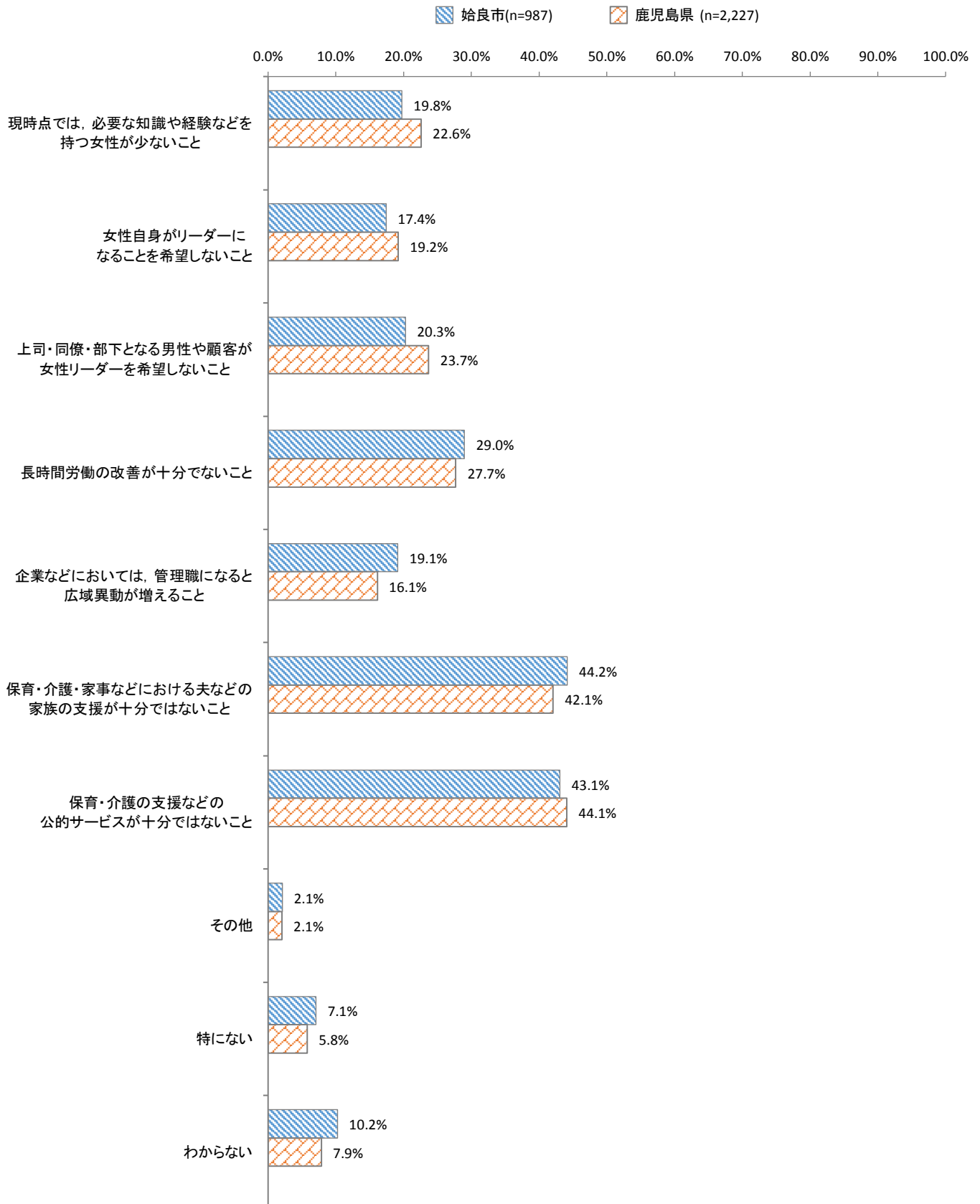
- 保育園の迎え等、あまり良い気はされない。時間調整が難しい。
- 夫婦で市役所に勤めるのは辞めるべき。
- どうしても力仕事は男性と言うように、内容によっては分別されることがある。仕方ない。
- 残業をしても賃金をださないような仕組みになっている。残業は1時間を過ぎてからしかつかない。ほぼ毎日定時は過ぎることが多い。
- 女性だけの職場なので男女差はないが、未婚と既婚での差があるように感じる。
- 女性が家庭中心で仕事内容の拡大や昇格を嫌う。
- 年齢的採用もないので。
- 体力的、時間的に女性では厳しい。
- 上司の言うことは絶対的な雰囲気がある。
- 男女の差をなくすような取り組みがあるが実際はうまくいかない
- 担っている仕事内容が違うので比較しにくい

問6 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いませんか。次の1～10の中からいくつでもお選びください。（複数回答）

女性リーダーに障害となるものについて、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」（44.2%）の割合が最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」（43.1%）、となっている。

鹿児島県と比較して、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」と回答した割合が2.1ポイント始良市のほうが、高くなっている。

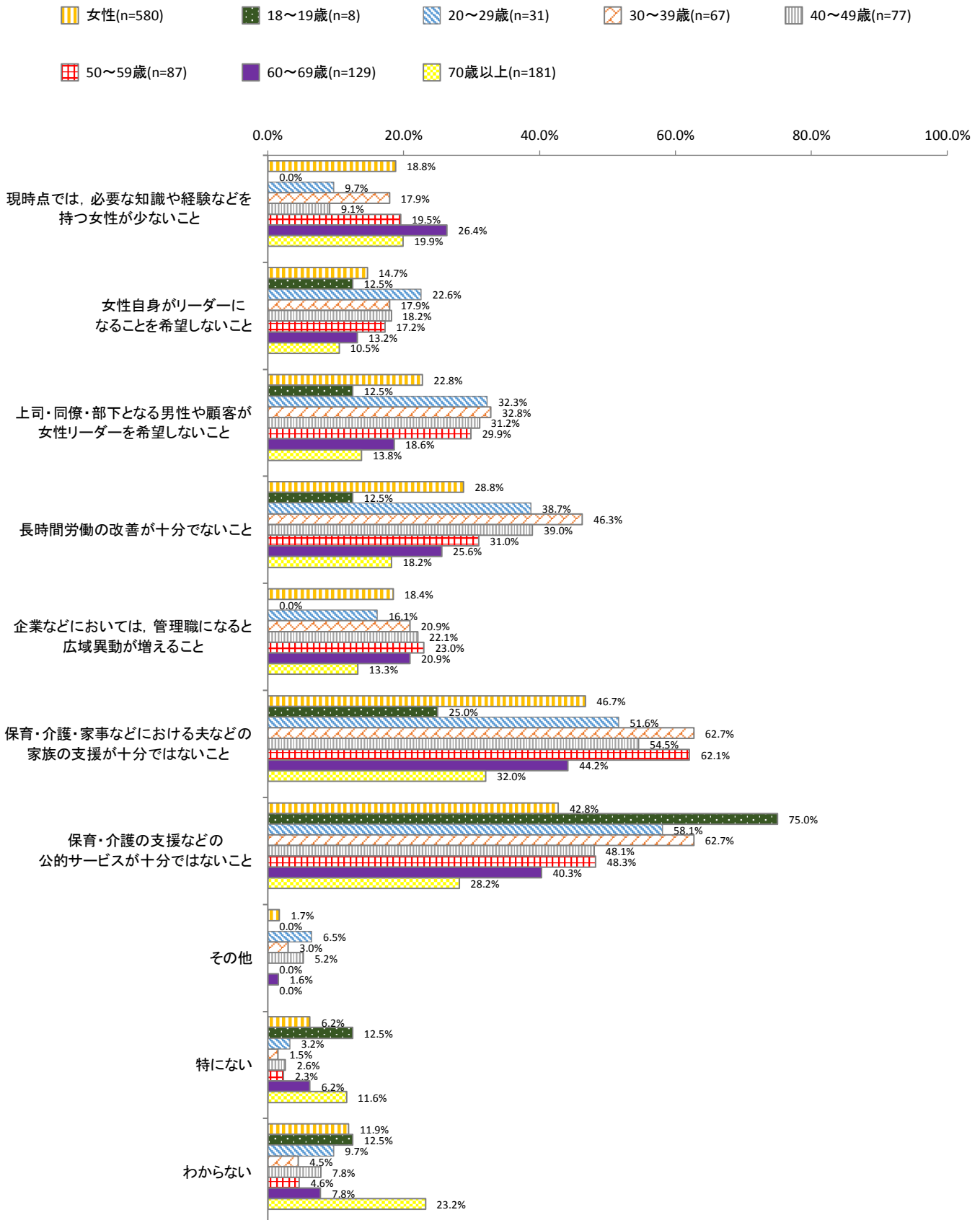
【女性リーダーに障害となるもの(県比較)】



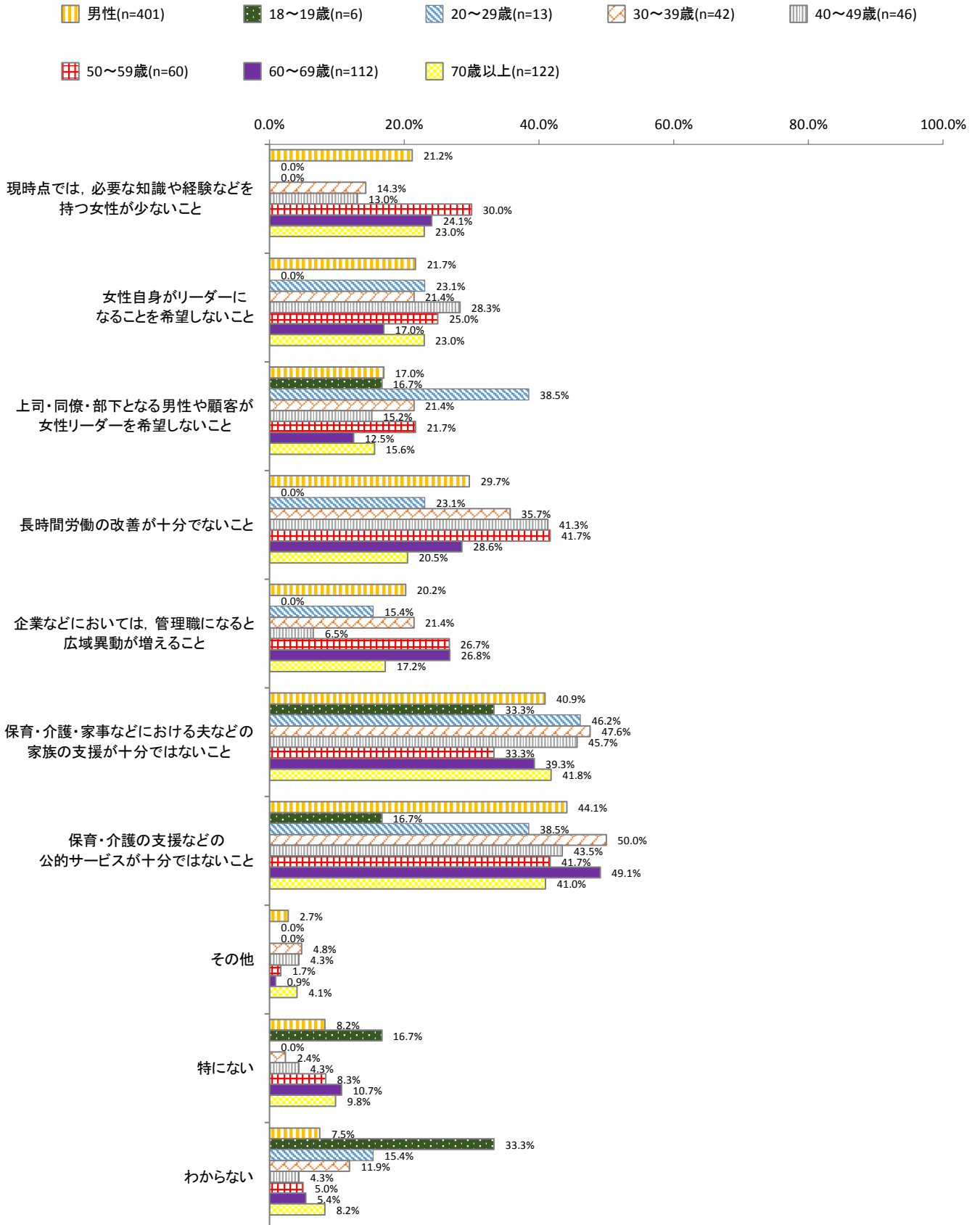
性別でみると、女性では「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(46.7%)、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(42.8%)、男性では「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(44.1%)、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(40.9%)がそれぞれ上位となっている。

性別・年代別でみると、女性・男性ともに全ての年代で「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」の割合が高くなっている。

【女性リーダーに障害となるもの(女性別・年代別比較)】



【女性リーダーに障害となるもの(男性別・年代別比較)】



	現時点では、必要な知識や経験などを 持つ女性が少ないこと	女性自身がリーダーになることを 希望しないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が 女性リーダーを希望しないこと	長時間労働の改善が十分でないこと	企業などにおいては、管理職になると 広域異動が増えること	保育・介護・家事などにおける夫などの 家族の支援が十分ではないこと	保育・介護の支援などの公的サービスが 十分ではないこと	その他	特になし	わからない
始良市(n=987)	195 19.8%	172 17.4%	47 20.3%	286 29.0%	189 19.1%	436 44.2%	425 43.1%	21 2.1%	70 7.1%	101 10.2%
鹿児島県 (n=2,227)	503 22.6%	428 19.2%	528 23.7%	617 27.7%	359 16.1%	937 42.1%	982 44.1%	46 2.1%	129 5.8%	176 7.9%
女性(n=580)	109 18.8%	85 14.7%	132 22.8%	167 28.8%	107 18.4%	271 46.7%	248 42.8%	10 1.7%	36 6.2%	69 11.9%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	2 25.0%	6 75.0%	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%
20～29歳(n=31)	3 9.7%	7 22.6%	10 32.3%	12 38.7%	5 16.1%	16 51.6%	18 58.1%	2 6.5%	1 3.2%	3 9.7%
30～39歳(n=67)	12 17.9%	12 17.9%	22 32.8%	31 46.3%	14 20.9%	42 62.7%	42 62.7%	2 3.0%	1 1.5%	3 4.5%
40～49歳(n=77)	7 9.1%	14 18.2%	24 31.2%	30 39.0%	17 22.1%	42 54.5%	37 48.1%	4 5.2%	2 2.6%	6 7.8%
50～59歳(n=87)	17 19.5%	15 17.2%	26 29.9%	27 31.0%	20 23.0%	54 62.1%	42 48.3%	0 0.0%	2 2.3%	4 4.6%
60～69歳(n=129)	34 26.4%	17 13.2%	24 18.6%	33 25.6%	27 20.9%	57 44.2%	52 40.3%	2 1.6%	8 6.2%	10 7.8%
70歳以上(n=181)	36 19.9%	19 10.5%	25 13.8%	33 18.2%	24 13.3%	58 32.0%	51 28.2%	0 0.0%	21 11.6%	42 23.2%
男性(n=401)	85 21.2%	87 21.7%	68 17.0%	119 29.7%	81 20.2%	164 40.9%	177 44.1%	11 2.7%	33 8.2%	30 7.5%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	2 33.3%
20～29歳(n=13)	0 0.0%	3 23.1%	5 38.5%	3 23.1%	2 15.4%	6 46.2%	5 38.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%
30～39歳(n=42)	6 14.3%	9 21.4%	9 21.4%	15 35.7%	9 21.4%	20 47.6%	21 50.0%	2 4.8%	1 2.4%	5 11.9%
40～49歳(n=46)	6 13.0%	13 28.3%	7 15.2%	19 41.3%	3 6.5%	21 45.7%	20 43.5%	2 4.3%	2 4.3%	2 4.3%
50～59歳(n=60)	18 30.0%	15 25.0%	13 21.7%	25 41.7%	16 26.7%	20 33.3%	25 41.7%	1 1.7%	5 8.3%	3 5.0%
60～69歳(n=112)	27 24.1%	19 17.0%	14 12.5%	32 28.6%	30 26.8%	44 39.3%	55 49.1%	1 0.9%	12 10.7%	6 5.4%
70歳以上(n=122)	28 23.0%	28 23.0%	19 15.6%	25 20.5%	21 17.2%	51 41.8%	50 41.0%	5 4.1%	12 9.8%	10 8.2%

0.0% 上位1位

※主なその他回答

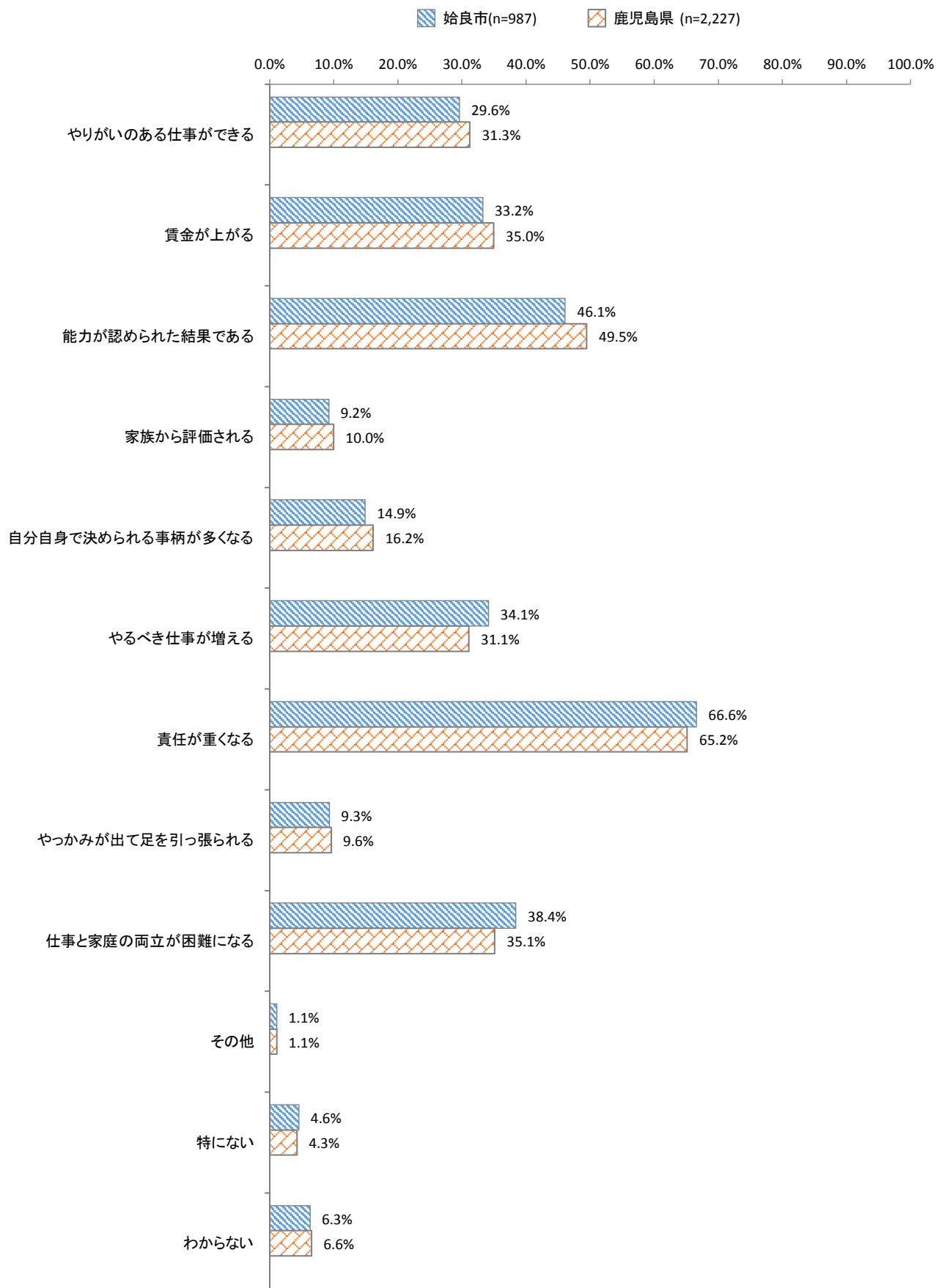
- 子供は女性が見るもの。と言う考え方。(会社、地域)個人経営が多い地域である為、隔たりが多い。男尊女卑。何も進化していない。
- 意欲と能力に任せるべきで制度の問題ではない
- 女性は基本的になめられやすい
- 保育や家事に安心して仕事出来る体制が今だに不備
- 結婚・出産は女性にとっていい面も悪い面も両方あると考えると負担が大きい。その負担が女性よりも男性はない分だけ有利であると思う。
- 能力が足りないのに「女性」というだけで登用される人間が悪評の根源です。
- 育児や家事を主に女性が担っていること。今の社会では多分どう変わっても両立はできないと思うので、ベビーシッターや主夫をすればいい。公的サービスが十分になっても病気や緊急事態のとき最後のトリドとなる(女性が)そんな状況では不可能だと思います。
- 会社の風土で男性の育休が取りにくかったり、営業マンであれば携帯電話によって休日でも仕事せざる負えないことで女性(妻)は十分に仕事ができないと思う。
- 育児休暇の積極的な活用、職場復帰への支援システム、在宅ワークなどの制度化：整備。

問7 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。次の1～12の中からいくつでもお選びください。（複数回答）

昇進することのイメージについて、「責任が重くなる」(66.6%)の割合が最も高く、次いで「能力が認められた結果である」(46.1%)、「仕事と家庭の両立が困難になる」(38.4%)となっている。

鹿児島県と比較して、大きな差はみられなかった。

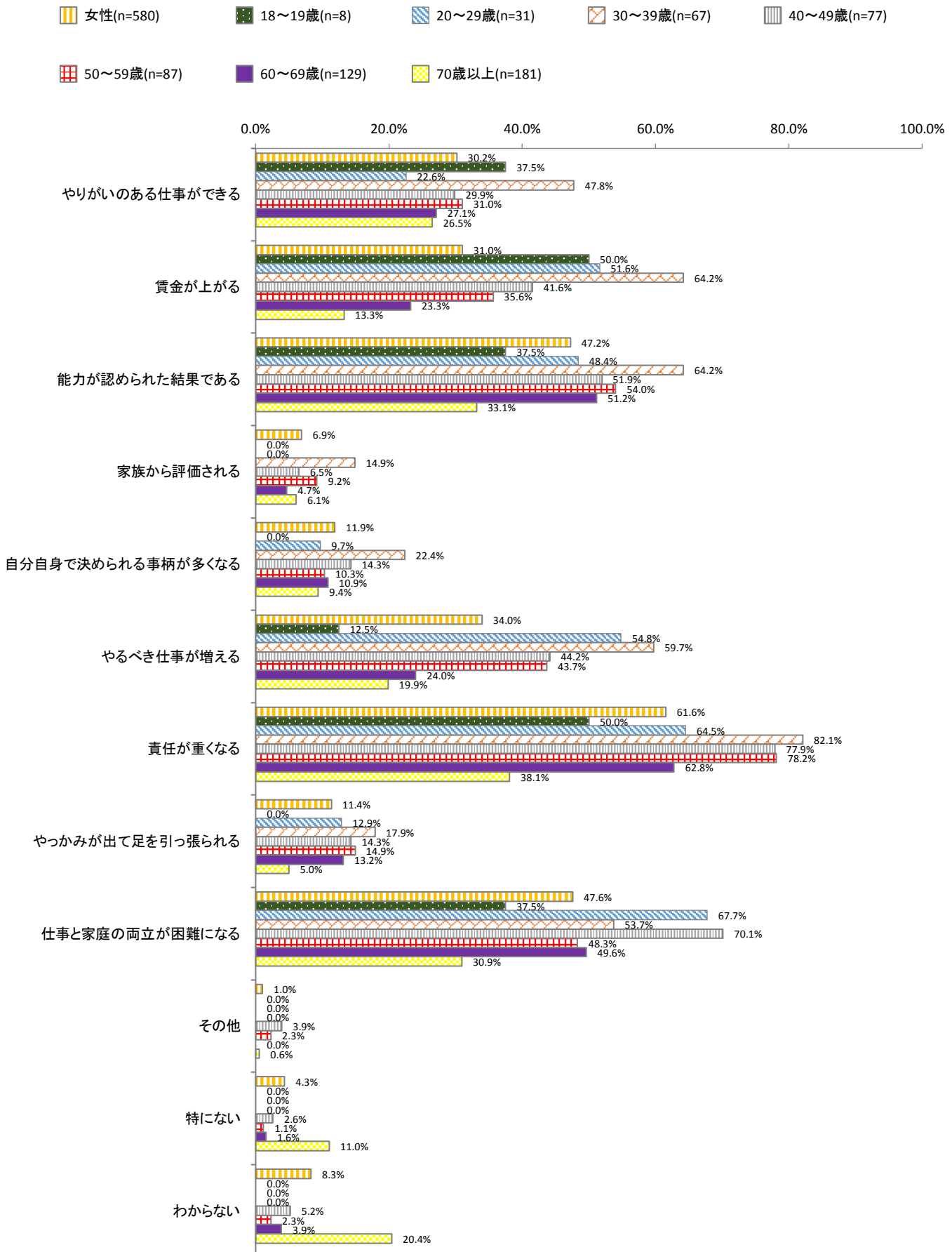
【管理職以上に昇進することについてのイメージ(県比較)】



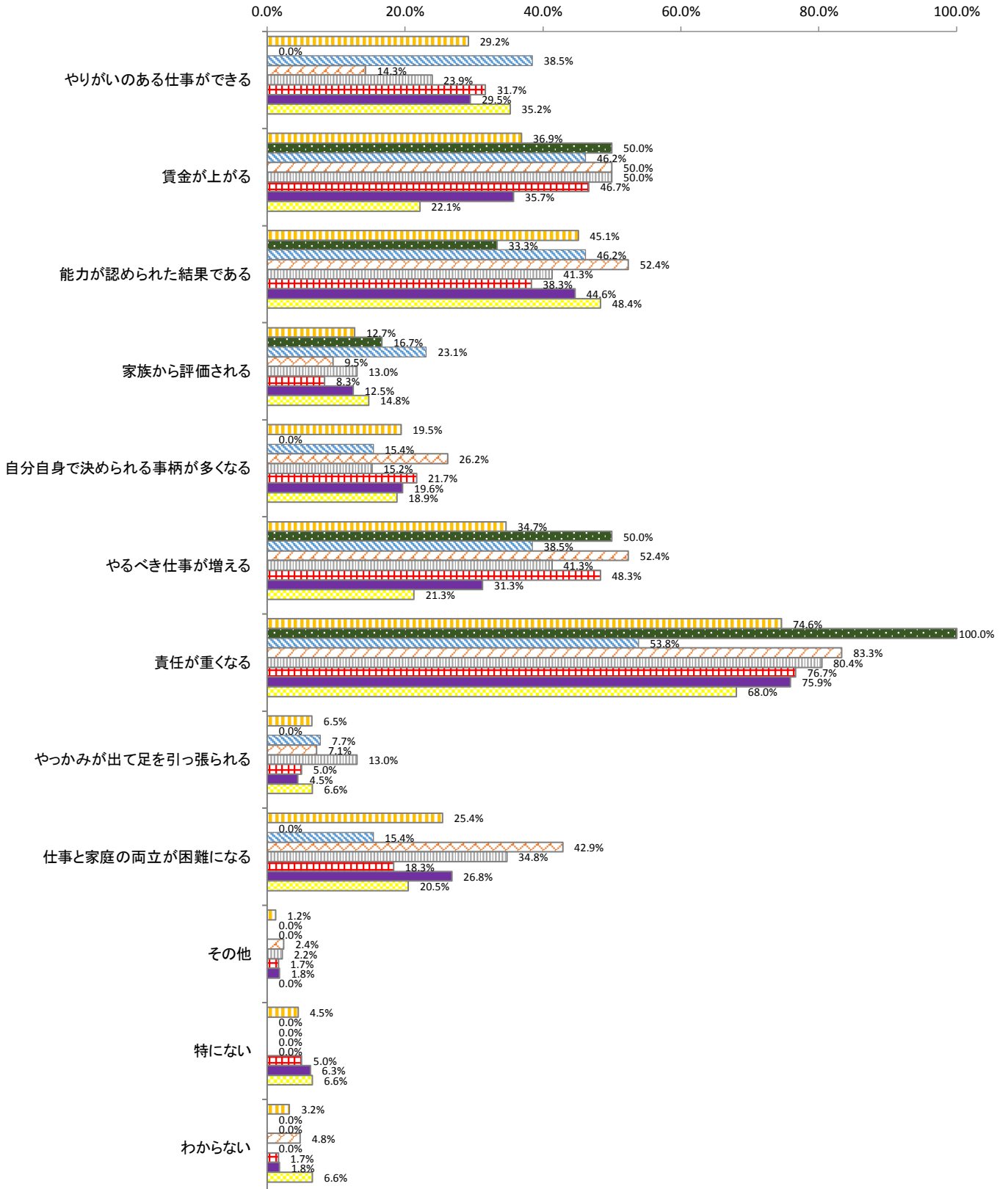
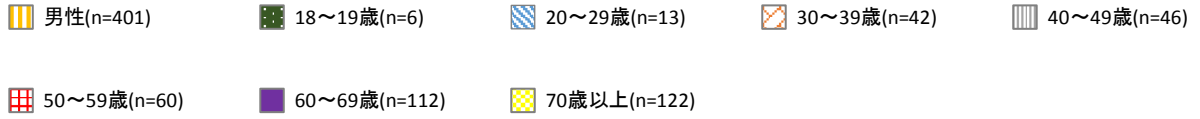
性別で見ると、女性(61.6%)・男性(74.6%)ともに「責任が重くなる」の割合が最も高くなっている。また、女性では「仕事と家庭の両立が困難になる」と回答した割合が、男性より22.2ポイントと大きく上回っている。

性別・年代別で見ると、女性の20歳代では「仕事と家庭の両立が困難になる」の割合が最も高くなっているが、その他の年代では「責任が重くなる」の割合が最も高くなっている。

【管理職以上に昇進することについてのイメージ(女性・年代別比較)】



【管理職以上に昇進することについてのイメージ(男性・年代別比較)】



	やりがいのある仕事ができる	賃金上がる	能力が認められた結果である	家族から評価される	自分自身で決められる事柄が多くなる	やるべき仕事が増える	責任が重くなる	やっかみが出て足を引っ張られる	仕事と家庭の両立が困難になる	その他	特にない	わからない
始良市(n=987)	292 29.6%	328 33.2%	47 46.1%	91 9.2%	147 14.9%	337 34.1%	657 66.6%	92 9.3%	379 38.4%	11 1.1%	45 4.6%	62 6.3%
鹿児島県 (n=2,227)	696 31.3%	779 35.0%	1,102 49.5%	222 10.0%	360 16.2%	692 31.1%	1,451 65.2%	214 9.6%	782 35.1%	25 1.1%	95 4.3%	146 6.6%
女性(n=580)	175 30.2%	180 31.0%	274 47.2%	40 6.9%	69 11.9%	197 34.0%	357 61.6%	66 11.4%	276 47.6%	6 1.0%	25 4.3%	48 8.3%
18～19歳(n=8)	3 37.5%	4 50.0%	3 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	4 50.0%	0 0.0%	3 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	7 22.6%	16 51.6%	15 48.4%	0 0.0%	3 9.7%	17 54.8%	20 64.5%	4 12.9%	21 67.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	32 47.8%	43 64.2%	43 64.2%	10 14.9%	15 22.4%	40 59.7%	55 82.1%	12 17.9%	36 53.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
40～49歳(n=77)	23 29.9%	32 41.6%	40 51.9%	5 6.5%	11 14.3%	34 44.2%	60 77.9%	11 14.3%	54 70.1%	3 3.9%	2 2.6%	4 5.2%
50～59歳(n=87)	27 31.0%	31 35.6%	47 54.0%	8 9.2%	9 10.3%	38 43.7%	68 78.2%	13 14.9%	42 48.3%	2 2.3%	1 1.1%	2 2.3%
60～69歳(n=129)	35 27.1%	30 23.3%	66 51.2%	6 4.7%	14 10.9%	31 24.0%	81 62.8%	17 13.2%	64 49.6%	0 0.0%	2 1.6%	5 3.9%
70歳以上(n=181)	48 26.5%	24 13.3%	60 33.1%	11 6.1%	17 9.4%	36 19.9%	69 38.1%	9 5.0%	56 30.9%	1 0.6%	20 11.0%	37 20.4%
男性(n=401)	117 29.2%	148 36.9%	181 45.1%	51 12.7%	78 19.5%	139 34.7%	299 74.6%	26 6.5%	102 25.4%	5 1.2%	18 4.5%	13 3.2%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	3 50.0%	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	5 38.5%	6 46.2%	6 46.2%	3 23.1%	2 15.4%	5 38.5%	7 53.8%	1 7.7%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	6 14.3%	21 50.0%	22 52.4%	4 9.5%	11 26.2%	22 52.4%	35 83.3%	3 7.1%	18 42.9%	1 2.4%	0 0.0%	2 4.8%
40～49歳(n=46)	11 23.9%	23 50.0%	19 41.3%	6 13.0%	7 15.2%	19 41.3%	37 80.4%	6 13.0%	16 34.8%	1 2.2%	0 0.0%	0 0.0%
50～59歳(n=60)	19 31.7%	28 46.7%	23 38.3%	5 8.3%	13 21.7%	29 48.3%	46 76.7%	3 5.0%	11 18.3%	1 1.7%	3 5.0%	1 1.7%
60～69歳(n=112)	33 29.5%	40 35.7%	50 44.6%	14 12.5%	22 19.6%	35 31.3%	85 75.9%	5 4.5%	30 26.8%	2 1.8%	7 6.3%	2 1.8%
70歳以上(n=122)	43 35.2%	27 22.1%	59 48.4%	18 14.8%	23 18.9%	26 21.3%	83 68.0%	8 6.6%	25 20.5%	0 0.0%	8 6.6%	8 6.6%

0.0% 上位1位

※主なその他回答

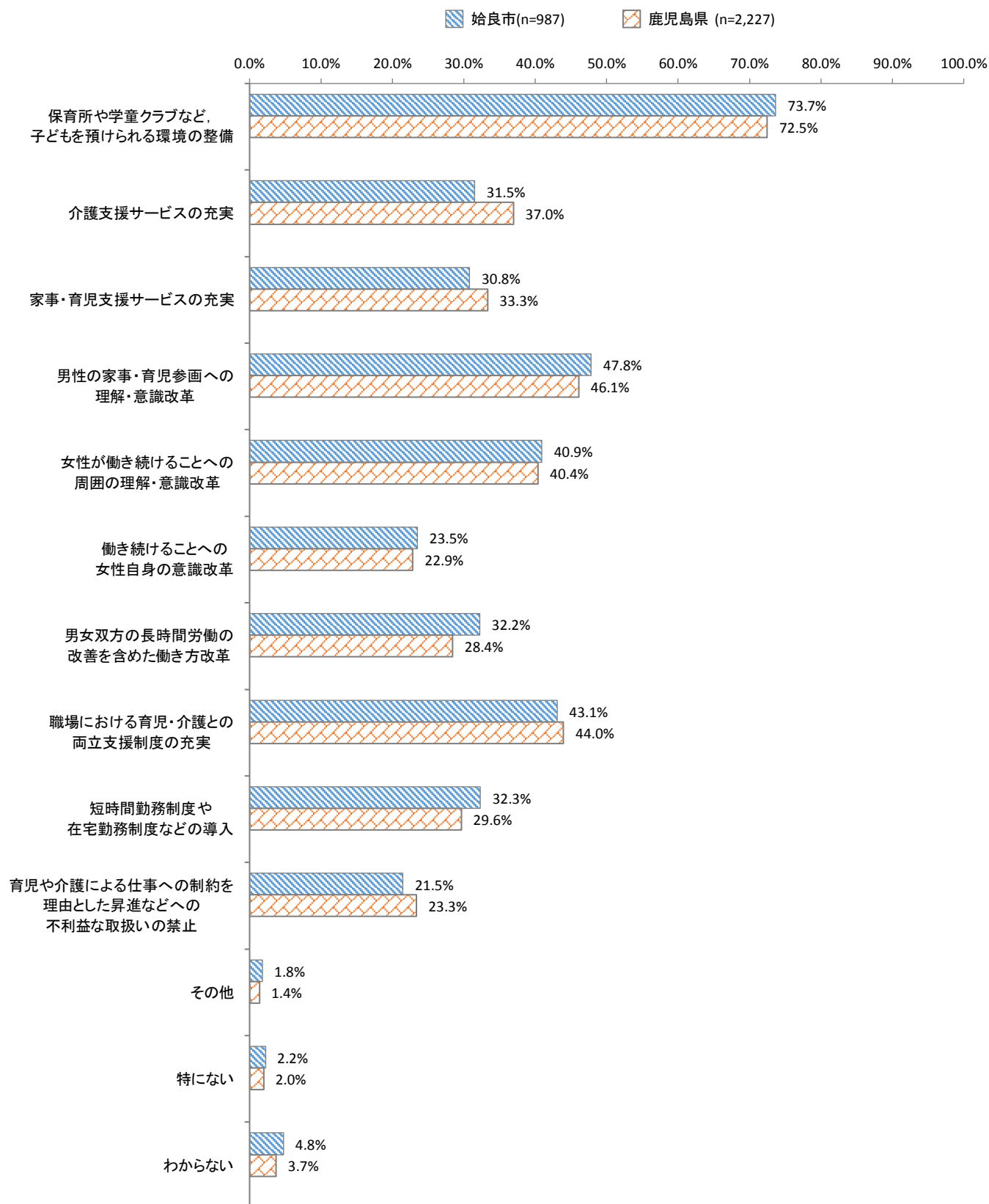
- 部下との関わりや立場の違いでちょっと難しくなる。
- 何にも変化なし。人件費はコスト、管理職が一番コストが安い。
- 能力なくても世渡り上手な方もいらっしゃいますが。
- それまでに必要な、経験をしていない事
- いいことない様にしか思えない。
- 子どもがいる場合、子育てが放任になってしまう。
- 部下の模範となり、協力が得られる。リーダーシップを発揮する。
- 責任に見合うほど賃金が望めない。
- 女性同士のやっかみはとてきついです。
- 面倒

問8 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。次の1～13の中からいくつかでもお選びください。（複数回答）

女性が出産後も働き続けるために必要なことについて、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」(73.7%)の割合が最も高く、次いで「男性の家事・育児参画への理解・意識改革」(47.8%)、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(43.1%)となっている。

鹿児島県と比較して、「介護支援サービスの充実」において5ポイント以上低くなっている。

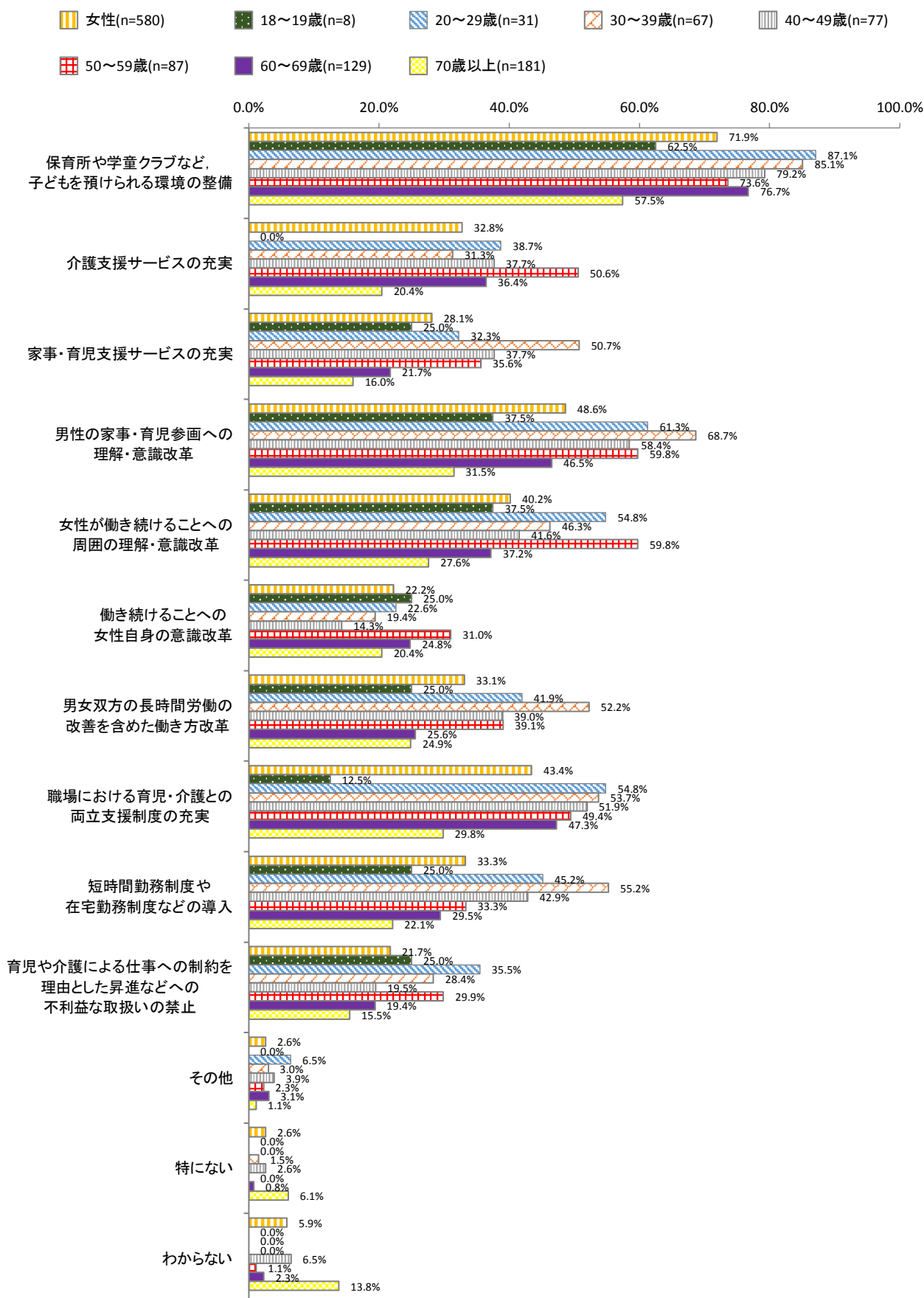
【出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと(県比較)】



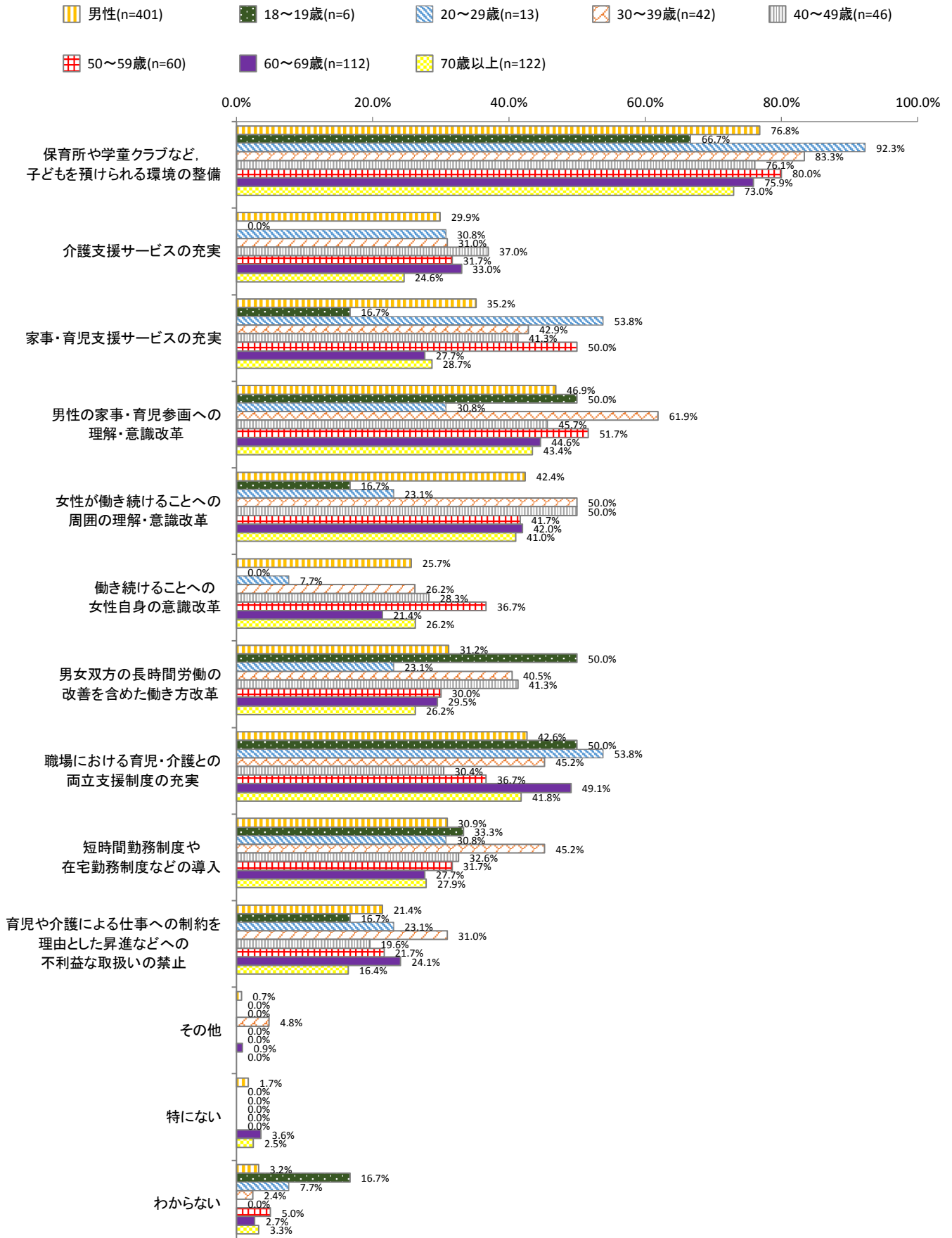
性別でみると、女性（71.9%）・男性（76.8%）ともに「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が最も高くなっている。

性別・年代別でみると、女性の20歳代から30歳代、男性の20歳代から30歳代および50歳代の8割が「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」と回答している。また、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」と回答した割合は、女性では年代が上がるにつれ、低い傾向にある。

【出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと(女性・年代別比較)】



【出産後も同じ職場で働き続けるために必要なこと(男性・年代別比較)】



	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事・育児参画への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	その他	特になし	わからない
始良市(H29)(n=987)	727 73.7%	311 31.5%	47 30.8%	472 47.8%	404 40.9%	232 23.5%	318 32.2%	425 43.1%	319 32.3%	212 21.5%	18 1.8%	22 2.2%	47 4.8%
鹿児島県(H28)(n=2,227)	1,614 72.5%	823 37.0%	742 33.3%	1,026 46.1%	899 40.4%	509 22.9%	633 28.4%	979 44.0%	660 29.6%	520 23.3%	31 1.4%	44 2.0%	83 3.7%
女性(n=580)	417 71.9%	190 32.8%	163 28.1%	282 48.6%	233 40.2%	129 22.2%	192 33.1%	252 43.4%	193 33.3%	126 21.7%	15 2.6%	15 2.6%	34 5.9%
18～19歳(n=8)	5 62.5%	0 0.0%	2 25.0%	3 37.5%	3 37.5%	2 25.0%	2 25.0%	1 12.5%	2 25.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	27 87.1%	12 38.7%	10 32.3%	19 61.3%	17 54.8%	7 22.6%	13 41.9%	17 54.8%	14 45.2%	11 35.5%	2 6.5%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	57 85.1%	21 31.3%	34 50.7%	46 68.7%	31 46.3%	13 19.4%	35 52.2%	36 53.7%	37 55.2%	19 28.4%	2 3.0%	1 1.5%	0 0.0%
40～49歳(n=77)	61 79.2%	29 37.7%	29 37.7%	45 58.4%	32 41.6%	11 14.3%	30 39.0%	40 51.9%	33 42.9%	15 19.5%	3 3.9%	2 2.6%	5 6.5%
50～59歳(n=87)	64 73.6%	44 50.6%	31 35.6%	52 59.8%	52 59.8%	27 31.0%	34 39.1%	43 49.4%	29 33.3%	26 29.9%	2 2.3%	0 0.0%	1 1.1%
60～69歳(n=129)	99 76.7%	47 36.4%	28 21.7%	60 46.5%	48 37.2%	32 24.8%	33 25.6%	61 47.3%	38 29.5%	25 19.4%	4 3.1%	1 0.8%	3 2.3%
70歳以上(n=181)	104 57.5%	37 20.4%	29 16.0%	57 31.5%	50 27.6%	37 20.4%	45 24.9%	54 29.8%	40 22.1%	28 15.5%	2 1.1%	11 6.1%	25 13.8%
男性(n=401)	308 76.8%	120 29.9%	141 35.2%	188 46.9%	170 42.4%	103 25.7%	125 31.2%	171 42.6%	124 30.9%	86 21.4%	3 0.7%	7 1.7%	13 3.2%
18～19歳(n=6)	4 66.7%	0 0.0%	1 16.7%	3 50.0%	1 16.7%	0 0.0%	3 50.0%	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%
20～29歳(n=13)	12 92.3%	4 30.8%	7 53.8%	4 30.8%	3 23.1%	1 7.7%	3 23.1%	7 53.8%	4 30.8%	3 23.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%
30～39歳(n=42)	35 83.3%	13 31.0%	18 42.9%	26 61.9%	21 50.0%	11 26.2%	17 40.5%	19 45.2%	19 45.2%	13 31.0%	2 4.8%	0 0.0%	1 2.4%
40～49歳(n=46)	35 76.1%	17 37.0%	19 41.3%	21 45.7%	23 50.0%	13 28.3%	19 41.3%	14 30.4%	15 32.6%	9 19.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
50～59歳(n=60)	48 80.0%	19 31.7%	30 50.0%	31 51.7%	25 41.7%	22 36.7%	18 30.0%	22 36.7%	19 31.7%	13 21.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.0%
60～69歳(n=112)	85 75.9%	37 33.0%	31 27.7%	50 44.6%	47 42.0%	24 21.4%	33 29.5%	55 49.1%	31 27.7%	27 24.1%	1 0.9%	4 3.6%	3 2.7%
70歳以上(n=122)	89 73.0%	30 24.6%	35 28.7%	53 43.4%	50 41.0%	32 26.2%	32 26.2%	51 41.8%	34 27.9%	20 16.4%	0 0.0%	3 2.5%	4 3.3%

0.0% 上位1位

※主なその他回答

- 育児、介護に関係なく、職場に迷惑をかけたり、学校等の事が疎かになったりしないように心掛ける精神力や体力を幼少期から身につける事。
- 生産性、生活、経営者次第。時間で拘束する事だけに頭がまわっている経営者がほとんど。残業代は払わない。私用時間は減給の考えがほとんど。
- 個人が周りに理解を得る努力やっぱり、急に休んでも権利だから当然ととされると・・・様々な働き方のパターン（短時間とか）
- 上下の人間関係。セクハラ・パワハラなど含む同僚間の人間関係の改善
- 男と女は体のつくりから違うので全てを平等にしようと思うこと自体がおかしい
- 基本的に子供が小学校を卒業する位までは女の人は主婦であることを望みます。期間があいても社会的にパートではなく正社員として迎えられることを望みます。
- 残業、出張の時の子供の事
- 子育てに専念する期間を作り数年後でも復帰できる環境（仕組）を作る。男でも女でも。
- 妊娠を上司が応援してくれる
- いくら保育所や託児所があっても収入が低ければ預けられない現実がある

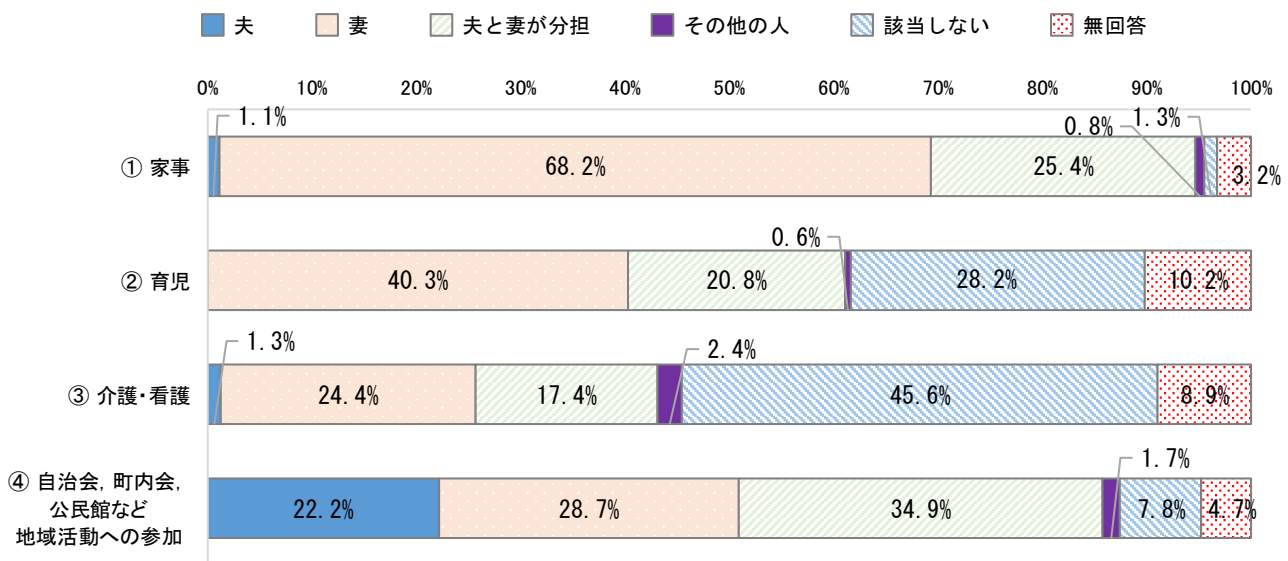
Ⅲ 家庭生活について

【F3で「1 結婚している」と回答された方にお尋ねします。それ以外の方は問11へお進みください。】

問9 あなたの家庭では、現在、次のような事柄を主に誰が行っていますか。①～④のそれぞれについて、右欄の1～5の中からあてはまる番号を1つずつお選びください。（育児と介護・看護については、現在該当しなくても、過去の経験があればそれをもとにお選びください。該当しない場合は、「5」をお選びください。）

家庭内の事柄を主に誰が行っているかについて、「家事」（68.2%）、「育児」（40.3%）、「介護・看護」（24.4%）において「妻」の割合が高くなっている。特に「家事」は「妻」の割合が約7割となっている。また、「自治会、町内会、公民館など地域活動への参加」においては、他の項目に比べ、「夫」の占める割合が高くなっている。

【主に行っている人】



※該当しない、無回答を除く。

	夫	妻	夫と妻が分担	その他の人	該当しない	無回答
① 家事	87 1.1%	8 68.2%	489 25.4%	182 0.8%	6 1.3%	9 3.2%
② 育児	88 0.0%	403 40.3%	289 20.8%	149 0.6%	282 28.2%	202 10.2%
③ 介護・看護	89 1.3%	9 24.4%	175 17.4%	125 2.4%	17 45.6%	327 8.9%
④ 自治会、町内会、 公民館など 地域活動への参加	90 22.2%	159 28.7%	206 34.9%	250 1.7%	12 7.8%	56 4.7%

0.0% 上位1位

①家事

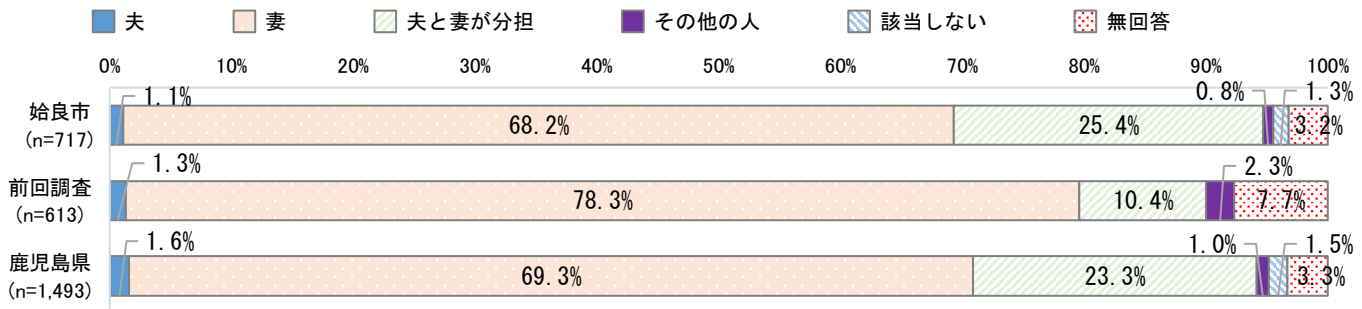
前回調査・鹿児島県との比較

家事について、「夫」が1.1%、「妻」が68.2%、「夫と妻が分担」が25.4%、「その他の人」が0.8%、「該当しない」が1.3%となっている。

前回調査と比較して、「妻」は10.1ポイント減少し、「夫と妻が分担」は15ポイント増加しているものの、未だ「妻」が多くを占めている。

鹿児島県と比較して、大きな差はみられなかった。

【家事(前回調査・県比較)】

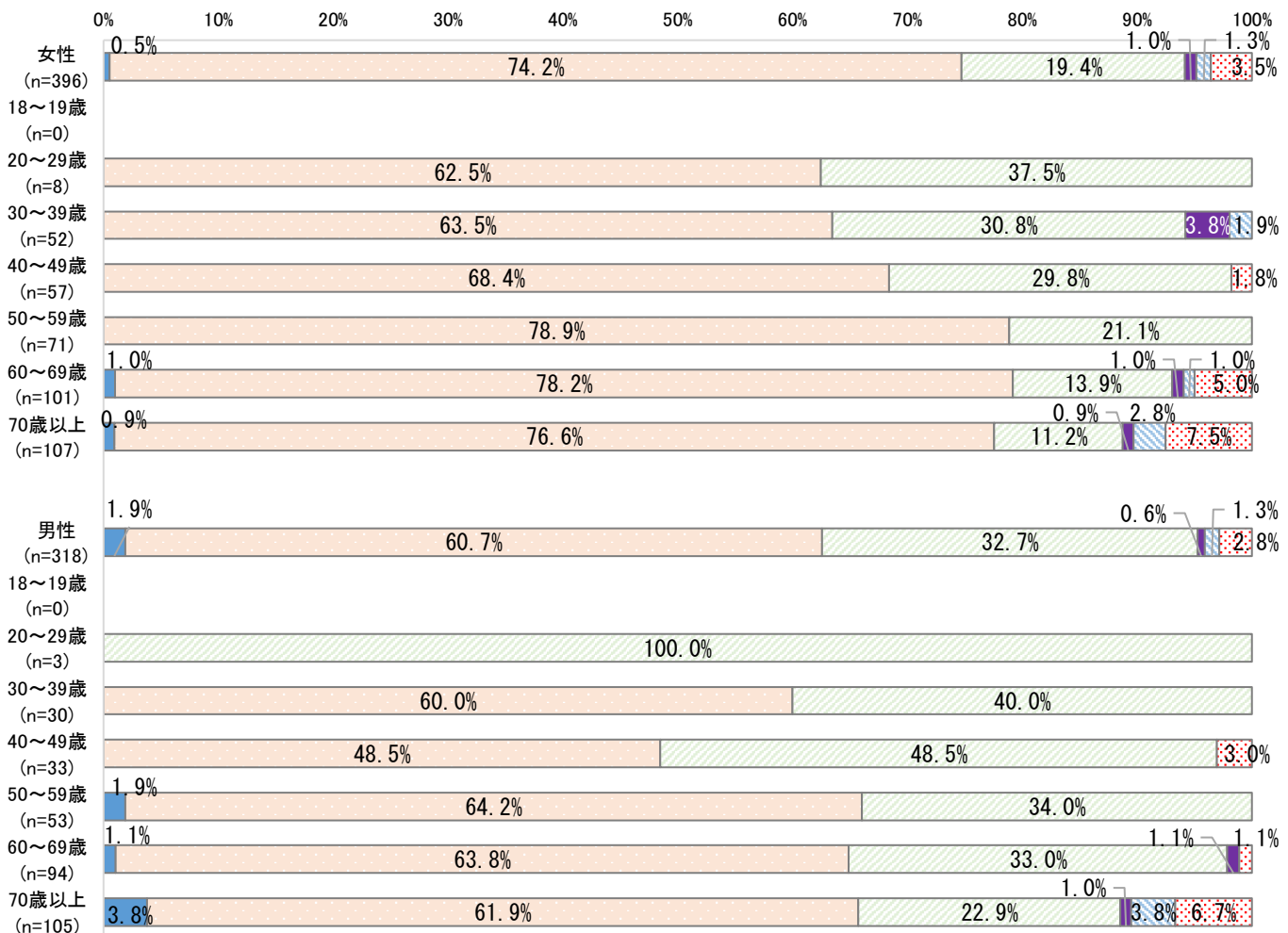


性別で見ると、「妻」の割合は、女性(74.2%)が男性(60.7%)を13.5ポイント上回っている。

性別・年代別で見ると、男性の40歳代の約半数が「夫と妻が分担」と回答しているのに対し、女性・男性ともに他の年代では「妻」が6割以上となっている。

※男性の20歳代については「夫と妻が分担」と回答した割合が100%だが、回答者が少ない(n=3)ため比較の対象外とした。

【家事(性別・年代別比較)】



	夫	妻	夫と妻が 分担	その他 の人	該当 しない	無 回 答
始良市(n=717)	8 1.1%	489 68.2%	182 25.4%	6 0.8%	9 1.3%	23 3.2%
前回調査(n=613)	8 1.3%	480 78.3%	64 10.4%	14 2.3%	0 0.0%	47 7.7%
鹿児島県(n=1,493)	24 1.6%	1,034 69.3%	348 23.3%	15 1.0%	23 1.5%	49 3.3%
女性(n=396)	2 0.5%	294 74.2%	77 19.4%	4 1.0%	5 1.3%	14 3.5%
18～19歳(n=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20～29歳(n=8)	0 0.0%	5 62.5%	3 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=52)	0 0.0%	33 63.5%	16 30.8%	2 3.8%	1 1.9%	0 0.0%
40～49歳(n=57)	0 0.0%	39 68.4%	17 29.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%
50～59歳(n=71)	0 0.0%	56 78.9%	15 21.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
60～69歳(n=101)	1 1.0%	79 78.2%	14 13.9%	1 1.0%	1 1.0%	5 5.0%
70歳以上(n=107)	1 0.9%	82 76.6%	12 11.2%	1 0.9%	3 2.8%	8 7.5%
男性(n=318)	6 1.9%	193 60.7%	104 32.7%	2 0.6%	4 1.3%	9 2.8%
18～19歳(n=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20～29歳(n=3)	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=30)	0 0.0%	18 60.0%	12 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
40～49歳(n=33)	0 0.0%	16 48.5%	16 48.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.0%
50～59歳(n=53)	1 1.9%	34 64.2%	18 34.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
60～69歳(n=94)	1 1.1%	60 63.8%	31 33.0%	1 1.1%	0 0.0%	1 1.1%
70歳以上(n=105)	4 3.8%	65 61.9%	24 22.9%	1 1.0%	4 3.8%	7 6.7%

0.0% 上位1位

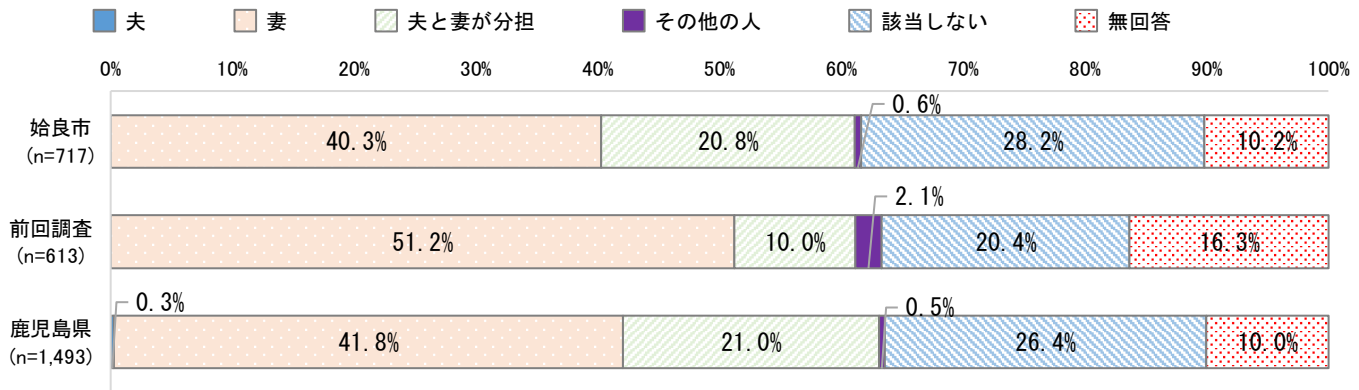
②育児

前回調査・鹿児島県との比較

育児について、「夫」が0.0%、「妻」が40.3%、「夫と妻が分担」が20.8%、「その他の人」が0.6%、「該当しない」が28.2%となっている。

前回調査と比較して、「妻」は10.9ポイント減少し、「夫と妻が分担」は10.8ポイント増加している。
鹿児島県と比較して、大きな差はみられなかった。

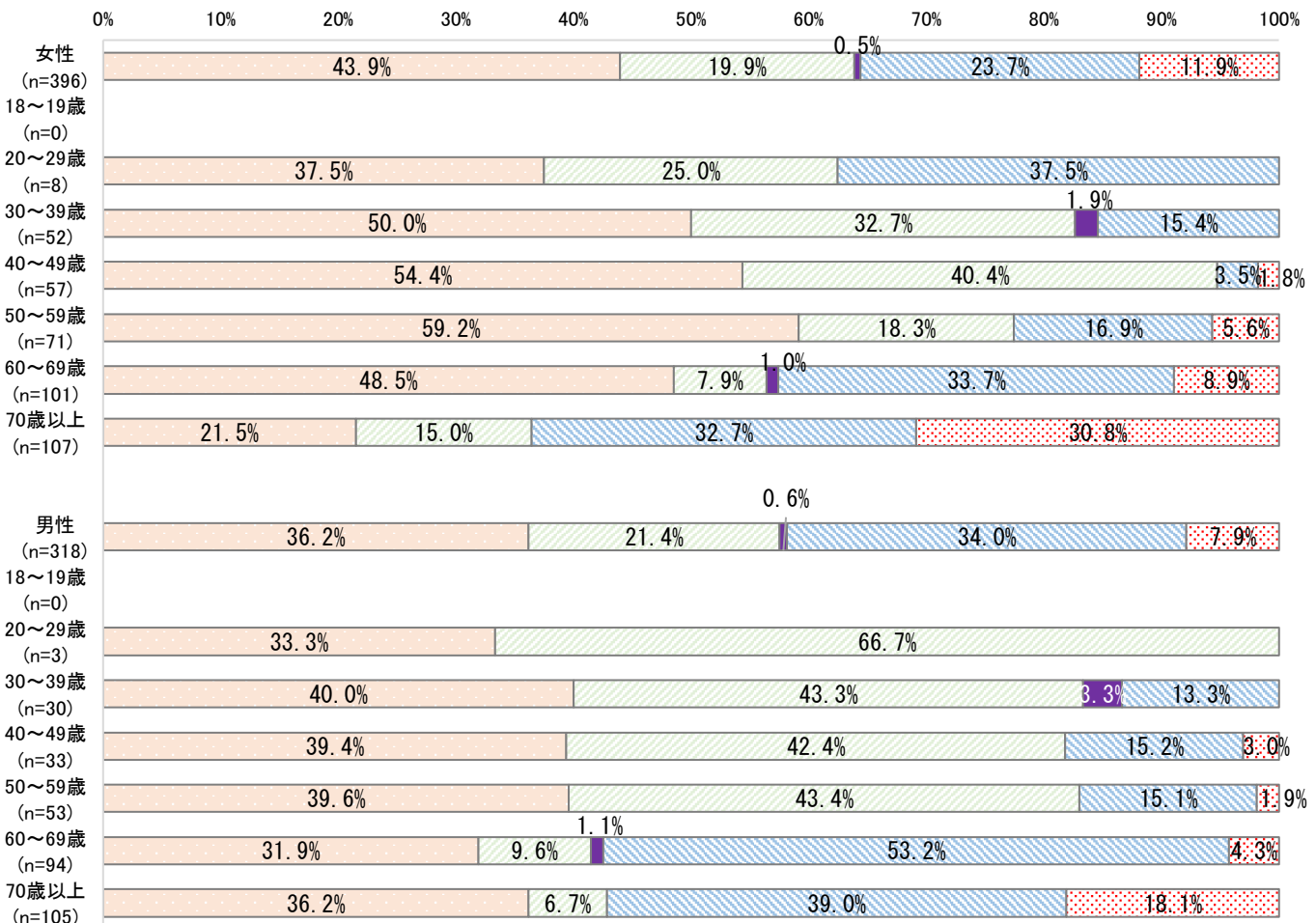
【育児(前回調査・県比較)】



性別でみると、「妻」の割合は、女性(43.9%)が男性(36.2%)を7.7ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、女性の70歳以上では「妻」と回答した割合は約2割となっており、他の年代と比較し低くなっている。

【育児(性別・年代別比較)】



	夫	妻	夫と妻が 分担	その他 の人	該当 しない	無 回 答
始良市(n=717)	0 0.0%	289 40.3%	149 20.8%	4 0.6%	202 28.2%	73 10.2%
前回調査(n=613)	0 0.0%	314 51.2%	61 10.0%	13 2.1%	125 20.4%	100 16.3%
鹿児島県(n=1,493)	4 0.3%	624 41.8%	314 21.0%	7 0.5%	394 26.4%	150 10.0%
女性(n=396)	0 0.0%	174 43.9%	79 19.9%	2 0.5%	94 23.7%	47 11.9%
18～19歳(n=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20～29歳(n=8)	0 0.0%	3 37.5%	2 25.0%	0 0.0%	3 37.5%	0 0.0%
30～39歳(n=52)	0 0.0%	26 50.0%	17 32.7%	1 1.9%	8 15.4%	0 0.0%
40～49歳(n=57)	0 0.0%	31 54.4%	23 40.4%	0 0.0%	2 3.5%	1 1.8%
50～59歳(n=71)	0 0.0%	42 59.2%	13 18.3%	0 0.0%	12 16.9%	4 5.6%
60～69歳(n=101)	0 0.0%	49 48.5%	8 7.9%	1 1.0%	34 33.7%	9 8.9%
70歳以上(n=107)	0 0.0%	23 21.5%	16 15.0%	0 0.0%	35 32.7%	33 30.8%
男性(n=318)	0 0.0%	115 36.2%	68 21.4%	2 0.6%	108 34.0%	25 7.9%
18～19歳(n=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20～29歳(n=3)	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=30)	0 0.0%	12 40.0%	13 43.3%	1 3.3%	4 13.3%	0 0.0%
40～49歳(n=33)	0 0.0%	13 39.4%	14 42.4%	0 0.0%	5 15.2%	1 3.0%
50～59歳(n=53)	0 0.0%	21 39.6%	23 43.4%	0 0.0%	8 15.1%	1 1.9%
60～69歳(n=94)	0 0.0%	30 31.9%	9 9.6%	1 1.1%	50 53.2%	4 4.3%
70歳以上(n=105)	0 0.0%	38 36.2%	7 6.7%	0 0.0%	41 39.0%	19 18.1%

0.0% 上位1位

③介護・看護

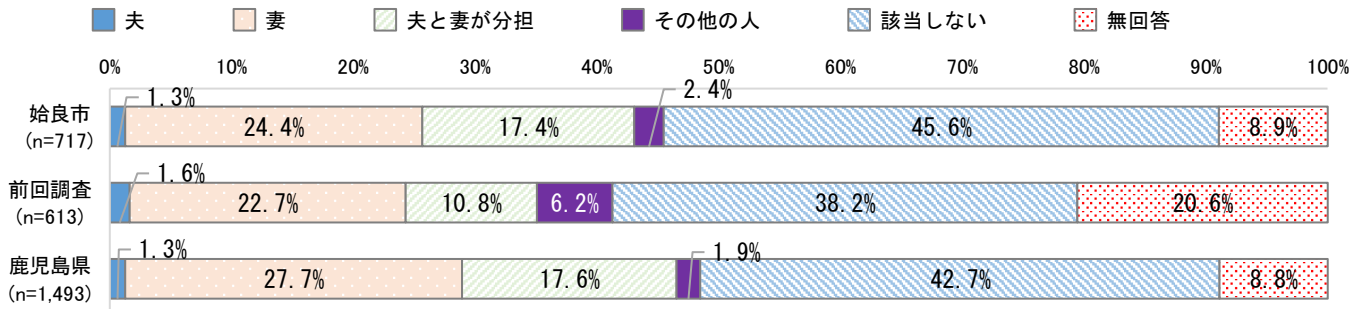
前回調査・鹿児島県との比較

介護・看護について、「夫」が1.3%、「妻」が24.4%、「夫と妻が分担」が17.4%、「その他の人」が2.4%、「該当しない」が45.6%となっている。

前回調査と比較して、「夫と妻が分担」が6.6ポイント増加している。

鹿児島県と比較して、大きな差はみられなかった。

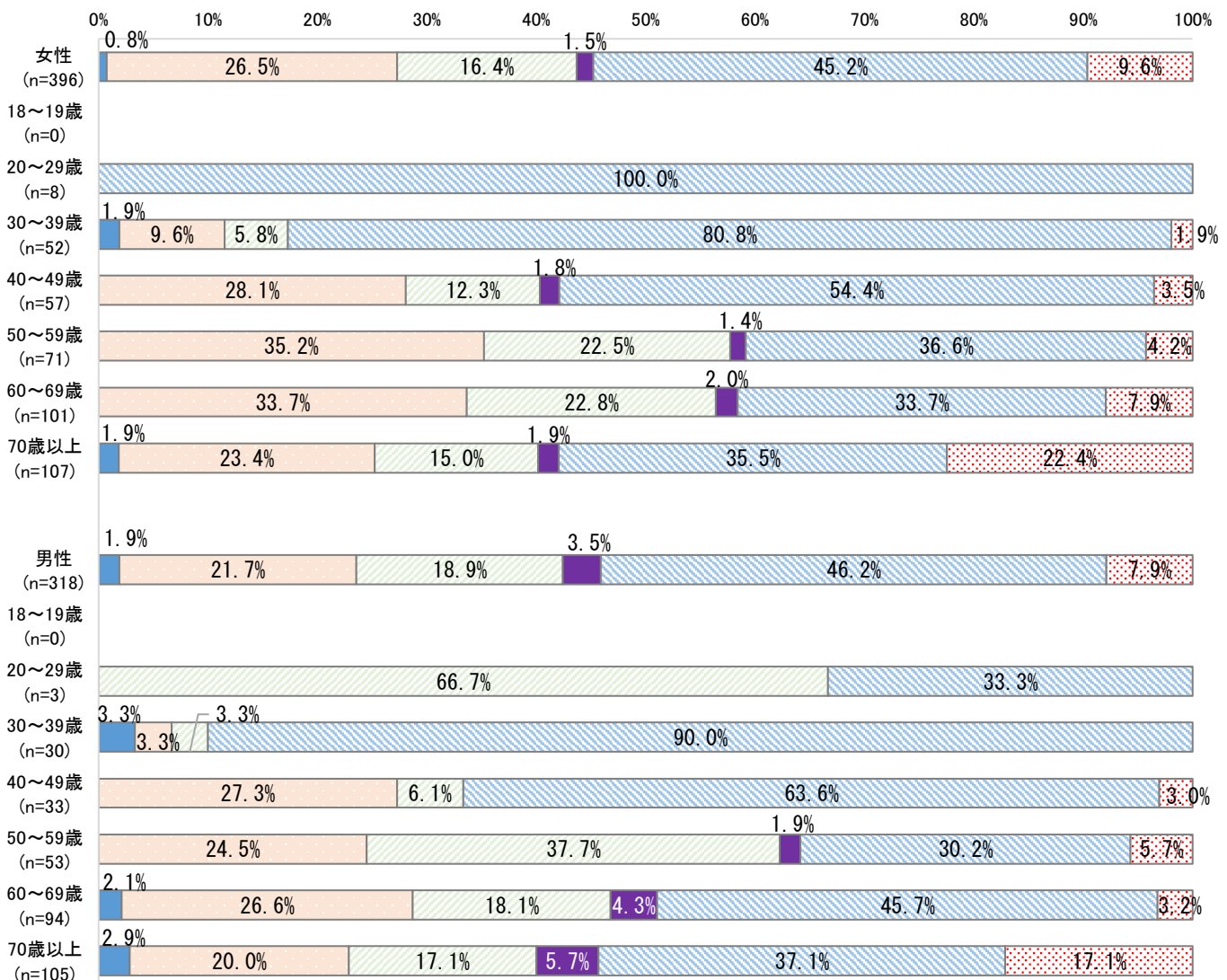
【介護・看護(前回調査・県比較)】



性別でみると、「妻」の割合は、女性が26.5%、男性が21.7%となっている。

性別・年代別でみると、男性の60歳代以上においては「その他の人」と回答が、他と比較して高くなっている。

【介護・看護(性別・年代別比較)】



	夫	妻	夫と妻が分担	その他の人	該当しない	無回答
始良市(n=717)	9 1.3%	175 24.4%	125 17.4%	17 2.4%	327 45.6%	64 8.9%
前回調査(n=613)	10 1.6%	139 22.7%	66 10.8%	38 6.2%	234 38.2%	126 20.6%
鹿児島県(n=1,493)	19 1.3%	413 27.7%	263 17.6%	29 1.9%	637 42.7%	132 8.8%
女性(n=396)	3 0.8%	105 26.5%	65 16.4%	6 1.5%	179 45.2%	38 9.6%
18～19歳(n=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20～29歳(n=8)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%	0 0.0%
30～39歳(n=52)	1 1.9%	5 9.6%	3 5.8%	0 0.0%	42 80.8%	1 1.9%
40～49歳(n=57)	0 0.0%	16 28.1%	7 12.3%	1 1.8%	31 54.4%	2 3.5%
50～59歳(n=71)	0 0.0%	25 35.2%	16 22.5%	1 1.4%	26 36.6%	3 4.2%
60～69歳(n=101)	0 0.0%	34 33.7%	23 22.8%	2 2.0%	34 33.7%	8 7.9%
70歳以上(n=107)	2 1.9%	25 23.4%	16 15.0%	2 1.9%	38 35.5%	24 22.4%
男性(n=318)	6 1.9%	69 21.7%	60 18.9%	11 3.5%	147 46.2%	25 7.9%
18～19歳(n=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20～29歳(n=3)	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%
30～39歳(n=30)	1 3.3%	1 3.3%	1 3.3%	0 0.0%	27 90.0%	0 0.0%
40～49歳(n=33)	0 0.0%	9 27.3%	2 6.1%	0 0.0%	21 63.6%	1 3.0%
50～59歳(n=53)	0 0.0%	13 24.5%	20 37.7%	1 1.9%	16 30.2%	3 5.7%
60～69歳(n=94)	2 2.1%	25 26.6%	17 18.1%	4 4.3%	43 45.7%	3 3.2%
70歳以上(n=105)	3 2.9%	21 20.0%	18 17.1%	6 5.7%	39 37.1%	18 17.1%

0.0% 上位1位

④自治会、町内会、公民館など地域活動への参加

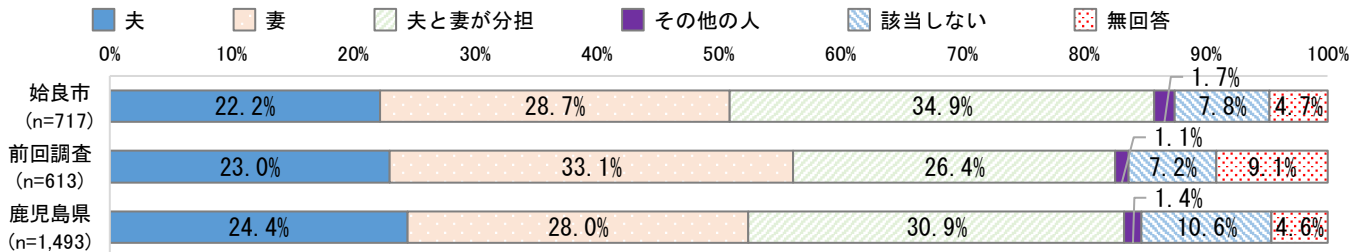
前回調査・鹿児島県との比較

自治会、町内会、公民館などの地域活動への参加について、「夫」が22.2%、「妻」が28.7%、「夫と妻が分担」が34.9%、「その他の人」が1.7%、「該当しない」が7.8%となっている。

前回調査と比較して、「夫と妻が分担」は8.5ポイント増加している。

鹿児島県と比較して、大きな差はみられなかった。

【地域活動への参加(前回調査・県比較)】

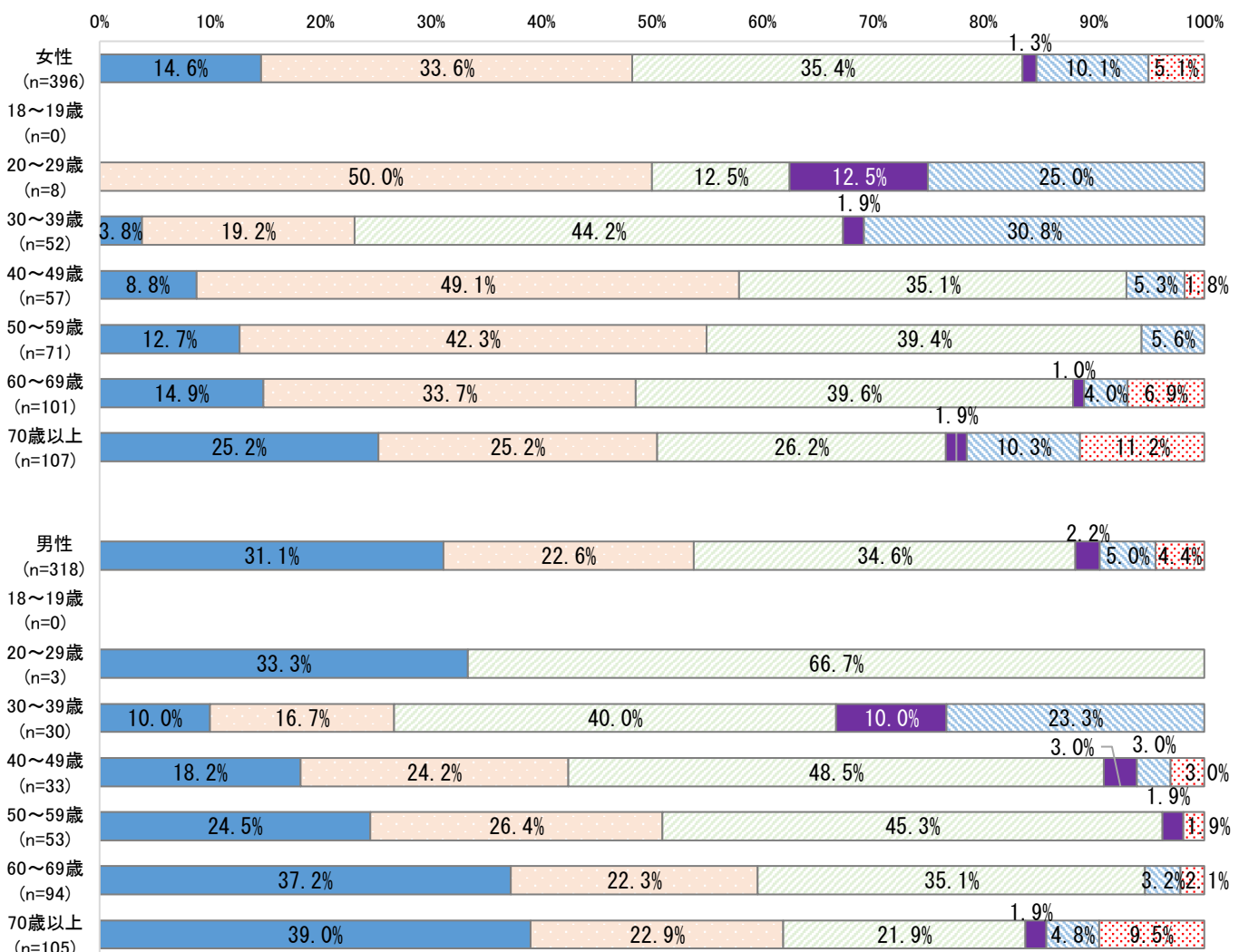


性別でみると、「夫と妻が分担」とする割合は、女性(35.4%)が男性(34.6%)と大きな差はみられない。

性別・年代別でみると、「夫」と回答した割合は、女性・男性ともに年代が上がるにつれ高い傾向がある。

※男性の20歳代については「夫と妻が分担」と回答した割合が100%だが、回答者が少ない(n=3)ため比較の対象外とした。

【地域活動への参加(性別・年代別比較)】



	夫	妻	夫と妻が 分担	その他 の人	該当 しない	無 回 答
始良市(n=717)	159 22.2%	206 28.7%	250 34.9%	12 1.7%	56 7.8%	34 4.7%
前回調査(n=613)	141 23.0%	203 33.1%	162 26.4%	7 1.1%	44 7.2%	56 9.1%
鹿児島県(n=1,493)	365 24.4%	418 28.0%	461 30.9%	21 1.4%	159 10.6%	69 4.6%
女性(n=396)	58 14.6%	133 33.6%	140 35.4%	5 1.3%	40 10.1%	20 5.1%
18～19歳(n=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20～29歳(n=8)	0 0.0%	4 50.0%	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%
30～39歳(n=52)	2 3.8%	10 19.2%	23 44.2%	1 1.9%	16 30.8%	0 0.0%
40～49歳(n=57)	5 8.8%	28 49.1%	20 35.1%	0 0.0%	3 5.3%	1 1.8%
50～59歳(n=71)	9 12.7%	30 42.3%	28 39.4%	0 0.0%	4 5.6%	0 0.0%
60～69歳(n=101)	15 14.9%	34 33.7%	40 39.6%	1 1.0%	4 4.0%	7 6.9%
70歳以上(n=107)	27 25.2%	27 25.2%	28 26.2%	2 1.9%	11 10.3%	12 11.2%
男性(n=318)	99 31.1%	72 22.6%	110 34.6%	7 2.2%	16 5.0%	14 4.4%
18～19歳(n=0)	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20～29歳(n=3)	1 33.3%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=30)	3 10.0%	5 16.7%	12 40.0%	3 10.0%	7 23.3%	0 0.0%
40～49歳(n=33)	6 18.2%	8 24.2%	16 48.5%	1 3.0%	1 3.0%	1 3.0%
50～59歳(n=53)	13 24.5%	14 26.4%	24 45.3%	1 1.9%	0 0.0%	1 1.9%
60～69歳(n=94)	35 37.2%	21 22.3%	33 35.1%	0 0.0%	3 3.2%	2 2.1%
70歳以上(n=105)	41 39.0%	24 22.9%	23 21.9%	2 1.9%	5 4.8%	10 9.5%

0.0% 上位1位

【F3で「1 結婚している」と回答された方にお尋ねします。それ以外の方は問11へお進みください。】

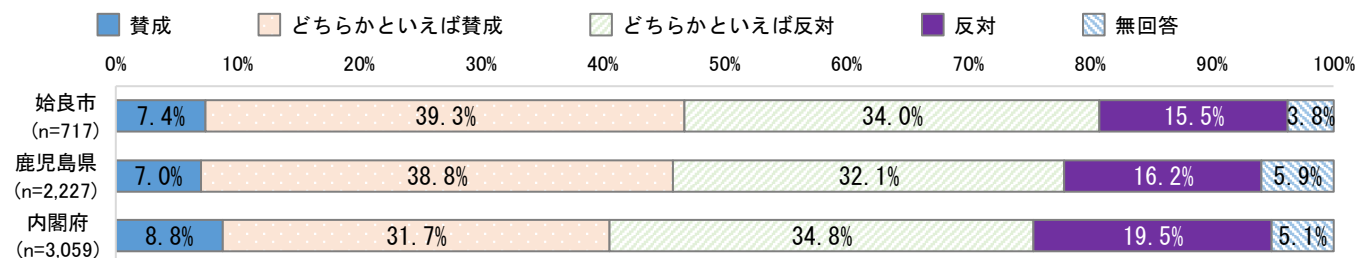
問10 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのようにお考えですか。次の1～4の中からあなたの考えに最も近い番号を1つだけお選びください。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「どちらかといえば賛成」(39.3%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば反対」(34.0%)、「反対」(15.5%)、「賛成」(7.4%)となっている。

鹿児島県と比較して、始良市のほうが「どちらかといえば反対」が1.9ポイント高い。

内閣府と比較して、始良市のほうが「どちらかといえば賛成」が7.6ポイント高い。

【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方(国・県比較)】

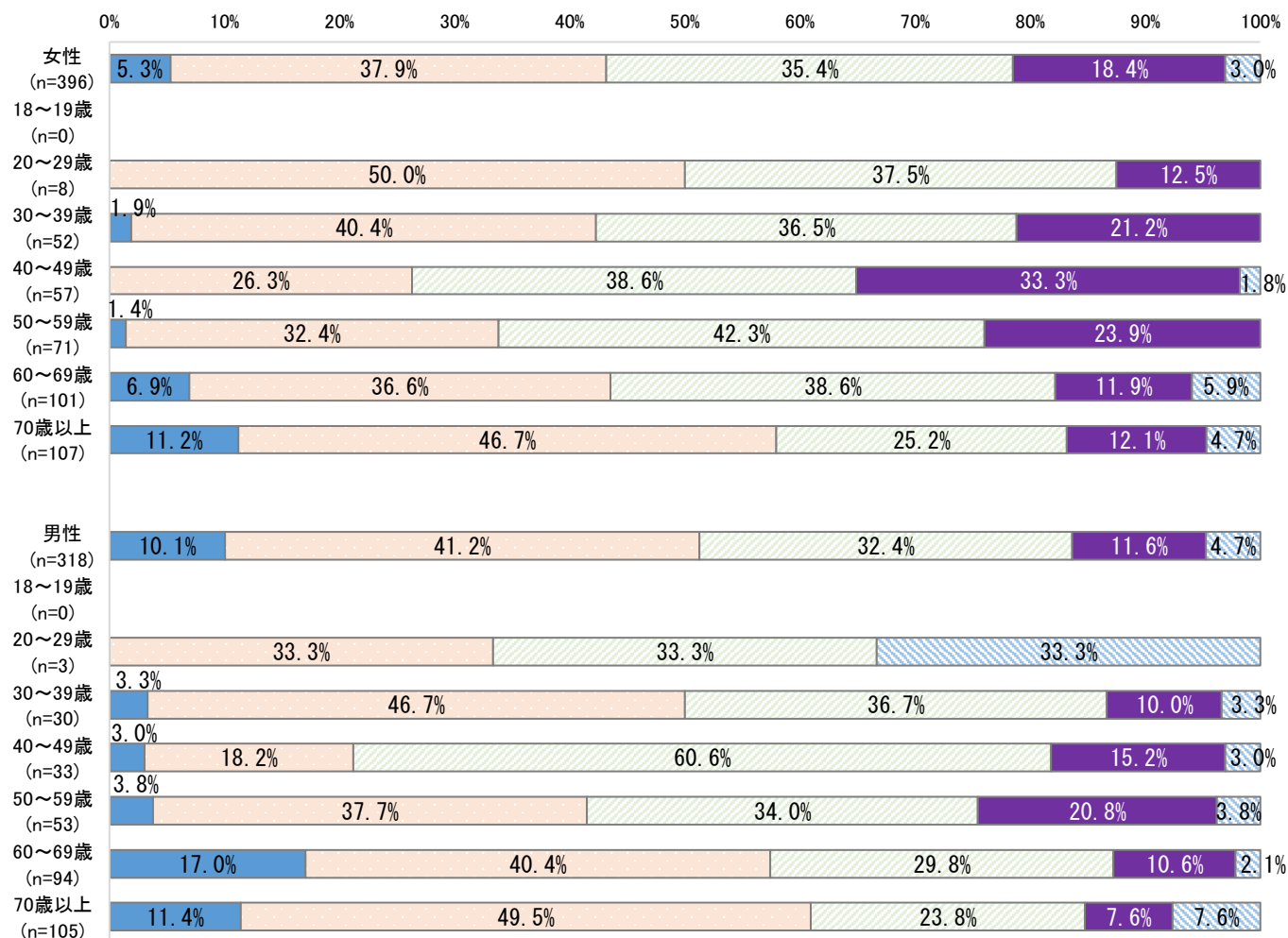


性別で見ると、女性(37.9%)・男性(41.2%)ともに「どちらかといえば賛成」の割合が最も高くなっている。

性別・年代別で見ると、男性の70歳代以上は1割未満、それ以外は1割以上が「反対」と回答している。

また、女性の40歳代では3割強が「反対」と回答し、他と比較して高くなっている。

【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方(性別・年代別比較)】



賛成意見は、内閣府、鹿児島県と比較して高くなっており、反対意見については、内閣府よりも低く、鹿児島県より高い。

属性	賛成	反対
始良市 (H29) (n=717)	46.7%	49.5%
鹿児島県 (H28) (n=2,227)	45.8%	48.3%
内閣府 (H28) (n=3,059)	40.5%	54.3%

※賛成：(賛成+どちらかといえば賛成)

※反対：(どちらかといえば反対+反対)

	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	無 回 答
始良市(n=717)	53 7.4%	282 39.3%	244 34.0%	111 15.5%	27 3.8%
鹿児島県(n=2,227)	156 7.0%	863 38.8%	715 32.1%	361 16.2%	132 5.9%
内閣府(n=3,059)	8.8%	31.7%	34.8%	19.5%	5.1%
女性(n=396)	21 5.3%	150 37.9%	140 35.4%	73 18.4%	12 3.0%
18～19歳(n=0)	-	-	-	-	-
20～29歳(n=8)	0 0.0%	4 50.0%	3 37.5%	1 12.5%	0 0.0%
30～39歳(n=52)	1 1.9%	21 40.4%	19 36.5%	11 21.2%	0 0.0%
40～49歳(n=57)	0 0.0%	15 26.3%	22 38.6%	19 33.3%	1 1.8%
50～59歳(n=71)	1 1.4%	23 32.4%	30 42.3%	17 23.9%	0 0.0%
60～69歳(n=101)	7 6.9%	37 36.6%	39 38.6%	12 11.9%	6 5.9%
70歳以上(n=107)	12 11.2%	50 46.7%	27 25.2%	13 12.1%	5 4.7%
男性(n=318)	32 10.1%	131 41.2%	103 32.4%	37 11.6%	15 4.7%
18～19歳(n=0)	-	-	-	-	-
20～29歳(n=3)	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%
30～39歳(n=30)	1 3.3%	14 46.7%	11 36.7%	3 10.0%	1 3.3%
40～49歳(n=33)	1 3.0%	6 18.2%	20 60.6%	5 15.2%	1 3.0%
50～59歳(n=53)	2 3.8%	20 37.7%	18 34.0%	11 20.8%	2 3.8%
60～69歳(n=94)	16 17.0%	38 40.4%	28 29.8%	10 10.6%	2 2.1%
70歳以上(n=105)	12 11.4%	52 49.5%	25 23.8%	8 7.6%	8 7.6%

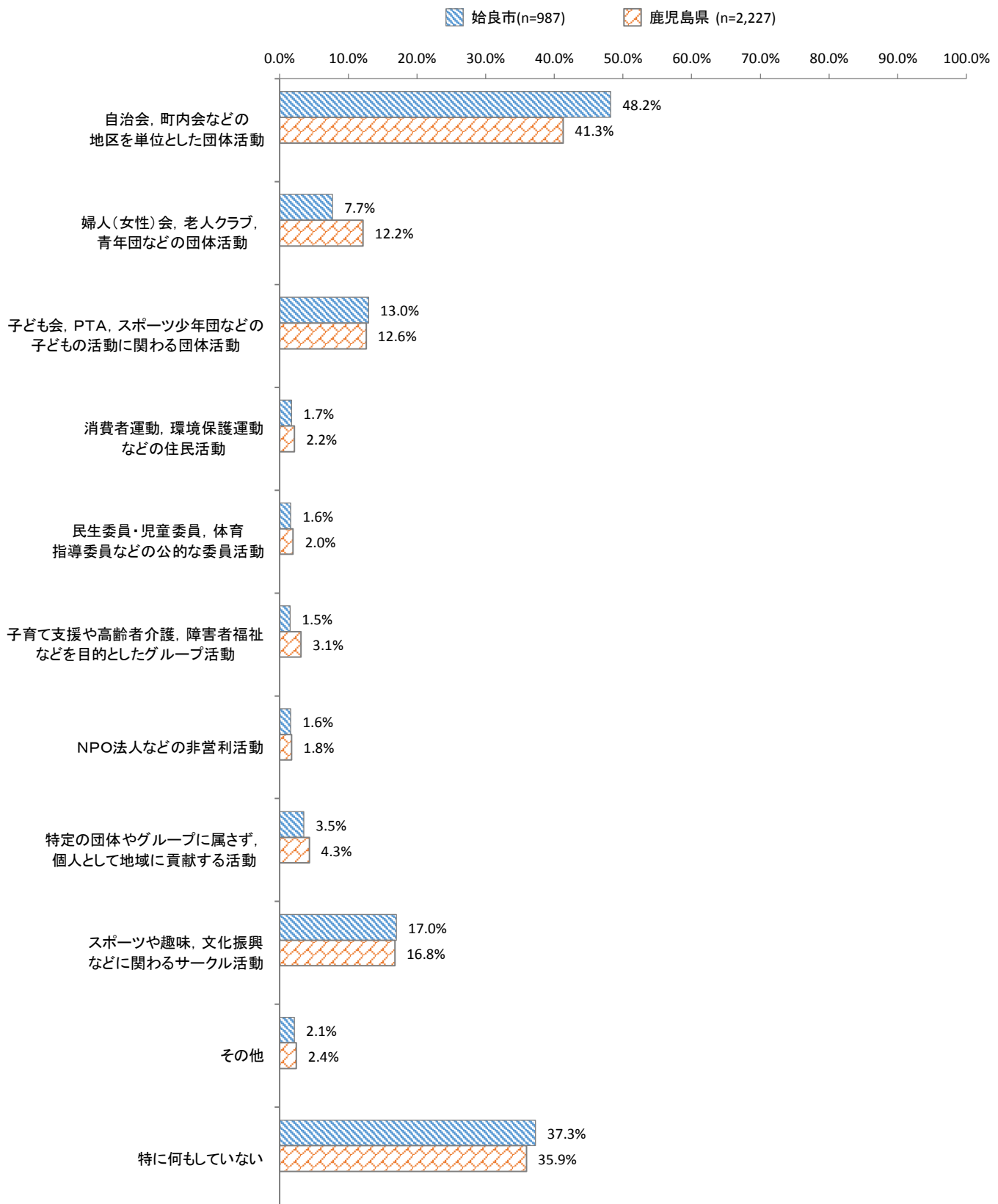
0.0% 上位1位

Ⅳ 仕事と家庭・地域への取組について

問 11 あなたは、現在、次のような地域における活動に参加していますか。次の1～11の中からいくつでもお選びください。（複数回答）

地域における活動への参加について、「自治会、町内会などの地区を単位とした団体活動」（48.2%）の割合が最も高く、次いで「特に何もしていない」（37.3%）、「スポーツや趣味、文化振興などに関わるサークル活動」（17.0%）となっている。

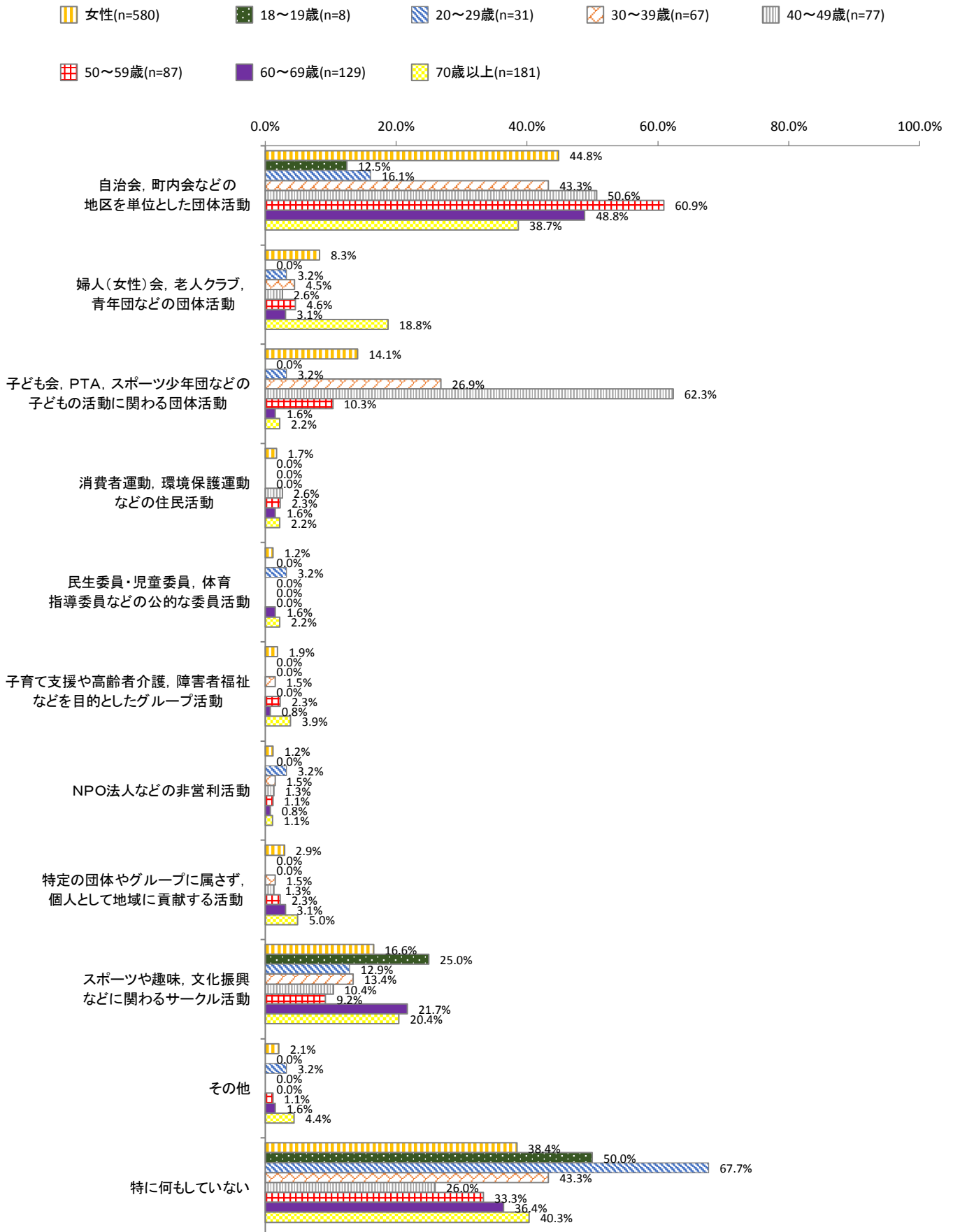
【地域における活動への参加(県比較)】



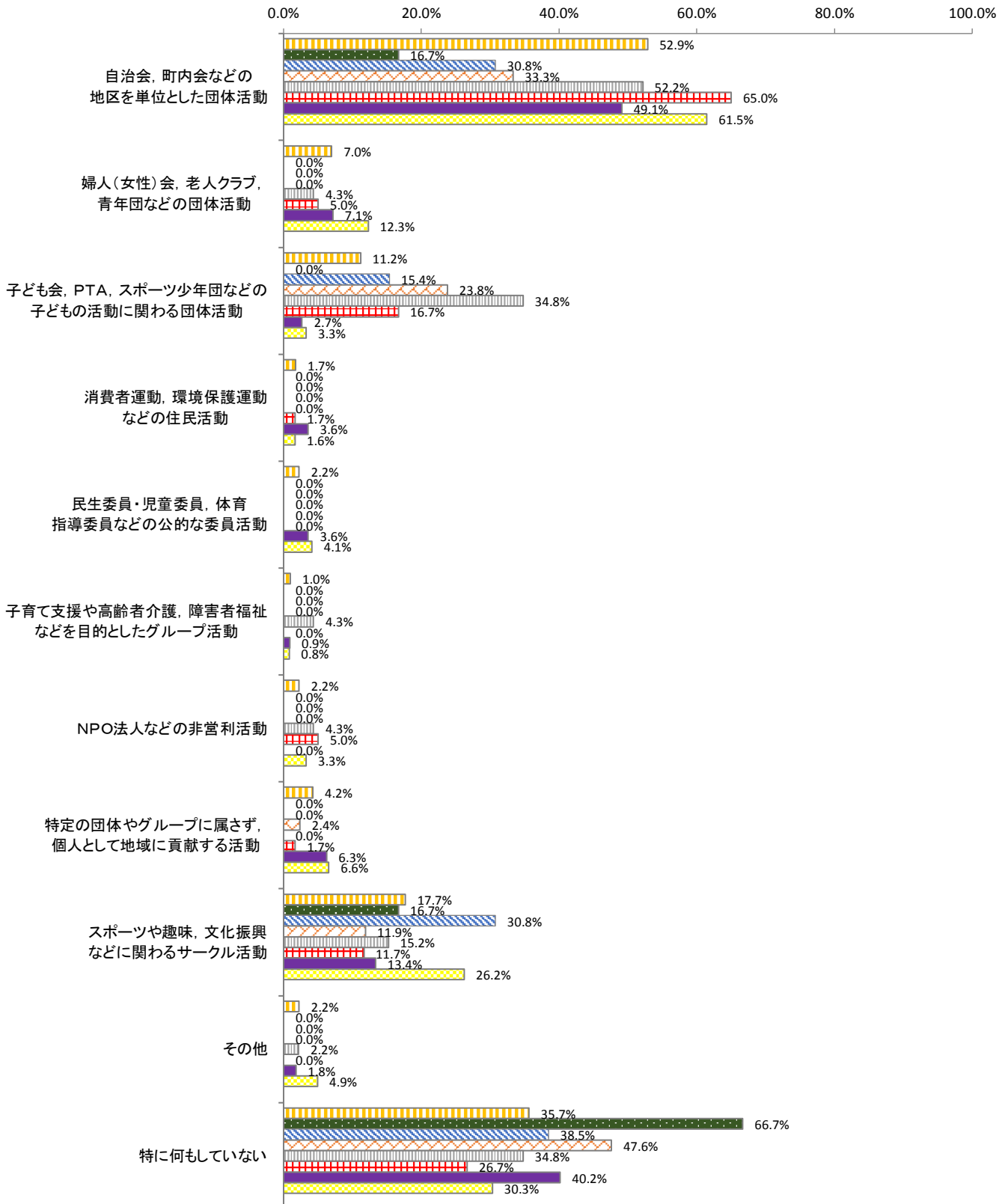
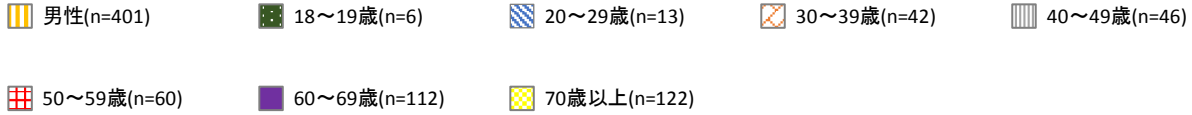
性別で見ると、女性（44.8%）・男性（52.9%）ともに「自治会、町内会などの地区を単位とした団体活動」の割合が最も高くなっている。

性別・年代別で見ると、傾向に差がみられる。

【地域における活動への参加(女性・年代別比較)】



【地域における活動への参加(男性・年代別比較)】



	自治会・町内会などの地区を単位とした団体活動	婦人（女性）会、老人クラブ、青年団などの団体活動	子ども会、PTA、スポーツ少年団などの活動に関する団体活動	消費者運動・環境保護運動などの住民活動	民生委員・児童委員、体育指導委員などの公的な委員活動	子育て支援や高齢者介護、障害者福祉などを目的としたグループ活動	NPO法人などの非営利活動	特定の団体やグループに属さず、個人として地域に貢献する活動	スポーツや趣味、文化振興などに関わるサークル活動	その他	特に何もしていない
始良市(n=987)	476 48.2%	76 7.7%	47 13.0%	17 1.7%	16 1.6%	15 1.5%	16 1.6%	35 3.5%	168 17.0%	21 2.1%	368 37.3%
鹿児島県 (n=2,227)	920 41.3%	271 12.2%	281 12.6%	48 2.2%	44 2.0%	69 3.1%	39 1.8%	96 4.3%	374 16.8%	54 2.4%	800 35.9%
女性(n=580)	260 44.8%	48 8.3%	82 14.1%	10 1.7%	7 1.2%	11 1.9%	7 1.2%	17 2.9%	96 16.6%	12 2.1%	223 38.4%
18～19歳(n=8)	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%	4 50.0%
20～29歳(n=31)	5 16.1%	1 3.2%	1 3.2%	0 0.0%	1 3.2%	0 0.0%	1 3.2%	0 0.0%	4 12.9%	1 3.2%	21 67.7%
30～39歳(n=67)	29 43.3%	3 4.5%	18 26.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.5%	1 1.5%	1 1.5%	9 13.4%	0 0.0%	29 43.3%
40～49歳(n=77)	39 50.6%	2 2.6%	48 62.3%	2 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	1 1.3%	8 10.4%	0 0.0%	20 26.0%
50～59歳(n=87)	53 60.9%	4 4.6%	9 10.3%	2 2.3%	0 0.0%	2 2.3%	1 1.1%	2 2.3%	8 9.2%	1 1.1%	29 33.3%
60～69歳(n=129)	63 48.8%	4 3.1%	2 1.6%	2 1.6%	2 1.6%	1 0.8%	1 0.8%	4 3.1%	28 21.7%	2 1.6%	47 36.4%
70歳以上(n=181)	70 38.7%	34 18.8%	4 2.2%	4 2.2%	4 2.2%	7 3.9%	2 1.1%	9 5.0%	37 20.4%	8 4.4%	73 40.3%
男性(n=401)	212 52.9%	28 7.0%	45 11.2%	7 1.7%	9 2.2%	4 1.0%	9 2.2%	17 4.2%	71 17.7%	9 2.2%	143 35.7%
18～19歳(n=6)	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	4 66.7%
20～29歳(n=13)	4 30.8%	0 0.0%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 30.8%	0 0.0%	5 38.5%
30～39歳(n=42)	14 33.3%	0 0.0%	10 23.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.4%	5 11.9%	0 0.0%	20 47.6%
40～49歳(n=46)	24 52.2%	2 4.3%	16 34.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.3%	2 4.3%	0 0.0%	7 15.2%	1 2.2%	16 34.8%
50～59歳(n=60)	39 65.0%	3 5.0%	10 16.7%	1 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.0%	1 1.7%	7 11.7%	0 0.0%	16 26.7%
60～69歳(n=112)	55 49.1%	8 7.1%	3 2.7%	4 3.6%	4 3.6%	1 0.9%	0 0.0%	7 6.3%	15 13.4%	2 1.8%	45 40.2%
70歳以上(n=122)	75 61.5%	15 12.3%	4 3.3%	2 1.6%	5 4.1%	1 0.8%	4 3.3%	8 6.6%	32 26.2%	6 4.9%	37 30.3%

0.0% 上位1位

※主なその他回答

- 自治会、子供会、体育指導委員会などその時の年齢に応じた出来る事は、シングルマザーでもしてきました。
- シルバーセンター
- 消防団、団体役員
- 日雇いなどでボランティア
- 加治木の講座で 20 年絵画と陶芸教室でお世話になっています
- 防災、災害についてのグループ活動（無線通信）
- 海水浴場清掃活動
- いきいきサロンの実施
- 講演会への参加・聴講
- 近所の一人暮らしの見守り。
- 生協組合員としての地域への活動
- 国際交流（国や県の事業）

※特に何もしていない主な理由

- 高齢のため
- 病気のため
- 仕事で忙しい
- 体が不自由
- 他人と関わるのが苦痛
- 行っている場所がわからない
- 妻に任せている。妻の要望があったとき活動する
- 参加する機会がない
- 関心がない
- 周りの同世代で参加している人がいない
- 金銭的に余裕がない
- 休日は農作業に忙しい
- 介護のため

問 11-1 あなたが地域における活動に参加するなかで感じている、活動のやりがいや苦勞していることなどがありましたら教えてください。

- 子供たちの成長を手取るように感じられる。
- 自治会に入会していない人が多い。
- 一年前から加治木に住んでいます。小学校。中学校はこちらで住み 40 年ぶりに加治木に帰ってきました。公民館の掃除の後、新人の紹介があり、私は一番の年上で、永年住んでいる人が若者は大事！と言われました。私は 70 歳過ぎた老人です。年を取ってここに帰ってきてはいけないのでしょうか。こんな悲しい事、みじめさ。70 歳以上を過ぎてはいけないのでしょうか。加治木町民に聞きたいです。
- 自治会、町内会が単に行政の下請けは組織になっているように思える。
- 子供会に参加する家庭が減り、役員をする家庭が重複してはならない。子の楽しみより親の負担が大きく、参加しなくなってしまう。
- 地域活動が強制的であってはならない。(欠席時のお金徴収等)
- 活動に参加するとなると大変喜んでもらえるが、仕事との両立が苦勞する。
- 自治会に入っている方々は、小さい子供から高齢者までいますが、子育て中の方や子育てを終えた若い方はほとんど活動や行事に参加せず、高齢者の方々ばかりです。奉仕作業等も大人が手本とならなければいけないと思いますが、協力体制が全く見られません。残念です。
- 利用していない空地の清掃作業。参加しない場合は罰金千円を自治会に払う。年に 2 回あるので改善してほしい。
- 共働きにも関わらず、女性(妻)の方が活動に参加する事が多い。女性が子供を見るべき教えが強いため、私が会社に休みを申し入れにくい。給与に関わる。(妻も社員)
- 年配の人が、あまり多くの事に口を出すとやりにくい。子供たちの為に、同じ目標に向かって仲間と一つの事をやり遂げたとき。
- 運動会時コミュニケーションが取れている。苦勞と思わない。
- 校区コミュニティ協議会の活動を通して、地域貢献しているが、行事が多くて振り回される傾向にある。民生児童員としての活動も心身の苦勞が大きい。
- 自治会などの活動は、どうしても定年後の時間の取れる方々をお願いしてしまうので、活動が活発にならない。
- 高齢者が多い。
- 自治会の活動を通して、近所の方達とコミュニケーションを取ることができる。無理のない程度で参加しているので苦勞はない。
- 若者が消防団活動等に興味を示さない。高齢者が増え、奉仕活動も年々、参加者が減っている。
- 地域の協力性の無さ(行事への不参加者が多い、何かプレゼントをもらえる行事だけ参加する)。学校に関わることで、子供との親睦が図れる。
- 団地の役員之苦勞を少しでも軽減できるよう協力したい。
- 介護施設等へのボランティア(楽器演奏)で大変喜んでもらっている事。
- 道路、庭先の(他人)掃除をしているが、知っているのか知らないのか、わからないのか、言葉のお礼が欲しい。
- 70 歳以上の方で、皆さんが同じ思いの心で仲良く活動に参加しています。
- 疑問に感じる事…本来の目的が見失われている→地域の為、子ども達の為よりも、その団体活動の代表者や会長さんの面目の為に言われている印象を受ける。何の為にすることを今一度、考えてみるべき。
- 子供会は部活などあって、参加人数が少なく、役員が決めにくい。(特に中学生)
- 地区の順番制の役や、スポーツ等への呼びかけ。年齢が上がるにつれ、きつさを感じ、自治会を脱会と考える時もある。
- 地区の子供達の参加するイベントが少なくなっている。ラジオ体操、夏休み期間中全てやるべき。
- 休日(日曜日)等に活動をする機会が多くあるので、休みの調整に気を配る事。
- 色んな地域の方々との繋がりや、PTA 同士の繋がりを感じる。私は直接聞かないが、他人から人の悪口を聞くと嫌な気分になる。
- 役員がまわって来た時、要請があった時だけの参加なので、特に感じることはない。
- 地元の方や始良市の商工業の方と知り合えて、共に何かをすることで仲が深まり楽しい。反面、ベットタウンとして他の地域から入ってきた人たちが地元との関わりを好まなかったり、今までは「お互い様」という所があったことにクレームを入れる人が増えて生活しづらくなった気がする。

- 自治会の方々が高齢であり、皆で行う作業が大変になってきている。8割ぐらいが75歳以上。
- 社会と関わる事が出来て良い。良い体力づくり、息抜きになっている。
- 地域により異なると感じる。参加が当然のような所もある。中山間地区。
- 気楽に参加したいが長く参加すると係りが回ってくる
- 絵本を読むボランティアをしていますけどどの施設も理解あります訪問したら喜んでくださるので嬉しいです
- 何を終了し、何を残して肉付けし、そして新たなことを構築しビビットさせ、発展できるかの組織作り
- 高齢者が多く体調不良などで自治会の活動への参加が少ない【声をかけているが】
- 近所の知り合いが増え我が子への声掛けなどをして頂きありがたい 全ての活動に参加はできませんができる範囲で無理のない程度の参加をさせて頂いています
- 地域住民の積極的な参加と協力が必要
- 地域の清掃に参加することにより日常会話することのない人との会話をもつことができる
- 夫がいるため自由に出られない
- 地域の方のお役にたつことがやりがいにつながっています
- 若手の活動家が少なく 80歳になっても役員をしなければならない
- 地域の方々とコミュニケーションが取れる。情報の共有が出来いざという時の対応に役立てると思う。
- 限られた人たちだけの参加活動でまとまりがない。地域活動への補助金が少ない。
- 地域の清掃活動の時30代から40代は女性の参加が多く50代以上になると男性が多くなる やり働いている世代の男性は忙しいのか疲れているのかなと思う
- 子供会の存続PTA役員の負担 地域のゴミ当番 自治会の役員
- 声かけ連絡事項などで通知お知らせするにもかかわらず出席者が伸びない 積極的に輪の中に入ってほしい
- 個として有する知識経験は地域社会と接合することで潜在的価値を発揮させる
- 64歳で働いているので自治会だけで精いっぱい 去年班長をしましたが回覧板を回す回数を減らしてほしいそんなに重要でもないのに回す必要があるのかなあと思いました
- 考え方の異なる人たちの思い傷つけず円満にまとめる事に難しさを感じている
- 役員をした者同士の絆が深まりそのあとの交流がリフレッシュの一つなること
- 自治会内での係りなど順番にすれば皆納得してやる。やりがいなどはあまり感じないので自治会の会長など毎年なる方がおられず苦勞している。結果仕事量を減らしたり徴収アップしたりしているのが現状。
- 特に市道のカーブなどの自転車交通危険個所の草払い、奉仕活動。理由は人命尊重の観点と、万が一交通事故が発生した場合当事者同士の人間関係が悪くなる。年金は燃料代と消耗品として使用しています。
- 皆さんと会えるのが楽しみ
- 今まで地域にお世話になってきたのでそのお礼。安心安全な地域を作ろうとするやりがい。メリットがないめんどろという事で自治会などに入会しない人が増加している。
- 体調不良で参加できないことがありみんなに迷惑をかけている
- 同じ趣味仲間と楽しく過ごしております。いつまで続けることができるかわかりませんが、ファイトの気持ちで行くぞです。仲間のみなさまありがとうございます。
- 始良市には多種多様な才能の持ち主が大勢いらっしゃるが、どんな活動をどんな人が実施しているが市の関係が知らなければリスト一覧表でも作って地域住民に知らせ一日でも早く活用してもらいたい。
- グランドゴルフをしています年々少なくなり淋しいですが、3時のお茶だけでも来てくださいますよと声をかけている。ゴルフに行き皆さんの顔を見たり、プレーする事で笑ったり、語ったりとても楽しく過ごしています。
- 若い人が少ない。役員になる人がいない。
- 役員をするとコミュニケーションの深化や多くの人との交流が広がる利点。逆に役員任せや自治会活動に関わりたくない考えの人が多く中理解を求めているのが大変。
- 健康維持を必要とする方を、家のを外に連れ出すことが難しい。特に男性の場合は孤立しやすい
- 人と人が支え合うことによって社会が維持された、相互に助け合わなければ、地域は存在できないと感じます。
- 現在プラの回収を月1回行っているが、まだまだ地域の協力が少ないように思う。
- 子供会…行事の連絡・調整（世帯数が多いので）

- PTA など子供のためにと受けると、結局平日昼間の活動や話し合いで仕事を休まなくてはいけなかったり、夜の話し合いでは夕食も作る時間がなく、子供・家族に負担をかけてしまう。家にいる時間が少なくなり、子供の話を聞いてあげられない。
- 限界集落になりつつある。
- 多様性に富む。現代においてそれぞれ皆様方、共存共栄で頑張っていらっしゃる様です。
- やる前には仕事が忙しくて無理だと思っていましたが、やってみると近所の同じ子育て世代の方と話が出来、楽しいです。
- 自治会班長が輪番制でまわってきたが、昨年仕事を辞めて今まで地域への関心がなかったが、班長の役割を責任を持って行い、少しでも地域活動、貢献をしていきたいと思っている。
- 70歳以上の方で足腰が痛い人がいるのに、地域の掃除、坂の掃除など。
- 少子高齢化でのコミュニティの在り方。限界集落での活動の仕方。
- 自治会青壮年会、会員としての行事等に参加しているが、いずれも高年齢化しており、将来、推進役の会員が減少し活動ができにくくなるのでは。
- 他県より越してきたばかりなので早く地域のことを知るため仕事と家事から解放されリフレッシュのため子供に関わることは子供の為と、学校を知るため。だが、仕事（休みづらい環境?!）を優先して、経済的事情?! 集まる顔ぶれは一緒に色々苦労します。
- 自治会活動は班の清掃くらいであり活動の機会が少ない。年代の近い人たちでのコミュニケーションの場がもっとあるとよい。ある程度半強制的参加の活動もあってよい。
- 始良市に転居してきて、自治会の公園清掃、リサイクル分別当番など、これまで経験がなく苦痛であったこと。体調が悪い人、お年寄りなど大変だろうと思った。日々早朝から大音量で会長さんの呼びかけの放送にはなれずに胸がドキドキしました。せめて公園清掃はシルバーさんに頼んだり、夏休みくらい子供たちに手伝ってもらえたらと思います。一日も早く資源ごみを鹿児島市内並みに出せる日が来ますよう願っています。
- 校区運動会などの参加者を探す事が大変だった。（子供が少ないことも大変でしたが）
- とり踊り、お田植祭、太鼓踊り参加しているが、皆協力して地域一体となって盛り上がっている。若い人の参加が多くなれば良いが。
- 皆が協力的である。女性が自治会活動に参加すると男性よりも力がないという理由で現金を出さなければならないのはおかしいと思う。
- 仕事・家庭以外の場所での楽しみ。仕事・家庭との活動が重なった時の折り合い。
- 年齢をきかれる方が多い。活動に年齢は関係ない。特に50歳以上の男女。
- 教育の場を少しでも良くする事。
- スポーツ、趣味では楽しく通っています。地域的には、隣人（今も民生委員なのか）との間にある側溝を自分の土地だからとか言う変な人がいる為、自治会を抜けました。
- 自治会では高齢者が増え、子供の数が減少しているので子供会での活動が難しくなっている。加入している世帯の負担が大きくなっており、子供会、自治会に入らない世帯も増えてきています。
- 市の生涯講座が二年で終わるのはなぜか？定員に満たない講座では新人を優先で後は二年以降の人も参加していいのではないのでしょうか。生涯の意味？受講料も市の負担が少しでも軽くなると思います。一考を。
- 近年では自治会のシステムが崩壊しつつある。参加する人の負担が多くなっている。
- トムランドでサークル活動をしています。人員募集が年1回なのでもっとふやして欲しいです。
- スポーツを通して色々な人と交流するのは楽しいが、そういう場所がなかなかない。また民間のところは場所をとりやすいが値段が高い。
- いきいきサロンを通じて地域の方々に接することができ楽しくやらせてもらっています。
- 近隣の方々との会話が個人的には少なめなので参加する事で世界観が変わり勉強になります。
- プライバシーがなく人の関わりが難しい。
- 自治会等の掃除等、全員参加で素晴らしいと思う。
- 地区単位での活動へ参加することはあっても、なかなか顔見知りになれず、とけ込むのは難しい。
- 自治会、その他の中でやはり人間関係。同じ活動していてもよく動く人、言動だけ多い人、それぞれの性格があつて仕方ないですけど。その人の人格がよくわかるような気がします。楽しくできる様努力しています。
- いきいきサロンのボランティア活動をしています。初めのころからすると皆さんが明るく楽しそうに参加して大変お元気です。男性の参加がありません？

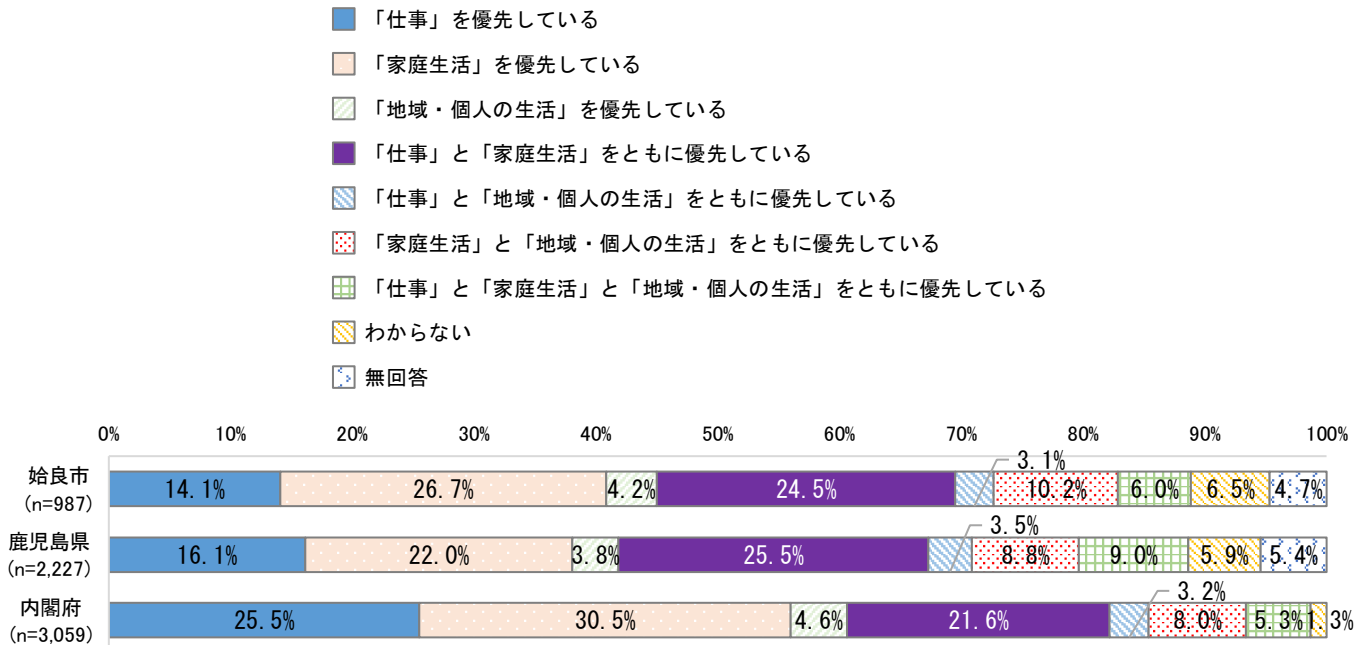
- 県外からの転住者ですが地域の人達は仕事中心で行事などもあまり（ほとんど）参加がありません。高齢者ばかりなのだからでしょうか。近所のつきあいもあまり（ほとんど）ありません。
- 子供達の活動を通して子供から学ぶこと、感動（感銘）を受けることがあった。色々な考えを持った保護者がいる為、意見の違いなどがあり難しい事もあった。
- 私たちのような若者が集まる団体において、所属する人は大半女性で、男性の方があまり来ないので、荷物を運んだり、協議が必要な場で女性ではうまく話がまとまらなかったりと大変である。
- 子供の学校の PTA は生活の中で負担を感じる部分が多いです。役員となると話し合い等で夜の参加も多く学校へ出向く事も多くなります。プラスに考えれば、いい面もありますが、共働きや下の子供がまだ小さい時などは、とても大変でした。
- 地域をよくしようという仲間をめぐりあえた時元気がでる。反対に固定概念にとらわれ協調性をもたない人（年配男性に多い）がまだまだ地域活動の中では多い。それぞれのもつ特性・知恵を出し合える活動を心がけたい。
- 昔はありましたが婦人会もなくなり、女性が集う機会が減っていると思う。始良市役所の職員の方が同じ地区に住んでいるが地域活動に参加されないのは非常に残念に感じています。行政のプロのお力をぜひ貸してほしいです。（役職の高い方だけに残念です。）県職の方の方が参加して自治会での決め事など県政の知識で助けてくださいます。
- 地域の伝統行事に参加して、伝統を絶やさないう活動し、子どもたちに受け継いでいくことにやりがいを感じている。準備は大変だが、苦労だと感じたことはない。（中津野もぐらうち）
- 子供が小さいうちは、どうしても社会との関わりから遠のいてしまいがちだが、様々な活動に参加することにより、地域の方々とのつながりが持てるのがやりがいだと思います。ただ、子供を連れているときは他の方々と同じように動けない場面も多々あるので、そこが大変だと思います。それにより、活動に参加したくてもあきらめることがよくあります。
- 月一のゴミ出しの係、小さい子がいるので、夫が前日からいない時はどうしようかいつも困る（子を預けられる人は近くにいません）
- 集落のクリーン作戦に参加しています。清掃後のやりがいはもちろんですが、お互いに顔を知ることで地域の方々とのつながりを感じる 1 日となりました。始良総合運動でのサークル活動では、共通の趣味であるスポーツを通して、様々な職種の方々から情報を得るいい機会にもなっています。
- 自治会の役員は 60 歳以上の方にも進んで行っていただきたい。スポーツ少年団を通して、同じ世代の人と家族ぐるみのつき合いが増え、悩みや相談事も話し合えるようになり、かつ、みんなで子育てができるようになった。
- 活動する為には必ず役員・責任者等を決めなければならないが、その役員等が決まらない。行けば、役員等をしなければならない。なので活動へ参加する事を思い悩む事がある。役員等はボランティアではなく、給与を支払う形にすればパート等を休んだ生活の保障もされれば、活動がさかんになると思う。責任者も引き受けても損はしないと思います。
- 私の地区は若い人達が頑張って自治会に参加しています。前の地区にいた時は全くでしたが活気があって本当にすばらしい。
- 自治会の役員選出が年々厳しくなっている
- 小さい子供がいる中での活動はなかなか難しい
- 地域の人が自治会の行事・ボランティアの参加が少ない
- 公民館等、音楽活動（サークル活動）などに使用できる場所や駐車スペースの確保
- 自治会への未加入者や脱会者に対してリスクが何もないことに不公平さを感じている（活動は何もしない、支払いは何もない）他。自治会費等で地域が運営されている事をもっと分かってほしい。
- 高齢化が進み地域行事や活動の見直しを図る時期にきている様に感じる
- 仕事をしている為時間を取るのが困難
- 世界の貧困や難民の子供達への支援、観光地を訪れる県外客への地域理解、啓発
- 高齢者が多く活動するメンバーが限定されているところがある、子育て中は地域活動に参加するのは子供の活動優先の為厳しい、仕事との調整がつかない場面も多い
- 子供の減少により地区の子供の変動がある
- 仕事で奉仕作業当日に参加できず自分の休みの日に実施している
- P T A の活動の多さに苦労している
- 年間行事活動等はほぼ決まった形で引き継ぎ毎年過ぎる。新しいことをするきっかけが無い。

問 12 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、あなたはどのようにお考えですか。まず、次の1～8の中から、あなたの現実（現状）に最も近い番号を1つだけお選びください。

生活の中での優先度の「現実（現状）に最も近いもの」は、「家庭生活」を優先している（26.7%）の割合が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（24.5%）、「仕事」を優先している（14.1%）となっている。

鹿児島県と比較して、僅かに差がみられる。

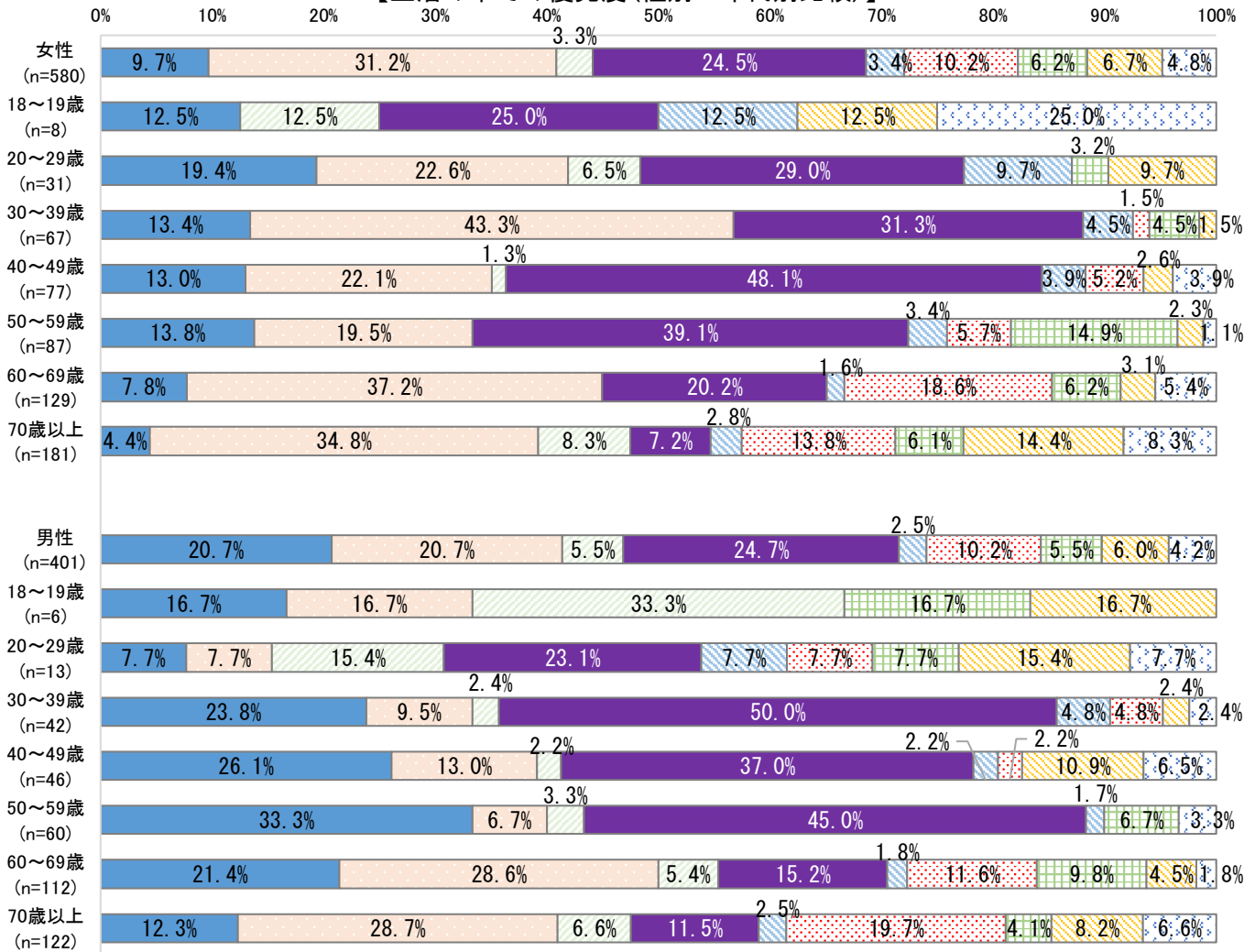
【生活の中での優先度（国・県比較）】



性別で見ると、女性は「家庭生活」を優先している（31.2%）、男性は「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（24.7%）の割合が最も高くなっている。

性別・年代別で見ると、女性の30歳代、60歳代以上、男性の60歳代以上で「家庭生活」と回答した割合が最も高く、男性の10歳代を除く他の年代は「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」と回答した割合が最も高くなっている。

【生活の中での優先度(性別・年代別比較)】



	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	わからない	無回答
始良市(n=987)	139 14.1%	264 26.7%	41 4.2%	242 24.5%	31 3.1%	101 10.2%	59 6.0%	64 6.5%	46 4.7%
鹿児島県(n=2,227)	359 16.1%	489 22.0%	84 3.8%	567 25.5%	79 3.5%	196 8.8%	200 9.0%	132 5.9%	121 5.4%
内閣府(n=3,059)	25.5%	30.5%	4.6%	21.6%	3.2%	8.0%	5.3%	1.3%	
女性(n=580)	56 9.7%	181 31.2%	19 3.3%	142 24.5%	20 3.4%	59 10.2%	36 6.2%	39 6.7%	28 4.8%
18～19歳(n=8)	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%
20～29歳(n=31)	6 19.4%	7 22.6%	2 6.5%	9 29.0%	3 9.7%	0 0.0%	1 3.2%	3 9.7%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	9 13.4%	29 43.3%	0 0.0%	21 31.3%	3 4.5%	1 1.5%	3 4.5%	1 1.5%	0 0.0%
40～49歳(n=77)	10 13.0%	17 22.1%	1 1.3%	37 48.1%	3 3.9%	4 5.2%	0 0.0%	2 2.6%	3 3.9%
50～59歳(n=87)	12 13.8%	17 19.5%	0 0.0%	34 39.1%	3 3.4%	5 5.7%	13 14.9%	2 2.3%	1 1.1%
60～69歳(n=129)	10 7.8%	48 37.2%	0 0.0%	26 20.2%	2 1.6%	24 18.6%	8 6.2%	4 3.1%	7 5.4%
70歳以上(n=181)	8 4.4%	63 34.8%	15 8.3%	13 7.2%	5 2.8%	25 13.8%	11 6.1%	26 14.4%	15 8.3%
男性(n=401)	83 20.7%	83 20.7%	22 5.5%	99 24.7%	10 2.5%	41 10.2%	22 5.5%	24 6.0%	17 4.2%
18～19歳(n=6)	1 16.7%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	1 7.7%	1 7.7%	2 15.4%	3 23.1%	1 7.7%	1 7.7%	1 7.7%	2 15.4%	1 7.7%
30～39歳(n=42)	10 23.8%	4 9.5%	1 2.4%	21 50.0%	2 4.8%	2 4.8%	0 0.0%	1 2.4%	1 2.4%
40～49歳(n=46)	12 26.1%	6 13.0%	1 2.2%	17 37.0%	1 2.2%	1 2.2%	0 0.0%	5 10.9%	3 6.5%
50～59歳(n=60)	20 33.3%	4 6.7%	2 3.3%	27 45.0%	1 1.7%	0 0.0%	4 6.7%	0 0.0%	2 3.3%
60～69歳(n=112)	24 21.4%	32 28.6%	6 5.4%	17 15.2%	2 1.8%	13 11.6%	11 9.8%	5 4.5%	2 1.8%
70歳以上(n=122)	15 12.3%	35 28.7%	8 6.6%	14 11.5%	3 2.5%	24 19.7%	5 4.1%	10 8.2%	8 6.6%

0.0% 上位1位

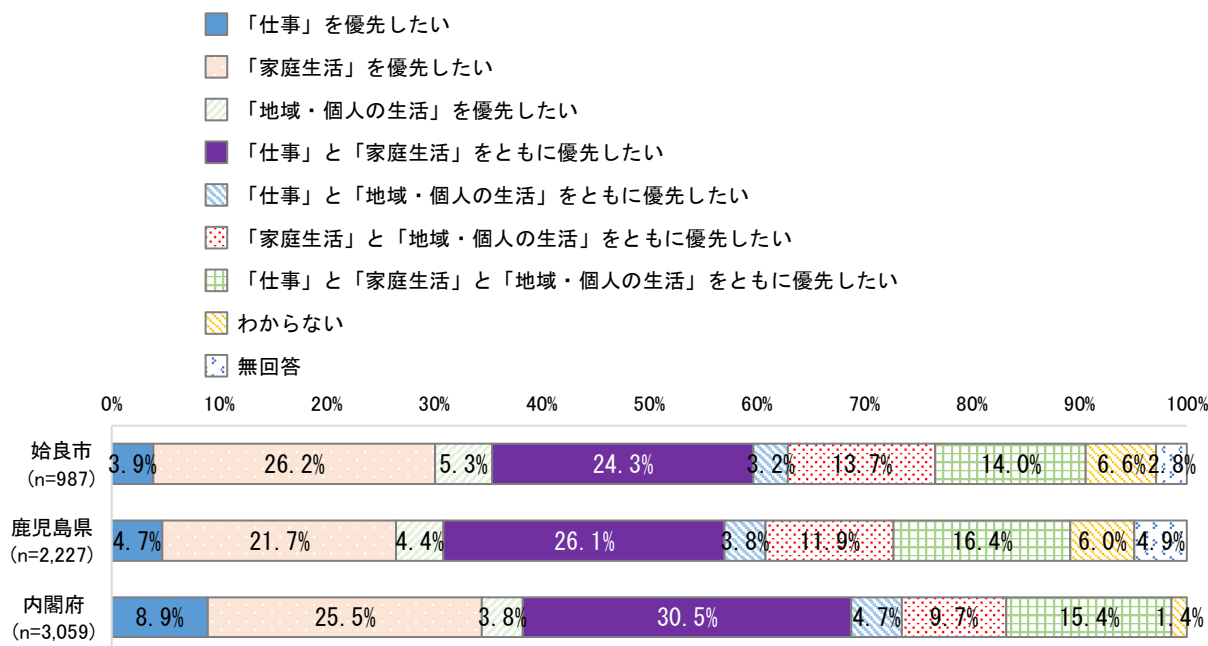
問 13 それでは、あなたの希望はどれに当てはまりますか。次の1～8の中から1つだけお選びください。

生活の中での優先度の「希望に最も近いもの」は、「家庭生活」を優先したい(26.2%)の割合が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい(24.3%)、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい(14.0%)となっている。

鹿児島県と比較して、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが1.8ポイント低い。

内閣府と比較して、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが6.2ポイント低い。

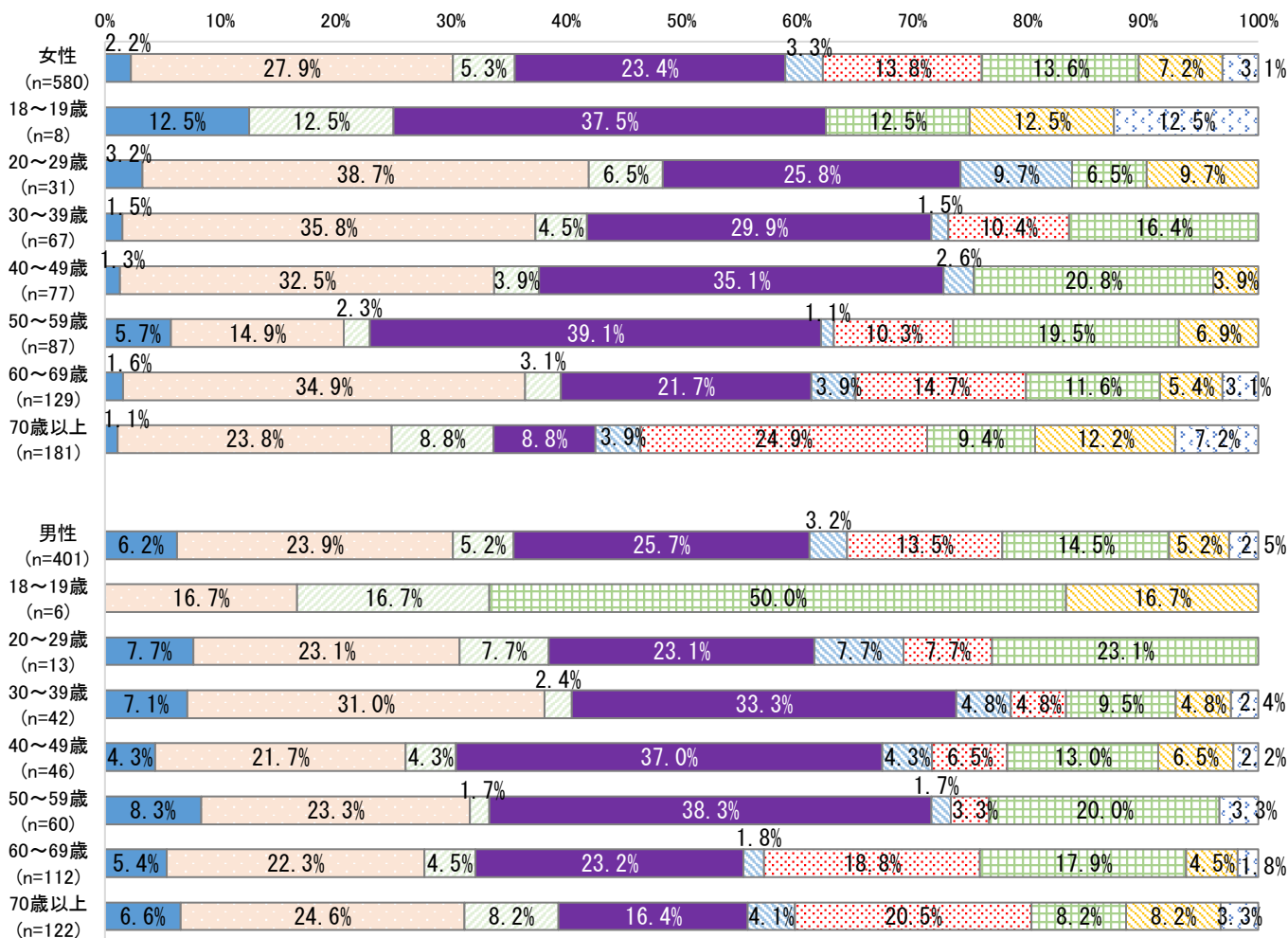
【希望の優先度(国・県比較)】



性別でみると、女性（27.9%）は「家庭生活」を優先したい、男性（25.7%）は「仕事」と「家庭生活」とともに優先したい」の割合が最も高くなっている。

性別・年代別でみると、女性の20歳代～40歳代、60歳代は「家庭生活」を優先したい」が最も高く、男性の20歳代～60歳代は「仕事」と「家庭生活」とともに優先したい」の割合が最も高くなっている。

【希望の優先度（性別・年代別比較）】



	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答
始良市(n=987)	38 3.9%	259 26.2%	52 5.3%	240 24.3%	32 3.2%	135 13.7%	138 14.0%	65 6.6%	28 2.8%
鹿児島県(n=2,227)	105 4.7%	484 21.7%	98 4.4%	582 26.1%	85 3.8%	265 11.9%	366 16.4%	133 6.0%	109 4.9%
内閣府(n=3,059)	8.9%	25.5%	3.8%	30.5%	4.7%	9.7%	15.4%	1.4%	
女性(n=580)	13 2.2%	162 27.9%	31 5.3%	136 23.4%	19 3.3%	80 13.8%	79 13.6%	42 7.2%	18 3.1%
18～19歳(n=8)	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	3 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%	1 12.5%
20～29歳(n=31)	1 3.2%	12 38.7%	2 6.5%	8 25.8%	3 9.7%	0 0.0%	2 6.5%	3 9.7%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	1 1.5%	24 35.8%	3 4.5%	20 29.9%	1 1.5%	7 10.4%	11 16.4%	0 0.0%	0 0.0%
40～49歳(n=77)	1 1.3%	25 32.5%	3 3.9%	27 35.1%	2 2.6%	0 0.0%	16 20.8%	3 3.9%	0 0.0%
50～59歳(n=87)	5 5.7%	13 14.9%	2 2.3%	34 39.1%	1 1.1%	9 10.3%	17 19.5%	6 6.9%	0 0.0%
60～69歳(n=129)	2 1.6%	45 34.9%	4 3.1%	28 21.7%	5 3.9%	19 14.7%	15 11.6%	7 5.4%	4 3.1%
70歳以上(n=181)	2 1.1%	43 23.8%	16 8.8%	16 8.8%	7 3.9%	45 24.9%	17 9.4%	22 12.2%	13 7.2%
男性(n=401)	25 6.2%	96 23.9%	21 5.2%	103 25.7%	13 3.2%	54 13.5%	58 14.5%	21 5.2%	10 2.5%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 50.0%	1 16.7%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	1 7.7%	3 23.1%	1 7.7%	3 23.1%	1 7.7%	1 7.7%	3 23.1%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	3 7.1%	13 31.0%	1 2.4%	14 33.3%	2 4.8%	2 4.8%	4 9.5%	2 4.8%	1 2.4%
40～49歳(n=46)	2 4.3%	10 21.7%	2 4.3%	17 37.0%	2 4.3%	3 6.5%	6 13.0%	3 6.5%	1 2.2%
50～59歳(n=60)	5 8.3%	14 23.3%	1 1.7%	23 38.3%	1 1.7%	2 3.3%	12 20.0%	0 0.0%	2 3.3%
60～69歳(n=112)	6 5.4%	25 22.3%	5 4.5%	26 23.2%	2 1.8%	21 18.8%	20 17.9%	5 4.5%	2 1.8%
70歳以上(n=122)	8 6.6%	30 24.6%	10 8.2%	20 16.4%	5 4.1%	25 20.5%	10 8.2%	10 8.2%	4 3.3%

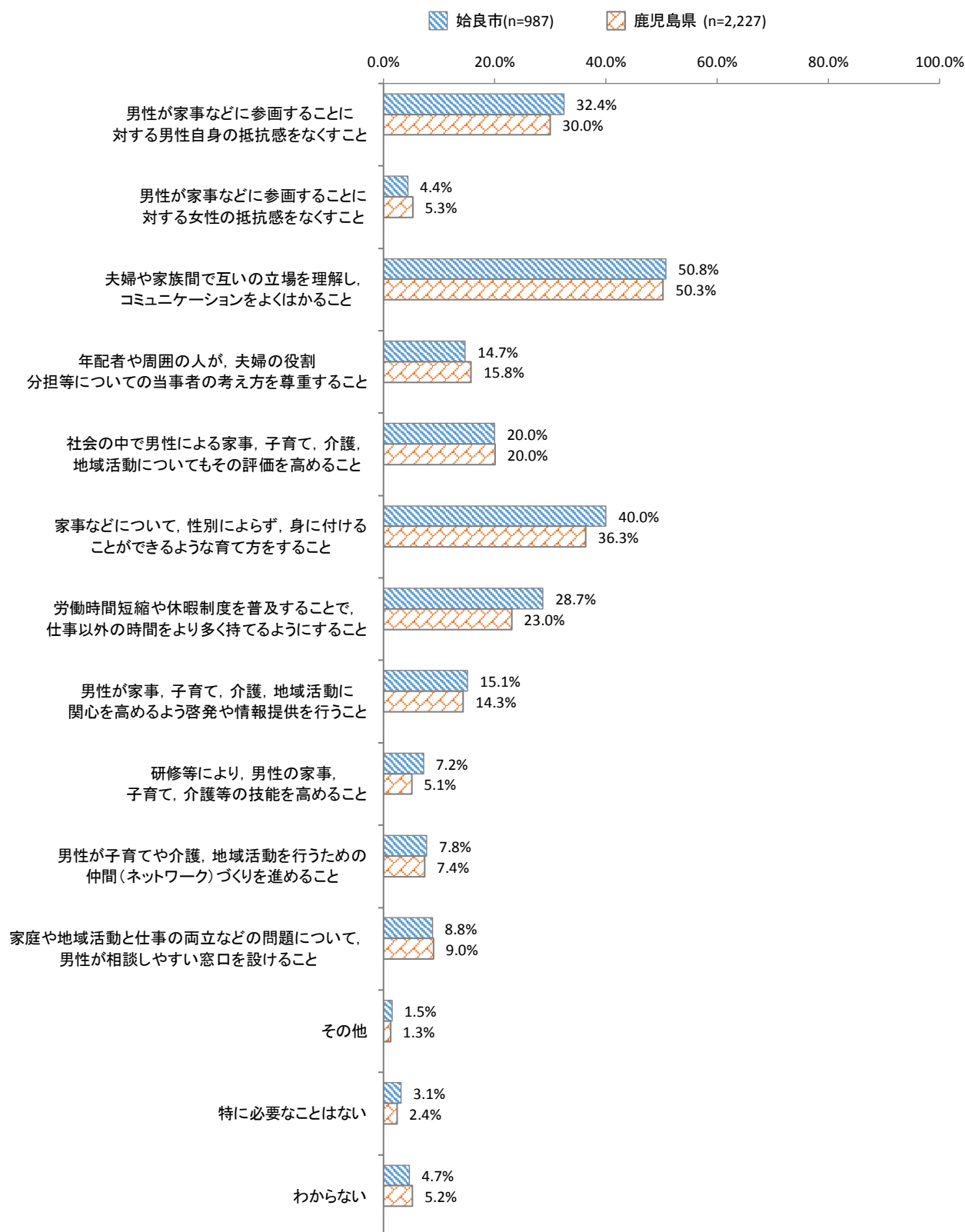
0.0% 上位1位

問 14 あなたは、今後、男性が女性とともに家事，子育て，介護，地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の1～14の中から3つ以内でお選びください。（複数回答）

地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて、「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること」（50.8%）の割合が最も高く、次いで「家事などについて、性別によらず、身に付けることができるような育て方をする事」（40.0%）、「男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（32.4%）となっている。

鹿児島県と比較して、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が5ポイント以上高くなっている。

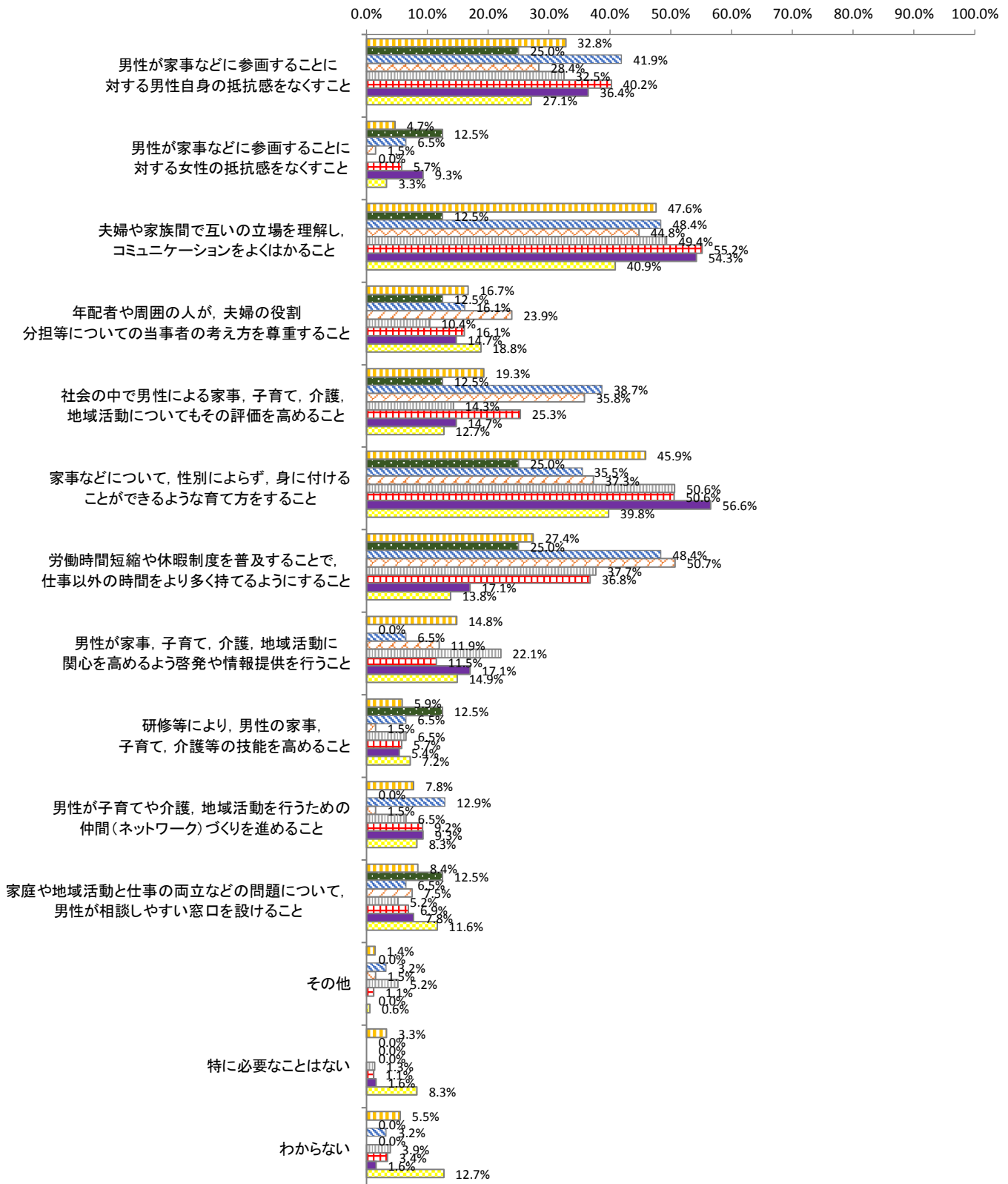
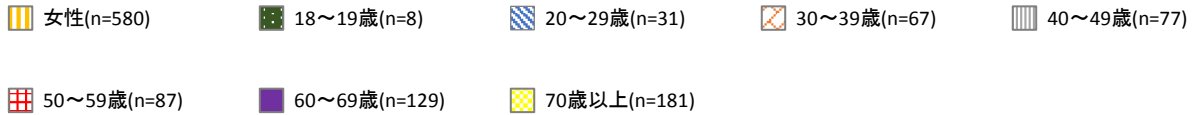
【男性が女性とともに家事などに積極的に参加するために必要なこと(県比較)】



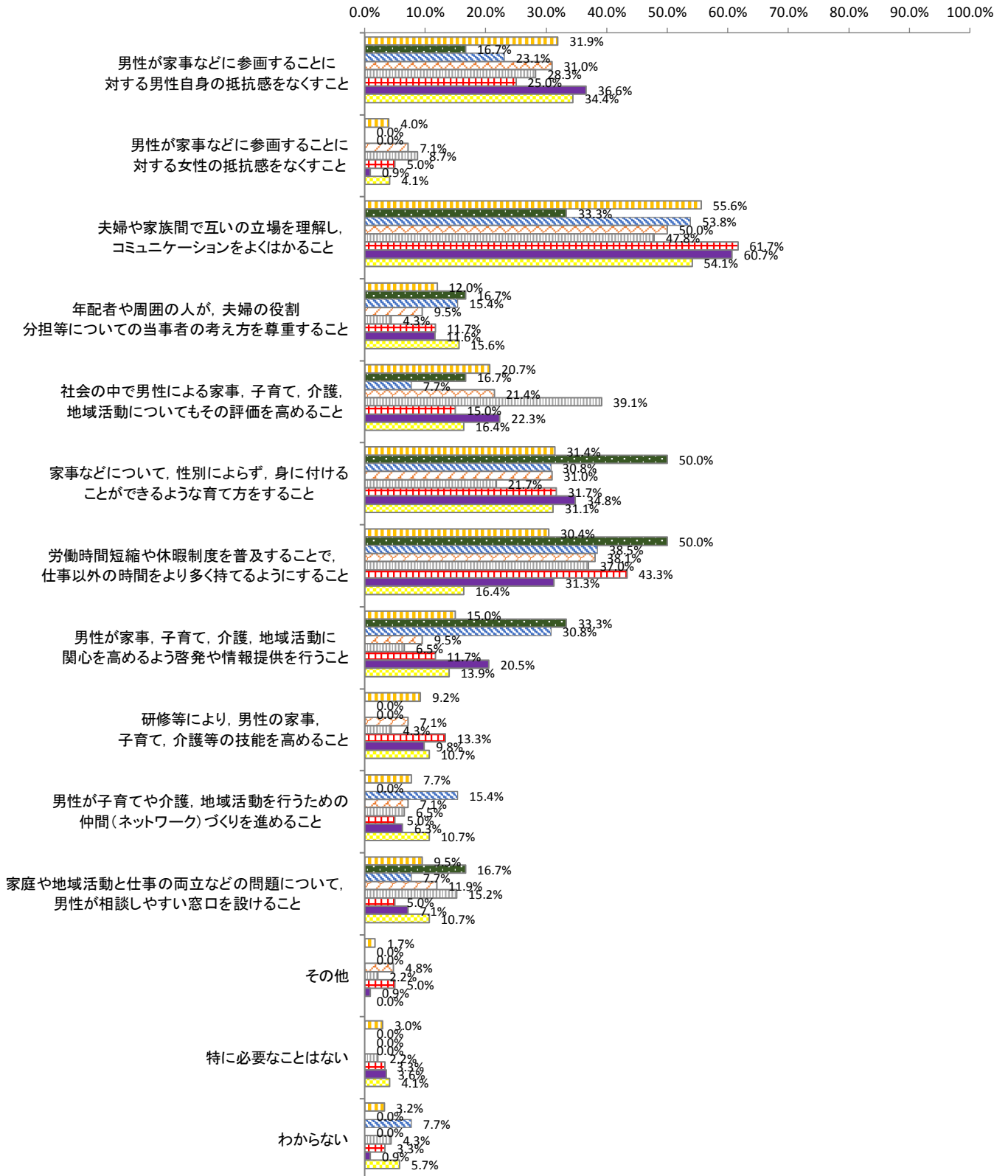
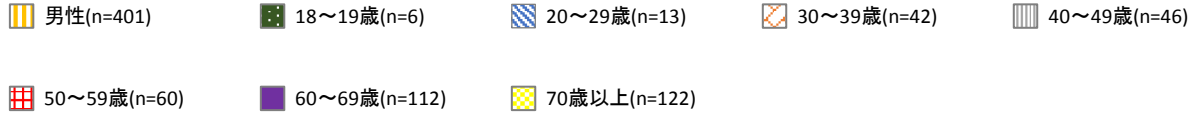
性別でみると、「家事などについて、性別によらず、身に付けることができるような育て方をする」と回答した割合は、女性（45.9%）が男性（31.4%）を14.5ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、女性・男性ともに「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること」と回答した割合が高い傾向にある。

【男性が女性とともに家事などに積極的に参加するために必要なこと(女性・年代別比較)】



【男性が女性とともに家事などに積極的に参加するために必要なこと(男性・年代別比較)】



	対する男性自身に抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参画すること	男性が家事などの抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること	年配者や周囲の人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で男性による家事、子育て、介護、地域活動についてもその評価を高めること	家事などについて、性別によらず、身に付けることができるよう子育て方をすること	労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	研修等により、男性の家事、子育て、介護等の技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進めること	男性が子育てや介護、地域活動の問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやうい窓口を設けること	その他	特に必要なことはない	わからない
始良市(n=987)	320 32.4%	43 4.4%	47 50.8%	145 14.7%	197 20.0%	395 40.0%	283 28.7%	149 15.1%	71 7.2%	77 7.8%	87 8.8%	15 1.5%	31 3.1%	46 4.7%		
鹿児島県 (n=2,227)	667 30.0%	117 5.3%	1,120 50.3%	351 15.8%	446 20.0%	809 36.3%	513 23.0%	319 14.3%	113 5.1%	165 7.4%	201 9.0%	28 1.3%	54 2.4%	116 5.2%		
女性(n=580)	190 32.8%	27 4.7%	276 47.6%	97 16.7%	112 19.3%	266 45.9%	159 27.4%	86 14.8%	34 5.9%	45 7.8%	49 8.4%	8 1.4%	19 3.3%	32 5.5%		
18～19歳(n=8)	2 25.0%	1 12.5%	1 12.5%	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%	2 25.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%		
20～29歳(n=31)	13 41.9%	2 6.5%	15 48.4%	5 16.1%	12 38.7%	11 35.5%	15 48.4%	2 6.5%	2 6.5%	4 12.9%	2 6.5%	1 3.2%	0 0.0%	1 3.2%		
30～39歳(n=67)	19 28.4%	1 1.5%	30 44.8%	16 23.9%	24 35.8%	25 37.3%	34 50.7%	8 11.9%	1 1.5%	1 1.5%	5 7.5%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%		
40～49歳(n=77)	25 32.5%	0 0.0%	38 49.4%	8 10.4%	11 14.3%	39 50.6%	29 37.7%	17 22.1%	5 6.5%	5 6.5%	4 5.2%	4 5.2%	1 1.3%	3 3.9%		
50～59歳(n=87)	35 40.2%	5 5.7%	48 55.2%	14 16.1%	22 25.3%	44 50.6%	32 36.8%	10 11.5%	5 5.7%	8 9.2%	6 6.9%	1 1.1%	1 1.1%	3 3.4%		
60～69歳(n=129)	47 36.4%	12 9.3%	70 54.3%	19 14.7%	19 14.7%	73 56.6%	22 17.1%	22 17.1%	7 5.4%	12 9.3%	10 7.8%	0 0.0%	2 1.6%	2 1.6%		
70歳以上(n=181)	49 27.1%	6 3.3%	74 40.9%	34 18.8%	23 12.7%	72 39.8%	25 13.8%	27 14.9%	13 7.2%	15 8.3%	21 11.6%	1 0.6%	15 8.3%	23 12.7%		
男性(n=401)	128 31.9%	16 4.0%	223 55.6%	48 12.0%	83 20.7%	126 31.4%	122 30.4%	60 15.0%	37 9.2%	31 7.7%	38 9.5%	7 1.7%	12 3.0%	13 3.2%		
18～19歳(n=6)	1 16.7%	0 0.0%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	3 50.0%	3 50.0%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%		
20～29歳(n=13)	3 23.1%	0 0.0%	7 53.8%	2 15.4%	1 7.7%	4 30.8%	5 38.5%	4 30.8%	0 0.0%	2 15.4%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%		
30～39歳(n=42)	13 31.0%	3 7.1%	21 50.0%	4 9.5%	9 21.4%	13 31.0%	16 38.1%	4 9.5%	3 7.1%	3 7.1%	5 11.9%	2 4.8%	0 0.0%	0 0.0%		
40～49歳(n=46)	13 28.3%	4 8.7%	22 47.8%	2 4.3%	18 39.1%	10 21.7%	17 37.0%	3 6.5%	2 4.3%	3 6.5%	7 15.2%	1 2.2%	1 2.2%	2 4.3%		
50～59歳(n=60)	15 25.0%	3 5.0%	37 61.7%	7 11.7%	9 15.0%	19 31.7%	26 43.3%	7 11.7%	8 13.3%	3 5.0%	3 5.0%	3 5.0%	2 3.3%	2 3.3%		
60～69歳(n=112)	41 36.6%	1 0.9%	68 60.7%	13 11.6%	25 22.3%	39 34.8%	35 31.3%	23 20.5%	11 9.8%	7 6.3%	8 7.1%	1 0.9%	4 3.6%	1 0.9%		
70歳以上(n=122)	42 34.4%	5 4.1%	66 54.1%	19 15.6%	20 16.4%	38 31.1%	20 16.4%	17 13.9%	13 10.7%	13 10.7%	13 10.7%	0 0.0%	5 4.1%	7 5.7%		

0.0% 上位1位

※主なその他回答

- 男性は働く。女性は家庭を守る。この考え方をやめるべき。男女平等。これもやめるべき。
- 男性が家計を支えないといけないという考えをなくし共働きが当然と考える状況 長勤をなくさないといけない
- 見本になる男性が多くなること。当たり前のことだけど、やらないことは人としてダメという感覚をもつ
- 給料低下か家が大事かとそしられることが多い現代では、実現してほしいことが、現実出来ないのが現実では？無理なのでは？
- 男性の仕事による、会社、職種、休み、活動につながらない社会
- 家事・子育て介護・地域活動をして、金銭的儲けは出ないので男性はやりたがらない（価値がない）と思っていると思う。
- 高齢者だけでなく今まで経験のない男だけの家事のヘルパーがいれば助かるのでは。
- 職場の上司が積極的に福利を利用して、家事・子育てに参加し、休日を取りやすい風土を作り、部下も休みを取りやすいようにする。
- 家庭で介護、看取をしている者には介護保険料を0にせよ
- 男性が家事、子育てを行う事に対する職場の理解
- 社会全体の考え方を変えるべき

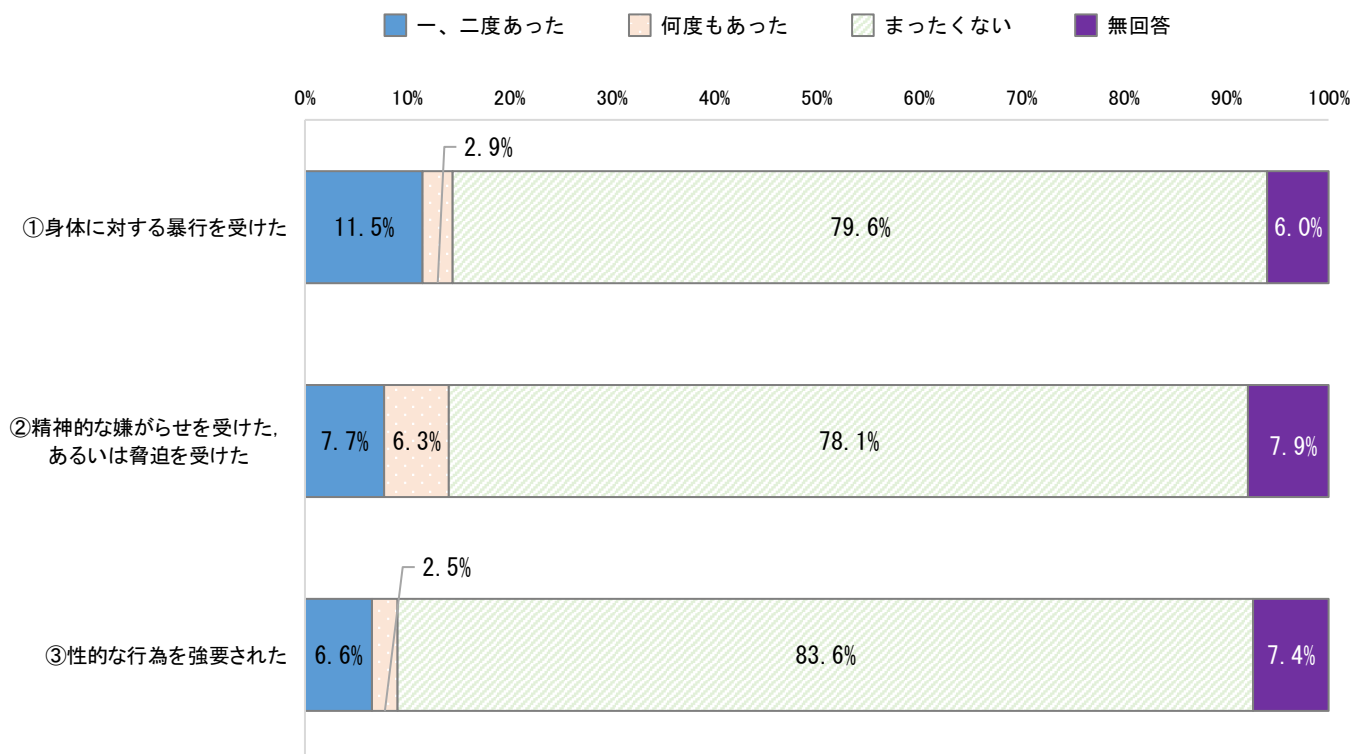
V 男女の人権について

【F3で「1 結婚している」「2 離別・死別」と回答された方にお尋ねします。それ以外の方は、問16へお進みください。】

問15 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。ここで「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。次の①～③のそれぞれについて、右欄の1～3の中からあてはまる番号を1つずつお選びください。

あなたの配偶者からされたことについて、「あった（「何度もあった」＋「一、二度あった」）」とする割合は「身体に対する暴行を受けた」では14.4%、「精神的な嫌がらせを受けた、あるいは脅迫を受けた」では14.0%、「性的な行為を強要された」では9.1%となっている。

【配偶者から暴行を受けたことがあるか】



あった（「一、二度あった」＋「何度もあった」）と回答した割合【男女比】

すべての項目において女性の方が男性より割合が高くなっている。

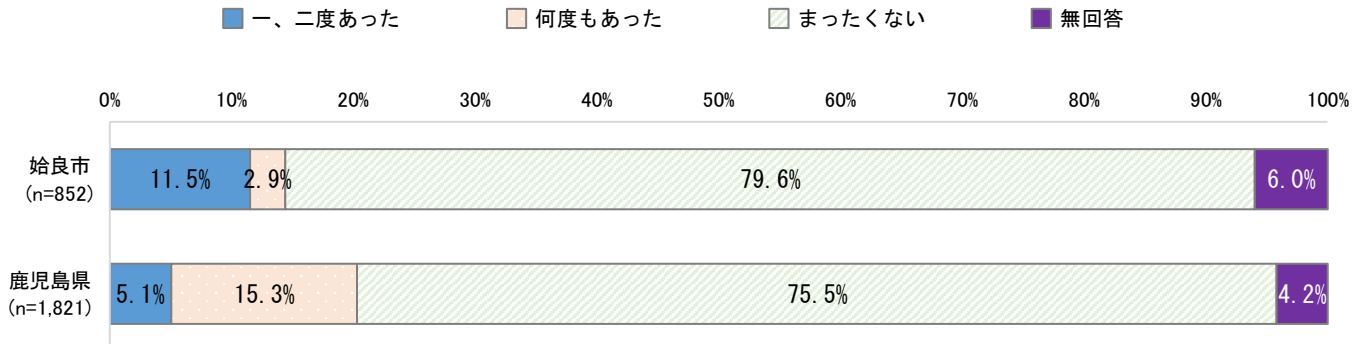
	始良市		
	全体	女性	男性
①身体に対する暴行を受けた	14.4%	17.5%	9.5%
②精神的な嫌がらせを受けた、あるいは脅迫を受けた	14.1%	15.8%	11.6%
③性的な行為を強要された	9.0%	13.0%	3.2%

①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けたについて、「何度もあった」が11.5%、「一、二度あった」が2.9%、「まったくない」が79.6%となっている。

鹿児島県と比較して、「何どもあった」「一、二度あった」とする割合は6ポイント低くなっている。

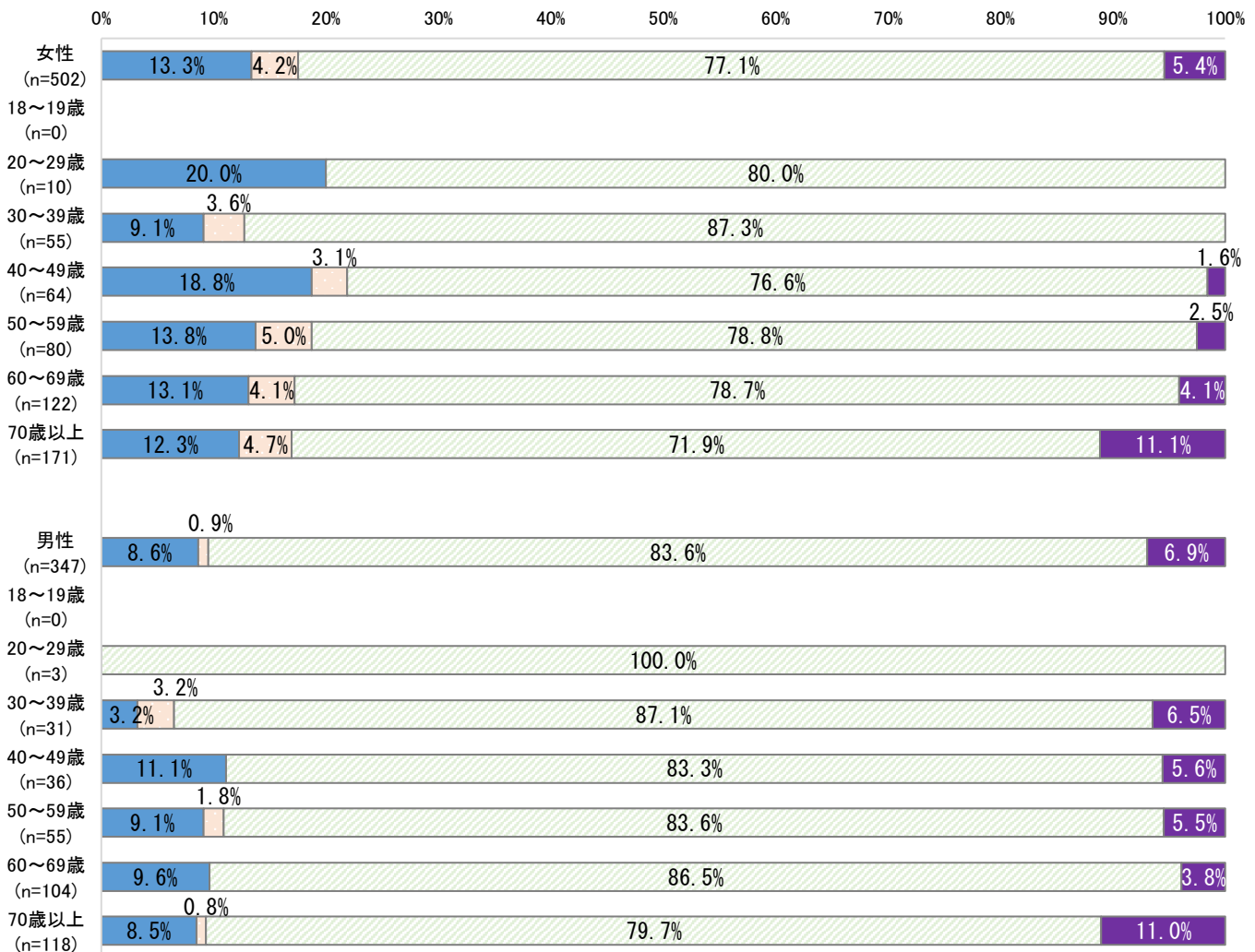
【身体に対する暴行(県比較)】



性別でみると、身体に対する暴行が「あった（「一、二度あった」＋「何どもあった」）」とする割合は、女性（17.5%）が男性（9.5%）を8ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、女性・男性ともに30歳代において、身体に対する暴行が「あった（「一、二度あった」＋「何どもあった」）」とする割合は、他の年代と比較し、低くなっている。

【身体に対する暴行(性別・年代別比較)】



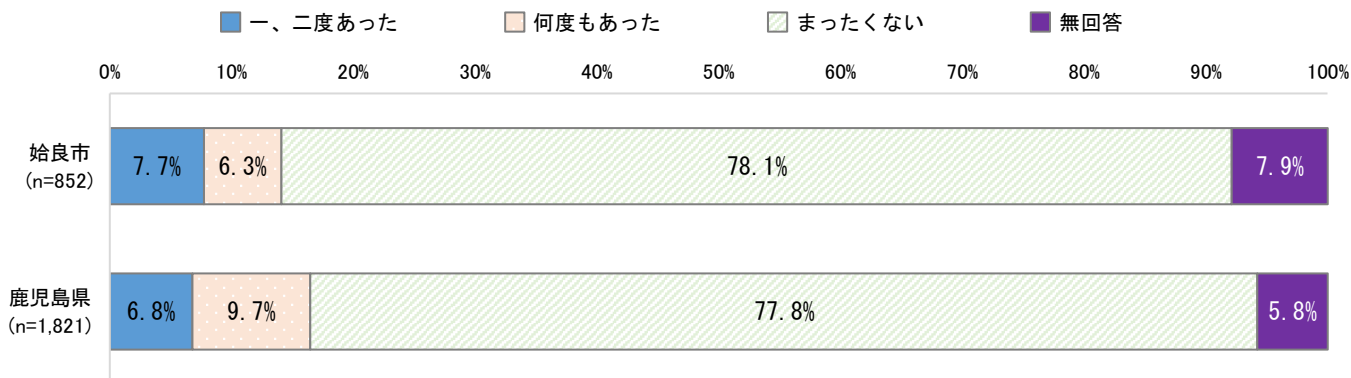
	一、二度あった	何度もあった	まったくない	無回答
始良市(n=852)	98 11.5%	25 2.9%	678 79.6%	51 6.0%
鹿児島県(n=1,821)	92 5.1%	278 15.3%	1375 75.5%	76 4.2%
女性(n=502)	67 13.3%	21 4.2%	387 77.1%	27 5.4%
18～19歳(n=0)	-	-	-	-
20～29歳(n=10)	2 20.0%	0 0.0%	8 80.0%	0 0.0%
30～39歳(n=55)	5 9.1%	2 3.6%	48 87.3%	0 0.0%
40～49歳(n=64)	12 18.8%	2 3.1%	49 76.6%	1 1.6%
50～59歳(n=80)	11 13.8%	4 5.0%	63 78.8%	2 2.5%
60～69歳(n=122)	16 13.1%	5 4.1%	96 78.7%	5 4.1%
70歳以上(n=171)	21 12.3%	8 4.7%	123 71.9%	19 11.1%
男性(n=347)	30 8.6%	3 0.9%	290 83.6%	24 6.9%
18～19歳(n=0)	-	-	-	-
20～29歳(n=3)	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%
30～39歳(n=31)	1 3.2%	1 3.2%	27 87.1%	2 6.5%
40～49歳(n=36)	4 11.1%	0 0.0%	30 83.3%	2 5.6%
50～59歳(n=55)	5 9.1%	1 1.8%	46 83.6%	3 5.5%
60～69歳(n=104)	10 9.6%	0 0.0%	90 86.5%	4 3.8%
70歳以上(n=118)	10 8.5%	1 0.8%	94 79.7%	13 11.0%

0.0% 上位1位

② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けたについて、「何度もあった」が7.7%、「一、二度あった」が6.3%、「まったくない」が78.1%となっている。鹿児島県と比較して、大きな差はみられなかった。

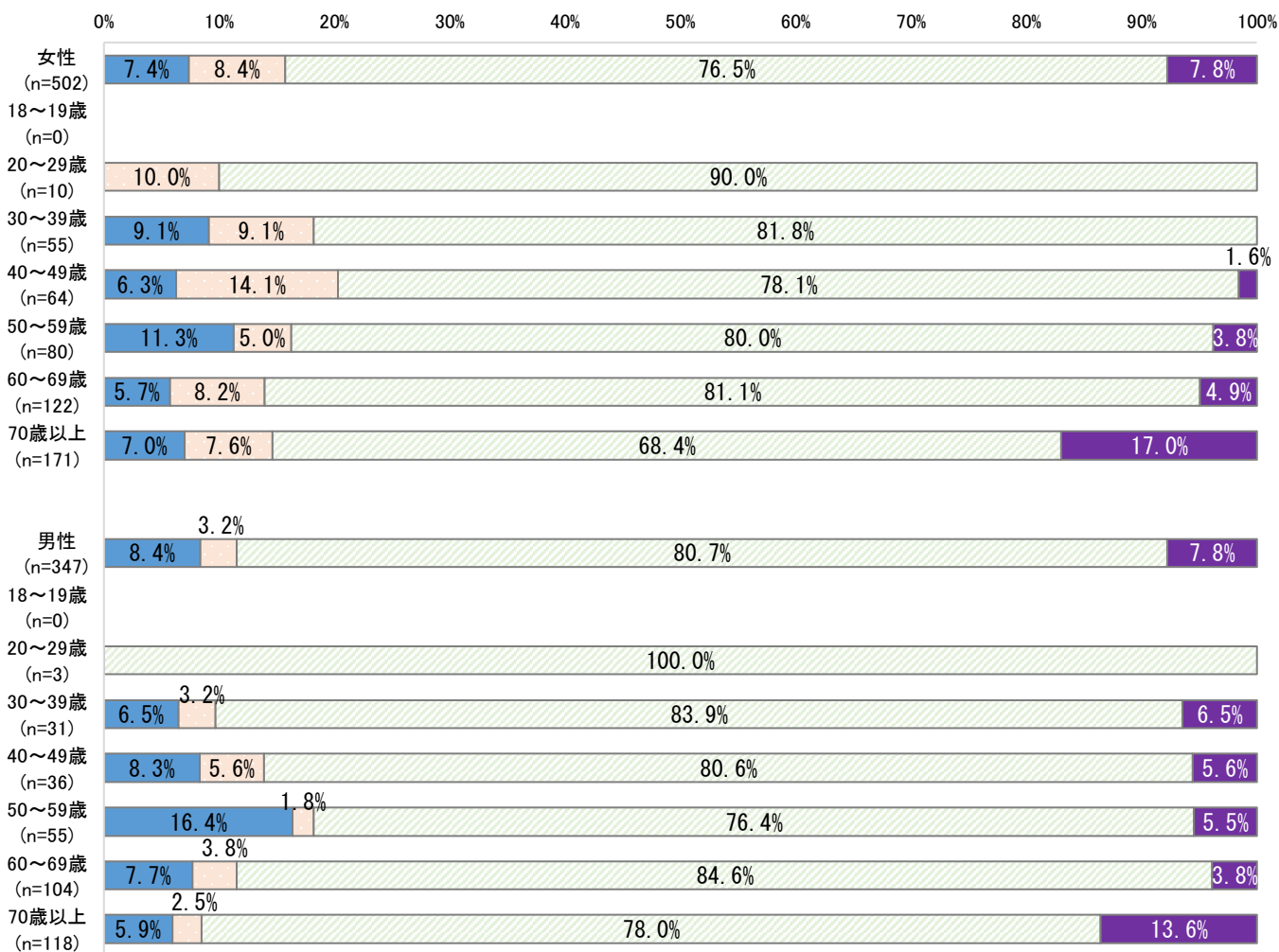
【精神的な嫌がらせ(県比較)】



性別でみると、精神的な嫌がらせ・脅迫が「あった（「一、二度あった」＋「何度もあった」）とする割合は、女性（15.8%）が男性（11.6%）を4.2ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、精神的な嫌がらせ・脅迫が「あった（「一、二度あった」＋「何度もあった」）とする割合は、女性では40歳代、男性では50歳代の割合が、他の年代と比較し、高くなっている。

【精神的な嫌がらせ(性別・年代別比較)】



	一、二度あった	何度もあった	まったくくない	無回答
始良市(n=852)	66 7.7%	54 6.3%	665 78.1%	67 7.9%
鹿児島県(n=1,821)	124 6.8%	176 9.7%	1416 77.8%	105 5.8%
女性(n=502)	37 7.4%	42 8.4%	384 76.5%	39 7.8%
18～19歳(n=0)	-	-	-	-
20～29歳(n=10)	0 0.0%	1 10.0%	9 90.0%	0 0.0%
30～39歳(n=55)	5 9.1%	5 9.1%	45 81.8%	0 0.0%
40～49歳(n=64)	4 6.3%	9 14.1%	50 78.1%	1 1.6%
50～59歳(n=80)	9 11.3%	4 5.0%	64 80.0%	3 3.8%
60～69歳(n=122)	7 5.7%	10 8.2%	99 81.1%	6 4.9%
70歳以上(n=171)	12 7.0%	13 7.6%	117 68.4%	29 17.0%
男性(n=347)	29 8.4%	11 3.2%	280 80.7%	27 7.8%
18～19歳(n=0)	-	-	-	-
20～29歳(n=3)	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%
30～39歳(n=31)	2 6.5%	1 3.2%	26 83.9%	2 6.5%
40～49歳(n=36)	3 8.3%	2 5.6%	29 80.6%	2 5.6%
50～59歳(n=55)	9 16.4%	1 1.8%	42 76.4%	3 5.5%
60～69歳(n=104)	8 7.7%	4 3.8%	88 84.6%	4 3.8%
70歳以上(n=118)	7 5.9%	3 2.5%	92 78.0%	16 13.6%

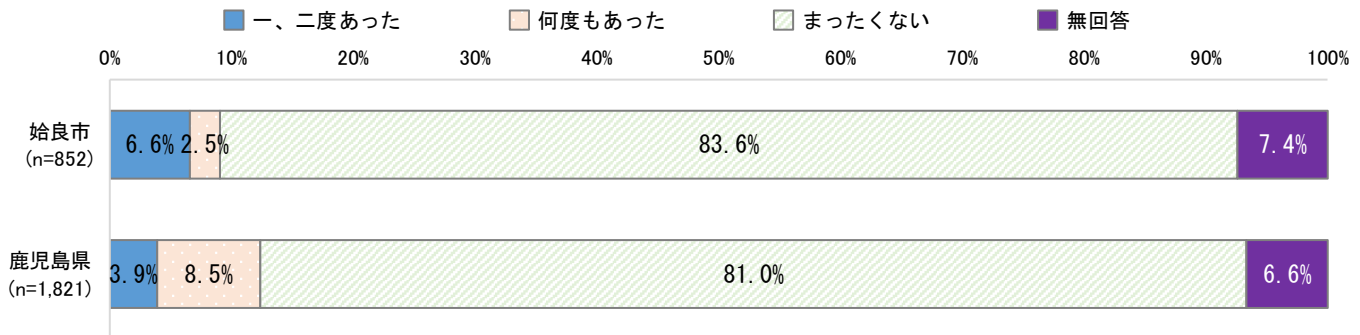
0.0% 上位1位

③いやがっているのに性的な行為を強要された

いやがっているのに性的な行為を強要されたについて、「何度もあった」が6.6%、「一、二度あった」が2.5%、「まったくない」が83.6%となっている。

鹿児島県と比較して、「一、二度あった」の割合が2.7ポイント高く、「何どもあった」の割合が6ポイント低い。

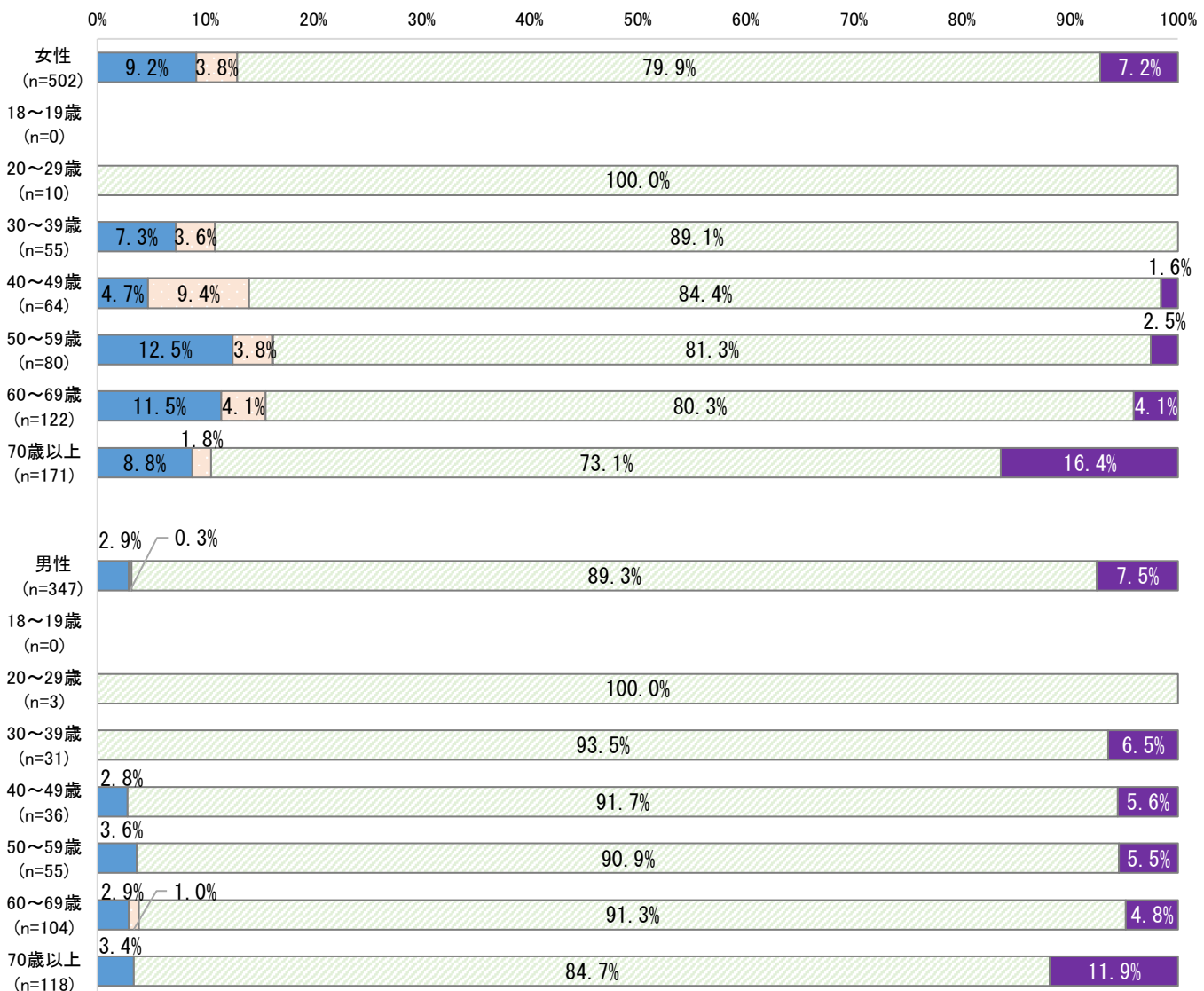
【性的な行為の強要(県比較)】



性別でみると、性的な行為の強要が「あった（「一、二度あった」＋「何どもあった」）とする割合は、女性（13.0%）が男性（3.2%）を9.8ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、女性の50歳代、60歳代の「あった（「一、二度あった」＋「何どもあった」）割合が高く、女性の40歳代については「何どもあった」と回答した割合が高くなっている。

【性的な行為の強要(性別・年代別比較)】



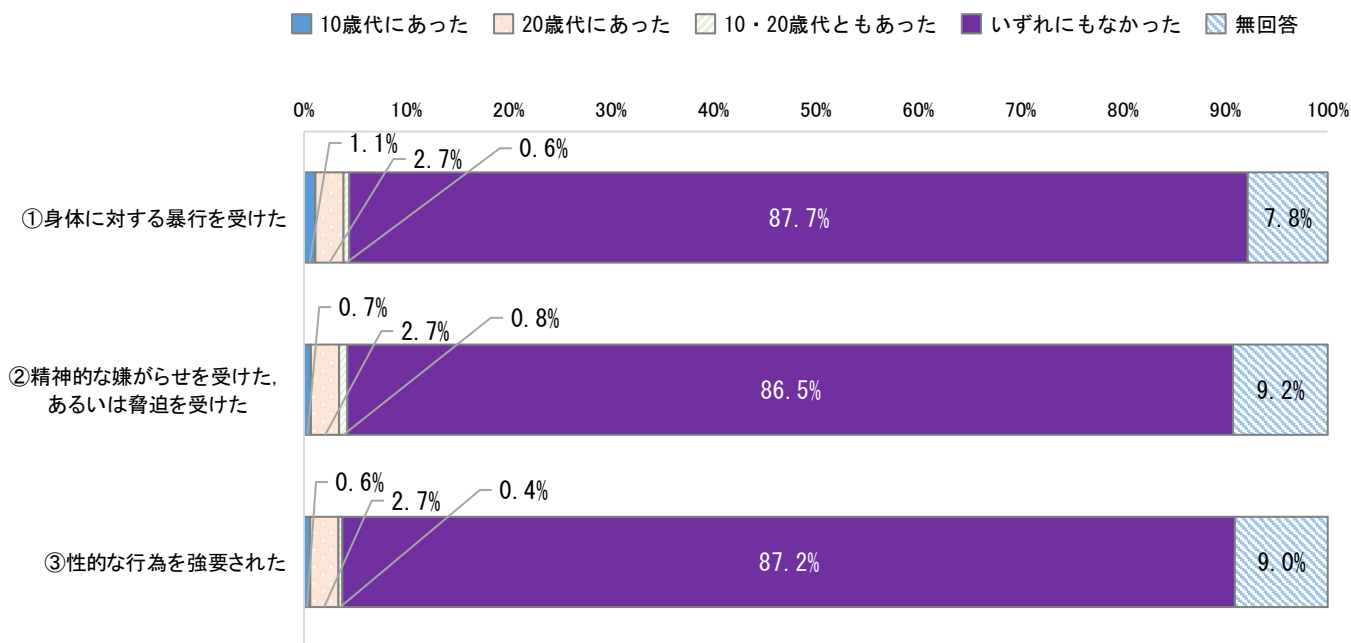
	一、二度あった	何度もあった	まったくない	無回答
始良市(n=852)	56 6.6%	21 2.5%	712 83.6%	63 7.4%
鹿児島県(n=1,821)	71 3.9%	154 8.5%	1475 81.0%	121 6.6%
女性(n=502)	46 9.2%	19 3.8%	401 79.9%	36 7.2%
18～19歳(n=0)	-	-	-	-
20～29歳(n=10)	0 0.0%	0 0.0%	10 100.0%	0 0.0%
30～39歳(n=55)	4 7.3%	2 3.6%	49 89.1%	0 0.0%
40～49歳(n=64)	3 4.7%	6 9.4%	54 84.4%	1 1.6%
50～59歳(n=80)	10 12.5%	3 3.8%	65 81.3%	2 2.5%
60～69歳(n=122)	14 11.5%	5 4.1%	98 80.3%	5 4.1%
70歳以上(n=171)	15 8.8%	3 1.8%	125 73.1%	28 16.4%
男性(n=347)	10 2.9%	1 0.3%	310 89.3%	26 7.5%
18～19歳(n=0)	-	-	-	-
20～29歳(n=3)	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%
30～39歳(n=31)	0 0.0%	0 0.0%	29 93.5%	2 6.5%
40～49歳(n=36)	1 2.8%	0 0.0%	33 91.7%	2 5.6%
50～59歳(n=55)	2 3.6%	0 0.0%	50 90.9%	3 5.5%
60～69歳(n=104)	3 2.9%	1 1.0%	95 91.3%	5 4.8%
70歳以上(n=118)	4 3.4%	0 0.0%	100 84.7%	14 11.9%

0.0% 上位1位

問 16 あなたは、10 歳代又は 20 歳代に、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。次の①～③のそれぞれについて、右欄の 1～4 の中からあてはまる番号を 1 つずつお選びください。

あなたの恋人や元恋人などの交際相手からされたことについて、「あった（「10 歳代にあった」＋「20 歳代にあった」＋「10・20 歳代ともあった）」とする割合は「身体に対する暴行を受けた」では 4.4%、「精神的な嫌がらせを受けた、あるいは脅迫を受けた」では 4.2%、「性的な行為を強要された」では 3.7%となっている。

【交際相手から暴力を受けたことがあるか】



あった（「10 歳代に合った」＋「20 歳代にあった」＋「10・20 歳代ともあった」）と回答した割合【男女比】

すべての項目において女性の方が男性より割合が高くなっている。

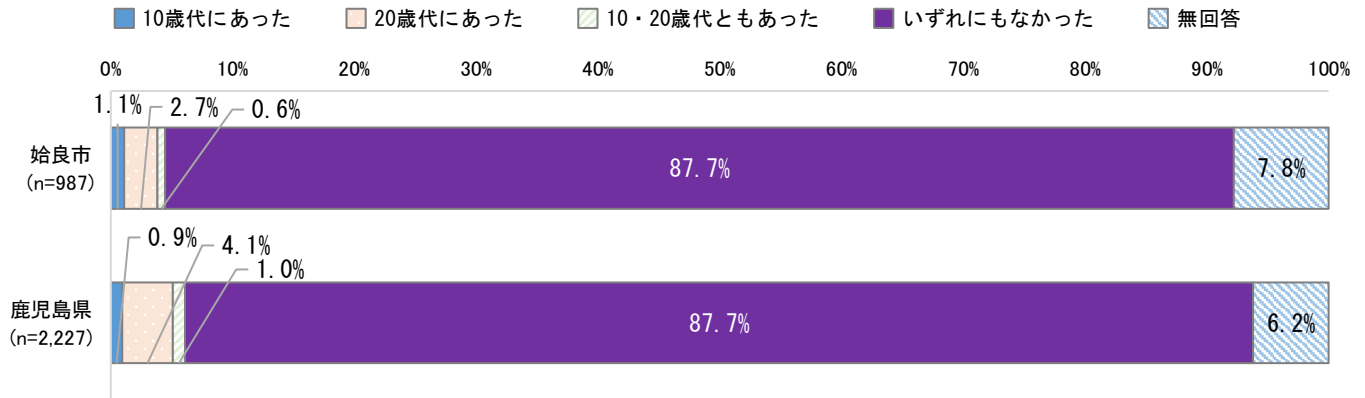
	始良市		
	全体	女性	男性
①身体に対する暴行を受けた	4.4%	5.9%	2.2%
②精神的な嫌がらせを受けた、あるいは脅迫を受けた	4.2%	5.0%	3.0%
③性的な行為を強要された	3.7%	5.3%	1.2%

①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けたについて、「10歳代にあった」が1.1%、「20歳代にあった」が2.7%、「10・20歳代ともあった」が0.6%、「いずれにもなかった」が87.7%となっている。

鹿児島県と比較して、大きな差はなかった。

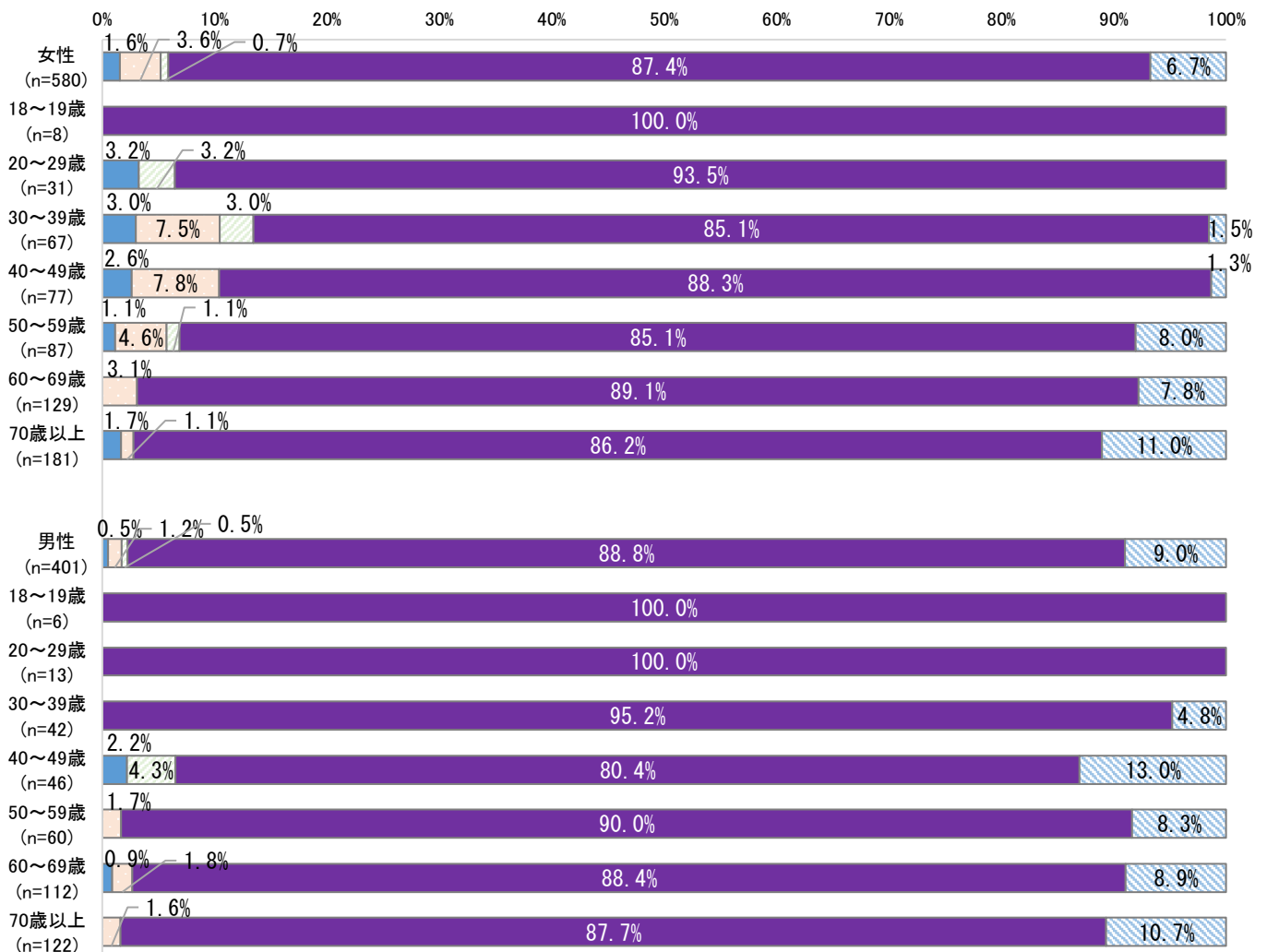
【身体に対する暴行(県比較)】



性別でみると、身体に対する暴行が「あった(「10歳代に合った」+「20歳代にあった」+「10・20歳代ともあった」)」とする割合は、女性(5.9%)が男性(2.2%)を3.7ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、女性の30歳代、40歳代、男性の40歳代において、身体に対する暴行が「あった(「10歳代に合った」+「20歳代にあった」+「10・20歳代ともあった」)」とする割合は、他の年代と比較し、高くなっている。

【身体に対する暴行(性別・年代別比較)】



	10歳代にあった	20歳代にあった	10・20歳代ともあった	いずれにもなかった	無回答
始良市(n=987)	11 1.1%	27 2.7%	6 0.6%	866 87.7%	77 7.8%
鹿児島県(n=2,227)	21 0.9%	92 4.1%	23 1.0%	1953 87.7%	138 6.2%
女性(n=580)	9 1.6%	21 3.6%	4 0.7%	507 87.4%	39 6.7%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	1 3.2%	0 0.0%	1 3.2%	29 93.5%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	2 3.0%	5 7.5%	2 3.0%	57 85.1%	1 1.5%
40～49歳(n=77)	2 2.6%	6 7.8%	0 0.0%	68 88.3%	1 1.3%
50～59歳(n=87)	1 1.1%	4 4.6%	1 1.1%	74 85.1%	7 8.0%
60～69歳(n=129)	0 0.0%	4 3.1%	0 0.0%	115 89.1%	10 7.8%
70歳以上(n=181)	3 1.7%	2 1.1%	0 0.0%	156 86.2%	20 11.0%
男性(n=401)	2 0.5%	5 1.2%	2 0.5%	356 88.8%	36 9.0%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 100.0%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	40 95.2%	2 4.8%
40～49歳(n=46)	1 2.2%	0 0.0%	2 4.3%	37 80.4%	6 13.0%
50～59歳(n=60)	0 0.0%	1 1.7%	0 0.0%	54 90.0%	5 8.3%
60～69歳(n=112)	1 0.9%	2 1.8%	0 0.0%	99 88.4%	10 8.9%
70歳以上(n=122)	0 0.0%	2 1.6%	0 0.0%	107 87.7%	13 10.7%

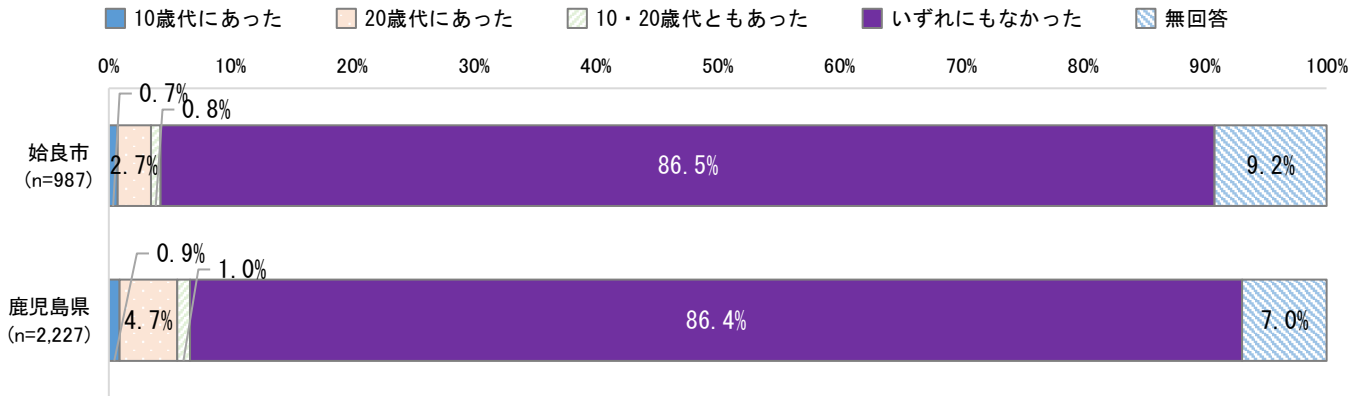
0.0% 上位1位

② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けたについて、「10 歳代にあった」が 0.7%、「20 歳代にあった」が 2.7%、「10・20 歳代ともあった」が 0.8%、「いずれにもなかった」が 86.5%となっている。

鹿児島県と比較して、大きな差はなかった。

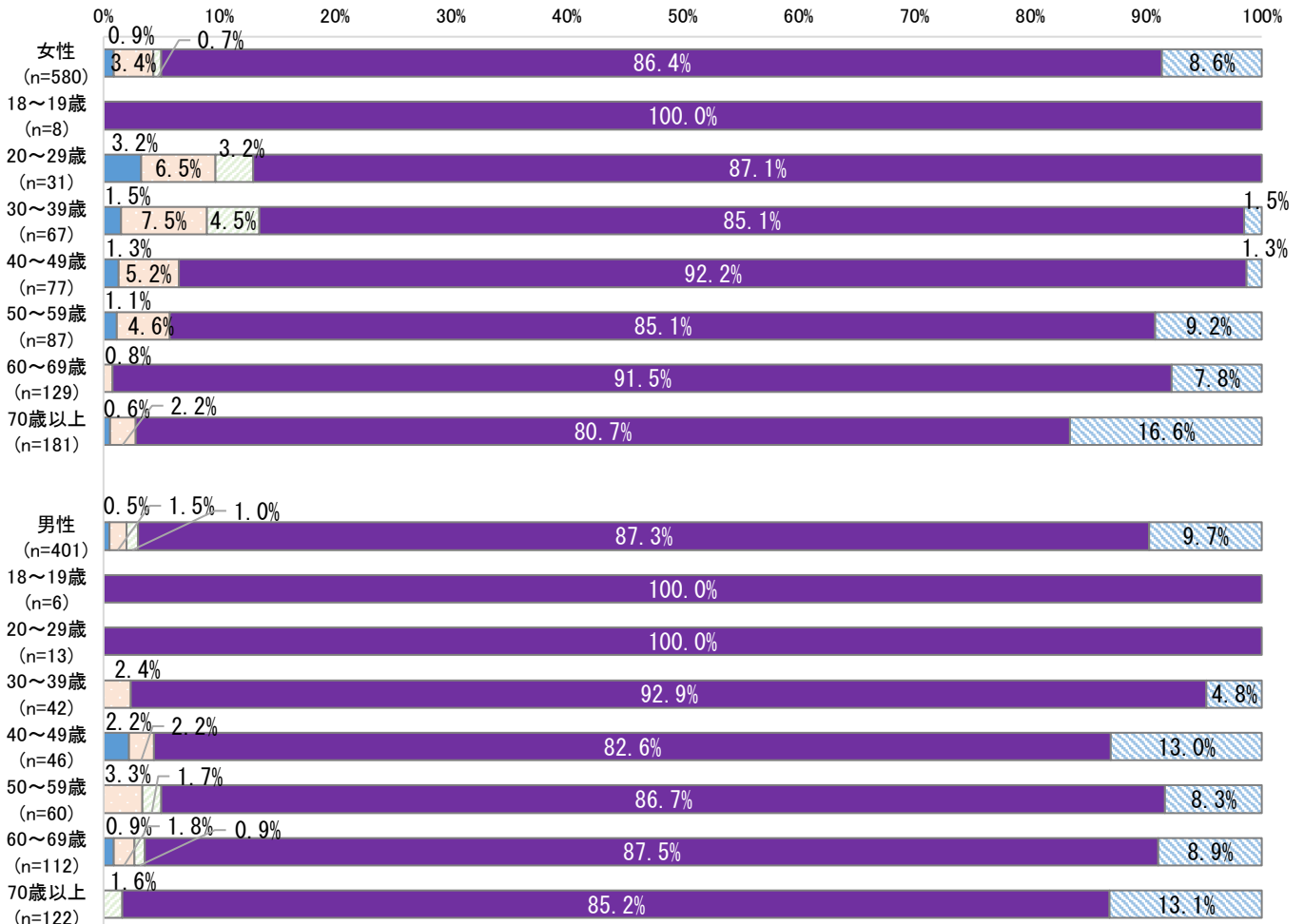
【精神的な嫌がらせ(県比較)】



性別でみると、精神的嫌がらせ・脅迫が「あった（「10 歳代に合った」+「20 歳代にあった」+「10・20 歳代ともあった）」とする割合は、女性（5.0%）が男性（3.0%）を 2.0 ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、女性の 20 歳代から 30 歳代において、精神的嫌がらせ・脅迫が「あった（「10 歳代に合った」+「20 歳代にあった」+「10・20 歳代ともあった）」とする割合は、他の年代と比較し、高くなっている。特に「10・20 歳代ともあった」の割合が高くなっている。

【精神的な嫌がらせ(性別・年代別比較)】



	10歳代にあった	20歳代にあった	10・20歳代ともあった	いずれにもなかった	無回答
始良市(n=987)	7 0.7%	27 2.7%	8 0.8%	854 86.5%	91 9.2%
鹿児島県(n=2,227)	20 0.9%	105 4.7%	23 1.0%	1924 86.4%	155 7.0%
女性(n=580)	5 0.9%	20 3.4%	4 0.7%	501 86.4%	50 8.6%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	1 3.2%	2 6.5%	1 3.2%	27 87.1%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	1 1.5%	5 7.5%	3 4.5%	57 85.1%	1 1.5%
40～49歳(n=77)	1 1.3%	4 5.2%	0 0.0%	71 92.2%	1 1.3%
50～59歳(n=87)	1 1.1%	4 4.6%	0 0.0%	74 85.1%	8 9.2%
60～69歳(n=129)	0 0.0%	1 0.8%	0 0.0%	118 91.5%	10 7.8%
70歳以上(n=181)	1 0.6%	4 2.2%	0 0.0%	146 80.7%	30 16.6%
男性(n=401)	2 0.5%	6 1.5%	4 1.0%	350 87.3%	39 9.7%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 100.0%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	39 92.9%	2 4.8%
40～49歳(n=46)	1 2.2%	1 2.2%	0 0.0%	38 82.6%	6 13.0%
50～59歳(n=60)	0 0.0%	2 3.3%	1 1.7%	52 86.7%	5 8.3%
60～69歳(n=112)	1 0.9%	2 1.8%	1 0.9%	98 87.5%	10 8.9%
70歳以上(n=122)	0 0.0%	0 0.0%	2 1.6%	104 85.2%	16 13.1%

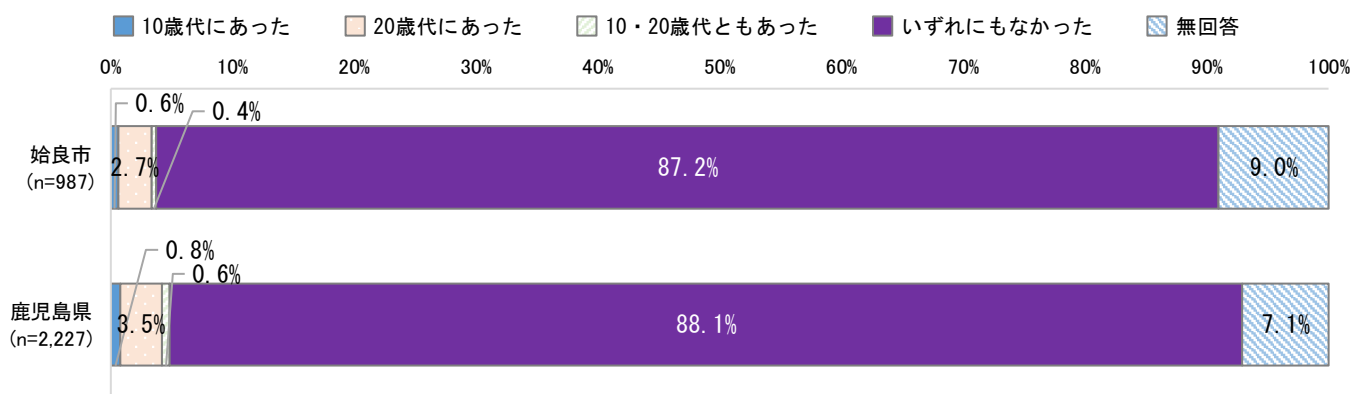
0.0% 上位1位

③いやがっているのに性的な行為を強要された

いやがっているのに性的な行為を強要されたについて、「10 歳代にあった」が 0.6%、「20 歳代にあった」が 2.7%、「10・20 歳代ともあった」が 0.4%、「いずれにもなかった」が 87.2%となっている。

鹿児島県と比較して、大きな差はなかった。

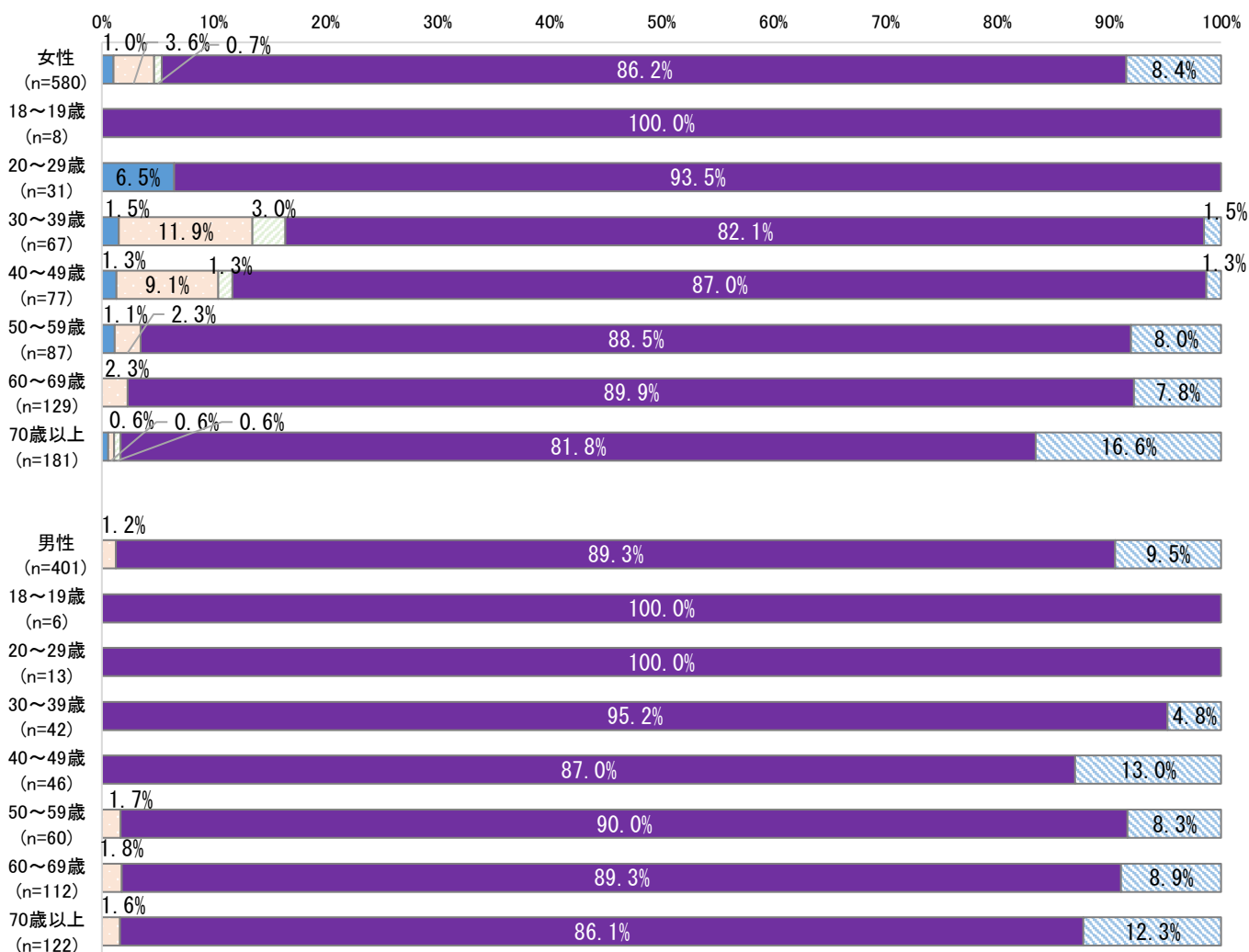
【性的な行為の強要(県比較)】



性別でみると、性的な行為の強要が「あった(「10 歳代にあった」+「20 歳代にあった」+「10・20 歳代ともあった」)」とする割合は、女性 (5.3%) が男性 (1.2%) を 4.1 ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、女性の 30 歳代から 40 歳代において、性的な行為の強要が「あった(「10 歳代にあった」+「20 歳代にあった」+「10・20 歳代ともあった」)」とする割合は、他の年代と比較し、高くなっている。特に「20 歳代にあった」の割合が高くなっている。

【性的な行為の強要(性別・年代別比較)】



	10歳代にあった	20歳代にあった	10・20歳代ともあった	いずれにもなかった	無回答
始良市(n=987)	6 0.6%	27 2.7%	4 0.4%	861 87.2%	89 9.0%
鹿児島県(n=2,227)	17 0.8%	77 3.5%	14 0.6%	1961 88.1%	158 7.1%
女性(n=580)	6 1.0%	21 3.6%	4 0.7%	500 86.2%	49 8.4%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	2 6.5%	0 0.0%	0 0.0%	29 93.5%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	1 1.5%	8 11.9%	2 3.0%	55 82.1%	1 1.5%
40～49歳(n=77)	1 1.3%	7 9.1%	1 1.3%	67 87.0%	1 1.3%
50～59歳(n=87)	1 1.1%	2 2.3%	0 0.0%	77 88.5%	7 8.0%
60～69歳(n=129)	0 0.0%	3 2.3%	0 0.0%	116 89.9%	10 7.8%
70歳以上(n=181)	1 0.6%	1 0.6%	1 0.6%	148 81.8%	30 16.6%
男性(n=401)	0 0.0%	5 1.2%	0 0.0%	353 89.3%	38 9.5%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 100.0%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	40 95.2%	2 4.8%
40～49歳(n=46)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	40 87.0%	6 13.0%
50～59歳(n=60)	0 0.0%	1 1.7%	0 0.0%	54 90.0%	5 8.3%
60～69歳(n=112)	0 0.0%	2 1.8%	0 0.0%	100 89.3%	10 8.9%
70歳以上(n=122)	0 0.0%	2 1.6%	0 0.0%	105 86.1%	15 12.3%

0.0% 上位1位

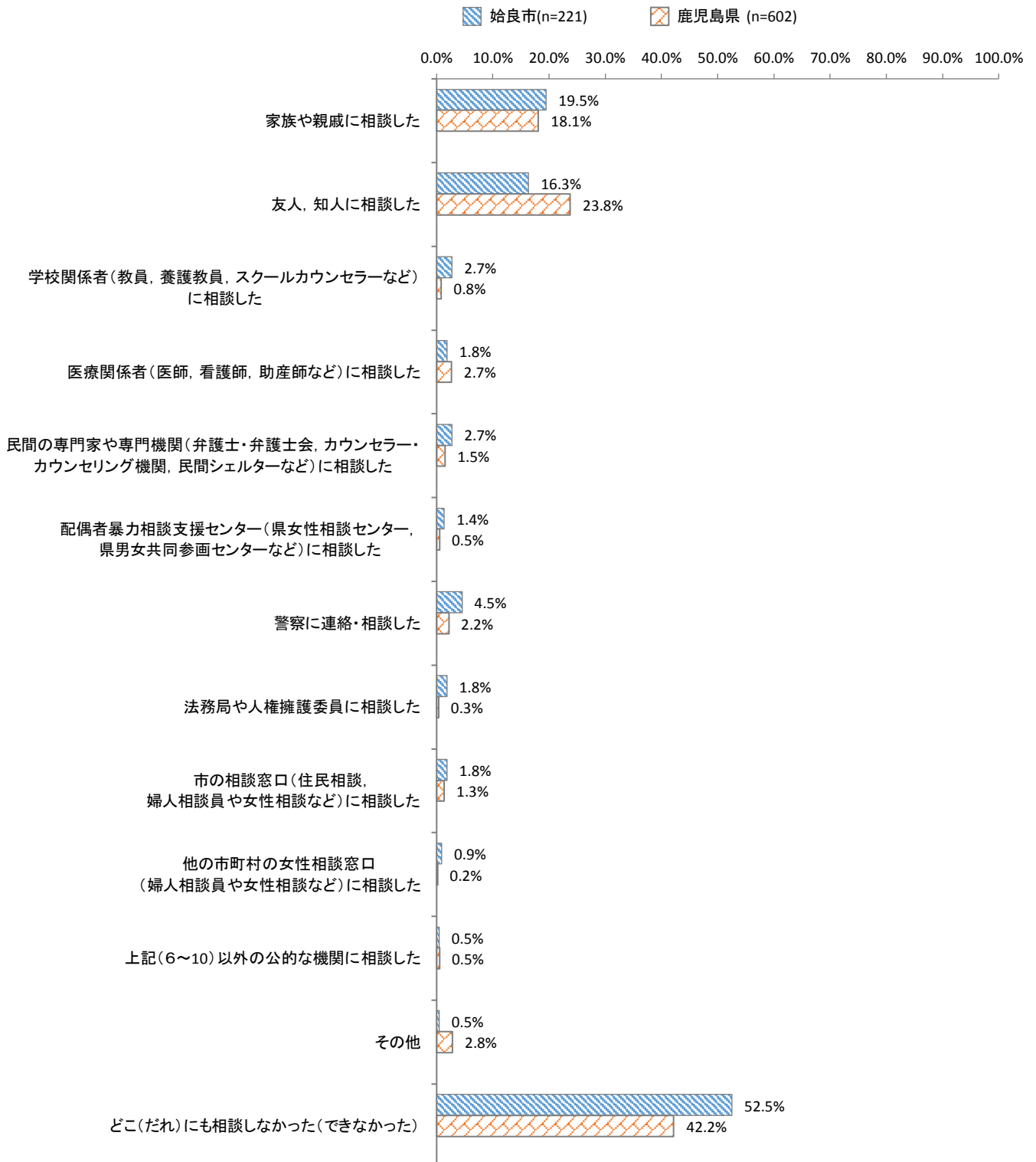
【問 15 又は問 16 で1つでも行為を受けたことがあった方にお尋ねします。それ以外の方は、問 19 へお進みください。】

問 17 あなたはそのことを、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。次の1～13の中からいくつでもお選びください。（複数回答）

相談相手について、「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」（52.5%）の割合が最も高く、次いで「家族や親戚に相談した」（19.5%）、「友人，知人に相談した」（16.3%）、となっている。

鹿児島県と比較して、「友人・知人相談した」は7ポイント以上低く、「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」は10ポイント以上高くなっている。

【誰かに相談したか(県比較)】

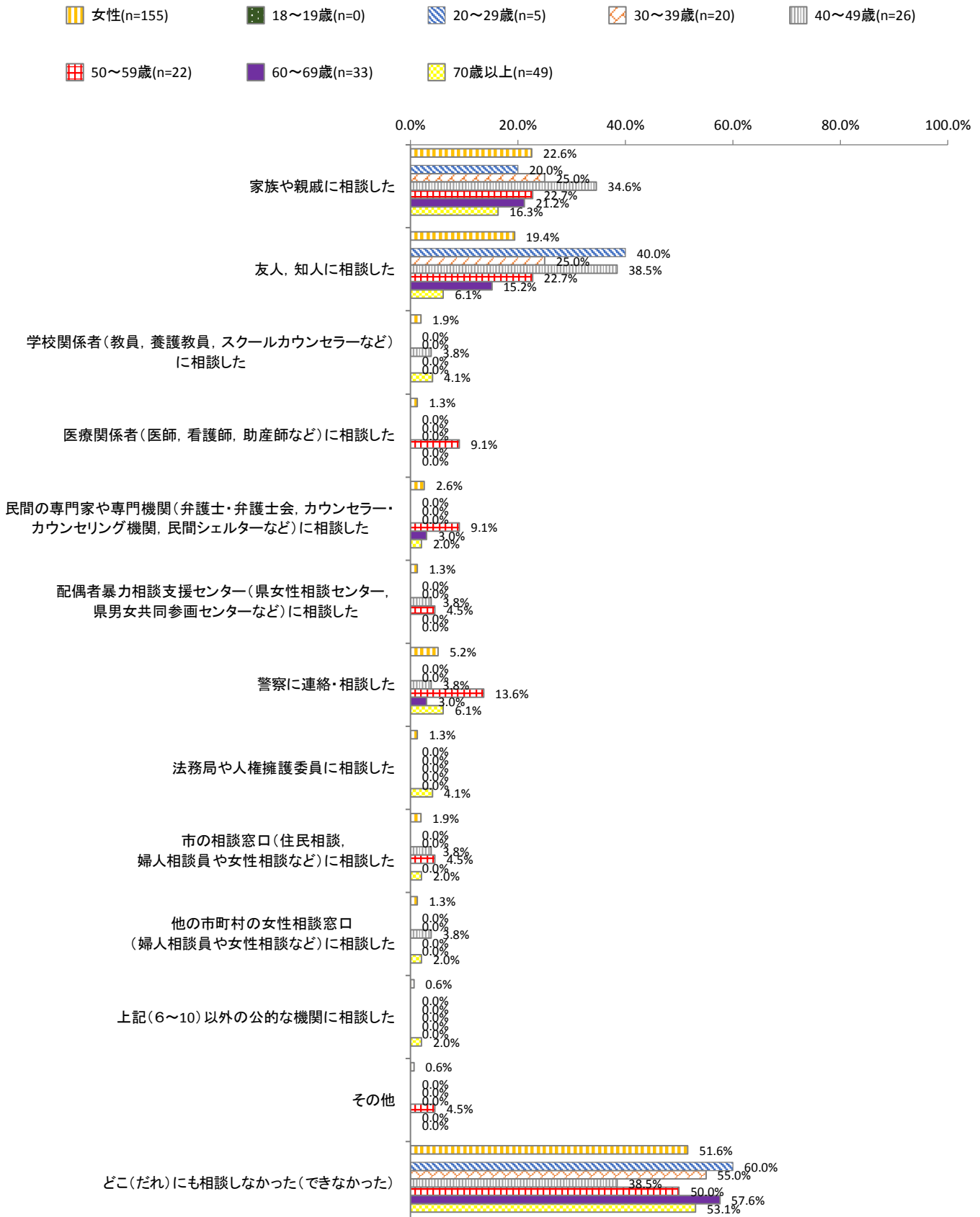


性別で見ると、「家族や親戚に相談した」「友人・知人に相談した」と回答した割合は、女性が男性を10ポイント以上上回っている。

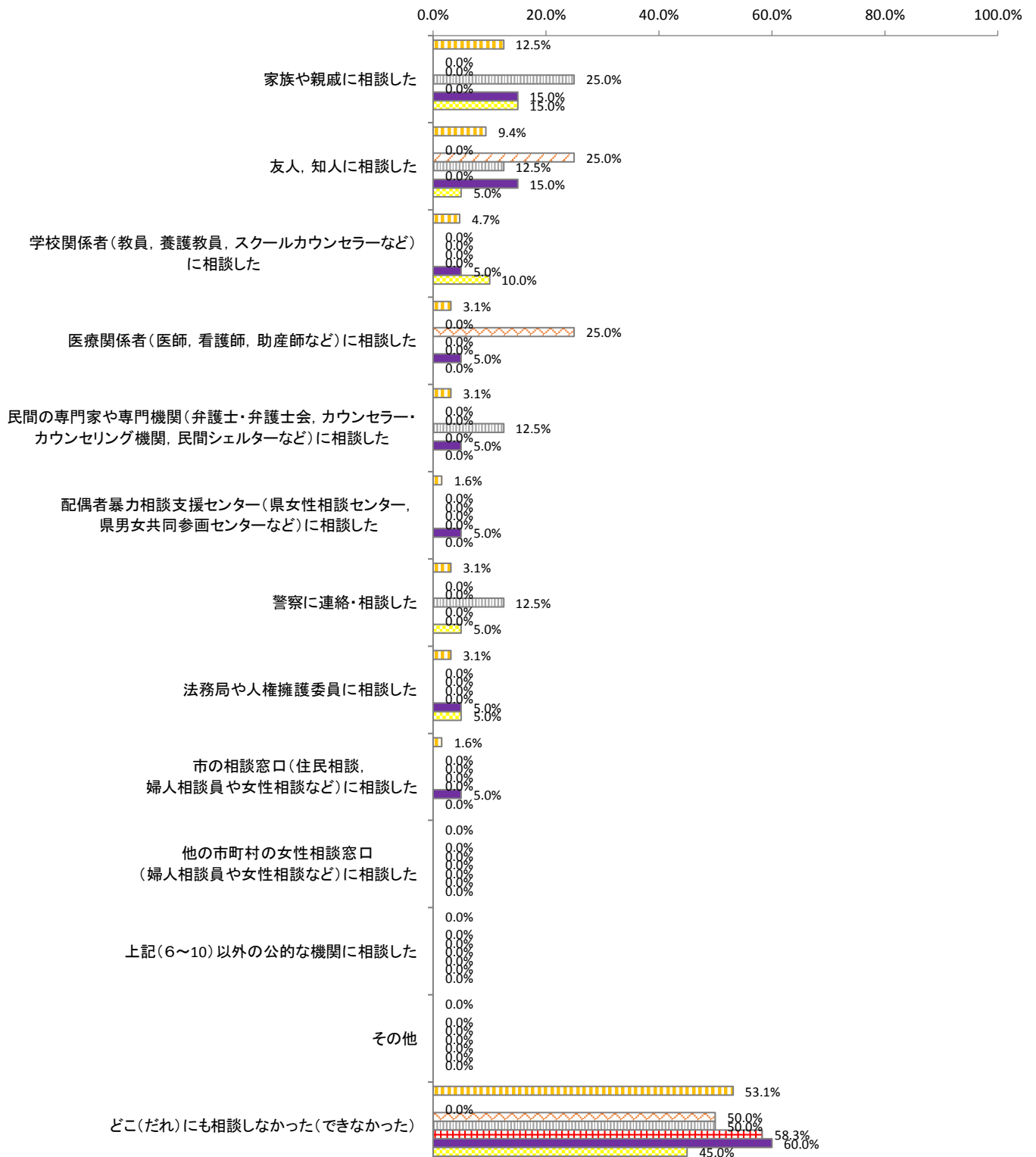
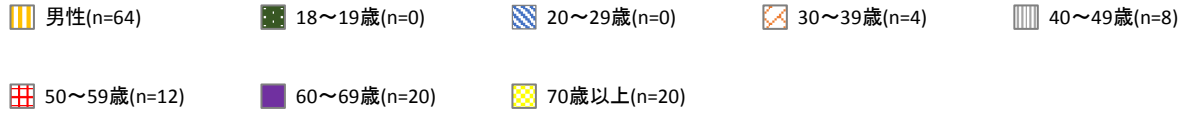
性別・年代別で見ると、各年代とも「どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」と回答した割合が最も高くなっているものの、女性では「家族や親戚の相談した」「友人・知人に相談した」と回答した割合も高くなっている。

男性の40歳代は「家族や親戚に相談した」の割合が高く、30歳代では「友人、知人に相談した」「医療関係者（医師、看護師、助産師など）に相談した」の割合が高い。

【誰かに相談したか(女性・年代別比較)】



【誰かに相談したか(男性・年代別比較)】



	家族や親戚に相談した	友人、知人に相談した	学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）に相談した	医療関係者（医師、看護師、助産師など）に相談した	民間の専門家や専門機関（弁護士、弁護士会、カウンセラー、カウンセラーセンターなど）に相談した	民間の専門家や専門機関（弁護士、弁護士会、カウンセラー、カウンセラーセンターなど）に相談した	配偶者暴力相談支援センター（県女性相談センター）、県男女共同参画センターなどに相談した	警察に連絡・相談した	法務局や人権擁護委員に相談した	市の相談窓口（住民相談、婦人相談員や女性相談など）に相談した	他の市町村の女性相談窓口（婦人相談員や女性相談など）に相談した	上記（6～10）以外の公的な機関に相談した	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）
始良市(n=221)	43 19.5%	36 16.3%	47 2.7%	4 1.8%	6 2.7%	3 1.4%	10 4.5%	4 1.8%	4 1.8%	2 0.9%	1 0.5%	1 0.5%	116 52.5%	
鹿児島県 (n=602)	109 18.1%	143 23.8%	5 0.8%	16 2.7%	9 1.5%	3 0.5%	13 2.2%	2 0.3%	8 1.3%	1 0.2%	3 0.5%	17 2.8%	254 42.2%	
女性(n=155)	35 22.6%	30 19.4%	3 1.9%	2 1.3%	4 2.6%	2 1.3%	8 5.2%	2 1.3%	3 1.9%	2 1.3%	1 0.6%	1 0.6%	80 51.6%	
18～19歳(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20～29歳(n=5)	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 60.0%	
30～39歳(n=20)	5 25.0%	5 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 55.0%	
40～49歳(n=26)	9 34.6%	10 38.5%	1 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.8%	1 3.8%	0 0.0%	1 3.8%	1 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	10 38.5%	
50～59歳(n=22)	5 22.7%	5 22.7%	0 0.0%	2 9.1%	2 9.1%	1 4.5%	3 13.6%	0 0.0%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.5%	11 50.0%	
60～69歳(n=33)	7 21.2%	5 15.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.0%	0 0.0%	1 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19 57.6%	
70歳以上(n=49)	8 16.3%	3 6.1%	2 4.1%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	3 6.1%	2 4.1%	1 2.0%	1 2.0%	1 2.0%	0 0.0%	26 53.1%	
男性(n=64)	8 12.5%	6 9.4%	3 4.7%	2 3.1%	2 3.1%	1 1.6%	2 3.1%	2 3.1%	1 1.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	34 53.1%	
18～19歳(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20～29歳(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
30～39歳(n=4)	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	
40～49歳(n=8)	2 25.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 50.0%	
50～59歳(n=12)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 58.3%	
60～69歳(n=20)	3 15.0%	3 15.0%	1 5.0%	1 5.0%	1 5.0%	1 5.0%	0 0.0%	1 5.0%	1 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 60.0%	
70歳以上(n=20)	3 15.0%	1 5.0%	2 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	1 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 45.0%	

0.0% 上位1位

※6～10以外の相談機関

- 家庭裁判所

※その他の相談相手

- 夫の実母

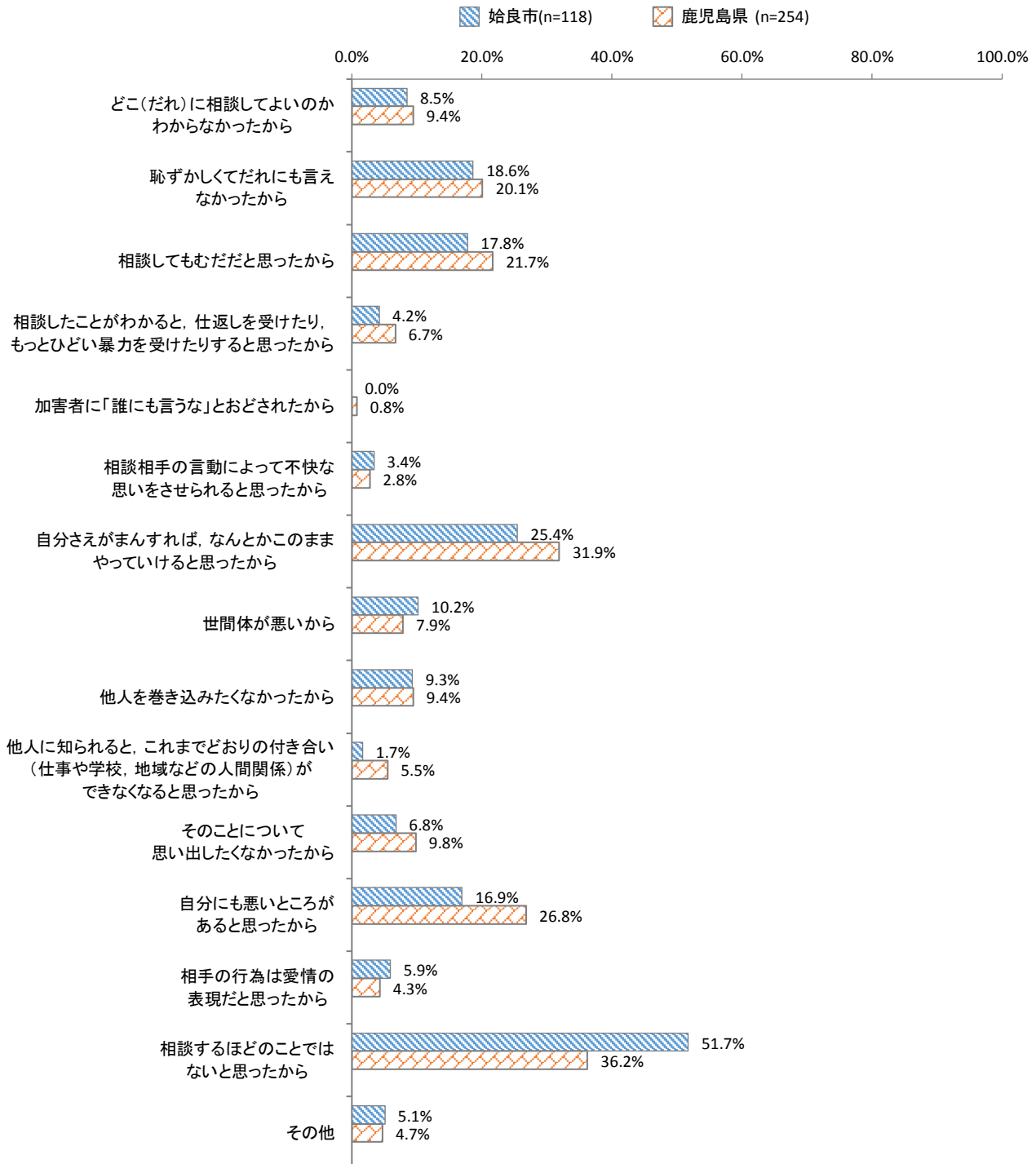
【問17で「13 どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)」を選んだ方にお尋ねします。それ以外の方は、問19へお進みください。】

問18 あなたが、どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)のは、なぜですか。次の1～15の中からあてはまるものをいくつでもお選びください。(複数回答)

相談できなかった理由について、「相談するほどのことではないと思ったから」(51.7%)の割合が最も高く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(25.4%)、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」(18.6%)となっている。

鹿児島県と比較すると、「相談するほどのことではないと思ったから」が15ポイント以上高くなっている。

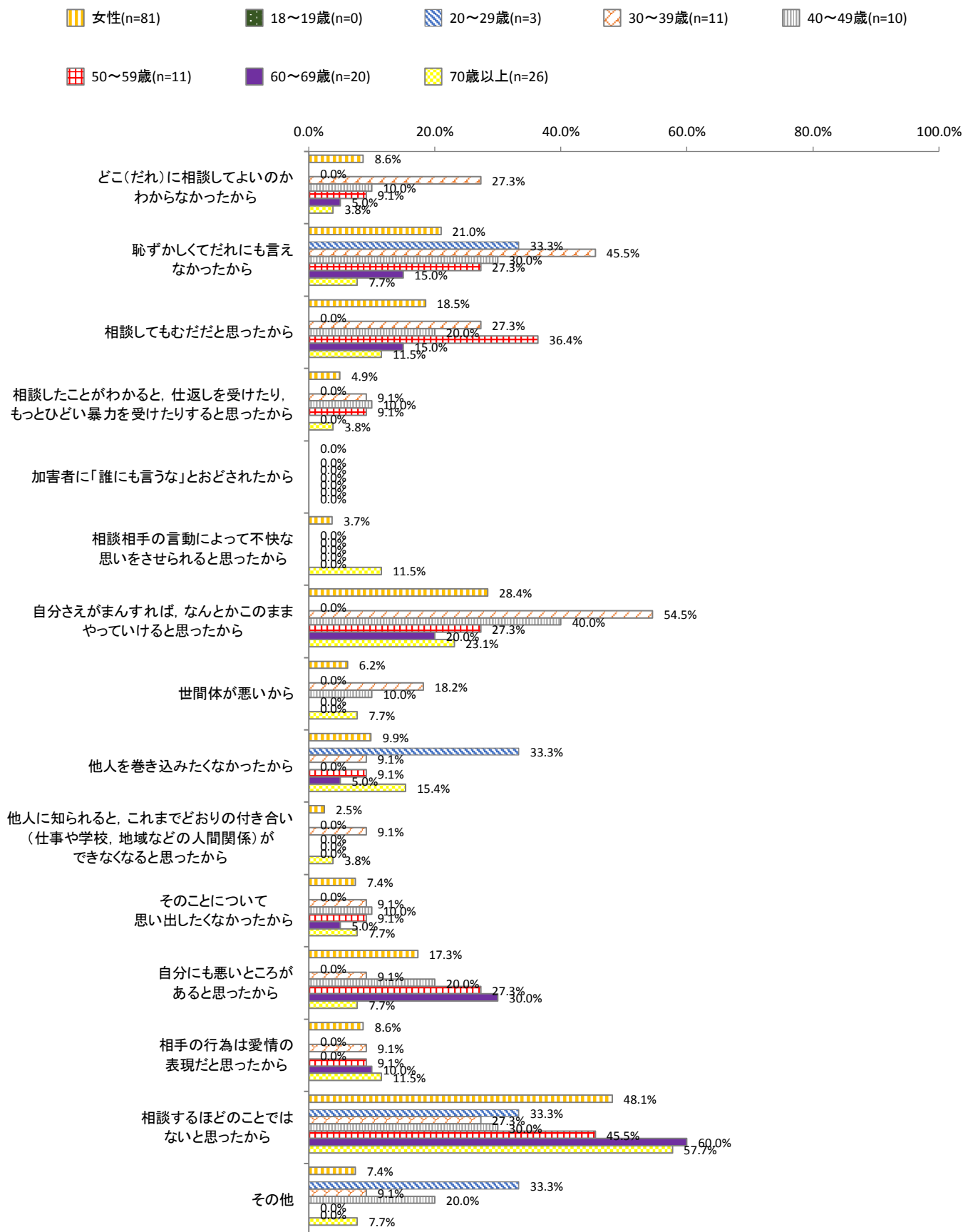
【相談しなかった理由(県比較)】



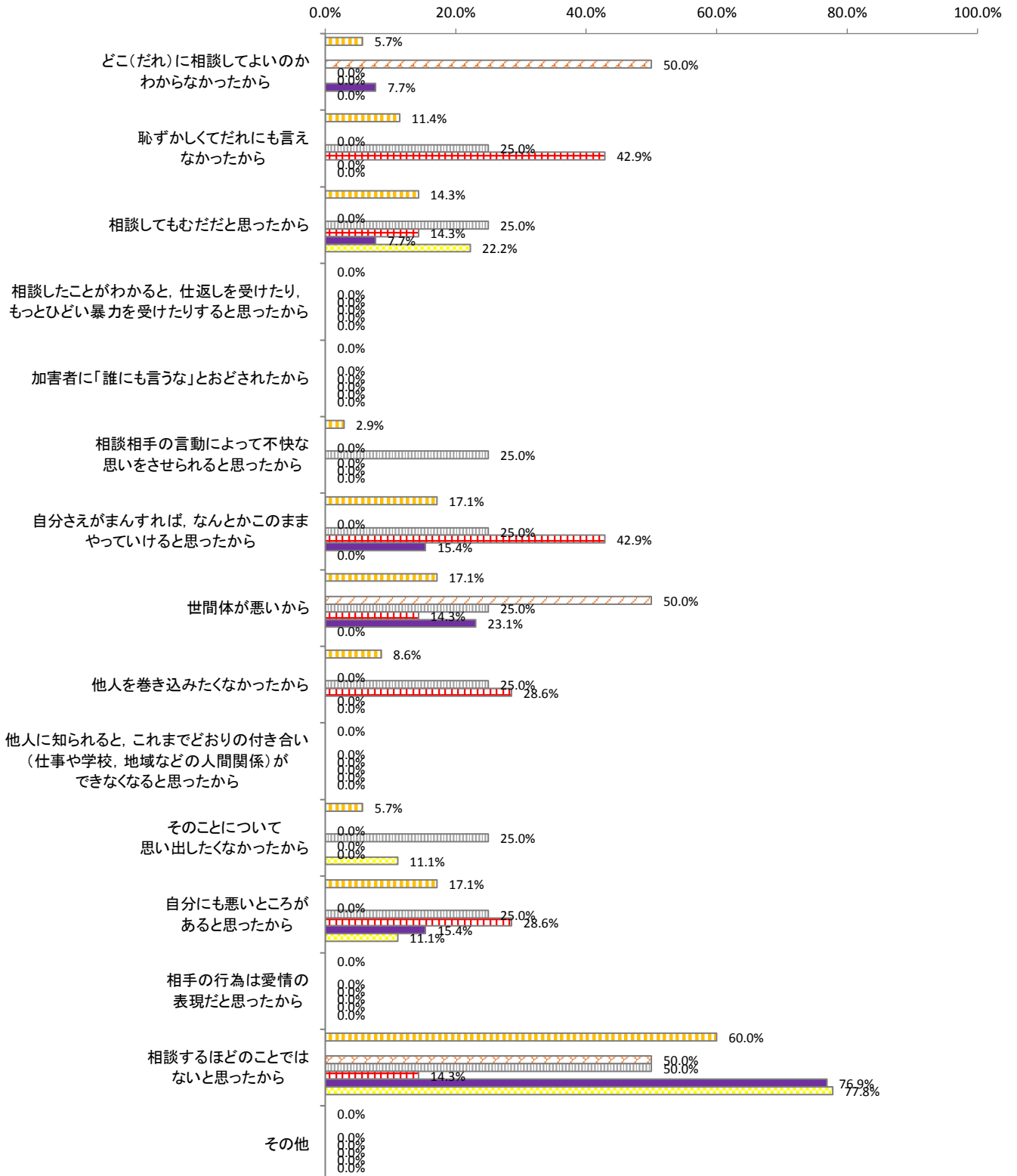
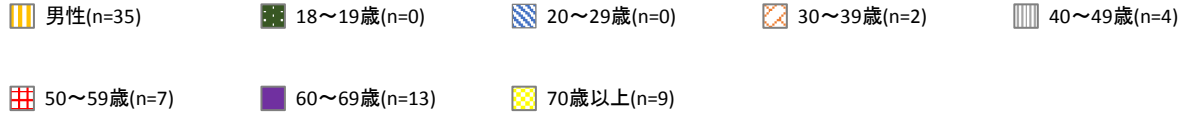
性別で見ると、「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した割合は、男性（60.0%）が女性（48.1%）を11.9ポイント上回っている。

性別・年代別で見ると、女性・男性ともに年代が上がるにつれ、「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した割合が高い傾向がみられたが、男性の50歳代に関しては「恥ずかしくて誰にも言えなかった」「自分さえがまんすれば、何とかこのままやっているとあったから」の割合が高くなっている。

【相談しなかった理由(女性・年代別比較)】



【相談しなかった理由(男性・年代別比較)】



	どこ(だれ)に相談してよいか わからなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかつたから	相談してもむだだと思つたから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたらと思うから	加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思つたから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっつけていけると思つたから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかつたから	他人に知られると、これまでどおりの付き合い(仕事や学校、地域などの人間関係)がでなくなると思つたから	そのことについて思い出ししたくなかつたから	自分にも悪いところがあると思つたから	相手の行為は愛情の表現だと思つたから	相談するほどのことではないと思つたから	その他
始良市(n=118)	10 8.5%	22 18.6%	47 17.8%	5 4.2%	0 0.0%	4 3.4%	30 25.4%	12 10.2%	11 9.3%	2 1.7%	8 6.8%	20 16.9%	7 5.9%	61 51.7%	6 5.1%
鹿児島県(n=254)	24 9.4%	51 20.1%	55 21.7%	17 6.7%	2 0.8%	7 2.8%	81 31.9%	20 7.9%	24 9.4%	14 5.5%	25 9.8%	68 26.8%	11 4.3%	92 36.2%	12 4.7%
女性(n=81)	7 8.6%	17 21.0%	15 18.5%	4 4.9%	0 0.0%	3 3.7%	23 28.4%	5 6.2%	8 9.9%	2 2.5%	6 7.4%	14 17.3%	7 8.6%	39 48.1%	6 7.4%
18～19歳(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0 0.0%
20～29歳(n=3)	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%
30～39歳(n=11)	3 27.3%	5 45.5%	3 27.3%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	6 54.5%	2 18.2%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	3 27.3%	1 9.1%
40～49歳(n=10)	1 10.0%	3 30.0%	2 20.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 40.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	2 20.0%	0 0.0%	3 30.0%	2 20.0%
50～59歳(n=11)	1 9.1%	3 27.3%	4 36.4%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	3 27.3%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	3 27.3%	1 9.1%	5 45.5%	0 0.0%
60～69歳(n=20)	1 5.0%	3 15.0%	3 15.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 20.0%	0 0.0%	1 5.0%	0 0.0%	1 5.0%	6 30.0%	2 10.0%	12 60.0%	0 0.0%
70歳以上(n=26)	1 3.8%	2 7.7%	3 11.5%	1 3.8%	0 0.0%	3 11.5%	6 23.1%	2 7.7%	4 15.4%	1 3.8%	2 7.7%	2 7.7%	3 11.5%	15 57.7%	2 7.7%
男性(n=35)	2 5.7%	4 11.4%	5 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.9%	6 17.1%	6 17.1%	3 8.6%	0 0.0%	2 5.7%	6 17.1%	0 0.0%	21 60.0%	0 0.0%
18～19歳(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0 0.0%
20～29歳(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0 0.0%
30～39歳(n=2)	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%
40～49歳(n=4)	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	2 50.0%	0 0.0%
50～59歳(n=7)	0 0.0%	3 42.9%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 42.9%	1 14.3%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%
60～69歳(n=13)	1 7.7%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%	3 23.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%	0 0.0%	10 76.9%	0 0.0%
70歳以上(n=9)	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	1 11.1%	0 0.0%	7 77.8%	0 0.0%

0.0% 上位1位

※その他回答

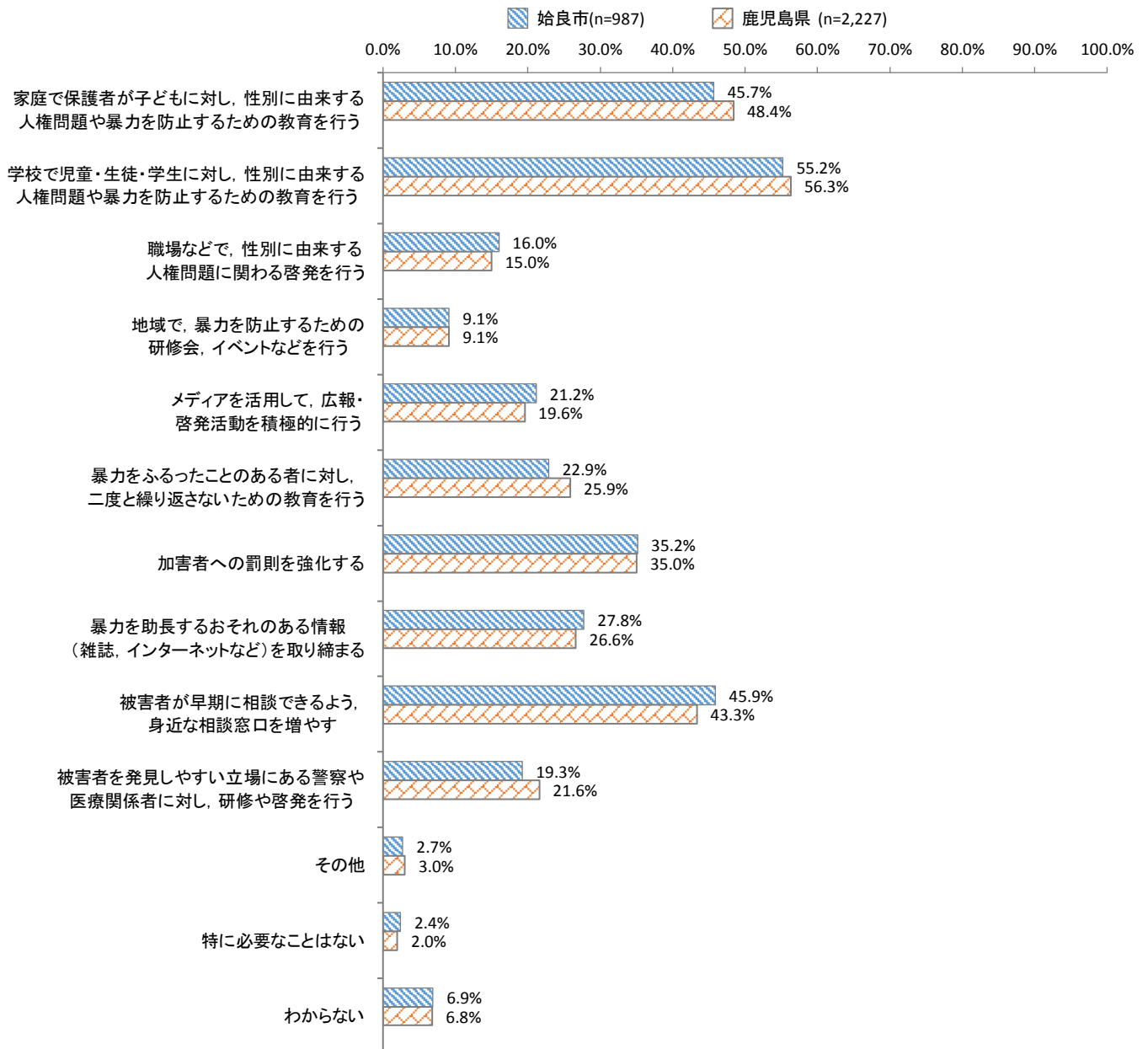
- 若いので社会の事がわからず、本を読んで勉強した。自己反省です。
- 相談相手に周りの人へ言われるのが嫌だから。
- 思い出したくない
- 自分でちゃんと相手に言おうと思つたから。
- それにより別れることを決めたから、相談する必要がなかった。
- 相談できる場所を知らなかった。

問 19 あなたは、男女間における暴力を防止するためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。次の1～13の中からいくつでもお選びください。（複数回答）

男女間における暴力を防止するために必要な事について、「学校で児童・生徒・学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う」（55.2%）の割合が最も高く、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」（45.9%）、「家庭で保護者が子どもに対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う」（45.7%）となっている。

鹿児島県と比較して、「職場などで、性別に由来する人権問題に関わる啓発を行う」「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」「暴力を助長する恐れのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる」「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」と回答した割合が高くなっている。

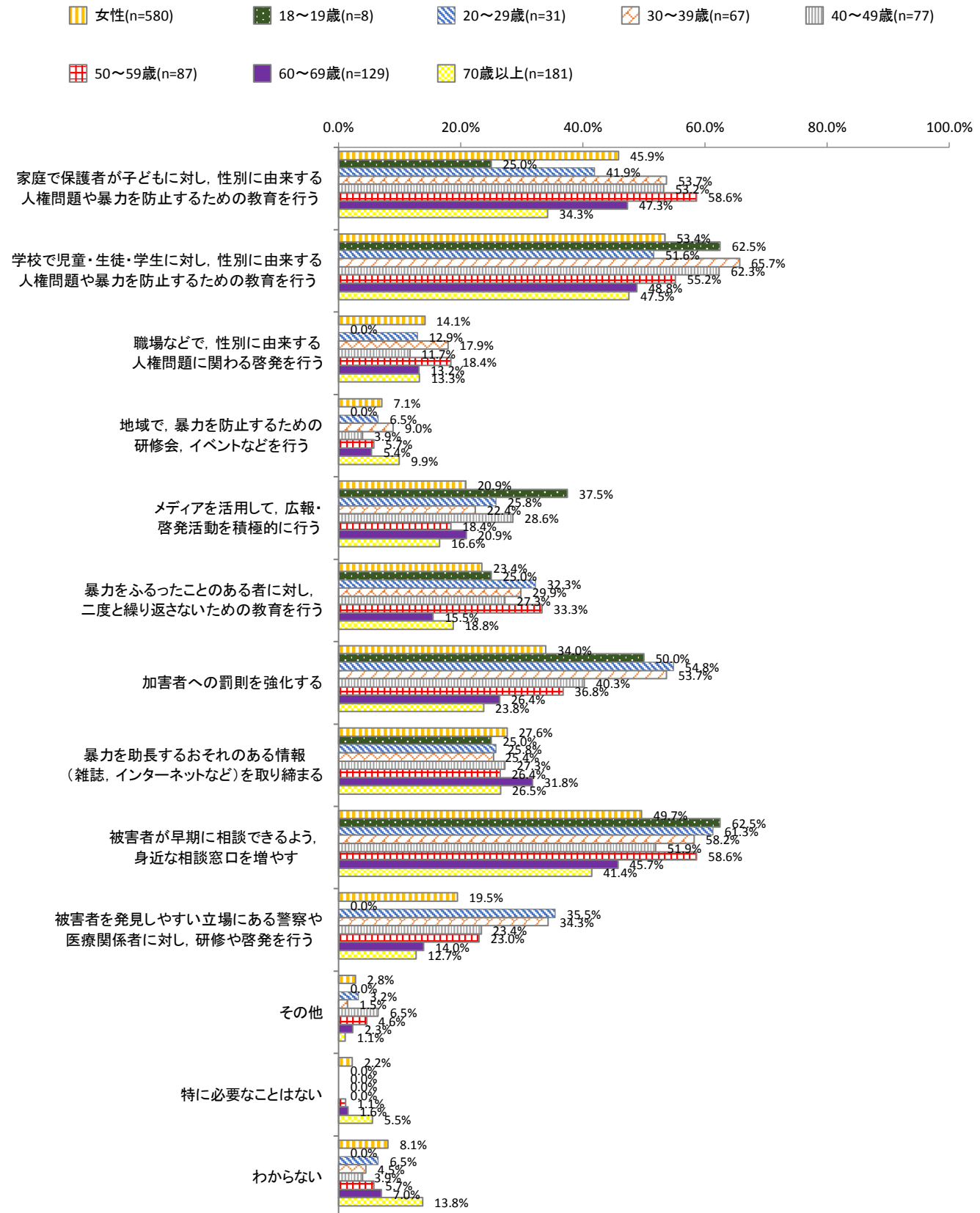
【男女間における暴力を防止するために必要なこと(県比較)】



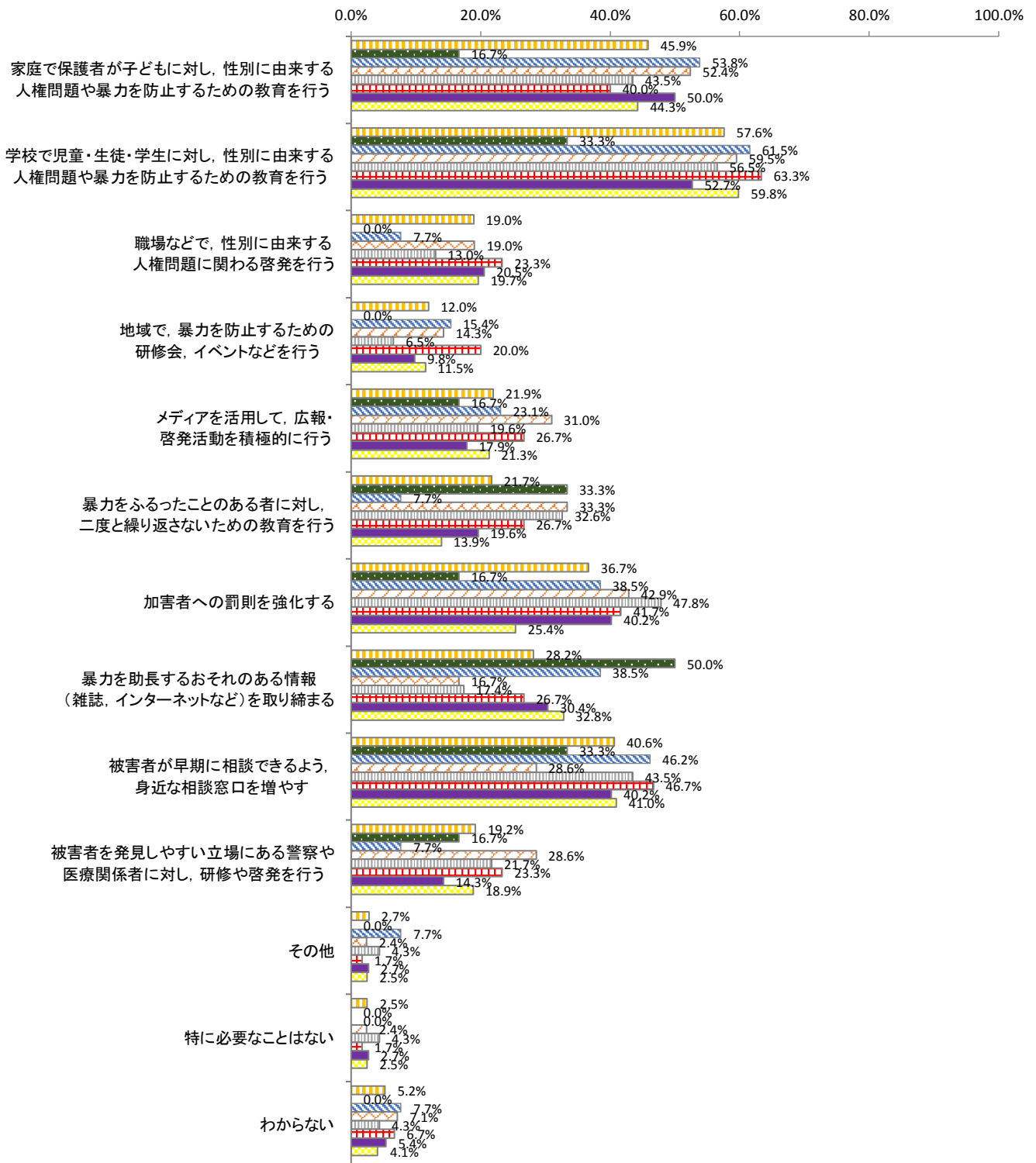
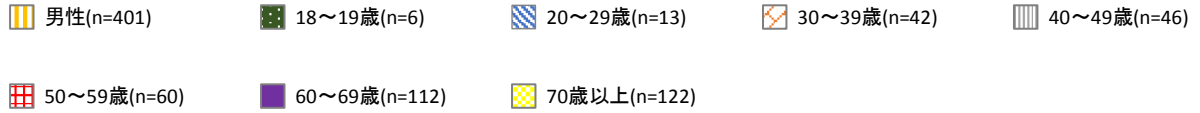
性別でみると、傾向に大きな差はみられなかった。

性別・年代別でみると、女性・男性ともに「家庭で保護者が子どもに対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う」「学校で児童・生徒・学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う」と回答した割合が高い傾向がみられた。また、女性の20歳代から30歳代・50歳代では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」と回答した割合も高くなっている。

【男女間における暴力を防止するために必要なこと(女性・年代別比較)】



【男女間における暴力を防止するために必要なこと(男性・年代別比較)】



	家庭で保護者子どもに 別に来るための教育を行う	学校で児童・生徒・学生に 性別に由来する人権問題や暴力を 防止するための教育を行う	職場などで、性別に由来する人権 問題に関わる啓発を行う	地域で、暴力を防止するための研 修会・イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発 活動を積極的にを行う	暴力をふるったことのある者に し、二度と繰り返さないための教 育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報 (雑誌、インターネットなど)を 取り締まる	被害者が早期に相談できるよう 身近な相談窓口を増やす	警察や医療関係者に対し、研修や 啓発を行う	その他	特に必要なことはない	わからない
始良市(n=987)	451 45.7%	545 55.2%	47 16.0%	90 9.1%	209 21.2%	226 22.9%	347 35.2%	274 27.8%	453 45.9%	190 19.3%	27 2.7%	24 2.4%	68 6.9%
鹿児島県 (n=2,227)	1,078 48.4%	1,254 56.3%	334 15.0%	203 9.1%	436 19.6%	576 25.9%	780 35.0%	593 26.6%	965 43.3%	481 21.6%	67 3.0%	44 2.0%	151 6.8%
女性(n=580)	266 45.9%	310 53.4%	82 14.1%	41 7.1%	121 20.9%	136 23.4%	197 34.0%	160 27.6%	288 49.7%	113 19.5%	16 2.8%	13 2.2%	47 8.1%
18～19歳(n=8)	2 25.0%	5 62.5%	0 0.0%	0 0.0%	3 37.5%	2 25.0%	4 50.0%	2 25.0%	5 62.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	13 41.9%	16 51.6%	4 12.9%	2 6.5%	8 25.8%	10 32.3%	17 54.8%	8 25.8%	19 61.3%	11 35.5%	1 3.2%	0 0.0%	2 6.5%
30～39歳(n=67)	36 53.7%	44 65.7%	12 17.9%	6 9.0%	15 22.4%	20 29.9%	36 53.7%	17 25.4%	39 58.2%	23 34.3%	1 1.5%	0 0.0%	3 4.5%
40～49歳(n=77)	41 53.2%	48 62.3%	9 11.7%	3 3.9%	22 28.6%	21 27.3%	31 40.3%	21 27.3%	40 51.9%	18 23.4%	5 6.5%	0 0.0%	3 3.9%
50～59歳(n=87)	51 58.6%	48 55.2%	16 18.4%	5 5.7%	16 18.4%	29 33.3%	32 36.8%	23 26.4%	51 58.6%	20 23.0%	4 4.6%	1 1.1%	5 5.7%
60～69歳(n=129)	61 47.3%	63 48.8%	17 13.2%	7 5.4%	27 20.9%	20 15.5%	34 26.4%	41 31.8%	59 45.7%	18 14.0%	3 2.3%	2 1.6%	9 7.0%
70歳以上(n=181)	62 34.3%	86 47.5%	24 13.3%	18 9.9%	30 16.6%	34 18.8%	43 23.8%	48 26.5%	75 41.4%	23 12.7%	2 1.1%	10 5.5%	25 13.8%
男性(n=401)	184 45.9%	231 57.6%	76 19.0%	48 12.0%	88 21.9%	87 21.7%	147 36.7%	113 28.2%	163 40.6%	77 19.2%	11 2.7%	10 2.5%	21 5.2%
18～19歳(n=6)	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	7 53.8%	8 61.5%	1 7.7%	2 15.4%	3 23.1%	1 7.7%	5 38.5%	5 38.5%	6 46.2%	1 7.7%	1 7.7%	0 0.0%	1 7.7%
30～39歳(n=42)	22 52.4%	25 59.5%	8 19.0%	6 14.3%	13 31.0%	14 33.3%	18 42.9%	7 16.7%	12 28.6%	12 28.6%	1 2.4%	1 2.4%	3 7.1%
40～49歳(n=46)	20 43.5%	26 56.5%	6 13.0%	3 6.5%	9 19.6%	15 32.6%	22 47.8%	8 17.4%	20 43.5%	10 21.7%	2 4.3%	2 4.3%	2 4.3%
50～59歳(n=60)	24 40.0%	38 63.3%	14 23.3%	12 20.0%	16 26.7%	16 26.7%	25 41.7%	16 26.7%	28 46.7%	14 23.3%	1 1.7%	1 1.7%	4 6.7%
60～69歳(n=112)	56 50.0%	59 52.7%	23 20.5%	11 9.8%	20 17.9%	22 19.6%	45 40.2%	34 30.4%	45 40.2%	16 14.3%	3 2.7%	3 2.7%	6 5.4%
70歳以上(n=122)	54 44.3%	73 59.8%	24 19.7%	14 11.5%	26 21.3%	17 13.9%	31 25.4%	40 32.8%	50 41.0%	23 18.9%	3 2.5%	3 2.5%	5 4.1%

0.0% 上位1位

※主なその他回答

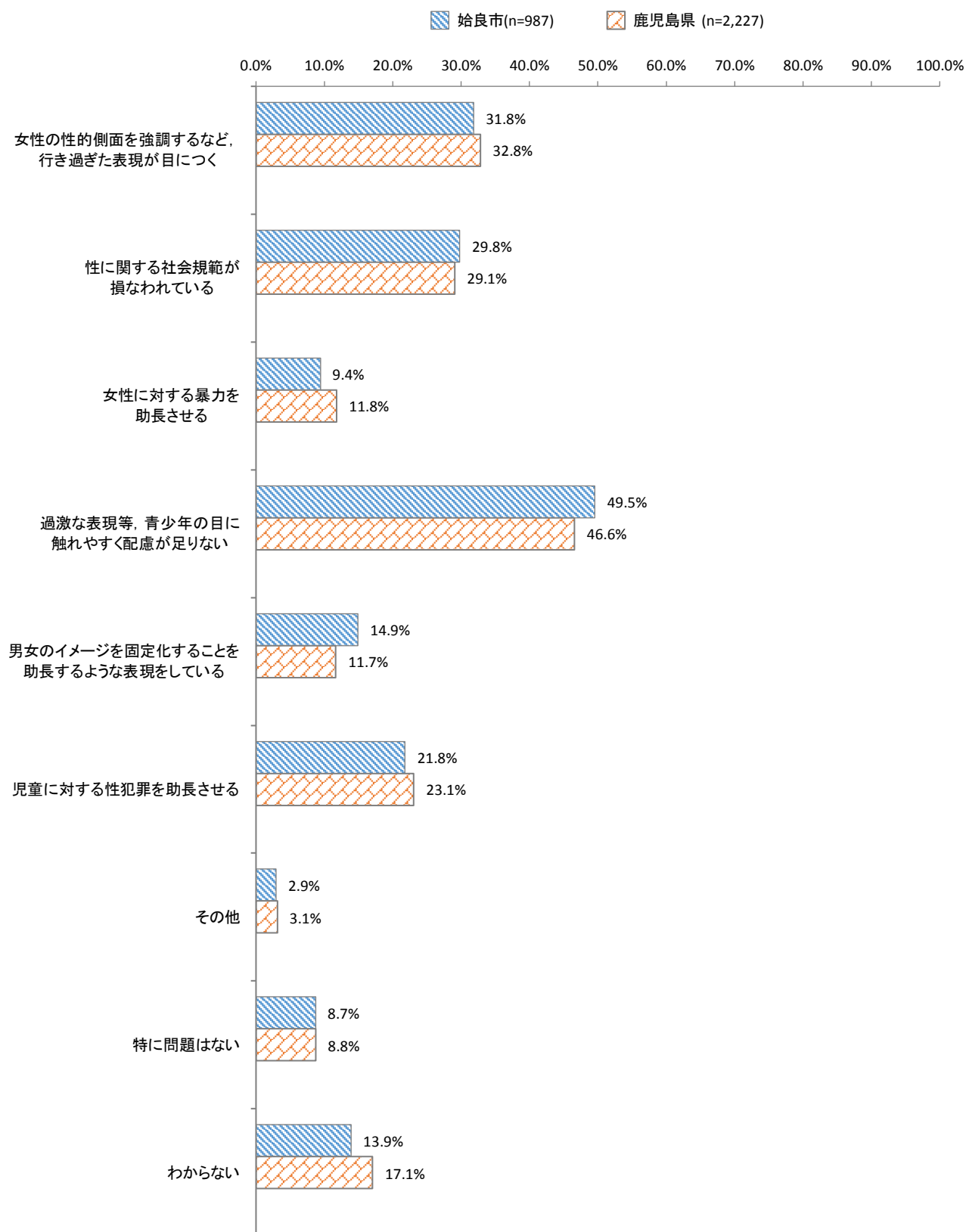
- 家庭環境が一番であり、男女間の問題ではないと考えます。家庭のバランスが重要。
- 生命を軽く傾向が強い、子育て世代の方々が自己中心的、尊敬、信頼感が薄いと思う。親の背中を見て育つ子供感が現実生活の中ではない。と感じている。社会の中個人がない。
- 女性が生きやすい社会になっていくこと 子供を育てやすい社会になっていくこと
- 加害者の心のケアを重視する医療機関病気なので！加害者は自分は病気だから治療しないといけないという自覚
- 警察がもっと動けるようにする。
- 犯罪行為は自らの人生のマイナス、破滅につながる事を親が子供にしっかり教える事。
- 早期発見とDVから脱出する方法の手助けをセットにする
- 貧困対策と教育の見直し。貧困のために教育の機会が少ない。また成長するための環境が悪い、恵まれないなど。その親もそういった環境でその子供も同じような環境で…結局問題がくり返されるように感じます。
- 加害者を作らない（虐待などをなくす取り組み）
- 相談しやすい警察や医療関係者に女性の職員をもっと増やして欲しい
- 食べ物、学習に困らないように支援

問20 テレビ、新聞、雑誌、インターネット等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように考えますか。次の1～9の中からいくつでもお選びください。（複数回答）

メディアにおける性・暴力表現について、「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」（49.5%）の割合が最も高く、次いで「女性の性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく」（31.8%）、
「性に関する社会規範が損なわれている」（29.8%）となっている。

鹿児島県と比較して、大きな差はみられなかった。

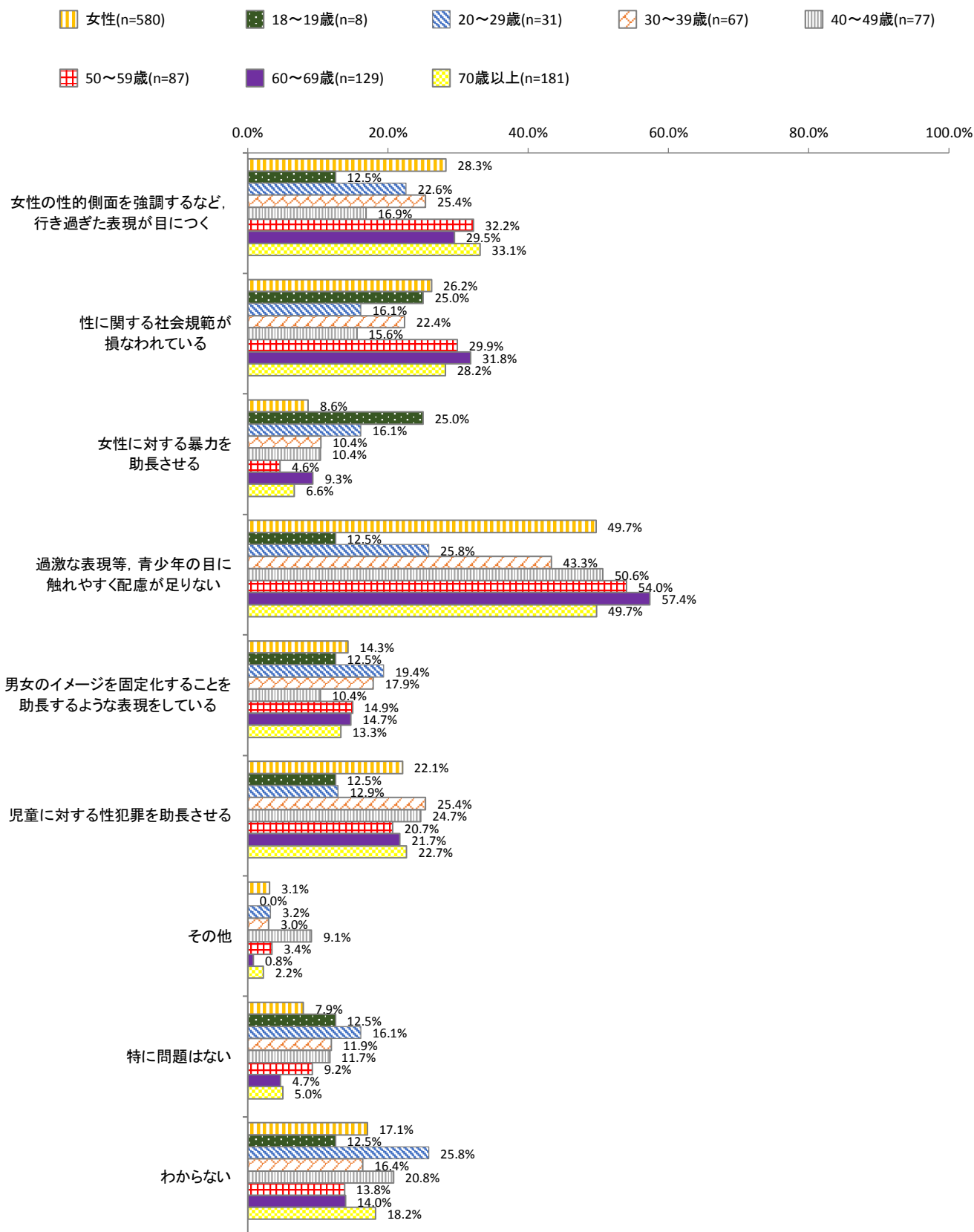
【メディアにおける性・暴力表現について(県比較)】



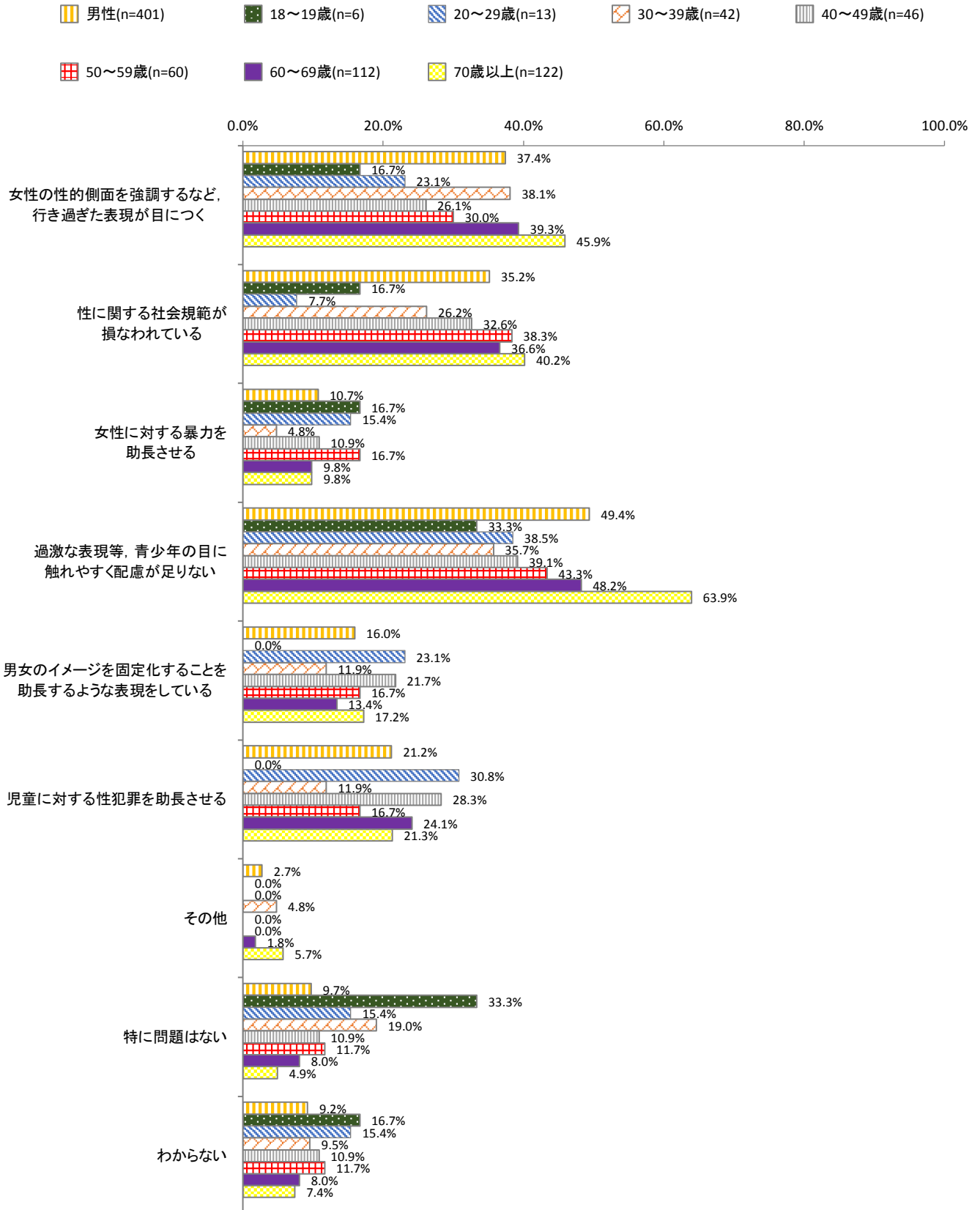
性別でみると、「女性の性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく」「性に関する社会規範が損なわれている」と回答した割合は、男性が女性を9.0ポイント程度上回っている。

性別・年代別でみると、女性の30歳代以上、男性の50歳代以上において「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」と回答した割合が高くなっている。

【メディアにおける性・暴力表現について(女性・年代別比較)】



【メディアにおける性・暴力表現について(男性・年代別比較)】



	女性の性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	性に関する社会規範が損なわれている	女性に対する暴力を助長させる	過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない	男女のイメージを固定化することを助長するような表現をしている	児童に対する性犯罪を助長させる	その他	特に問題はない	わからない
始良市(n=987)	314 31.8%	294 29.8%	47 9.4%	489 49.5%	147 14.9%	215 21.8%	29 2.9%	86 8.7%	137 13.9%
鹿児島県 (n=2,227)	731 32.8%	647 29.1%	263 11.8%	1,037 46.6%	260 11.7%	514 23.1%	70 3.1%	195 8.8%	380 17.1%
女性(n=580)	164 28.3%	152 26.2%	50 8.6%	288 49.7%	83 14.3%	128 22.1%	18 3.1%	46 7.9%	99 17.1%
18～19歳(n=8)	1 12.5%	2 25.0%	2 25.0%	1 12.5%	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%
20～29歳(n=31)	7 22.6%	5 16.1%	5 16.1%	8 25.8%	6 19.4%	4 12.9%	1 3.2%	5 16.1%	8 25.8%
30～39歳(n=67)	17 25.4%	15 22.4%	7 10.4%	29 43.3%	12 17.9%	17 25.4%	2 3.0%	8 11.9%	11 16.4%
40～49歳(n=77)	13 16.9%	12 15.6%	8 10.4%	39 50.6%	8 10.4%	19 24.7%	7 9.1%	9 11.7%	16 20.8%
50～59歳(n=87)	28 32.2%	26 29.9%	4 4.6%	47 54.0%	13 14.9%	18 20.7%	3 3.4%	8 9.2%	12 13.8%
60～69歳(n=129)	38 29.5%	41 31.8%	12 9.3%	74 57.4%	19 14.7%	28 21.7%	1 0.8%	6 4.7%	18 14.0%
70歳以上(n=181)	60 33.1%	51 28.2%	12 6.6%	90 49.7%	24 13.3%	41 22.7%	4 2.2%	9 5.0%	33 18.2%
男性(n=401)	150 37.4%	141 35.2%	43 10.7%	198 49.4%	64 16.0%	85 21.2%	11 2.7%	39 9.7%	37 9.2%
18～19歳(n=6)	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	1 16.7%
20～29歳(n=13)	3 23.1%	1 7.7%	2 15.4%	5 38.5%	3 23.1%	4 30.8%	0 0.0%	2 15.4%	2 15.4%
30～39歳(n=42)	16 38.1%	11 26.2%	2 4.8%	15 35.7%	5 11.9%	5 11.9%	2 4.8%	8 19.0%	4 9.5%
40～49歳(n=46)	12 26.1%	15 32.6%	5 10.9%	18 39.1%	10 21.7%	13 28.3%	0 0.0%	5 10.9%	5 10.9%
50～59歳(n=60)	18 30.0%	23 38.3%	10 16.7%	26 43.3%	10 16.7%	10 16.7%	0 0.0%	7 11.7%	7 11.7%
60～69歳(n=112)	44 39.3%	41 36.6%	11 9.8%	54 48.2%	15 13.4%	27 24.1%	2 1.8%	9 8.0%	9 8.0%
70歳以上(n=122)	56 45.9%	49 40.2%	12 9.8%	78 63.9%	21 17.2%	26 21.3%	7 5.7%	6 4.9%	9 7.4%

0.0% 上位1位

※主なその他回答

- 今は録画が自由に出来てしまう為、あまり見せたくない。テレビも勝手に見てしまう。
- 小さい頃から性に対して区別を意識させすぎるといけないと思います。大人の先入観だ変に子供の意識を乱してしまっているように思います。幼ければ幼いほど、特に気にしていない事を強調されると間違った認識になりそうですが…。
- メディアの中の特殊なジャンルに1～6の部分が内在していると思う。
- メディア等において表現が行き過ぎている。テレビ等を見たものが真似をする。
- 児童に対する性犯罪を助長させるテレビ、他の報道機関が多い。
- 1から5のように目につかないようにすることで、かえって経験がなくなり興味をもち、隠れてしまう気がします
- 現実事に蓋をする必要はないと思います 捉える側の問題だと思います
- 特に週刊誌、インターネットは野放しの状態で、厳しい規制が必要。
- そもそもある程度の年齢になった児童に対しての性教育が足りない。
- 女性だけでなく子供、青少年全ての対象に対する暴力を助長させる気がする。
- メディア等が原因でなく本人と身近な周囲の問題
- 自分の理性を抑えるよう教育しないといけない

VI 性的マイノリティについて

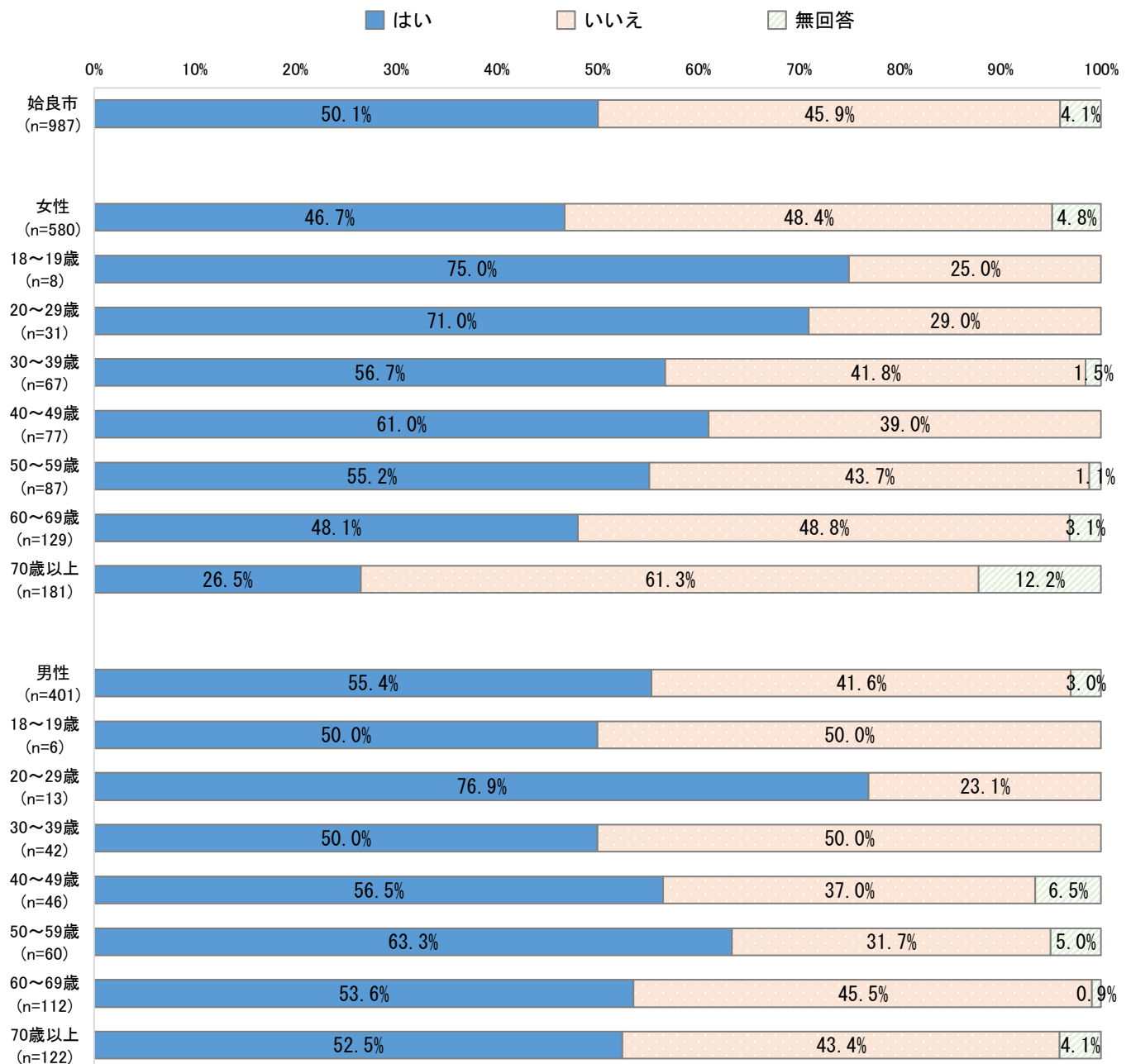
問21 あなたは性的マイノリティ（またはLGBT）という言葉を知っていますか。

性的マイノリティという言葉の認知度について、「はい」が50.1%、「いいえ」が45.9%となっている。

性別で見ると、「はい」とする割合は、女性が46.7%、男性が55.4%となっている。

性別・年代別で見ると、「はい」と回答した割合は、女性の70歳以上では2割強、60歳代では5割弱となっているものの、他の年代では約5割以上となっている。

【性的マイノリティという言葉を知っているか】



	はい	いいえ	無回答
始良市(n=987)	494 50.1%	453 45.9%	40 4.1%
女性(n=580)	271 46.7%	281 48.4%	28 4.8%
18～19歳(n=8)	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	22 71.0%	9 29.0%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	38 56.7%	28 41.8%	1 1.5%
40～49歳(n=77)	47 61.0%	30 39.0%	0 0.0%
50～59歳(n=87)	48 55.2%	38 43.7%	1 1.1%
60～69歳(n=129)	62 48.1%	63 48.8%	4 3.1%
70歳以上(n=181)	48 26.5%	111 61.3%	22 12.2%
男性(n=401)	222 55.4%	167 41.6%	12 3.0%
18～19歳(n=6)	3 50.0%	3 50.0%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	10 76.9%	3 23.1%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	21 50.0%	21 50.0%	0 0.0%
40～49歳(n=46)	26 56.5%	17 37.0%	3 6.5%
50～59歳(n=60)	38 63.3%	19 31.7%	3 5.0%
60～69歳(n=112)	60 53.6%	51 45.5%	1 0.9%
70歳以上(n=122)	64 52.5%	53 43.4%	5 4.1%

0.0% 上位1位

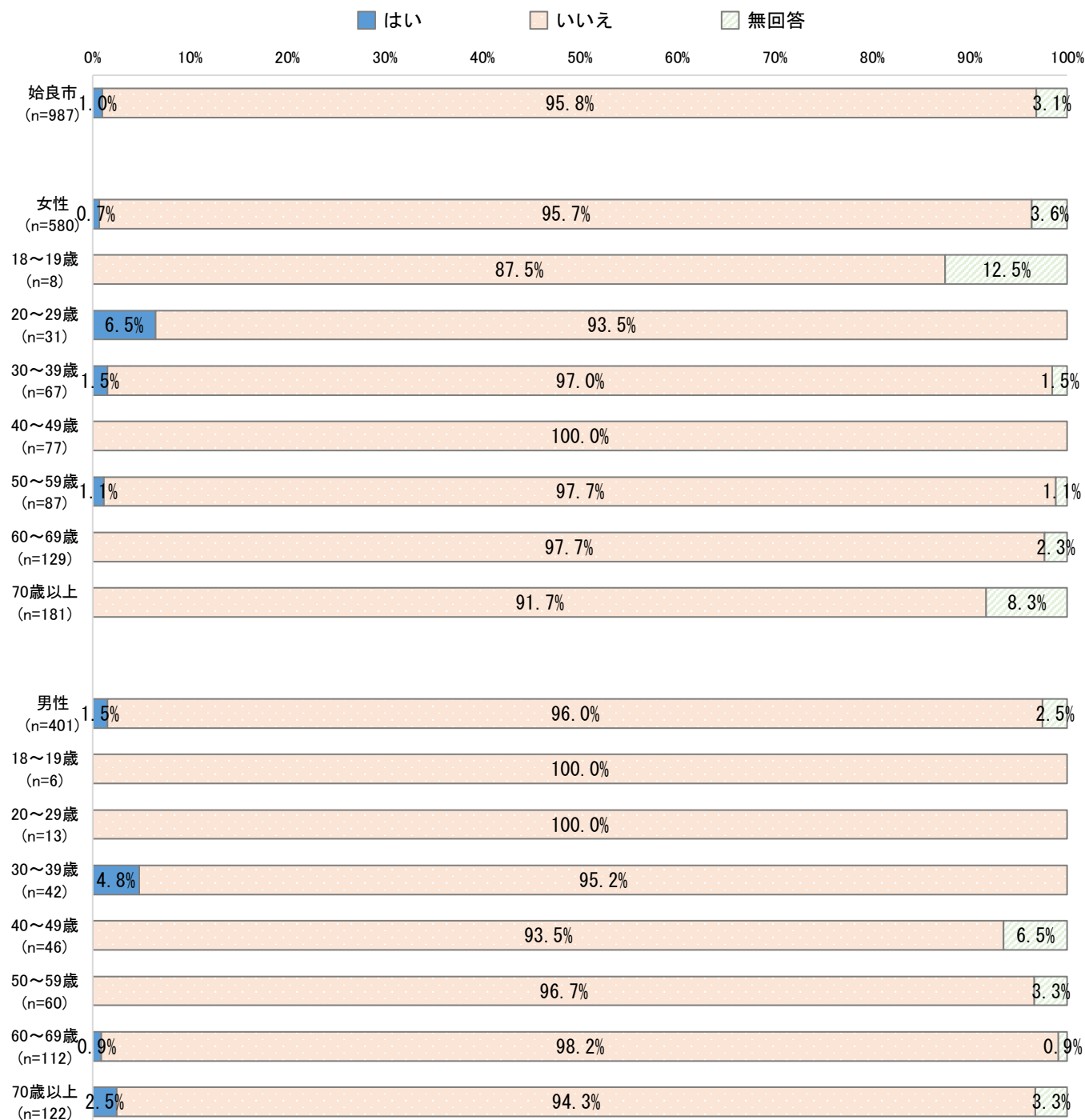
問22 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛など）に悩んだことがありますか。

性について悩んだことがあるかについて、「はい」が1.0%、「いいえ」が95.8%となっている。

性別で見ると、女性の0.7%、男性の1.5%が「はい」と回答している。

性別・年代別で見ると、「はい」と回答した割合は、女性の20歳代、男性の30歳代、70歳以上で高くなっている。

【身体の性、心の性または性的指向に悩んだことがあるか(性別・年代別比較)】



	はい	いいえ	無回答
始良市(n=987)	10 1.0%	946 95.8%	31 3.1%
女性(n=580)	4 0.7%	555 95.7%	21 3.6%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	7 87.5%	1 12.5%
20～29歳(n=31)	2 6.5%	29 93.5%	0 0.0%
30～39歳(n=67)	1 1.5%	65 97.0%	1 1.5%
40～49歳(n=77)	0 0.0%	77 100.0%	0 0.0%
50～59歳(n=87)	1 1.1%	85 97.7%	1 1.1%
60～69歳(n=129)	0 0.0%	126 97.7%	3 2.3%
70歳以上(n=181)	0 0.0%	166 91.7%	15 8.3%
男性(n=401)	6 1.5%	385 96.0%	10 2.5%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	6 100.0%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	0 0.0%	13 100.0%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	2 4.8%	40 95.2%	0 0.0%
40～49歳(n=46)	0 0.0%	43 93.5%	3 6.5%
50～59歳(n=60)	0 0.0%	58 96.7%	2 3.3%
60～69歳(n=112)	1 0.9%	110 98.2%	1 0.9%
70歳以上(n=122)	3 2.5%	115 94.3%	4 3.3%

0.0% 上位1位

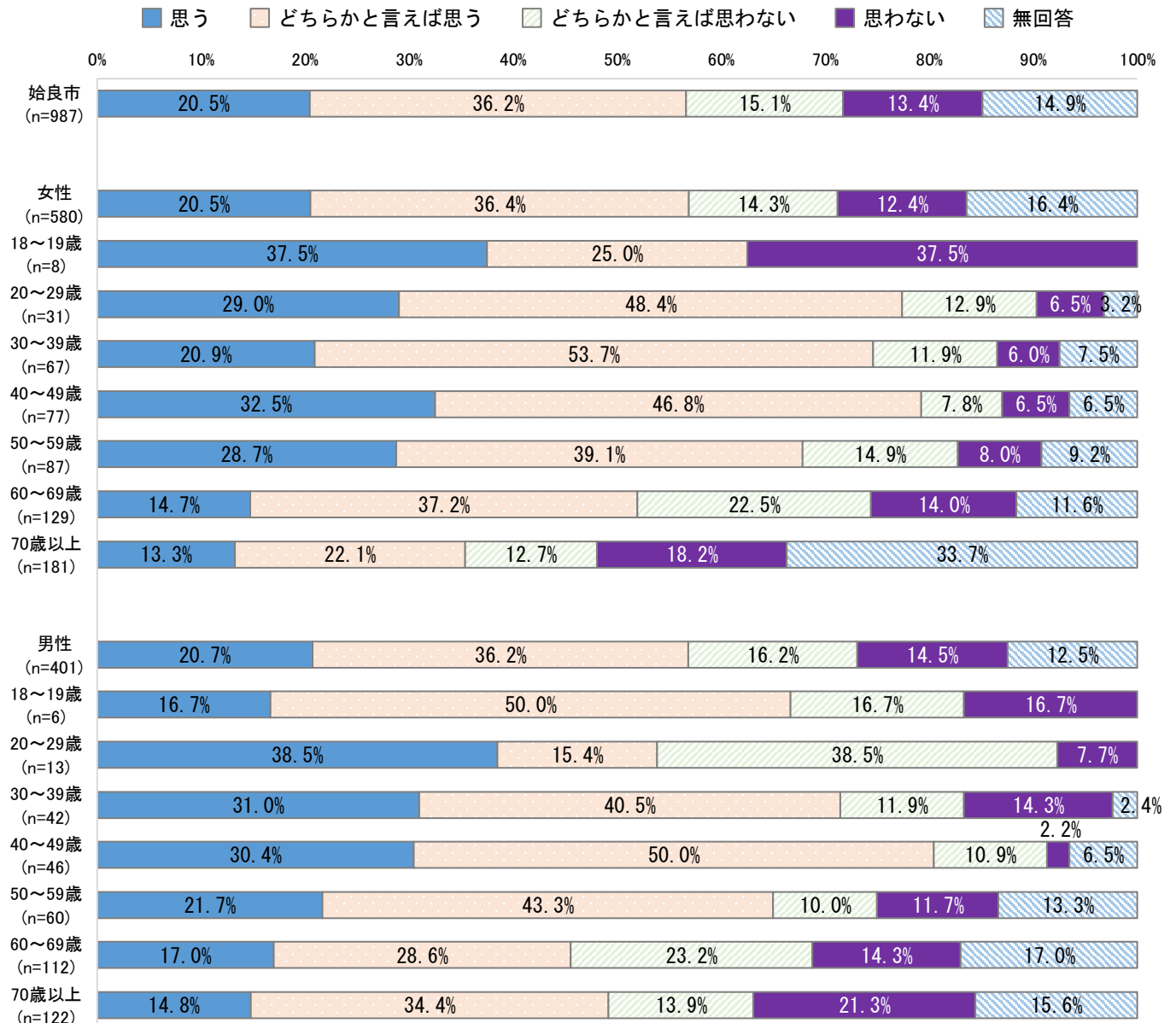
問23 現在、マイノリティ（またはLGBT）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。

マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思うかについて、「どちらかと言えば思う」（36.2%）の割合が最も高く、次いで「思う」（20.5%）、「どちらかと言えば思わない」（15.1%）、「思わない」（13.4%）となっている。

性別でみると、女性・男性ともに「思う（「どちらかと言えば思う」を含む）」と回答した割合が5割以上となっている。

性別・年代別でみると、「思う（「どちらかと言えば思う」を含む）」と回答した割合は、女性の70歳代以上・男性の60歳代以上を除く年代で、5割以上となっている。

【マイノリティの方々にとって生活しづらい社会だと思うか(性別・年代別比較)】



	思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	思わない	無回答
始良市(n=987)	202 20.5%	357 36.2%	149 15.1%	132 13.4%	147 14.9%
女性(n=580)	119 20.5%	211 36.4%	83 14.3%	72 12.4%	95 16.4%
18～19歳(n=8)	3 37.5%	2 25.0%	0 0.0%	3 37.5%	0 0.0%
20～29歳(n=31)	9 29.0%	15 48.4%	4 12.9%	2 6.5%	1 3.2%
30～39歳(n=67)	14 20.9%	36 53.7%	8 11.9%	4 6.0%	5 7.5%
40～49歳(n=77)	25 32.5%	36 46.8%	6 7.8%	5 6.5%	5 6.5%
50～59歳(n=87)	25 28.7%	34 39.1%	13 14.9%	7 8.0%	8 9.2%
60～69歳(n=129)	19 14.7%	48 37.2%	29 22.5%	18 14.0%	15 11.6%
70歳以上(n=181)	24 13.3%	40 22.1%	23 12.7%	33 18.2%	61 33.7%
男性(n=401)	83 20.7%	145 36.2%	65 16.2%	58 14.5%	50 12.5%
18～19歳(n=6)	1 16.7%	3 50.0%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	5 38.5%	2 15.4%	5 38.5%	1 7.7%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	13 31.0%	17 40.5%	5 11.9%	6 14.3%	1 2.4%
40～49歳(n=46)	14 30.4%	23 50.0%	5 10.9%	1 2.2%	3 6.5%
50～59歳(n=60)	13 21.7%	26 43.3%	6 10.0%	7 11.7%	8 13.3%
60～69歳(n=112)	19 17.0%	32 28.6%	26 23.2%	16 14.3%	19 17.0%
70歳以上(n=122)	18 14.8%	42 34.4%	17 13.9%	26 21.3%	19 15.6%

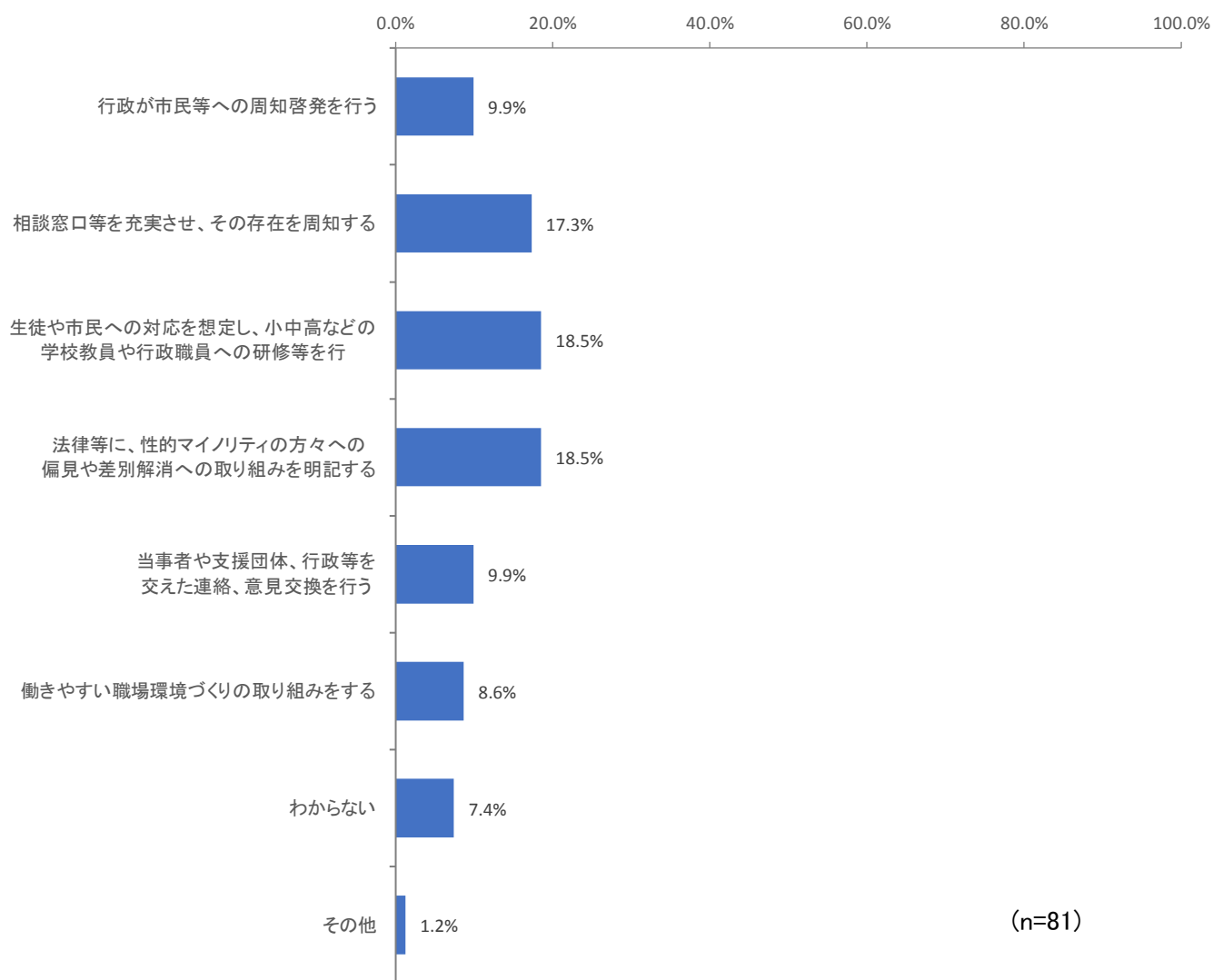
0.0% 上位1位

【問23で「1 思う」「2 どちらかと言えば思う」を選んだ方にお尋ねします。それ以外の方は、問25へお進みください。】

問24 性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。あてはまるものを2つ以内で選んでください。（複数回答）

性的マイノリティの方々が生活しやすくなるための対策について、「生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」「法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」（18.5%）の割合が最も高く、次いで「相談窓口等を充実させ、その存在を周知する」（17.3%）、「行政が市民等への周知啓発を行う」「当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う」（9.9%）となっている。

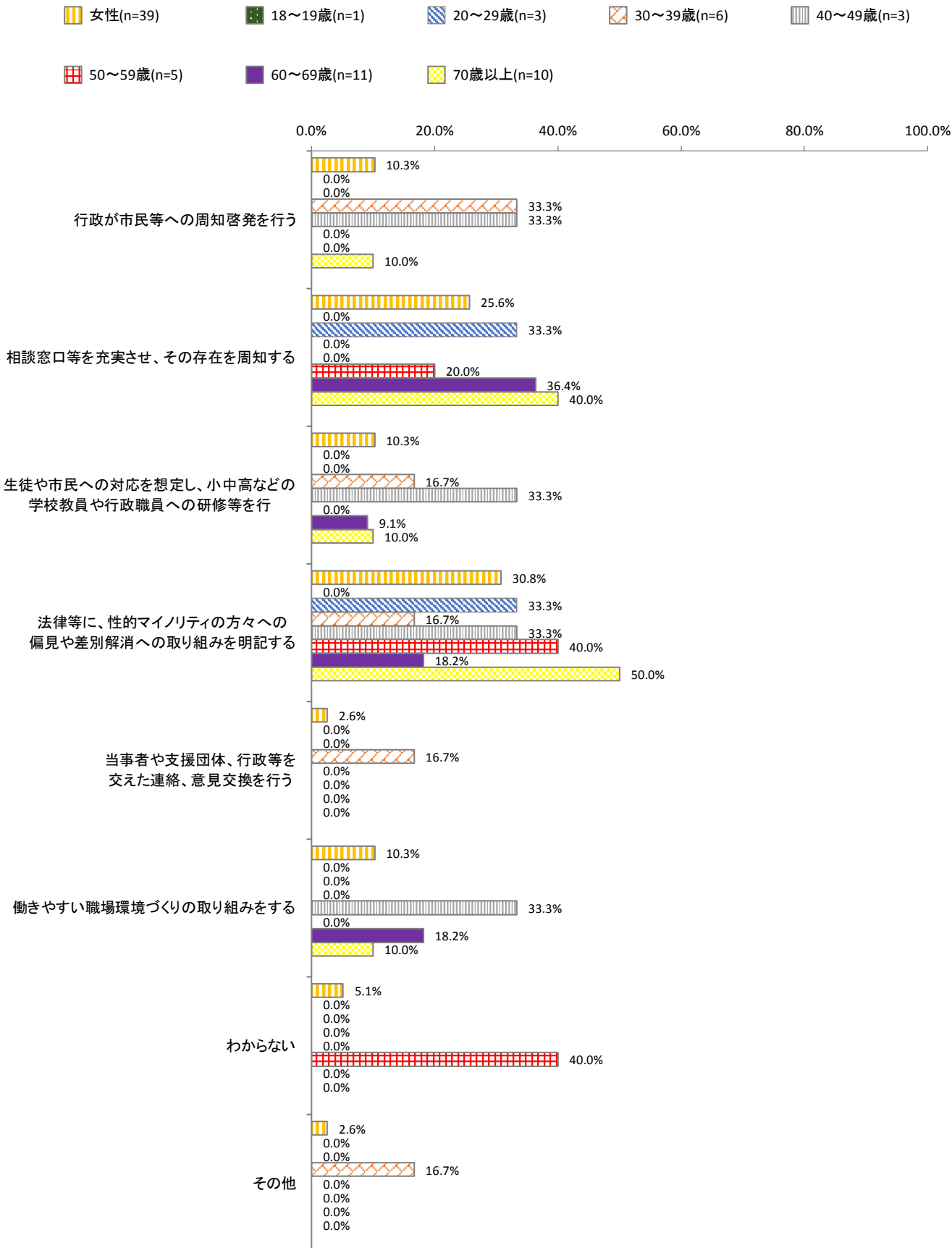
性的マイノリティの方々が生活しやすくなるための対策



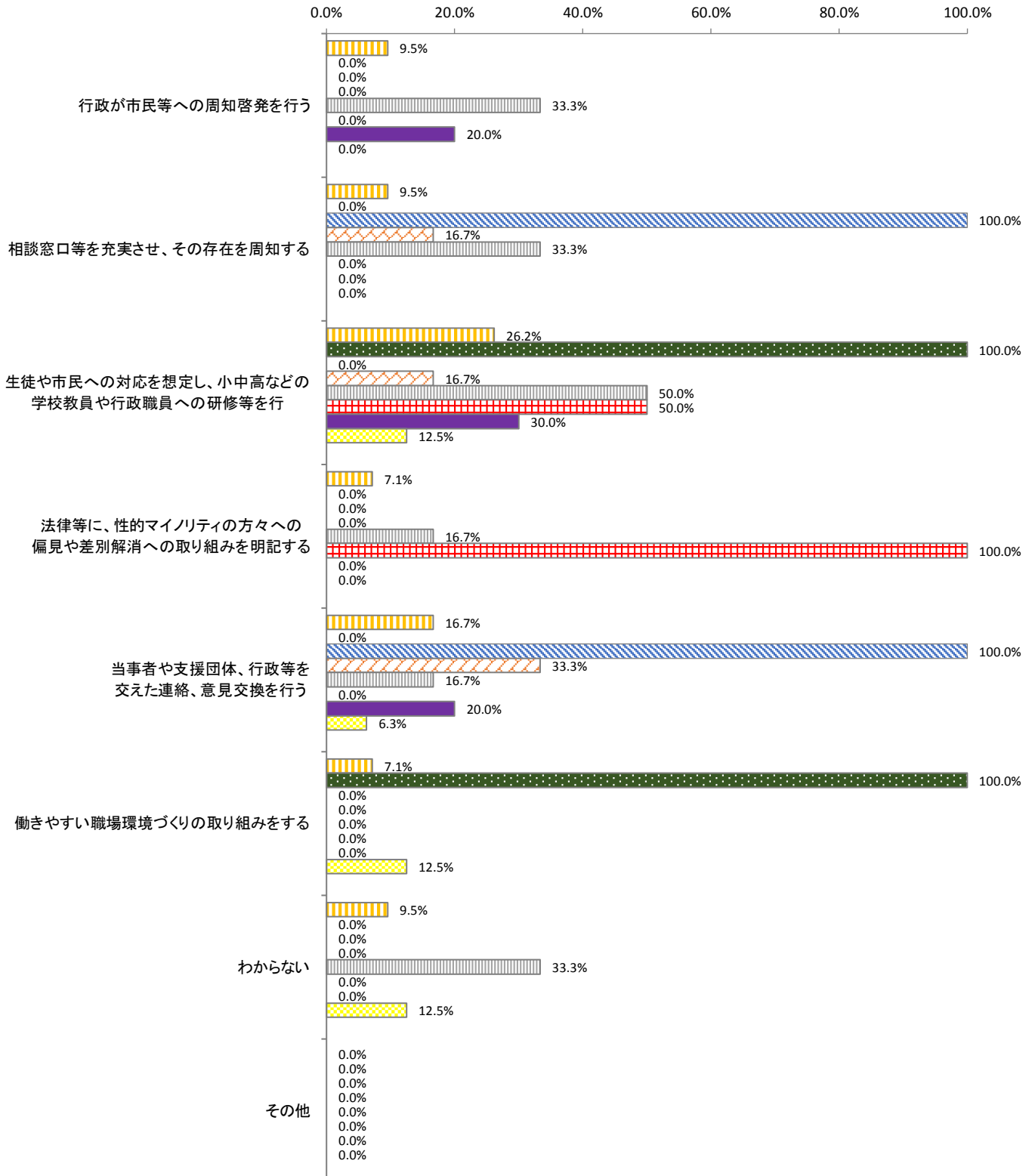
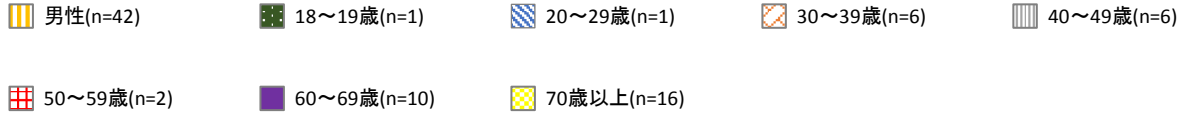
性別でみると、「相談窓口等を充実させ、その存在を周知する」と回答した割合は、女性（25.6%）が男性（9.5%）を16.1ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、女性の70歳以上では「法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する」が5割、男性の40～50歳代では、「生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」が5割と、他の年代に比べて高くなっている。

【性的マイノリティの方々が生活しやすくなるための対策(女性・年代別比較)】



【性的マイノリティの方々が生活しやすくなるための対策(男性・年代別比較)】



	行政が市民等への周知啓発を行う	相談窓口等を充実させ、その存在を周知する	生徒や市民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う	法律等に、性的マイノリティの方々への偏見や差別解消への取り組みを明記する	当事者や支援団体、行政等と連携、意見交換を行う	働きやすい職場環境づくりの取り組みをする	わからない	その他
始良市(n=81)	8 9.9%	14 17.3%	47 18.5%	15 18.5%	8 9.9%	7 8.6%	6 7.4%	1 1.2%
女性(n=39)	4 10.3%	10 25.6%	4 10.3%	12 30.8%	1 2.6%	4 10.3%	2 5.1%	1 2.6%
18～19歳(n=1)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=3)	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=6)	2 33.3%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%
40～49歳(n=3)	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
50～59歳(n=5)	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%
60～69歳(n=11)	0 0.0%	4 36.4%	1 9.1%	2 18.2%	0 0.0%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%
70歳以上(n=10)	1 10.0%	4 40.0%	1 10.0%	5 50.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%
男性(n=42)	4 9.5%	4 9.5%	11 26.2%	3 7.1%	7 16.7%	3 7.1%	4 9.5%	0 0.0%
18～19歳(n=1)	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=1)	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30～39歳(n=6)	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
40～49歳(n=6)	2 33.3%	2 33.3%	3 50.0%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%
50～59歳(n=2)	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
60～69歳(n=10)	2 20.0%	0 0.0%	3 30.0%	0 0.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
70歳以上(n=16)	0 0.0%	0 0.0%	2 12.5%	0 0.0%	1 6.3%	2 12.5%	2 12.5%	0 0.0%

0.0% 上位1位

※主なその他回答

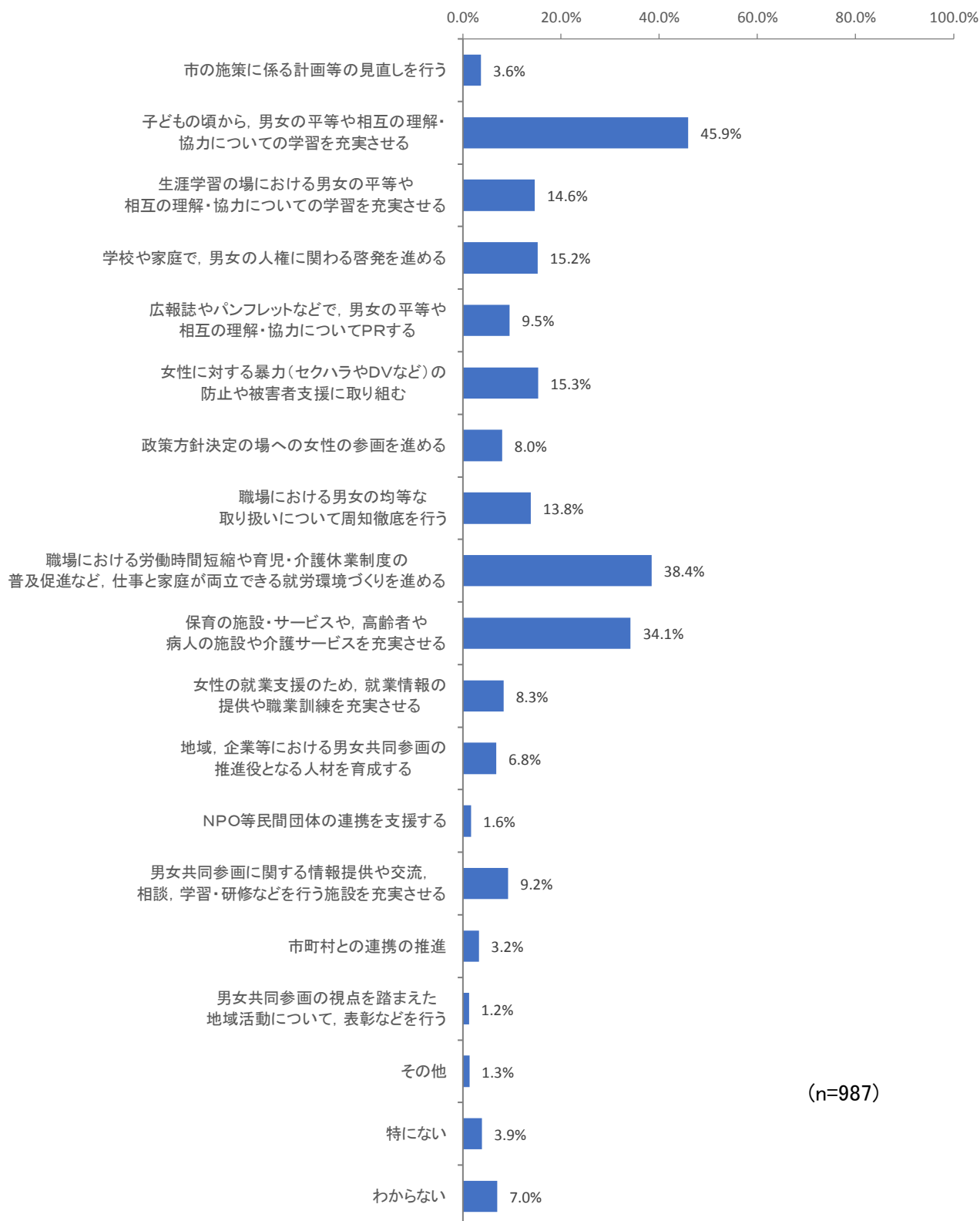
- 個々の意識を変えないと何をしてもあまり意味がない
- もっと情報を増やしたら
- 偏見のない国の話でメディアなどで意識をかえていく
- 性的マイノリティに対する偏見や差別をなくす教育をする
- 自らが選んだのなら自信を持って生きれば良いと思う。偏見、差別は消えないと思うので、自信を持って生きるのが良いのではないだろうか。
- そっとしておく事の大切さを知ってほしい。(理解する事)
- マイノリティの方を特別にしない
- 制服をなくす、みんなのトイレを学校にも増やす、混合名簿、性別の記入欄をなくす

Ⅶ 始良市の男女共同参画施策について

問25 あなたは、「男女共同参画社会」を形成していくために、始良市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の1～19の中から3つ以内でお選びください。（複数回答）

男女共同参画社会を形成するために力を入れていくべきことについて、「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」（45.9%）の割合が最も高く、次いで「職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める」（38.4%）、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」（34.1%）となっている。

男女共同参画社会を形成するために力を入れていくべきこと

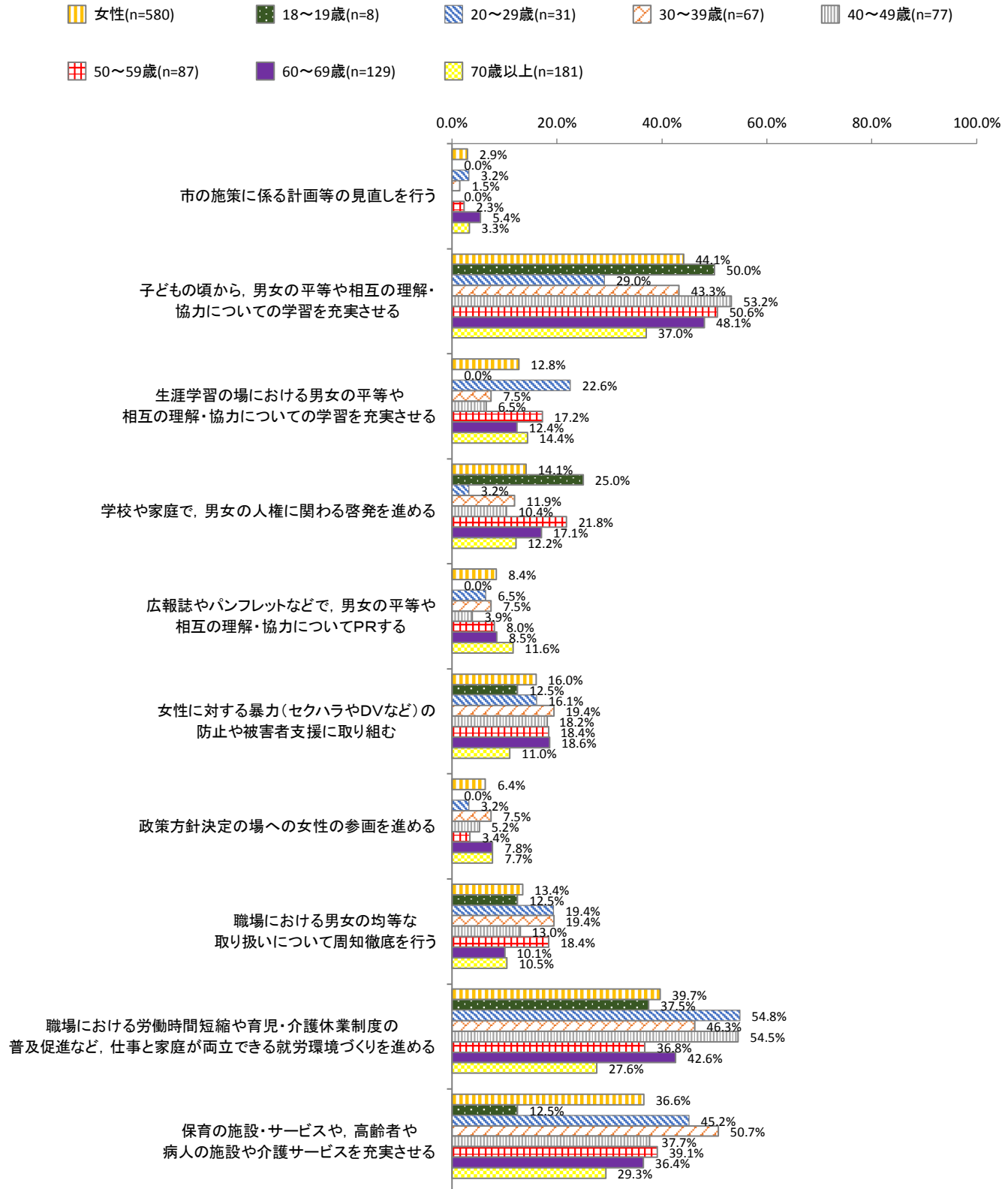


※本設問の性別・年代別のグラフ及び表については、選択肢が多い為2つに分けて表示してあります。

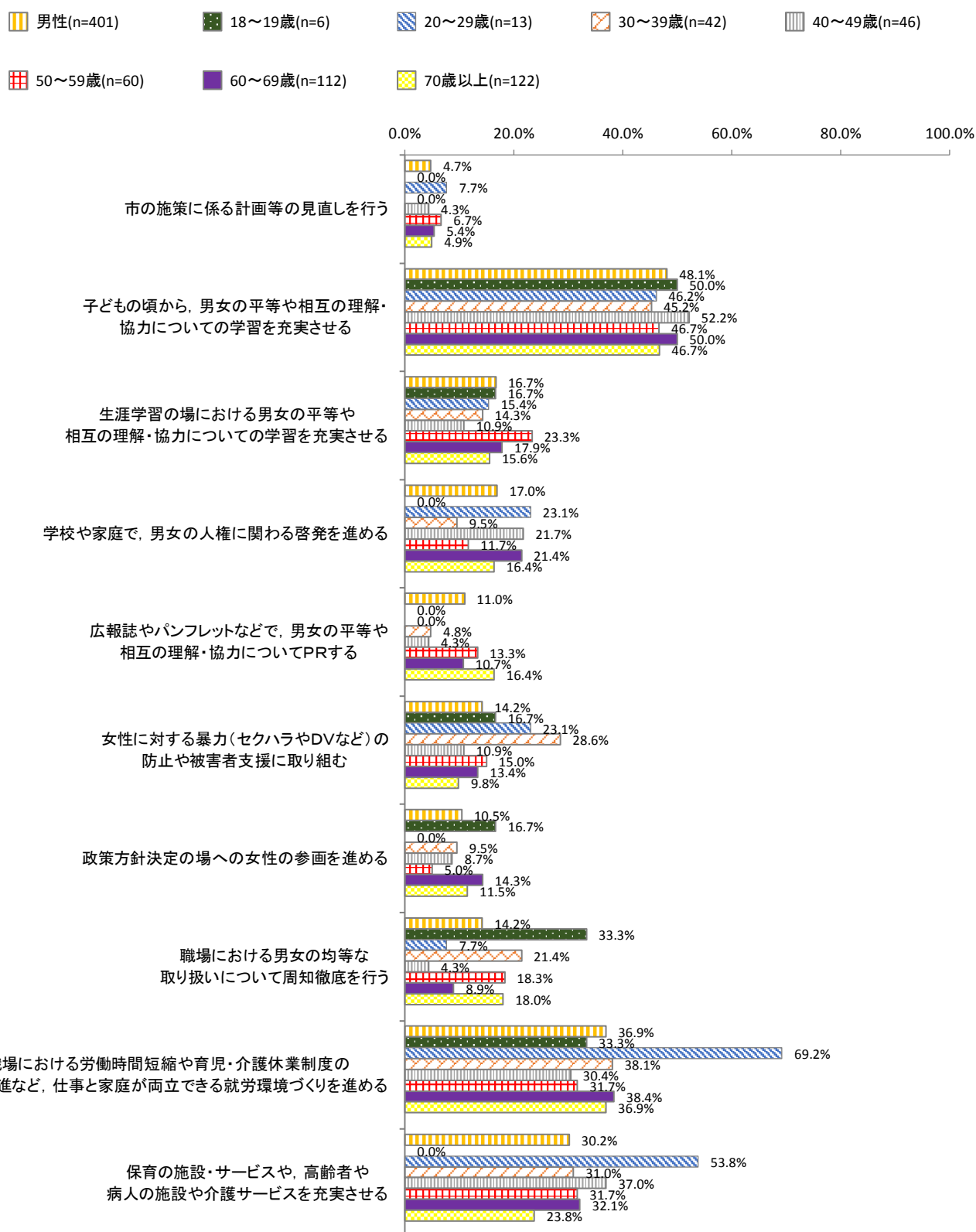
性別でみると、傾向に大きな差はみられない。

性別・年代別でみると、女性の20歳代から40歳代、男性の20歳代では、「職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める」「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」と回答した割合が高く、他の年代で「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」と回答した割合が高くなっている。

【「男女共同参画社会」を形成していくために力を入れていくべきこと(女性・年代別比較)①】



【「男女共同参画社会」を形成していくために力を入れていくべきこと(男性・年代別比較)①】

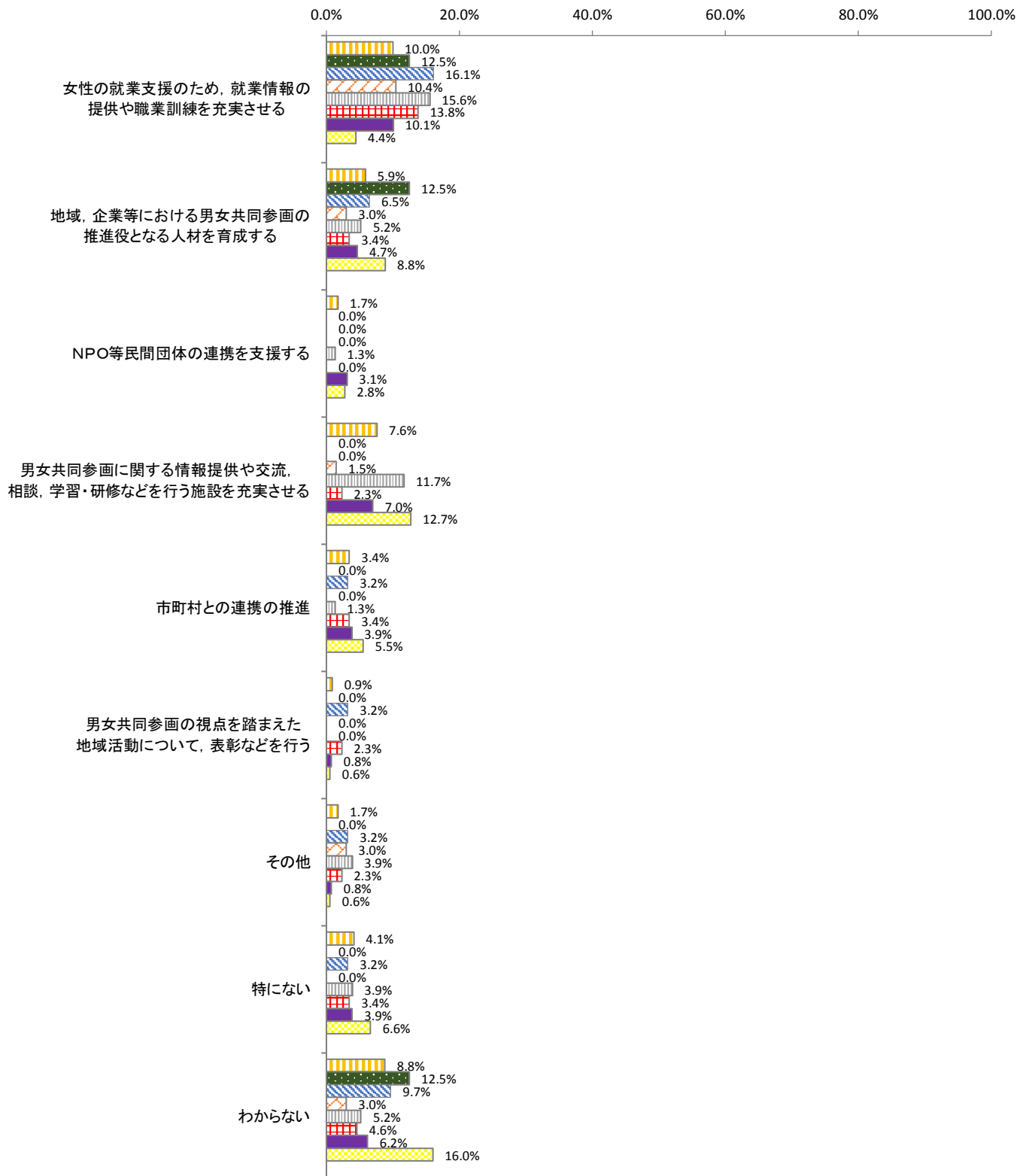
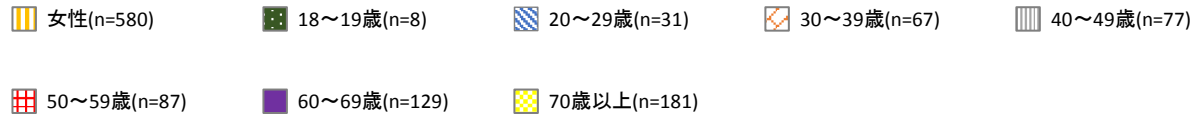


表①

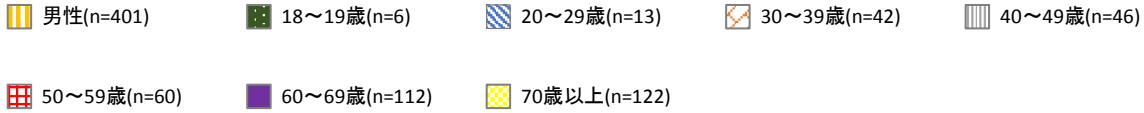
	市の施策に係る計画等の見直しを行う	子どもの頃から、男女の平等や相互理解・協力を促進させる	生涯学習の場における男女の平等や相互理解・協力を促進させる	学校や家庭で、男女の人権に関わる啓発を進める	広報誌やパンフレットなどで、男女の平等や相互理解・協力についてPRする	女性に対する暴力（セクハラやDVなど）の防止や被害者支援に取り組む	政策方針決定の場への女性の参画を進める	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う	職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就業環境づくりを進める	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる
始良市(n=987)	36 3.6%	453 45.9%	47 14.6%	150 15.2%	94 9.5%	151 15.3%	79 8.0%	136 13.8%	379 38.4%	337 34.1%
女性(n=580)	17 2.9%	256 44.1%	74 12.8%	82 14.1%	49 8.4%	93 16.0%	37 6.4%	78 13.4%	230 39.7%	212 36.6%
18～19歳(n=8)	0 0.0%	4 50.0%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	3 37.5%	1 12.5%
20～29歳(n=31)	1 3.2%	9 29.0%	7 22.6%	1 3.2%	2 6.5%	5 16.1%	1 3.2%	6 19.4%	17 54.8%	14 45.2%
30～39歳(n=67)	1 1.5%	29 43.3%	5 7.5%	8 11.9%	5 7.5%	13 19.4%	5 7.5%	13 19.4%	31 46.3%	34 50.7%
40～49歳(n=77)	0 0.0%	41 53.2%	5 6.5%	8 10.4%	3 3.9%	14 18.2%	4 5.2%	10 13.0%	42 54.5%	29 37.7%
50～59歳(n=87)	2 2.3%	44 50.6%	15 17.2%	19 21.8%	7 8.0%	16 18.4%	3 3.4%	16 18.4%	32 36.8%	34 39.1%
60～69歳(n=129)	7 5.4%	62 48.1%	16 12.4%	22 17.1%	11 8.5%	24 18.6%	10 7.8%	13 10.1%	55 42.6%	47 36.4%
70歳以上(n=181)	6 3.3%	67 37.0%	26 14.4%	22 12.2%	21 11.6%	20 11.0%	14 7.7%	19 10.5%	50 27.6%	53 29.3%
男性(n=401)	19 4.7%	193 48.1%	67 16.7%	68 17.0%	44 11.0%	57 14.2%	42 10.5%	57 14.2%	148 36.9%	121 30.2%
18～19歳(n=6)	0 0.0%	3 50.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	1 7.7%	6 46.2%	2 15.4%	3 23.1%	0 0.0%	3 23.1%	0 0.0%	1 7.7%	9 69.2%	7 53.8%
30～39歳(n=42)	0 0.0%	19 45.2%	6 14.3%	4 9.5%	2 4.8%	12 28.6%	4 9.5%	9 21.4%	16 38.1%	13 31.0%
40～49歳(n=46)	2 4.3%	24 52.2%	5 10.9%	10 21.7%	2 4.3%	5 10.9%	4 8.7%	2 4.3%	14 30.4%	17 37.0%
50～59歳(n=60)	4 6.7%	28 46.7%	14 23.3%	7 11.7%	8 13.3%	9 15.0%	3 5.0%	11 18.3%	19 31.7%	19 31.7%
60～69歳(n=112)	6 5.4%	56 50.0%	20 17.9%	24 21.4%	12 10.7%	15 13.4%	16 14.3%	10 8.9%	43 38.4%	36 32.1%
70歳以上(n=122)	6 4.9%	57 46.7%	19 15.6%	20 16.4%	20 16.4%	12 9.8%	14 11.5%	22 18.0%	45 36.9%	29 23.8%

0.0% 上位1位

【「男女共同参画社会」を形成していくために力を入れていくべきこと(女性・年代別比較)②】



【「男女共同参画社会」を形成していくために力を入れていくべきこと(男性・年代別比較)②】



表②

	女性の就業支援のため、就業情報の提供や職業訓練を充実させる	地域、企業等における男女共同参画の推進役となる人材を育成する	NPO等民間団体の連携を支援する	男女共同参画に関する情報提供や交流、相談、学習・研修などを行う施設を充実させる	市町村との連携の推進	男女共同参画の視点を踏まえた地域活動について、表彰などを行う	その他	特になし	わからない
始良市(n=987)	82 8.3%	67 6.8%	16 1.6%	91 9.2%	32 3.2%	12 1.2%	13 1.3%	38 3.9%	69 7.0%
女性(n=580)	58 10.0%	34 5.9%	10 1.7%	44 7.6%	20 3.4%	5 0.9%	10 1.7%	24 4.1%	51 8.8%
18～19歳(n=8)	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%
20～29歳(n=31)	5 16.1%	2 6.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.2%	1 3.2%	1 3.2%	1 3.2%	3 9.7%
30～39歳(n=67)	7 10.4%	2 3.0%	0 0.0%	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.0%	0 0.0%	2 3.0%
40～49歳(n=77)	12 15.6%	4 5.2%	1 1.3%	9 11.7%	1 1.3%	0 0.0%	3 3.9%	3 3.9%	4 5.2%
50～59歳(n=87)	12 13.8%	3 3.4%	0 0.0%	2 2.3%	3 3.4%	2 2.3%	2 2.3%	3 3.4%	4 4.6%
60～69歳(n=129)	13 10.1%	6 4.7%	4 3.1%	9 7.0%	5 3.9%	1 0.8%	1 0.8%	5 3.9%	8 6.2%
70歳以上(n=181)	8 4.4%	16 8.8%	5 2.8%	23 12.7%	10 5.5%	1 0.6%	1 0.6%	12 6.6%	29 16.0%
男性(n=401)	24 6.0%	32 8.0%	6 1.5%	45 11.2%	12 3.0%	7 1.7%	3 0.7%	14 3.5%	18 4.5%
18～19歳(n=6)	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
20～29歳(n=13)	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%
30～39歳(n=42)	3 7.1%	2 4.8%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	1 2.4%	1 2.4%	0 0.0%	3 7.1%
40～49歳(n=46)	6 13.0%	3 6.5%	1 2.2%	7 15.2%	1 2.2%	1 2.2%	0 0.0%	1 2.2%	1 2.2%
50～59歳(n=60)	3 5.0%	5 8.3%	1 1.7%	5 8.3%	2 3.3%	1 1.7%	0 0.0%	3 5.0%	4 6.7%
60～69歳(n=112)	5 4.5%	6 5.4%	0 0.0%	12 10.7%	4 3.6%	2 1.8%	1 0.9%	6 5.4%	4 3.6%
70歳以上(n=122)	6 4.9%	15 12.3%	3 2.5%	20 16.4%	4 3.3%	2 1.6%	1 0.8%	3 2.5%	6 4.9%

0.0% 上位1位

※上位 1 位の項目が表①に集まっているため表②には上位 1 位の項目がない。

問 26 自由意見

< 1. 男女共同参画に対する意識について >

- 男女の差異は「子供を産む」こと以外には何もない。このことを両性が共に自覚し、全ての事象に同じように取り組む姿勢を小さい頃から養っていくことが必要だと思う。(60歳代/男性)
- 男女の役割分担はある程度あっても良いと思いますが、家事、育児を女性にだけ押し付ける風潮は、まだまだ根強く残っていると思います。男性の意識改革から、まず始めて、大人が子供に手本を示すのが一番だと思います。(50歳代/女性)
- 男女の平等にお互いの理解等の学習をする。育児、介護(休業)の普及を促進する。(70歳代以上/男性)
- 男女平等は、昔に比べたら、大変良くなった。昔は、夫が酔って妻に暴力を振るう家庭を耳にしたが、今は大分減った。介護等も今は、施設が増え、家庭で女性がする事もなくなってきている。仕事もトラック運転手や農業等も女性の姿が多く見られ、男女共同参画社会は、それなりに進んでいると思う。(60歳代/男性)
- 教育の場、職場、メディア、政府等が色々取り組んでも、結局は道徳的な問題であり。人の心の在り方だと思います。(40歳代/男性)
- 公務員なので、比較的、男女参画社会的な環境ではあると思いますが、地域的に男尊女卑の考えは根強いと思います。(30歳代/女性)
- 男女平等、相互間における事案は未だ女性優遇である。セクハラは女性→男性に対しても多く、注意すれば逆ハラの的な事がある。出来ない者ほど権利を主張する。かつ、努力が不足している。(60歳代/男性)
- 男女共同参画社会の現実にはまだまだ広まりがたりないのではと思う。男性女性の良い点を発揮できる分野があるので何にもかも一緒とはおかしいのではと思う。育児はやはり母親にしかできないところ父親にしかできないところでそれぞれが協力し社会においては家族と過ごせる配慮した仕事の段取りなど地域社会によって家族は成り立つのではと思います。(50歳代/女性)
- 男女問わずいろいろな困難はあると思うがまずは相手を思いやることが大切。(60歳代/男性)
- 店頭の価値表示で「男の子用女の子用」という表示をよく見かけます。こうした表示に違和感を覚えますがこれを当然ととらえる社会では共同参画は難しいと考えます。(40歳代/男性)
- 基本的に、人間は皆平等で男も女も同性愛者も赤ちゃんも一人の人格をもち老人も最後まで大切な命を全うし、障害者の方も普通に身近に皆で助け合って生活できる。以前はそうだったような気がします。あえて、昔は家長がいて矛盾を感じる部分もあるけれど平等という考えを否定するものではない。現在、女性が平等ではないという感じはあるかもしれないが、身近にかえってのびのびと楽しんでいる姿しか見えてこない。(60歳代/男性)
- この問題を考えるとき男性側に責任があるように言われるが、必ずしもそうではない。これまでの生活習慣とあわせて女性もそれを望んでいたのだ。男が活躍するエリア女が活躍するエリアそして男女共同でつくり上げていく社会があって、初めて男女共同参画社会は実現すると思う。(70歳代以上/男性)
- 先ずは、意識改革が必要。特に男性。(70歳代以上/男性)
- 日本の伝統文化は出来るだけ尊重するが、現代社会に生じた矛盾には適切に対応し、折り合いをつけていく姿勢が必要。イスラム社会の規範を無視する事は出来ない。行き過ぎたジェンダーフリーが目指すべき将来像ではない。お互いを尊重し容認し、日本らしさのある社会の構築が必要である。容姿、男女の違いが問題ではなく、仕事への姿勢、能力の習得等で差別化されるのは当然である。一部の意見を偏重する、いわゆる「人権屋」は日本社会の良さを見出す努力もしてほしい。(70歳代以上/男性)
- もって生まれた男女それぞれ個性を尊重し大事にしあう社会作りが大切だと思います。(60歳代/男性)
- 鹿児島は特に男・女の違いを意識しすぎ。男を立てすぎ。小さい時からの家庭内の扱いが大切と思うので、小学生の時から再教育してその子たちが家庭をもって、子育てをする時になって改善されるのではないかと。(70歳代以上/女性)
- アンケートに答えましたが、このアンケートが男女共同参画社会の実現、計画の策定に繋がるとは思えません。現状で始良市が男女共同参画社会を目指す為に行っていること、全くわからない。今更アンケートを取ることが遅すぎると思う。(30歳代/女性)
- 今の高齢者の世代はどうしても男が上、という見方があるためなかなか平等に行きつくまでには困難と思われる。男が働き養うといった考えはずっと続くであろう。女がそとに出て男が家庭を守るといった家もたまにあるが、やはり周囲の目は厳しい。子供が小さいうちから国全体で取り組み続けていけば少しは期待できるかな?(50歳代/女性)

- 県民性がなのか？高齢者も多いためか？男が偉いという場面をよく目にすることが多い。他県で育ちましたので、特に感じるのかもしれない。（50歳代/女性）
- 男尊女卑の時代から、男女平等、男女共同参画が叫ばれるようになってきましたが、それまでの反動からか、過度に女性を優遇する風潮も見られます。（女性のお茶汲みは廃止されましたが、軽重に関わらず力作業や外仕事は男がすべきという考え方が残っているなど）真に男女平等とは何なのかということに配慮しつつ、すべての人の人権が尊重されながら、男女分け隔てなく参画できる社会になる事を望みます。（20歳代/男性）
- 女性が弱い立場とされていたのは一昔前で、今は女性の方が立場や物腰も強かったりと一概には言えない事も多々あると思う。例えば、DVも女性からも多いそう。そこを男女とひとくくりにするのではなく、困難なことですが「全ての人」が目標になれば良いと思う。多くの人が生きやすい社会になってほしい。最近は「女性～」を推進しすぎているようで違和感を感じる。（30歳代/女性）
- 男女平等は生物学的性別とジェンダー両面から常に一体的にとらえて考えなければならない。どちらかに偏ると誤解を招く事が多い。（世界は男女で成り立っている。）（70歳代以上/男性）
- 男女平等という中で、女性もやはり甘えがあったりする人もいますので、男女共同も男性、女性、それぞれのいい特徴を出してこれからの社会を乗り切って行って欲しいと思います。（70歳代以上/女性）
- 地域の皆さんがいろいろな行事やサークル活動などに参加して住民でいっぱい話し合いの場を作って協力しながらいろんな事を勉強していくしかありませんね。（70歳代以上/女性）
- 近年、男女共同参画の考え方にちょっとおかしいと感じることがあります。男女平等を唱えすぎて女性には体力的に厳しい仕事や作業をムリやりさせられているような感じを受けます。私としての考えは、男女平等に「機会」を与える、「権利」を与えることが男女平等であって上に書いたように男女同じ作業を「男女平等」という言葉を借りてすることは、少しちがうのではないかと思います。男女平等を唱える人ほど自分に重い作業や仕事に来たときに引いてしまう人が多い気がします。こういうことも、男女平等というのですか。男性には男性が、女性には女性がするのに適したこともあると思います。（20歳代/女性）
- 戦前・戦中の教育を受けた人たちの中にはまだまだ理解ができない人がいることは事実（特に男性）。でも若い世代では実施されつつあると思う。人としての特性が活かされる社会へ進んでほしい。私の年代ではその時代が見られるかなとおもいつつ。（70歳代以上/女性）
- 女性の地位がもっと良くなると良いですけど。地方では女性の地位低いと思います。（70歳代以上/女性）
- ”男は仕事、女は家庭”この固定概念を是非改善してほしいです。男性ももと子育てに参加して、親子のきずなを強くしてほしいし、女性ももっと社会に出て、世の中の流れや自己磨きをしてほしい。残業がいいと思っている世の中や一人にかかる負担を会社が減らす努力をしたら一個人がストレスなく、仕事ははかどって、会社も働く側も世の中もwin-winで良くなると思う。（20歳代/女性）
- 機会を増やし住民の意識向上にがんばって頂きたいと考えます。（60歳代/男性）

<2. 男女共同参画社会の形成について>

- 男女平等に程遠いような企業です。学校の行事に休みをもらう事も難しいです。保育園、学童の子供を迎えに行く為に、早く早退する事も、良い顔はされません。（女性がして当たり前。8:30~18:30勤務していますが）勤務管理もされていない為、週40時間以上の実務があっても残業代もありません。男女平等以前の企業です。30年遅れてます。（30歳代/男性）
- 子供の成長には、家庭の充実が必要である。だから、子育て中の父母の役割をしっかりと話し合う事が大切である。仕事は、男女問わず、その人の能力、才能を活用するよう人材を見抜く人が必要で、それを、あらゆる分野で活用出来たら良いと思う。現在は、男社会である。どこへ行っても管理職は背広を着た男性が大多数である。もう少し、異なる思考や判断力を持つ女性を活用したら、社会が変わると思うが…。いつのことかな…日本は古臭い。考え方を変えないと、掛け声だけで終わってしまうネ！（60歳代/女性）
- 女性が働きやすいように、賃金を上げて、保育サービスを充実してほしいです。（20歳代/女性）
- 女性経営者等、社会貢献されている方々や、個人、会社の表彰（ボランティア、寄付等）、個人経営等、長年、仕事をされてこられた人の表彰。（50歳代/男性）
- 私自身の働きざかりの頃と比べて、随分働きやすくなっていると思います。社会構造の変化（核家族化、看護師等）によりむしろ平等にならざるを得なくなりつつあるのではないのでしょうか？（70歳代以上/女性）
- 性別に関係なく、一人の人間として尊重され、その人らしく生きていける社会であってほしいと思います。（50歳代/女性）
- 男女平等の前に男女の性の持つ違いがあります。体力的なものや性からくる得手不得手。それを理解できた上ででない、平等はなりたないのでは。特に鹿児島では職場よりも社会（家庭）での不平等が当たり前になっているような感じを受けます。他県からくる（移住してきている人々）にとってはとても住みにくい県です。（これも他県民だった方

からよく聞きます) 男だから、女だからと言う言葉は非常によく聞きなじみません。社会全体の考えがどうにかならないと、平等などありえない県だと考えます。ただ女性は女性であるという事を上手に使い守られているなとも思い、平等とは何だろうとも思います。(50歳代/女性)

- 男性女性の立場のあり方については人それぞれの考えがあるのでなかなか難しいと思うのですがどんな考えでも人に押し付けるのはよくないと思います 例えば会社に出て働くのが苦手で家事の得意な人に逆を押し付ける事のない社会が好ましいと思います (40歳代/女性)
- 男女共同協議が出来る時、子供を放置しないで会議に参加できるとき、人々難しいのでは? 地域分割的に家族総出で協議できたら? 高齢が多いので子供世代が無理に生活を切り詰めているのが現実なのは? 心にゆとりがないのでは? 孤独死や現実逃避が増えそう。(70歳代以上/女性)
- 多様な人々が明るく楽しく生きられる社会の実現を望みます。(60歳代/女性)
- 男女とも権利だけを主張しているように思う。子供を産めるのは女性だし性別はあるのだから出来ることを協力して生活する助け合う尊重する。(50歳代/男性)
- 私は中高生を育てています。主人の仕事の関係で転居があり、状況によって働く事もありますが、基本的には家族の為に家事をすることが好きで楽しんでます。近頃社会、職場で働くことのほうが重要視されていて、専業主婦は軽視されているように感じます。個々の良さ、それぞれの生きやすさが大事にされる社会であってほしいと思っています。(40歳代/女性)
- 結婚する時、結納金を払うという習慣があったり、世帯主には夫の名前を書く習慣があり、この問題はだいぶ時間がかりそうである。(50歳代/男性)
- 日本の今までの歴史の中で男性は外で働いて女性は家庭を守るという古い習慣がある。長い歴史の中でこのことは人類のDNAに確実に刻まれている。世代を通して、でもこの習慣はあくまで昔のことであって人が進化していくなかで古い考え方となってきている。でも戦争を経験したことがない人達が戦争を聞いて嫌なイメージがあるように男尊女卑というのも言葉自体を知らなくても世代的、社会的にその風潮が薄れていくのを期待したいです。誰もが平等である社会の実現に向けて頑張っている人達がいることを誇りに思います。頑張ってください。(30歳代/男性)
- 働くも育てるの男女の責任はいつしよ。市報でよく男女共同参画社会に対しての記事をみていました。子育てしやすい始良市ですが、”子”を育てるのは誰か。まだまだ母親だけが”働く”環境に思えます。始良市ではなく、鹿児島県、本質は日本全体かもしれませんが「女性の社会進出を!」と掲げていても実際”役”がついてしまうと妊娠出産をあきらめると言う方も多くいらっしゃると思います。「平等」といいつつ男性、女性の本質の在り方も見失わってしまわないように…これからの子どもたちが「男の子でよかった」「女の子としてうまれてよかった」など思う社会ができれば良いですね。(30歳代/女性)
- 私は62才です。大正生まれの両親に育てられ男をたてるべきという家庭教育を受けてきました。母親は父親の言う事には反論もせず生きていたのを見て育ちました。子どもの頃の教育はやはり、どこかに残っていまさらと思う気持ちです。これからの若い人達にはぜひに色々な法律・支援をしていただき、くらしやすい社会にしていきたいと思えます。(60歳代/女性)
- 保育所や学童クラブ等の充実。高齢者や病人等を預けられる施設をぜひ増やしてほしい。(60歳代/女性)
- 会社での実態を直接調べて欲しい。PRも大切だがDVにあった方やLGBTの方の話を直接聞いてその中で行政が何をするか見極めて欲しい。男女共同参画については、女性が本気で男性と同等に仕事をしたいと思っている人がどれ位の割合でいるのか、男性女性それぞれ特性があるので完全な同等は必要ないと思う。ただ最初から女性の昇進が難しい(入社しても男性は役員候補で女性は数年以上勤務しないと候補になれない)というのは感じている。現段階で男性と女性で勤務年数に対して昇進がどの割合か調べて、具体的な改善、指導を行ってみるのはどうか。(40歳代/女性)
- 子供、高齢者などみんなが楽しめるイベントの開催、広場を作る。余裕があれば優しく出来るので仕事の時間を考える。(30歳代/男性)

< 3. 就業について >

- 私は今無職ですが28年務めた職場で感じたことです 私は独身で仕事が好きで自分では一生懸命にやってきましたつもりでした それで子供を持っている女性たちの守りに入る体制に疑問を感じていました 忙しいところは嫌だ 昇進して責任があるのは嫌だ などの日々の仕事を無難にこなせばいいという風潮が女性たちにあり独身の女性は割と向上心があるみたいでした 私は職場で23年に勤務し子供をもうけることができ産休育休明けで仕事復帰してから今まで責めの仕事をしてきたつもりが守りに入っている自分の気持ちにきづき「なるほど この気持ちか」と女性たちの家庭を守りたいために仕事は普通にこなしていく姿にまさに自分になってしまった もう歳ですが子供が手が届かない今この自分の経験を生かして仕事をしたかったなと独身の頃とは心持が違うという女性たちがたくさんいると思います その女性たちに責めの生き方働き方が少しでいいからできればいいなと思います やはり仕事をする事は楽しいことだと思ったりいいなと (50歳代/女性)

- 子供をもつ母親で仕事をしている人はたくさんいます 働き方、収入、家庭の事情 祖父母などの援助 大変な思いをしている人はたくさんいます 何かをあきらめ何かを母親自身をたくさん犠牲にして子育てもしづらくなっています 子を持つお母さん自身がキラキラ輝けるような働きやすく子育てしやすくそういう町になったらいいなと願います 男女の平等なんてただの一度もおもったことはありません 平等でないからこそ生きやすい社会になってほしいと思います (40歳代/女性)
- 働き方の改革が第一です (60歳代/男性)
- 働きたい女性が働きやすい社会になってほしい。働いていない人への偏見もない社会へ (50歳代/女性)
- 女性の上司は望まない (70歳代以上/男性)
- 結婚して出産育休を経て職場復帰しました。妻である私に家事育児ほとんどの負担が来ており復帰したばかりのころは仕事を続けることに不安がありました。今ではなんとかこなれましたが、主人の会社は男の社員の育休や子育てに参加には全く理解がない会社です。ですが、今の現状では、民間の企業のほとんどが当たり前のように思います。民間の会社でも男性が休みをとりやすかったり、子育てに参加しやすい制度を作ってほしいです。制度はあっても取りづらいのでは意味がないのでみんなが取りやすくなるような社会づくりも大切だと思います。 (30歳代/女性)
- 今勤務している所が、男女平等という点ではその通りだと思う。個人的に思うのは平等といっても、体力や物のとらえ方等で男女差は当たり前にしてあるので(個人差もあるが)役割分担が上手くいっているんだと思う。地域の行事にて、参加希望する際、女性ということで良く思われていない事はよく感じる。だからといって何でも平等というのは疑問に思うこともある。力仕事を主にする仕事に女性がいくら(本人は頑張っても)限界があり男性に気を遣ってもらった時点で、平等とは思えない。また、育児・家事に協力的でない男性に、育児休暇を取った人に対して不満をもち声を聞いたことがある。回答は無記名となっているが、このアンケートを送付された宛名下のバーコード的なものと返信用封筒のバーコード的なもので個人特定されないのか不安です。 (40歳代/女性)
- 特に女性一人で子育てをされている方の仕事を優先的に紹介したり安定的な生活が送れるように市が協力してほしいと考えます。職場環境も大切ですが、まずは仕事に従事出来なければ何も始まらないからです。男女共同参画社会はまずは一家の安定した生活がベースにあると考えているので市はリーダーシップをとってほしいです。 (50歳代/男性)
- 年金額が年々、少なくなってきたので60歳過ぎてからの働く職場がまだまだ少ないと思う。年金を減らす前に職場の環境を考える方が先だと思う。年金定期便ハガキが来るたび思う。自分の将来にとっても不安を感じる。 (50歳代/女性)
- これから先、人口は減っていくので税金の確保が難しくなっていくと思う。元気でなるだけ病院にかからないよう体を鍛えて、働けるうちは気持ちよく働けるようになってほしい。男女関わらず。 (50歳代/女性)
- 女性にも仕事に対する意識を変えてもらいたい。女だからという考えがある。 (40歳代/男性)
- 出産は女性にしかできません。出産後、仕事を続けたくても退職せざるをえない職場が多い現状です。出産で退職とならない法令を作って欲しい。 (50歳代/女性)
- ・女性も結婚後も働きやすい子育て、介護しながらも続けられる、支援する施設が増える事を希望します。・車社会の始良では舗道の整備がもう少し進む事で子供、老人も守れるのではと考えます。・道路の整備されるのも期待します。 (60歳代/女性)
- 女性の働きにくさは外国に比べて子供を預かる場所が少ない為ではないでしょうか。ベビーシッター少しの家事手伝いのシステムを充実してもらえれば女性にとって助かります。 (60歳代/男性)
- 職場で妊娠が判明したら遠回しに子供が出来たら仕事を続けて欲しいと言われた。安心して産休、育休が取れるような社会になって欲しい。 (30歳代/女性)
- 男女共同参画の実現はとても難しいと思う。職場の労働時間の短縮や育児、介護休業制度が充実してもお給料が変わらなかつたり減少したら地域活動どころではない。経済的ゆとりが心のゆとりに繋がると思う。地域活動はある程度のゆとりがあってはじめて自分から参加しようと思うもの。強制的にやらされたりしても続かない。それには女性の働ける環境、心配しないで子育て出来る環境が必要。 (60歳代/女性)

<5. 男女共同参画に関する教育について>

- とにかく、子供の頃から(男女共同参画社会)の勉強をすることが大事ではないでしょうか? (70歳代以上/女性)
- 幼少時の教育。 (60歳代/男性)
- 「三つ子の魂百まで」に象徴されるように人間の基礎づくりにある幼児期での教育が必要と思われる。 (70歳代以上/男性)
- 女性も社会にどんどん進出して欲しい。そのためには資質の向上に向け学習できる場も設けて欲しい。これからの若い方々に期待しています。 (60歳代/女性)
- <5. 男女共同参画に向けた啓発活動について>

- 性差だけではなく、すべての市民の人権が守られるように活動していただきたい。市民にも差別や偏見が無くなるよう努力する必要があると思うが、まずそのきっかけを広報してほしい。 (60歳代/女性)
- 市の広報誌等でPRする (70歳代以上/男性)
- 法律・条例で表記の実現を目指す取組みを推進するとありますが、具体的に何を誰にするか良くわからない。もっと掘り下げたわかりやすい活動内容を示してもらいたい。市としての情報を流して欲しいです。勉強不足で申し訳ありません。よろしくお願いします。 (70歳代以上/男性)

<6. 子育てについて>

- 現在育休中で、フルタイム復帰予定ですが、預けられる保育園が無く、こんなに酷いものかと驚き、がっかりしています。始めこそ、「保留」の通知が紙切れ一枚で届きましたが、二回目以降は書面、電話連絡すら来ません。これから育児と仕事の両立が出来るのか不安になっている中に、保育園は落ち続け、そのフォローも何もない。これでは働こうとしている意欲も下がる一方です。同じようなお母さんは沢山います。一日でも早く、受け皿を増やしてください。怒りでいっぱいです。あと、復帰日が遅い人でも兄弟がいる人は早く保育園が決まり、ずっと落ち続けるのは精神的にきついです。長く待っている人の点数が高くなるよう、制度を見直してほしい。始良市に住んでいたら活躍できません。 (30歳代/女性)
- 働く場があることはありがたいが、個人的には家庭を優先させたいと子育て世代の女性の仕事の軽減として、仕事の負担を減らして欲しい。 (40歳代/女性)
- 私は81歳です。まだまだ老人クラブ等男女平等程遠い感がします。座り方の順序とか一会の役員のあり方とか。現在の若者が老人になったらよくなるのじゃないですかね。今、アンケートを取ってはどうこう言うよりも今の若者は家事育児を平等にこなし、男も育休を1年とって休んで子供も育てるし、今の老人や男には考えられない、世の中が来ると思っています。私は、結婚、共稼ぎ、独身と、やってきました。子供もよく育ちました。戦後の男女共同参画社会に今後、日本も自然となってきましたよ。今の40歳以上がいなくなれば、後50年後には素晴らしい日本になりますよ。国も県も市もあわてないでいきましょう。でも、平和ボケにならないように日本人の自覚をしっかり持ちましょう。 (70歳代以上/男性)
- 子どもや孫たちの応援をすることで、生きがいを感じていますが、働きながらの子育ても本当に大変です。(子供が成長すると部活やそれ以外でも休みなく出番が多く、多分疲れも取れず頑張っている様子に手伝いせざる得ません。)健康な暮らしができてこそだと思えます。みんなが無理なく過ごせたらいいですね。 (60歳代/女性)
- 私達の息子夫婦はフルタイムの共働きです。10月には3人目の孫が産まれる予定ですので私達も精一杯子育ての手伝いをするつもりです。 (60歳代/女性)
- 児童クラブの安定。子供が入所できないと働けない。 (50歳代/女性)
- 今回の調査で子供達の生活が暮らしやすい時代で平和が長く続くように改めて思いました。 (60歳代/女性)
- 働きたいけど待機児童が多く保育園に入れません。無認可は保育料が高いので働いても保育料にとられてしまったり…保育園がもう少し増えてほしいです。 (30歳代/女性)
- 育ってきた環境に左右されてそのまま我が子への環境を作りあげてしまう。大人を変えることは難しいので負の連鎖を断ち切るためにも教育と環境がつくづく大事なと子育て中の母親としては感じています。裕福な一部の子どもたちが恩恵を受けるのではなくすべての始良市の子どもたちに平等に教育がされるよう配慮していただければと思います。地道な活動がやがて安心して住める街、働きやすい街、子育てしやすい街づくりにつながっていくのではないかと切に願っています。 (40歳代/女性)
- 私が現在生活している中で、特に不自由に感じるほど男女の不平等を実感することはそれほどありません。ただ、社会で働いたり様々な活動に参加する上で、小さい子供を連れての参加に対する支援がもう少しあったらありがたいと思います。「お母さんはみんな大変。それが当たり前。だから頑張る」と突き放されるような気持ちになることもあります。それが故に、様々な活動に足が向かないことがあります。女性も子供を産むまでは、仕事を持ったり趣味があったり、それぞれの世界があったと思います。でも「女性は家庭を守るのが仕事」という考えが根強くて一歩踏み出せないのも事実です。男女がそれぞれの特性を生かして社会生活を送ることは差別だとは思いません。「男性だから、女性だから」という考えも差別や不平等とも違ふとおもいます。自分なりの考えを持って男女がお互いを尊重できればそれで良いように思います。問題は社会通念・慣習・しきたりによって他者からその考えを強要されることだと感じます。そのような考えが少しずつでも減っていけば、精神的な負担も減り、より女性が社会に出ていくことが自由になるのではないのでしょうか。 (30歳代/女性)

<7. 男女共同参画に向けた行政の取り組みについて>

- 仕事、家庭を両立させながらも、個人の生活(趣味や学習)も広げていきたいが、現在の所、始良市は仕事をしている人が利用できるような夜間の部や、土日の女性向けの講座やサークル等がまだ少ないので、関係機関や団体にも増設を呼び掛けてもらえたらありがたいです。(参考 鹿屋市は多かったです) (40歳代/女性)

- 行政として会議をする事、意見を聞く事、調査をする事が目的となってしまうないように、これらを実現の為の手法の一つとして取り組んでほしいです。 (30歳代/女性)
- 行政がまず基本的な型【モデル】になってほしい 上に立つ人がモデルになって推進してほしい【古い型の人間では思いつかないことが多い】 (70歳代以上/男性)
- この言葉が政府、マスコミ、教育他いろいろな場で登場し数十年たったと思うが行政が本当に、取り組む姿勢がないので美しい日本、日本人らしい道徳性などに押されて、身近な生活に浸透密着しない現状と思う。環境を変える変えられるのは、まず行政がしっかり取り組んでいくことではないのかな? (70歳代以上/男性)
- 半年に一回でもいいので会議の場所があってもいいと思う 市の事をもっと知りたい (70歳代以上/女性)
- 老若男女子供赤ちゃん皆が住みやすい始良市になってほしいです (40歳代/女性)
- やはり男女共同参画社会を現実するためには当事者の声を聴くことが重要であると考えためそういった意見交換の場を設けることが大切だと考えます (20歳代/女性)
- 男女共同参画社会が発足して目標の成果があったのか今だに手探りなのかその原因は何か。発足しをて短期間なのでまだ評価はできないと思うが今後の結果を期待したい。掛け声に終わらず現実を (70歳代以上/男性)
- 行政の役割において、計画の策定や市民に対する啓発に重点を置くのではなく、必要な法令、条例を設けるなりして、国や他の機関と共に企業等現実の働く場において差別的な扱いが許されない条件作りに専心していただきたい。介護や保育に係るサービスで市として改善を図るべきところには、しっかりとお金を保証して大いに取り組んでいただきたい。意識面に課題があることはその通りだが、学校教育や社会的な啓発に頼っていても、なかなか先に進むことは難しい。市役所内も含めて、共同参画に関する具体的な方針を立てたらその施等の実施結果についての評価も内外に明らかにして着実な成果をあげていただきたい。大いに期待しています。 (70歳代以上/男性)
- 人間社会に於いて、女性は太陽、花であるから行政からどんどん女性リーダーを育ててほしい。地域社会に於いて明るいムード社会作りに努力する様に望む。 (60歳代/男性)
- 法的にクォーター制を決め、達成年次を定め、強制的に実現を目指すべきでしょう。抵抗があると思う。目標年次を長くすればいつか実現すると思う。 (70歳代以上/男性)
- 始良市は“日本一住みやすい街”であって欲しいと願っています。鹿児島市に近い、空港に近いという利便性、自然環境に恵まれた土地柄本当に恵まれた自治体と思います。その中には当然働きやすさも含まれているわけですが男女の平等性ということになると長い歴史もあって、女性の進出がまだまだ遅れているように思います。女性の視点によって、改革できる分野は多々あると思います。まずは市における女性登用を積極的に行っていただきたく願っております。 (70歳代以上/男性)
- 推進者に責任ある職の方も位置付ける。 (50歳代/男性)
- このアンケートは女性に対するアンケート内容に思えた。女性が社会活動することに対して賛成できます。男性に対しても女性同様に考えて頂きたい。法的には案外、女性が優位に感じられる場合がある。(セクハラ、パワハラ問題、親権問題、離婚等の問題等) 平等であれば男女は関係ないと思う。一人の人間として考えるべきだと思う。市がこの様な調査を行い、今後、取り組んでいかれるのだと考えますが、市職員が専門性のある方がしっかりと取り組んで欲しい。市の窓口に行くとき疑問を多々感じる。 (40歳代/男性)
- 一人一人が自己肯定感を持てるようになることが重要だと考えます。自分も大切に、他人も大切にできる。これには教育が必要。学校でも一番影響するのが家庭の中、しかし親も自分の育てられた方法しか知らない場合が多い。「親業」のようなものを学ぶべきだと思います。行政が取り上げてくれると周知されると思います。 (50歳代/女性)
- 一般市民の意識調査をする前に行政の長や役職にある者が実践しているのか自問自答してみる必要がある。役所の現況を公表し足元の現況を周知させる事が必要。 (70歳代以上/男性)

<8. 家庭生活について>

- 家庭が平和であること。平等、自由の意義を認識する。 (70歳代以上/女性)
- 家庭生活を充実させて健全な子どもの育成が第一ではないでしょうか。 (70歳代以上/男性)

<9. その他>

- このようなアンケート調査が行われると言う事は、始良市内でも問題が起こっているのですね。社会人で今頑張っている息子(45歳)、娘(48歳)にも話しておかねばと思う事でした。結婚して家庭を持ち、それぞれ子供もおりますが、これからの世の中つくづく大変だなあ、生きていくことがおばあちゃんとして孫達へ何と話していけば良いのか。 (70歳代以上/女性)
- 人と人が愛情や優しさをもって関わろうと心掛ければ、力まなくても男女共同参画社会は自然と成り立つのではないかと私は勝手に思っています。すみません。 (50歳代/女性)
- とにかく住みやすく、男女共にうまく生活できて、子供達がしっかり育成される社会を望みます。 (50歳代/女性)

- そんなに女性を外に出したいのですか？子供達に日本の文化や情緒の教育をしっかり家庭で育てるのも大事じゃないですか？一歩仕事に出れば、子供が…とか父が、母が…と言ってられないのではないですか？仕事と言うのは、責任のあるものだと思いますが…。全て社会の制度に任せて育ってきた子供達が、今ちょっとおかしくなってはいませんか？日本の文化も壊れています。親が盆も正月も休みなしで働くので、先祖の墓参りもせず、おせち料理も作らず、親戚同士も付き合いが無く。男は女みたいに優しく、ひ弱で、女は暴言を吐き、暴力的で、どちらも結婚せず子供も産まざりてず…このままでは日本はおしまい。 (60歳代/女性)
- 恵まれた時代に育った男女が、今は指導する立場にもかかわらず、子供を教育する能力に欠けている事を度々反省すべきは大人です。みんな違っていい。心が大切です。 (70歳代以上/女性)
- アンケートの結果を速やかにまとめ、まず出来る事から、即、手掛け、その成果を目に見える形で実行してほしい。 (70歳代以上/男性)
- 女性がもっと勉強できる場を設けて欲しい。年齢もう少しあげてほしい (60～70歳位まで)。現在は皆さん若い (年をとっても生き生きとしている)。素敵でおしゃれな始良市となりますよう応援と見守りをしたいと思います。 (60歳代/女性)
- 私の考えは、男女は完全に平等でなくても良いと思う。男らしさ、女らしさも大切だと思うし、それにあてはまらない人も、自分らしさがあれば良いと思う。子供を持つ親としては、将来娘がデートDVとか大丈夫かなと心配する事もある。 (40歳代/女性)
- 始良市が男女共同参画をどのようにしているのかがわからないのでご意見もご要望もできません (60歳代/女性)
- 男らしく女らしくと言ってもらえない世の中になりつつあることが少し残念な気がします。ただいつの世になっても人は人でしか癒せない事は事実だと思います。それを含めて人を育てる環境作りをどの世代も住みやすい街づくりを (50歳代/女性)
- 福祉センターにエレベーターをつけてほしいです。また、現在加治木の地区には、地域を回る巡回バスを運行して頂いてありがたいのですが、市が広がりましたので加治木～始良～蒲生地区にも広げて頂きたいのです。回数は少なくともかまいません。 (70歳代以上/女性)
- 急激な変化は抵抗を受けるかもしれないがひとつづつの積み重ねで徐々に受け入れられると思う (60歳代/男性)
- お疲れ様です。めんどくさと思って放置していましたが市民に参加しなければと思い記入しました。なので乱筆、乱文で申し訳ございません。男女共同参画社会の実現は非常に大切なことだと思います。以前私は、DV被害者でした。随分時が経って今思えるのは生きていく事はきついです。いろんな負荷、ストレスがかかり長生きはしたくない。50代なのに。楽しい社会ってどんな社会だろう。と思います。みんなが楽しい社会とは。天国の様なせめて午前中働いて午後はみんな休みだと無理かな一想像するだけで楽しい。 (50歳代/女性)
- 男女共同参画社会の意識調査ということでしたが、質問が「女性が」「女性が」ばかりで非常に女性よりのものばかりなのが引っ掛かりました。確かに男性に優位な社会ではあると思いますが片方の立場を考慮するばかりの考えは少し疑問に思うところもあり回答しづらかったです。一応回答はしましたが、あまり納得はしていません。 (40歳代/女性)
- 男女共同参画とは言え、男にしか出来ない事女にしか出来ない事を互によく理解し、生活する事が重要だろう。子供の人格形成には両親が責任をもって行い、決して安易に保育所(保育所)に預ける事には反対である。両親に子に対する保育能力が欠如している場合は別である。子を十分に保育出来ない両親の場合は子供の保護の為の施設が必要だが、一般的には子が義務教育が終了するまでの期間は両親が責任をもって育てる事が重要と考える。女性の閉経期が早いことについては、人類学者もその原因を言及しているが、閉経後は孫の育成に専念するためだと意見を述べている。このように男女平等とは男女が同じ権利を主張するのではなく、男としての働き、女としての義務をよく理解することであり、男女が同等の社会参画には無理があると思われる。男女をそれぞれ課された義務を理解し、その中で共同参画をすればよいと考える。 (70歳代以上/男性)
- 男女共同参画と良く言いますが、なんでも平等であるはずがありません。体格・骨格等も違いますし、男性が出来る事、女性が出来る事、違いがあるはずです。どこまでも平等にするかは個々違うと思います。私も働いていた時、少ない人数の中、妊娠休暇、出産休暇、育児休暇と権利を主張されると残っている者の負担も大でした。一生懸命働いて(私は未婚)昇給、昇級が一緒というのもあまり納得できません。どこまでが男女共同参画なんでしょうね！ (60歳代/女性)
- 福祉施設職員の給与・処遇面の改善。給料が安すぎる。福祉施設はブラック企業だ。 (50歳代/男性)
- 気持ちの問題なので役場のすることはない。くだらないアンケートは時間と金の無駄。やめましょう。 (40歳代/男性)
- 本アンケート調査など実態把握はとても重要。 (50歳代/男性)

- 市役所内の人員の配置や昇進など年功序列や好き嫌いではなく、男女を問わず本当に実力のある人を活かすべき。何であの人が？と思われる人が管理者（部長、課長）でいる。これではいくら男女共同参画を唱えても意味なし。民間では考えられないこと、会社を潰す。 （60歳代/男性）
- 鹿児島市での話ですが、大学院生の時、論文作成について男女共同参画センター主催の講義を聴講しました。予約制とのことだったので早い時期から参加の意思を伝え、予約をしたのに「女性を優先します。女性で定員がいっぱいになれば参加できません」と伝えられました。これが悪平等でなくて、なんなのかな。今でも非常に腹が立つ思いです。男・女の性の比率のみで機会を奪おうとする今の共同参画の在り方に強い憤りをもっています。 （30歳代/男性）
- 女性しか出来ない課をつくる （50歳代/女性）
- 項目が長かった。住みよい街づくりの為の実現に向けての取組み良い企画。 （60歳代/男性）
- マタハラ、セクハラ、パワハラを少しでも減らすようにして欲しい。 （30歳代/男性）

男女共同参画社会についての市民意識調査

調査の趣旨とご協力をお願い

日頃は、市政の推進に格別の、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。
始良市では、「男女の人権が尊重され、心豊かな生きがいと活力に満ちた住みよいまち」をめざして、新しい男女共同参画計画の策定を予定しています。このため、市民の皆さまのご意見や実態を把握し、今後の施策に反映させる重要な基礎資料とするために、今回の調査を実施いたします。

ご多忙のところお手数をおかけいたしますが、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 29 年 9 月

始良市長 笹山 義弘

ご記入に際してのお願い

1. この調査のご記入はあて名の方ご本人がお答えいただくようお願いいたします。事情によりご本人がお答えできない場合は、ご家族等が本人から聞き取って代筆をお願いいたします。
2. 回答は調査票に黒のボールペンか鉛筆で、あてはまる項目の番号に直接○（まる）をつけてください。
3. 質問によっては、ある条件に該当する方だけにご回答いただくものがありますので、説明にしたがって、最後までお進みください。
4. 回答は無記名で、結果はすべて統計数字として処理いたします。プライバシー保護には細心の配慮をいたしますので、そのまま個別の回答内容が公表されることはありません。ぜひともあなたご自身のお考えや現状をお答えください。
5. 本アンケート中に使われている用語については、別紙に用語説明を記載しておりますのでご利用下さい。
6. すべてのご記入が終わりましたら、お手数ですが記入もれがないかお確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手は要りません）に入れて、平成29年9月30日（土）までに郵便ポストへ投函してください。なお、この意識調査は無記名方式です。お名前、ご住所の記入の必要はありません。

【お問い合わせ先】

始良市役所 市民生活部
男女共同参画課 男女共同参画係

〒899-5492

始良市宮島町 25 番地

電 話：0995-66-3163

：0995-66-3111（内線 241）

F A X：0995-65-7112

E-mail:sankaku@city.aira.lg.jp



はじめに、お答えいただいた回答を統計的に分析するため、あなた自身のことについてお尋ねします。

※ この調査票でいう、「結婚」には、婚姻の届出はしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にあること（事実婚）を含みます。

F 1 あなたの性別をお尋ねします。(○は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

F 2 あなたの年齢をお尋ねします。(平成 29 年 8 月 1 日現在) (○は1つ)

1 18～19歳	2 20～29歳	3 30～39歳
4 40～49歳	5 50～59歳	6 60～69歳
7 70歳以上		

F 3 あなたは現在、結婚されていますか。(○は1つ)

1 結婚している	2 離別・死別	3 未婚
----------	---------	------

F 4 あなたの世帯の状況は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

1 単身世帯	2 夫婦世帯
3 二世帯世帯（親と子など）	4 三世帯世帯（親と子と孫など）
5 その他（具体的に：	）

【F 3で「1 結婚している」と回答された方にお尋ねします。それ以外の方は、F 6へお進みください。】

F 5 ご夫婦の職業の有無についてお尋ねします。(○は1つ)

※ 職業とは、自営業主、家族従事者、雇用者（常勤、パート、アルバイト、内職等を含む）等のことをいいます。

1 どちらも職業がある	2 自分のみ職業がある
3 配偶者のみ職業がある	4 どちらも職業がない

⇒ 回答後はF 6へ

F 6 あなたのお住まいの地域はどちらですか。(○は1つ)

※ 住民票に届けている住所をお答えください。

1 始良地域	2 加治木地域	3 蒲生地域
--------	---------	--------

I 男女平等の意識について

問1 あなたは、次のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。

①～⑥のそれぞれについて、右欄の1～6の中からあなたの考えに最も近い番号を1つずつお選びください。

※ 各項目ごとに横に見てお答えください。 (○印は <u>それぞれ1つずつ</u>)	優遇されている 男性の方が非常に	どちらかといえ ば男性の方が優遇さ れている	平等である	どちらかといえ ば女性の方が優遇さ れている	優遇されている 女性の方が非常に	わからない
① 家庭の中で	1	2	3	4	5	6
② 学校教育の中で	1	2	3	4	5	6
③ 職場の中で	1	2	3	4	5	6
④ 地域社会の中で	1	2	3	4	5	6
⑤ 法律や制度で	1	2	3	4	5	6
⑥ 社会通念、慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6

問2 あなたは、男女共同参画に関連の深い用語について知っていますか。

①～⑬のそれぞれについて、右欄の1～3から1つずつお選びください。

※ 各項目ごとに横に見てお答えください。 (○印は <u>それぞれ1つずつ</u>)	よく 知っている	聞いた ことがある	知らない
① 男女共同参画社会※①	1	2	3
② 男女共同参画社会基本法※②	1	2	3
③ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）※③	1	2	3
④ 女子差別撤廃条約※④	1	2	3
⑤ 男女雇用機会均等法※⑤	1	2	3
⑥ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）※⑥	1	2	3
⑦ 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）※⑦	1	2	3
⑧ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）※⑧	1	2	3
⑨ ダイバーシティ※⑨	1	2	3
⑩ ジェンダー※⑩	1	2	3
⑪ 始良市男女共同参画推進条例※⑪	1	2	3
⑫ 始良市男女共同参画基本計画※⑫	1	2	3
⑬ 鹿児島県男女共同参画センター※⑬	1	2	3

問3 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、何が最も重要だと思いますか。次の1～7の中から1つだけお選びください。

- 1 法令や制度の上での見直しを行い、女性に対する差別的取扱いにつながるものを改めること
- 2 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
- 3 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に資質や能力の向上を図ること
- 4 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
- 5 行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- 6 その他（具体的に： _____）
- 7 わからない

II 就業について

問4 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。次の1～6の中からあなたの考えに最も近い番号を1つだけお選びください。

- 1 女性は職業をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 5 子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 6 その他（具体的に： _____）

問5 あなたのご職業を次の1～11の中から1つだけお選びください。

自営業主	1	農林漁業	問6へ
	2	商工サービス業	
	3	その他の自営業	
家族従事者	4	農林漁業	問6へ
	5	商工サービス業	
	6	その他の家族従事者	
雇用者	7	常勤の勤め（社員、職員等）	問5-2へ
	8	非常勤の勤め （パート、アルバイト、臨時職員、嘱託等）	
無職	9	主婦・主夫	問5-1へ
	10	学生	
	11	その他の無職	

【問5で **無職**「9」～「11」と回答された方へお尋ねします。】

問 5-1 あなたはどのような形で働きたいですか。次の1～9の中から1つだけお選びください。

- 1 常勤（フルタイム）
- 2 常勤（短時間勤務，フレックスタイム制）
- 3 パートタイム，アルバイト，嘱託
- 4 契約社員，派遣社員
- 5 在宅勤務
- 6 事業経営
- 7 家業に従事
- 8 働くつもりはない（働くことができない場合を含む）
- 9 その他（具体的に： _____）

⇒ 回答後は問6へ

【問5で **雇用者**「7」又は「8」と回答された方へお尋ねします。】

問 5-2 あなたの職場では，性別によって処遇が異なりますか。次の1～12の中からいくつでもお選びください。

- 1 募集・採用の機会に格差がある
- 2 賃金に格差がある
- 3 女性に補助的な業務や雑用（お茶汲み等）に従事させる傾向がある
- 4 昇進，昇格に格差がある
- 5 管理職への登用に差がある
- 6 結婚や出産時に退職する慣例や雰囲気がある
- 7 中高年女性には退職を促すような雰囲気がある
- 8 社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある
- 9 育児休業や介護休業の取り易さに差がある
- 10 同じ職場で夫と妻が共に働いている場合，どちらかが働き続けにくい雰囲気がある
- 11 その他（具体的に： _____）
- 12 特に性別により処遇が異なっていることはない

⇒ 回答後は問6へ

問6 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。次の1～10の中からいくつでもお選びください。

- 1 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
- 2 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
- 3 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
- 4 長時間労働の改善が十分でないこと
- 5 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
- 6 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
- 7 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
- 8 その他（具体的に： _____）
- 9 特にない
- 10 わからない

問7 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。次の1～12の中からいくつでもお選びください。

- 1 やりがいのある仕事ができる
- 2 賃金が上がる
- 3 能力が認められた結果である
- 4 家族から評価される
- 5 自分自身で決められる事柄が多くなる
- 6 やるべき仕事が増える
- 7 責任が重くなる
- 8 やっかみが出て足を引っ張られる
- 9 仕事と家庭の両立が困難になる
- 10 その他（具体的に： _____）
- 11 特にない
- 12 わからない

問8 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。次の1～13の中からいくつでもお選びください。

- | | |
|----|--------------------------------------|
| 1 | 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備 |
| 2 | 介護支援サービスの充実 |
| 3 | 家事・育児支援サービスの充実 |
| 4 | 男性の家事・育児参画への理解・意識改革 |
| 5 | 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革 |
| 6 | 働き続けることへの女性自身の意識改革 |
| 7 | 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革 |
| 8 | 職場における育児・介護との両立支援制度の充実 |
| 9 | 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入 |
| 10 | 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止 |
| 11 | その他（具体的に： _____） |
| 12 | 特にない |
| 13 | わからない |

Ⅲ 家庭生活について

【F3で「1 結婚している」と回答された方にお尋ねします。それ以外の方は問11へお進みください。】

問9 あなたの家庭では、現在、次のような事柄を主に誰が行っていますか。①～④のそれぞれについて、右欄の1～5の中からあてはまる番号を1つずつお選びください。（育児と介護・看護については、現在該当しなくても、過去の経験があればそれをもとにお選びください。該当しない場合は、「5」をお選びください。）

※ 各項目ごとに横に見てお答えください。 (○印は <u>それぞれ1つずつ</u>)	夫	妻	夫と妻 が分担	その他 の人	該当 しない
① 家事	1	2	3	4	5
② 育児	1	2	3	4	5
③ 介護・看護	1	2	3	4	5
④ 自治会、町内会、公民館など地域活動への参加	1	2	3	4	5

【F3で「1 結婚している」と回答された方にお尋ねします。それ以外の方は問11へお進みください。】

問10 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのようにお考えですか。次の1～4の中からあなたの考えに最も近い番号を1つだけお選びください。

- | | |
|---|------------|
| 1 | 賛成 |
| 2 | どちらかといえば賛成 |
| 3 | どちらかといえば反対 |
| 4 | 反対 |

⇒ 回答後は問11へ

IV 仕事と家庭・地域への取組について

問 11 あなたは、現在、次のような地域における活動に参加していますか。次の1～11の中からいくつでもお選びください。

- | | | |
|----|-----------------------------------|---|
| 1 | 自治会、町内会などの地区を単位とした団体活動 | |
| 2 | 婦人（女性）会、老人クラブ、青年団などの団体活動 | |
| 3 | 子ども会、PTA、スポーツ少年団などの子どもの活動に関わる団体活動 | |
| 4 | 消費者運動、環境保護運動などの住民活動 | |
| 5 | 民生委員・児童委員、体育指導委員などの公的な委員活動 | |
| 6 | 子育て支援や高齢者介護、障害者福祉などを目的としたグループ活動 | |
| 7 | NPO法人などの非営利活動 | |
| 8 | 特定の団体やグループに属さず、個人として地域に貢献する活動 | |
| 9 | スポーツや趣味、文化振興などに関わるサークル活動 | |
| 10 | その他（具体的に： | ） |
| 11 | 特に何もしていない（理由： | ） |

【問 11 で「1」～「10」を選んだ方にお尋ねします。それ以外の方は、問 12 へお進みください。】

問 11-1 あなたが地域における活動に参加するなかで感じている、活動のやりがいや苦勞していることなどがありましたら教えてください。

--

⇒ 回答後は問 12 へ

問 12 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、あなたはどのようにお考えですか。まず、次の1～8の中から、あなたの現実（現状）に最も近い番号を1つだけお選びください。

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1 | 「仕事」を優先している |
| 2 | 「家庭生活」を優先している |
| 3 | 「地域・個人の生活」を優先している |
| 4 | 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している |
| 5 | 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している |
| 6 | 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している |
| 7 | 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している |
| 8 | わからない |

問 13 それでは、あなたの希望はどれに当てはまりますか。次の 1～8 の中から 1つだけ お選びください。

- 1 「仕事」を優先したい
- 2 「家庭生活」を優先したい
- 3 「地域・個人の生活」を優先したい
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 8 わからない

問 14 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思えますか。次の 1～14 の中から 3つ以内でお選びください。

- 1 男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参画することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者や周囲の人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で男性による家事、子育て、介護、地域活動についてもその評価を高めること
- 6 家事などについて、性別によらず、身に付けることができるような育て方をすること
- 7 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 8 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心が高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 9 研修等により、男性の家事、子育て、介護等の技能を高めること
- 10 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進めること
- 11 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 12 その他（具体的に： _____）
- 13 特に必要なことはない
- 14 わからない

V 男女の人権について

【F3で「1 結婚している」「2 離別・死別」と回答された方にお尋ねします。それ以外の方は、問16へお進みください。】

問15 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。次の①～③のそれぞれについて、右欄の1～3の中からあてはまる番号を1つずつお選びください。

	一、 二度あつた	何度 もあつた	ま ったく ない
※ 各項目ごとに横に見てお答えください。 (○印は <u>それぞれ1つずつ</u>)			
① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3
② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
③ いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

⇒ 回答後は問16へ

問16 あなたは、10歳代又は20歳代に、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。次の①～③のそれぞれについて、右欄の1～4の中からあてはまる番号を1つずつお選びください。

	10 歳代 にあつた	20 歳代 にあつた	10・ 20 歳代 ともあつた	い ずれ にも なかつた
※ 各項目ごとに横に見てお答えください。 (○印は <u>それぞれ1つずつ</u>)				
① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3	4
② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3	4
③ いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3	4

【問 15 又は問 16 で1つでも行為を受けたことがあった方にお尋ねします。それ以外の方は、問 19 へお進みください。】

問 17 あなたはそのことを、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。次の1～13の中からいくつでもお選びください。

- 1 家族や親戚に相談した
- 2 友人，知人に相談した
- 3 学校関係者（教員，養護教員，スクールカウンセラーなど）に相談した
- 4 医療関係者（医師，看護師，助産師など）に相談した
- 5 民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会，カウンセラー・カウンセリング機関，民間シェルターなど）に相談した
- 6 配偶者暴力相談支援センター（県女性相談センター，県男女共同参画センターなど）に相談した
- 7 警察に連絡・相談した
- 8 法務局や人権擁護委員に相談した
- 9 市の相談窓口（住民相談，婦人相談員や女性相談など）に相談した
- 10 他の市町村の女性相談窓口（婦人相談員や女性相談など）に相談した
- 11 上記（6～10）以外の公的な機関に相談した（相談機関： ）
- 12 その他（具体的に： ）
- 13 どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）

【問 17 で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」を選んだ方にお尋ねします。それ以外の方は、問 19 へお進みください。】

問 18 あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）のは、なぜですか。次の1～15の中からあてはまるものをいくつでもお選びください。

- 1 どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
- 2 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
- 3 相談してもむだだと思ったから
- 4 相談したことがわかると、仕返しを受けたり，もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから
- 5 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
- 6 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
- 7 自分さえがまんすれば，なんとかこのままやっていたらと思ったから
- 8 世間体が悪いから
- 9 他人を巻き込みたくなかったから
- 10 他人に知られると，これまでどおりの付き合い（仕事や学校，地域などの人間関係）ができなくなると思ったから
- 11 そのことについて思い出したくなかったから
- 12 自分にも悪いところがあると思ったから
- 13 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
- 14 相談するほどのことではないと思ったから
- 15 その他（具体的に： ）

問 19 あなたは、男女間における暴力を防止するためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。次の1～13の中からいくつでもお選びください。

- 1 家庭で保護者が子どもに対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う
- 2 学校で児童・生徒・学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う
- 3 職場などで、性別に由来する人権問題に関わる啓発を行う
- 4 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
- 5 メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
- 6 暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
- 7 加害者への罰則を強化する
- 8 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる
- 9 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
- 10 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者に対し、研修や啓発を行う
- 11 その他（具体的に： _____)
- 12 特に必要なことはない
- 13 わからない

問 20 テレビ、新聞、雑誌、インターネット等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように考えますか。次の1～9の中からいくつでもお選びください。

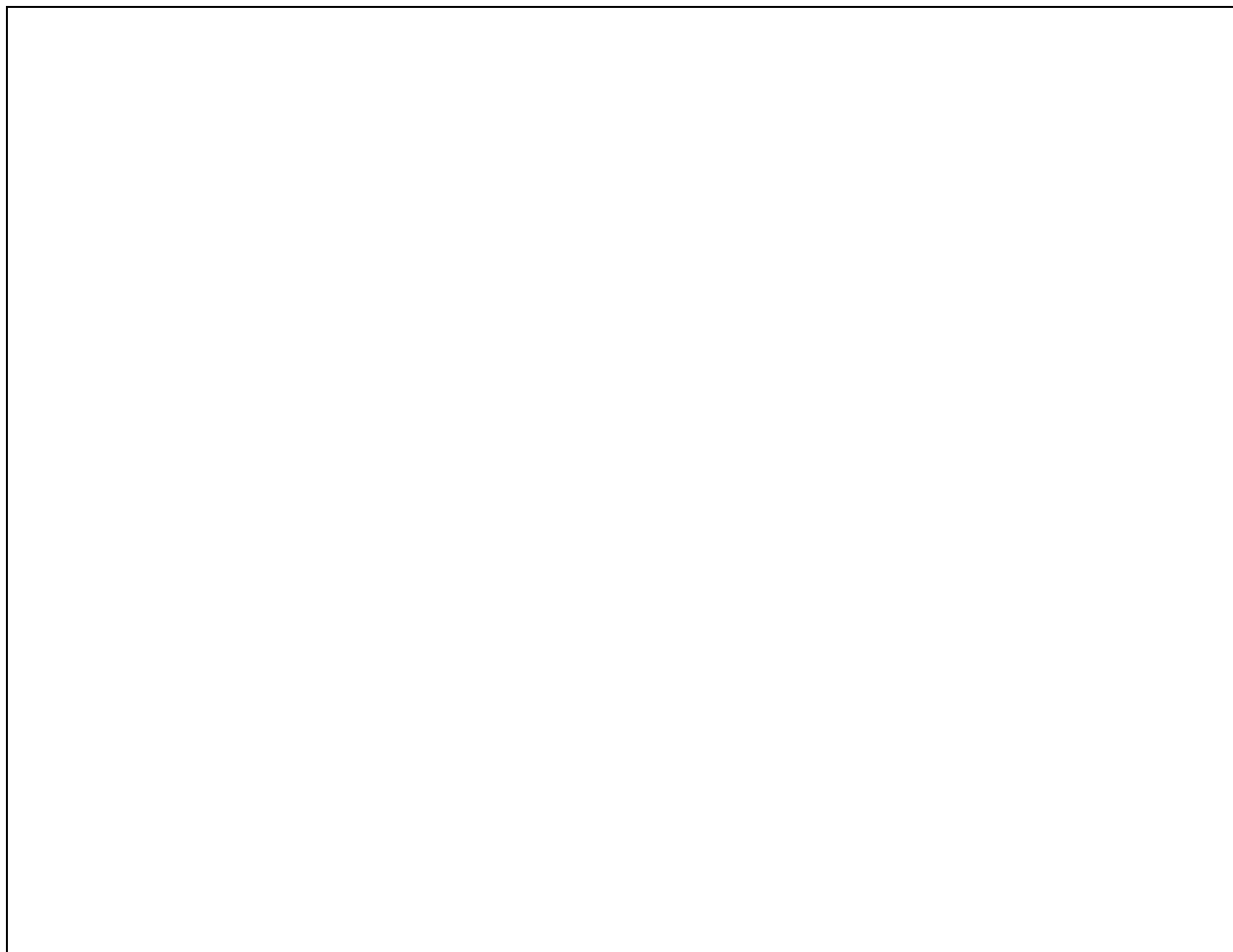
- 1 女性の性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく
- 2 性に関する社会規範が損なわれている
- 3 女性に対する暴力を助長させる
- 4 過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない
- 5 男女のイメージを固定化することを助長するような表現をしている
- 6 児童に対する性犯罪を助長させる
- 7 その他（具体的に： _____)
- 8 特に問題はない
- 9 わからない

Ⅶ 始良市の男女共同参画施策について

問 25 あなたは、「男女共同参画社会^{※①}」を形成していくために、始良市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の1～19の中から3つ以内でお選びください。

- 1 市の施策に係る計画等の見直しを行う
- 2 子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる
- 3 生涯学習の場における男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる
- 4 学校や家庭で、男女の人権に関わる啓発を進める
- 5 広報誌やパンフレットなどで、男女の平等や相互の理解・協力についてPRする
- 6 女性に対する暴力（セクハラやDV^{※②}など）の防止や被害者支援に取り組む
- 7 政策方針決定の場への女性の参画を進める
- 8 職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う
- 9 職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める
- 10 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる
- 11 女性の就業支援のため、就業情報の提供や職業訓練を充実させる
- 12 地域、企業等における男女共同参画の推進役となる人材を育成する
- 13 NPO等民間団体の連携を支援する
- 14 男女共同参画に関する情報提供や交流、相談、学習・研修などを行う施設を充実させる
- 15 市町村との連携の推進
- 16 男女共同参画の視点を踏まえた地域活動について、表彰などを行う
- 17 その他（具体的に： _____)
- 18 特にない
- 19 わからない

問 26 男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。



調査は以上です。
たくさんの質問にお答えいただきありがとうございました。

ご記入漏れがないかもう一度ご確認の上、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、平成29年9月30日（土）までにご返送くださいますようお願いいたします。

折る

折る

折る

折る

付録 用語解説

	用語	解説
①	男女共同参画社会	すべての人々が、その人権を尊重され、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会であり、男女共同参画社会基本法 [※] 第2条第1号においては、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と定義されている。
②	男女共同参画社会基本法	将来に向かって男女共同参画社会の形成に関する取組を総合的に推進するために制定された法律（平成11年6月23日施行） 男女共同参画社会の形成についての基本理念、国・地方公共団体及び国民の責務、基本的施策について規定している。
③	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）	配偶者からの暴力に係る通報、相談、保護、自立支援等の体制を整備し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的とする法律（平成13年10月13日（一部14年4月1日）施行、16年・19年・25年改正） 都道府県における計画の策定や配偶者暴力相談支援センターの設置、保護命令制度等が規定されている。被害者が男性の場合や、同居の恋人からの暴力もこの法律の対象となる。
④	女子差別撤廃条約	昭和54年（1979年）に国連総会で我が国を含む130か国の賛成によって採択され、昭和56年（1981年）に発効。我が国は昭和60年（1985年）に批准。女子に対するあらゆる差別を撤廃することを基本理念とし、具体的には、女子に対する差別を定義し、政治的及び公的活動、教育、雇用、保健、家族関係等あらゆる分野での男女の平等を規定する。なお、同条約第1条において、「この条約の適用上、「女子に対する差別」とは、性に基づく区別、排除又は制限であって、政治的、経済的、社会的、文化的、市民的その他のいかなる分野においても、女子（婚姻をしているかいないかを問わない。）が男女の平等を基礎として人権及び基本的自由を認識し、享有し又は行使することを害し又は無効にする効果又は目的を有するものをいう。」と規定されている。
⑤	男女雇用機会均等法	雇用における男女の均等な機会と待遇の確保を図るとともに、女性労働者の就業に関して妊娠中及び出産後の健康の確保を図るための措置を推進するために制定された法律（昭和61年4月1日施行） 労働者の募集、採用、配置・昇進、福利厚生、定年・退職等における男女間の差別の禁止等について規定している。
⑥	女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）	働く場面で活躍したいという希望を持つ全ての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するために制定された法律（平成27年9月4日（一部28年4月1日）施行）。女性の活躍推進に向けた目標を盛り込んだ行動計画の策定・公表や、女性の職業選択に資する情報の公表が事業主（国や地方公共団体、民間企業 [※] ）に義務づけられた。 ※ 常時雇用する労働者が300人以下の民間企業等にあつては 努力義務
⑦	積極的改善措置（ポジティブ・アクション）	男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会に係る男女間の格差を改善するため、必要な範囲において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供すること（男女共同参画社会基本法第2条第2号参照）
⑧	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	誰もが、仕事、家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など、様々な活動を、人生の段階に応じて自分の希望するバランスで実現できる状態のこと
⑨	ダイバーシティ	「多様性」のこと。性別や国籍、年齢等にかかわらず、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会という。

	用語	解説
⑩	ジェンダー	「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（ジェンダー／gender）という。「社会的・文化的に形成された性別」は、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われている。
⑪	始良市男女共同参画推進条例	豊かで活力ある始良市の未来を築くためには、男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現が重要である。男女共同参画社会の実現を目指す取組を、総合的かつ計画的に推進するため、条例を制定した。（平成 22 年 3 月 23 日施行）
⑫	始良市男女共同参画基本計画	男女共同参画社会基本法第 14 条第 3 項及び始良市男女共同参画推進条例 ^{※⑩} 第 10 条の規定に基づき、男女共同参画社会の形成の促進に關する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本計画。平成 25 年度～30 年度の 6 年間に計画期間として、平成 25 年 3 月に策定した。
⑬	鹿児島県男女共同参画センター	男女共同参画社会を形成するための総合的な活動拠点として、平成 15 年 4 月にかごしま県民交流センター内に設置され、①男女共同参画社会づくりに向けた各地域での自主的な取組の促進やネットワーク形成を図るための交流促進、②男女共同参画に関する意識啓発、推進役となる人材の養成、就業支援のための学習・研修、③男女共同参画を阻害する行為等に関する悩みや問題についての相談、④男女共同参画に関する情報の収集・提供、⑤配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護（一時保護を除く）等の各種事業を実施している。
⑭	性的マイノリティ（LGBT）	同性が好き人や、自分の性に違和感を覚える人、または性同一性障害などの人々のことをいいます。 「セクシャルマイノリティ」「性的少数者」ともいいます。 「異性を愛するのが普通だ」とか、「心と体の性別が異なることなどない、性別は男と女だけである」としている人からみて少数者と言う意味です。 最近では以下の頭文字をとって「LGBT」と呼ばれています。 L（レズビアン）：女性の同性愛者 G（ゲイ）：男性の同性愛者 B（バイセクシャル）：両性愛者 T（トランスジェンダー）：生まれたときの法的・社会的性別とは違う性別で生きる人、生きたいと望む人
⑮	ドメスティックバイオレンス（DV）	配偶者や恋人などの親密な関係にある、またはあった者から振られる暴力のことです。 「配偶者」には、婚姻の届けを出していない事実婚も含まれます。 ①身体的な暴力（殴る、ける、首を絞める、髪を引っ張るなど） ②精神的な暴力（大声で怒鳴る、無視する、大切にしているものを壊すなど） ③経済的な暴力（生活費を渡さない、外で働くことを妨害するなど） ④社会的隔離（勝手にメールを見る、家族や友人との付き合いを制限するなど） ⑤性的な暴力（性行為を強要する、避妊に協力しないなど）